

# みんなで作る水循環市民プラン

—市民による市民参加型調査—

2008年

佐藤 節子  
くにたち水の市民調査会

## 目 次

序	本調査の背景	1
1.	調査の目的	2
2.	調査活動の内容	2
3.	調査結果のまとめ	3～5
4.	各項目ごとの調査内容とまとめ	
	(1) 湧水・用水調査	7
	(2) 井戸調査	2 3
	(3) 水に関する昔の暮らし聞き取り調査	3 3
	(4) 子ども参加の調査	5 1
	(5) 雨水利用	5 7
5.	おわりに	6 2



## 序 本調査の背景

### 国立市水循環基本計画に市民の目を

地球環境の破壊につながる温暖化やエネルギー問題とともに、近い将来深刻となるといわれる水不足、水環境の悪化については、世界的規模で多くの学術研究者たちが警鐘を鳴らし、日本でも国や地方自治体レベルの取り組みが色々な形で始まっている。しかし私たち住民一人ひとりが日常生活の中で危機感を持ち水の大切さを意識するまでにはいたっていない。近年頻繁となった異常気象による大雨や、長期の酷暑の影響で水不足などが話題となったときに、はじめて「水」を意識するのが住民(市民)の現状といえる。

国立市は武蔵野台地のはずれに位置し、3本の崖線が西から東に走り、崖線の下からは湧水が今でも豊富に流れていて昔から市民に愛されている。昔から多摩川に近く甲州街道沿いでは自噴井戸も数多く見られたように、水に恵まれた環境であった。

しかし近年、この湧水を集めて流れる矢川が涸れる姿を見るようになった。市は2003(平成15)年の「みどりの基本計画」に続き「水循環基本計画」を策定する計画を立てた。「みどりの基本計画」は市民が中心となって調査をし、計画に生かした経緯がある。

こうした実績をもとに、国立市が「市民への「水循環基本計画」づくりへの参加呼びかけを行ったのは2003(平成15)年である。NPOや個人、漁業組合、用水組合、農業者、事業者等、水問題にかかわりがあり関心のある市民が集まり、勉強会を開きながら話し合いを重ねた。しかし「水循環基本計画」策定のための予算が議会で否決となり、新たな方向を模索せざるを得ない状況となった。

市当局と市民の話し合いの結果、活動を具体的に進めるために「国立市水の懇談会」として再発足することとした。この会は、幅広い立場の市民と行政が協議、協働する緩やかな結合体であり、調査から得た成果を「国立市水循環基本計画」に反映させる目的を持つものである。これが2004(平成16)年のことである。

計画を机上のプランに終わらせず、実際の市民の暮らしに直結したものにするための提案を目指し、順調に活動を進めていたところが、2005(平成17)年度も「計画」の関連予算は議会で否決され、活動の中止が懸念される状況となった。会では行政だけで「計画」作りを進めた場合と、この3年間の活動を継続して市民が調査活動などを行い、「計画」へ提案を出していく場合とを比較し、話し合った。

その結果、市民が中心となって活動をさらに広げることを確認した。2006(平成18)年、2007(平成19)年度のとうきゅう環境浄化財団の助成を受け、「くにたち水の市民調査会」としてさらに調査を重ねながら、「計画」に向けた市民案作りと、それを広く喧伝するための水マップづくりに取り組んだ。

## 1. 調査の目的

本調査の目的は、国立市における水環境の現状を広く市民に知らせ、情報を共有し、市民の目を入れた実効性のある「国立市水循環基本計画」をつくることにある。

自分たちが暮らすまちの水環境の実態を知るために、行政と連携しながら市民自らが調

査計画を立て、それによってさらに多くの市民が活動に参加する機会をつくる。そうした活動を通じ水に関心のある市民を増やすことこそ、計画が出来た後、計画の推進に役立つのではないかと考えた。

このような目的を達成するために、2006(平成18)年度は当会が3年間のあいだ継続して行ってきた調査をまとめ、国立市の水循環基本計画策定に向けた提言を「くにたちの水循環市民プラン」として国立市へ提出した。

さらにこの「市民プラン」を広く市民に知らせるために、2007(平成19)年度は「くにたち水マップ」づくりを行った。調査活動も同時並行で行った。

## 2. 調査活動の内容

当初4つのジャンルに分けたが、調査を重ねるうちに活動に広がりが出て、最終的には予定していた4つの他に、雨水利用が加わった。

1. 湧き水や用水など水辺環境調査
2. 井戸調査
3. 水に関する昔の聞き取り調査
4. 子ども自身の参加による、学校のプールの生き物調査と、多摩川探検隊による多摩川環境調査
5. 雨水利用

その他、活動を広く市民へ周知し、市民の活動への参加を増やす目的で環境フェスタへの参加や用水歩きなどの広報活動もかなりの量となった。

調査結果をもとに、2006(平成18)年度は「くにたち水循環市民プラン」を市へ提出し、2007(平成19)年度は「くにたち水マップ」を作成した。

## 3. 調査結果のまとめ

### 1. 調査から導き出した「水循環基本計画」に対する提案

グループに分かれて調査を行い、調査活動から見えてきた課題を持ち寄って全体会議で整理した。そこで国立市の水循環に必要と思われる事項について5項目からなる提案をまとめ、行政に向けた市民からの提案とした。

調査報告と提案は「くにたちの水循環市民プランー水循環基本計画策定に向けた市民調査と提案ー」というタイトルであり、提出者名は「国立市水の懇談会」としている。最初に述べたように、行政との協働作業の中では本会は以前からこの名称で活動していたためである。

2007(平成19)年4月に市長へこの「市民プラン」を提出し内容の説明をしたが、その後の選挙で市長が交代したことから、新市長へ再度周知のための懇談の場を設けた。2008年度は「水循環の現状と課題について」とする報告書を市内の水循環基本計画策定委員会(市職員のみで構成)が作成し、それについて本会と意見交換を行っている。今後は2008年度中に「国立市水循環基本計画」がこのふたつの報告書をもとに策定される予定である。

## 提案事項

### ① 湧水の保全と活用について

今回調査をしたハケ下の小川や矢川は、国立市の地形と自然環境の中でもっとも特徴的といえる崖線から湧き出る湧水を水源としている。ここでは、特徴的な生物、植物相が残り、種類と数も多い。現在残る自然環境を維持するため、これらの湧水とその周辺地域の保全を進める。

(1) 水源を確保するための検討を多面的に行う。

- ・雨水浸透を促進するための施策等を更に進める。
- ・水脈調査を行い、開発事業などで水脈を断つことがないように指導し、必要な対策を検討していく。
- ・湧水涵養のため近隣自治体との連携を図る。

(2) 水量・水質の定点調査・景観記録を長期間・継続的に行い、次世代へと引き継ぐことによって環境に対する意識を啓発するとともに、蓄積されたデータをもとに対策を策定する。

(3) 生態系維持と環境を重視したまちづくりを進め、崖線や周辺地域の保全を図る。

(4) 城山公園の池の水源として矢川を活用する。

- ・城山公園の池は、南養寺周辺の湧水が利用されているが、湧水量が減少しているため水源として矢川の活用を検討する。

### ② 用水の保全と活用について

農業用水は現在、耕地面積の減少や南部地域の開発に伴い部分暗渠化されている。今後は、用水を用水の主な機能である「食糧生産への利用」だけではなく、「生態系の維持」、「自然環境の形成」、「景観形成」、「体験学習の場」、「親水利用」、「防災利用」、「生活利用」等の観点も包括して総合的に活用することが必要である。そのために現在残っている用水の保全に努める。

(1) 通年通水を確保する。

(2) 暗渠化はできるだけ行わない。

- (3) 生物多様性に配慮した用水路づくりを進める。
- (4) 用水路と歩道、農地、緑地などの一体的な保全を図る。
- (5) 水量・水質の定点調査・景観記録を長期間・継続的に行う。
- (6) 従来 of 管理方法に加え、市民ボランティアなどが参加しやすい環境づくりを進める。

### ③ 災害時に対応できる井戸の有効活用について

#### (1) 地域ごとに対応できる井戸の確保

- ・災害時に使用できる「災害対策用指定井戸」は市内に24箇所ある。しかし、設置場所や数に地域格差があるため、地域ごとの世帯数に対応できる数の井戸が必要である。そのため地域ごとの面積や世帯数に対応できる井戸数や隣接市との協力体制の検討が必要である。

#### (2) 井戸所有者への支援と新たな井戸の確保

- ・個人所有の井戸は、市内に約60箇所以上あるが、災害時に使用できる条件は「自家発電施設がある」あるいは「常時生活用水として使用している」となっている。災害時にも使用できるように手押しポンプや発電機設置の補助制度等の検討が必要である。また、新たな井戸の確保のため井戸の掘削に対する支援についても検討が必要である。

#### (3) 市内各小学校・公園等に井戸の設置を行う。

### ④ 環境学習の推進

#### (1) 水と環境との仕組みを学習する機会をつくる。

- ・小学校・中学校等の公教育の中で地域の水環境の学習を行う。
- ・体験学習として学校のプール生き物調査や湧き水の仕組みを現地で学ぶ機会を設ける。
- ・多摩川の知識を深めるために、地元漁業組合やNPO等の協力を得て体験学習を行う。

#### (2) 地域の文化の継続

- ・自然を生かし工夫して暮らしていた昔の話を聞く機会を設け、それを取り入れた体験活動等を広げる。

## 2. 市内の水環境へ市民の関心を高めるための啓発活動への提案

### ① 雨水利用の推進

- ・市民にむけて、雨水利用を呼びかけていく。
- ・国立雨水タンク（雨タン）の配布を今後も継続していく。
- ・先進自治体での実施事例を調査し、雨水タンク等雨水貯留装置設置のための補助金の創設に向けた検討をすすめる。
- ・市役所や図書館、公民館、公園、公立学校等公共施設敷地内における雨水タンク等雨水貯留装置、地下浸透施設の設置を積極的にすすめる。

### ② くにたち水マップの作成と活用

調査を重ねて水循環市民プランを作成したあと、これをいかに市民に伝えるか、また

市民に水のありがたさ、貴重さを知ってもらえるかについて話し合った。国立市の水道水に地下水が半分以上はいつていることや、南部地域には湧き水がまだ見られることさえ知らない市民も多い。

そこで多くの市民が水に関する情報を共有するために、市内の湧水等が一目でわかる「くにたち水マップ」を作成し、市民や学校教育での活用を図っていく。(マップは別紙参照)

#### 4. 各項目ごとの調査内容とまとめ



## (1) 湧水・用水調査





## (1) 湧水・用水調査

### 調査1 湧水・川・用水の時代的変遷について

#### 1. 調査の目的

国立市内の湧水、河川、用水の変遷を明らかにする。またその結果をもとに、現在われわれが直面している問題点を指摘し、かつ将来のために何をなすべきかを提言する。

#### 2. 調査の方法

古地図と現在出版され、一般に広く使用されている各種地図を対照することにより、過去と現在の湧水、河川、用水を比較し、加えて現地調査、地元住民の聞き取りを通して、その時代的変遷を明らかにする。

本調査に使用した地図は、下記の通りである。

- 明治初期に作成された古地図
- 参謀本部陸軍部測量図 2万分の1を1万5千分の1に修正したもの  
明治15年測量、同27年修正
- 国土地理院発行 1万分の1地形図 「立川」(東京10-2-4)  
昭和61年編集・平成11年修正(平成11年11月現地調査実施)
- 国土地理院発行 1万分の1地形図 「国分寺」(東京10-2-2)  
昭和61年編集・平成11年修正(平成11年11月現地調査実施)
- 国土地図株式会社 1万分の1「国立市全図」平成16年2月編図
- ゼンリン住宅地図 東京都38 2千分の1
- ゼンリン住宅地図 2006 06「東京都国立市」2千分の1

その他若干の参考資料

(なお本文中に引用の図は全て報告書の資料編を参照)

#### 3. 調査日と調査項目

平成17年1月29日	郷土館での古地図写真撮影
平成17年2月1日	国立市役所での古地図写真撮影
平成17年2月22日	立川市役所での古地図写真撮影
平成17年3月1日	国立市南部地域の現地調査

## 4. 調査結果

### (1) 重点的調査地域

今回はとくに下記2地域を選定し、重点的に調査を行った。これら2地域を国土地図株式会社「国立市全図」に示すと、図1-1のようになる。

#### 西部地域 (W) 市立国立第六小学校周辺地域

国立市青柳／谷保境界域とJR南武線周縁、及び国道20号線（甲州街道）北側の地域。主として市立国立第六小学校周辺一帯。

#### 東部地域 (E) 谷保浄水所周辺地域

谷保浄水所とその北側及び東側一帯。

### (2) 古地図と現況との対応

古地図と現在市販され、また一般に広く使用されている各種地図との比較は、主として、道路と地番を手掛かりにして行った。

#### 西部地域 (W)

本地域の古地図を縮小複写し、図1-2に示す。この図では道路は赤色、水路は紺色で表現されている。この古地図に示された水路を強調し、図1-3に水系図として示した。

本地域を「国立市全図」の中に示し、拡大したものが図1-4である。図の水色は現在の水路を示す。

図1-3と図1-4は次のような基準で対応する(地番については図1-9の参考資料を参照)。

本地域北部の都営矢川北団地北側の道路と地番6659(図1-3と図1-4のA)。

Aの南側に隣接する地番6658地点(図1-3と図1-4のB)。

本地域北西端の立川市との境界に接する土方邸とその東側に隣接する地番6556地点(図1-3と図1-4のC)。

地番6518(図1-3と図1-4のD)。

地番6619で現在JR南武線矢川三号踏切南側のくにたち文具店のある地点(図1-3と図1-4のE)。

地番6614地点(図1-3と図1-4のF)。

以上地点A～F、都営矢川北団地北側の道路、および本調査地域の南部を流れる矢川をもとに、図1-3と図1-4は対応される。

#### 東部地域 (E)

本地域の古地図を縮小複写し、図1-5に示す。この図で紺色が水路を表す。この同じ図の水路のみを強調して水系図と示したものが、図1-6である。図中水色が水路を示す。

本調査地域を「国立市全図」で示し、拡大したものが図1-7である。図に示した水色は現在の水路を示す。

図1-6と図1-7に示した地域を道路と下記に示す地番(図1-10の参考資料を参照)で、相互に対応させる。

Aは地番1569により。

Bは地番1566により。

- C は地番 1615 により。
- D は地番 1622 により。
- E は道路と地番 1544 により。
- F は道路と地番 1496 により。

### (3) 水路の時代的変遷

#### 西部地域 (W)

図 1-3 と図 1-4 を比較すると、本調査地域が JR 南武線の敷設開通、都営矢川北団地の建設、市立第六小学校の新設により、大きく変貌を遂げたことがわかる。その結果、古地図に示された道路は大幅に改修された。

矢川はまた谷川とも書き、立川段丘崖の麓から湧出する豊富な地下水が水源となっている。甲州街道を横断して府中用水の支流と合流する全長 1.5km の小川である。本調査地域における矢川は、もともと北西から南東方向に直流していたが(図 1-2、1-3)、国立第六小学校の建設に伴って、そのキャンパスに沿って屈曲する流路に変更された(図 1-4)。現在は河川改修が進み、清流となって市民の憩いの場となっている。

この地域の水系の変遷で顕著なことは、多くの水路が失われた現実である。矢川から流れ出す水路、あるいは湧水から矢川に流入する小川や用水は、現在ではほとんど見られない。

この事実を最近の数年に限ってみても、同様の傾向が認められる。数年を隔てて改訂された調査地域のゼンリン住宅地図によれば、矢川からの支流が何本か存在していたものが、僅か数年後に、主として矢川に平行して流れる用水が地表では直接見られなくなっている。一部は暗渠となり、また小さな水路は凹地となって、痕跡を残すのみである。

#### 東部地域 (E)

東部地域も谷保浄水所の建設など都市化の影響が見られるが、大部分の場所で、まだ昔からの道路がそのまま残されている。図 1-6 と図 1-7 を比較すると、西部地域同様、水路は驚くほど少なくなっている。調査地域中央を東西に流れる二本の水路は、北側が湧水の流れ、南側が田中堀と呼ばれる用水で、これはまだ昔の面影を残している。しかしこれから流出する、あるいは流入する南北の水路はほとんど姿を消してしまった。一方本地域の北部には豊富な湧水がみられ、また東から西への流れもあったという。

## 5. 問題点の指摘

国立市南部のハケに沿って存在した湧水は、その豊富な水量で知られた。現在も若干湧水の存在が知られている。しかしながら水量も減少し、湧水からの流れもあまり見られなくなった。かつてこの地域でも盛んだった稲作が衰退し、したがって田に水を引く用水も不要となった。加えて高速道路の建設、土地の急激な宅地化や工場用地化により、残った河川や用水の大部分も暗渠化し、国立市が誇った湧水は、その存在意義を失う結果となっている。

## 6. 今後の取り組みと提言

国立市が文教都市として知られ、一度は住んでみたい街として多くの人があこがれる。しかし国立市の南部一帯が、豊かな田園地帯であること、あるいは田園地帯であったことを知る人は、地元住民でも少ない。国立市民はいま一度、市の南部の自然をどのように取り戻して保全するか、真剣に考慮すべきときにきている。豊かな湧水とそこから流れる川の周辺には、動植物が集い、繁茂し、住民に安らぎを与える。稲作が衰退したいま、不要となった用水は、豊かな自然を守る新たな資源として活用すべきであろう。

### 添付図表

- 図 1-1 主たる調査地域
- 図 1-2 西部 (W) / 古地図 (原図複写)
- 図 1-3 西部 (W) / 古地図 (水系図)
- 図 1-4 西部 (W) / 国立市全図 (水系図)
- 図 1-5 東部 (E) / 古地図 (原図複写)
- 図 1-6 東部 (E) / 古地図 (水系図)
- 図 1-7 東部 (E) / 国立市全図 (水系図)
- 図 1-8 参謀本部陸軍部測量図
- 図 1-9 参考資料
- 図 1-10 参考資料

※これらの添付図表は資料編を参照

## 調査2 湧水・用水の水質調査

### 1. 調査の目的

湧水・川・用水の水質を測定し、その結果を過去のそれと比較し、水質の経年変化を明らかにする。

### 2. 調査地点(資料の水質調査地点位置図参照)

- ① 谷保用水 くにとち郷土文化館下
- ② 谷保用水 おんだし上流(第5回は未実施)
- ③ ママ下湧水
- ④ 多摩川(第6回、第7回のみ実施)

### 3. 調査年月日

- ① 第1回 : 2004 (平成16) 年 9月18日
- ② 第2回 : 2004 (平成16) 年12月19日
- ③ 第3回 : 2005 (平成17) 年 6月 5日
- ④ 第4回 : 2005 (平成17) 年 8月31日
- ⑤ 第5回 : 2006 (平成18) 年 2月 4日
- ⑥ 第6回 : 2006 (平成18) 年 6月 4日
- ⑦ 第7回 : 2006 (平成18) 年 9月 5日

### 4. 調査項目および方法

- ① 水温(棒状ガラス製温度計)
- ② pH (ガラス電極 pH メーター)
- ③ 電気伝導度(電気伝導度計)(第4回以降は未測定)
- ④ COD(簡易測定キットによる方法)
- ⑤ アンモニア性窒素(簡易測定キットによる方法)
- ⑥ 川幅
- ⑦ 水深
- ⑧ 流量(流速計による方法)
- ⑨ 透視度(透視度計)
- ⑩ 色相・臭気(目視・官能法)

### 5. 調査結果

別紙

### 6. 調査結果のまとめ (多摩川を除く)

#### (1) 谷保用水 郷土文化館下

pHは6.9~7.2の間で安定しており、この2年間で大きな変動は認められない。CODとアンモニア性窒素については、平成18年3月以降増加傾向にあり、汚染が懸念される。今後とも引き続き調査を行い、水質状況の推移に注意する必要があると思われる。

#### (2) 谷保用水 おんだし上流

この地点は、郷土文化館下の上流側に位置している。pHは、平成17年6月の測定値を除くと7付近で安定した値を示している。CODとアンモニア性窒素については、郷土文化館とは異なった挙動を示しているが、年単位での経時変化をみると上昇傾向にあるようだ。この地点においても、今後とも引き続き調査を行い、水質状況の推移に注意する必要があると思われる。

#### (3) ママ下湧水

pHは6.1~6.7の間で安定している。CODは平成17年8月の調査から検出されており、

その後増加の傾向を示している。原因は特定できないが、有機物や無機物による汚染があるものと考えられる。アンモニア性窒素は平成 17 年 6 月の調査から検出されており、COD 同様何かの要因でこの時期から汚染が始まったものと推定される。前の 2 地点同様、今後とも引き続き調査を行い、水質状況の推移に注意する必要があると思われる。

## 7. 調査結果のまとめ

昭和 50 年度から平成 17 年度までのデータを用いて考察する。

pH が環境基準（B 類型：6.5 以上 8.5 以下）を超過したのは昭和 61 年度だけであとはすべて基準内であった。傾向は、上下しながらも経年的に単調増加の兆しが認められる。

DO は、環境基準（B 類型：5 以上）を上回ったことはない。平成 4 年度を境として安定した数値を示している。

BOD、COD、SS については、DO 同様、いずれも平成 4 年度を契機として水質が非常に良くなっており、このとき以降、pH も含めてこれらの項目について環境基準（B 類型：BOD 3 mg/L 以下、SS 25 mg/L 以下、COD 基準なし）をすべて満足している。

この原因は、下水道の接続によるものであると思われる（国立市内の下水道普及率は、平成 6 年度末に 100% を達成している）。自然環境（特に水質について）を保全してゆく上で、下水道の果たす役割がいかに大きいものであるかがこれらのデータから認識することが出来る。

### <参考> 矢川 甲州街道下

調査結果：別紙

国立市が調査したものであり数値は年間平均値を表している。

## 8. 用語の説明

### ①pH（水素イオン濃度）

ピーエイチ（英語）またはペーハー（独語）と読み、水が酸性であるかアルカリ性であるかを示す数値。pH7 が中性でそれより数値が大きければアルカリ性、小さければ酸性であることを意味する。単位はない。

### ②BOD（生物化学的酸素要求量）

微生物が、水中の有機物等を二酸化炭素や水などに分解するために必要とする酸素の量のこと。河川水の汚濁の度合いを示す代表的な指標で、この数値が大きいほど水は汚れていることになる。魚が棲息できる BOD 濃度は 5mg/L 以下、悪臭が発生し始める濃度は 10 mg/L といわれている。

### ③COD（化学的酸素要求量）

過マンガン酸カリウムなどの酸化性物質が、水中の有機物を二酸化炭素や水などに分解するために必要とする酸素の量のこと。有機物の他に一部の無機物も測定値に含まれる。海域や湖沼の汚濁の度合いを示す代表的な指標で、この数値が大きいほど水は汚れていることになる。湖沼等の非常に清澄な水は、1 mg/L 以下、水道原水として使用される水は 3 mg/L 以下、不快を感じない程度は 8 mg/L といわれている。

#### ④DO（溶存酸素）

水中に溶けている酸素の量のこと。酸素の少ない川では、悪臭が発生し、魚介類は生存できなくなる。悪臭発生の限界は2 mg/Lといわれている。

#### ⑤SS（浮遊物質量）

水中に浮かび、ただよっている物質（プランクトン、生物体の死骸・破片・糞やその分解物、それに付着する微生物などの有機物、および泥粒などの無機物）のこと。これが多いと川底にヘドロ等がたまったり、魚介類に悪い影響を与える。

#### ⑤アンモニア性窒素

窒素は、自然界では種々の形態をとりつつ循環しており、水中では動植物体に由来する有機体窒素とアンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素等の無機体窒素の形態で存在している。アンモニア性窒素とは、水中に含まれるアンモニウム塩あるいはアンモニア中の窒素のことをいう。このアンモニア性窒素は、主として、し尿、生活雑排水等に由来する 경우가多く、水の汚染指標として重要視されている。

#### ⑥電気伝導率（電気伝導度）

電気伝導率は、電気の通り易さを示すものである。単位は、“ $\mu\text{S}/\text{cm}$ （マイクロジーメンス/センチメートル；正式には $\text{mS}/\text{m}$ 〈ミリジーメンス/メートル〉）”を用いる。きれいな湧き水では、 $100\mu\text{S}/\text{cm}$ （ $10\text{mS}/\text{m}$ ）以下を示す。

電気伝導率は、用水・河川水・湧水等への下水・し尿・工場排水などの混入の推定に利用される。

#### ⑦透視度

透視度とは、水の透き通りの度合いを示すもので、水層を通して底に置いた標識板の二重線が初めて明らかに見分けられたときの水層の高さ（深さ）を表す。したがって、透視度の数値が大きいほど透き通った水ということになる。

単位は、“cm（センチメートル）または 度”で表す。

表 1-1 谷保用水 郷土文化館下 データ

採水日	項目	pH (-)	EC (mS/m)	COD (mg/l)	アンモニア性窒素 (mg/l)
H16.9.18		6.9	14.8	7	0.16未満
H16.12.19		7.3	21.0	4	0.16
H17.6.5		5.3	24.1	6	0.2
H17.8.31		7.0	—	13	0.4
H18.6.4		7.2	—	8	0.6
H18.9.5		7.1	—	18	0.4

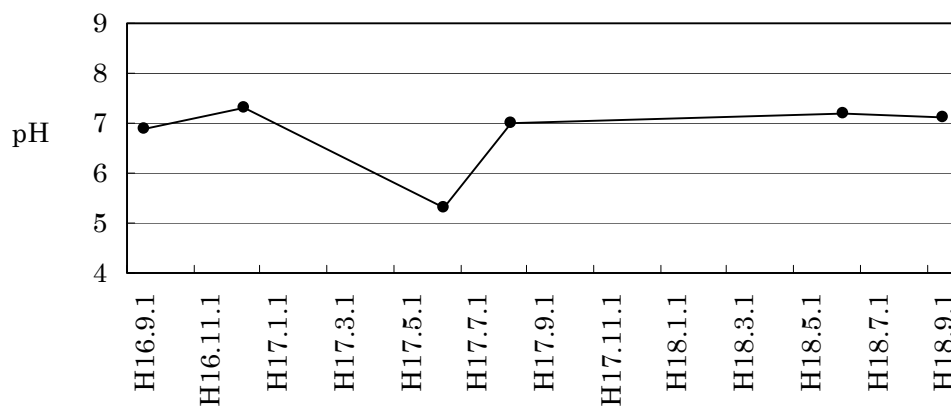


図 1-11 谷保用水 郷土文化館下 pH

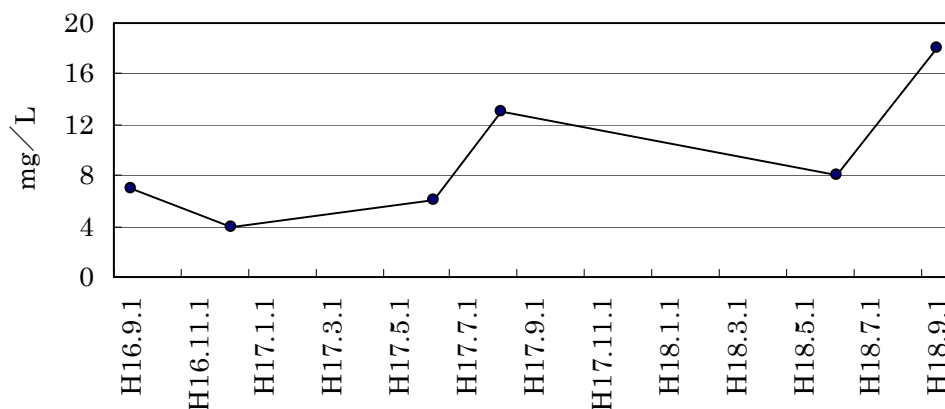


図 1-12 谷保用水 郷土文化館下 COD

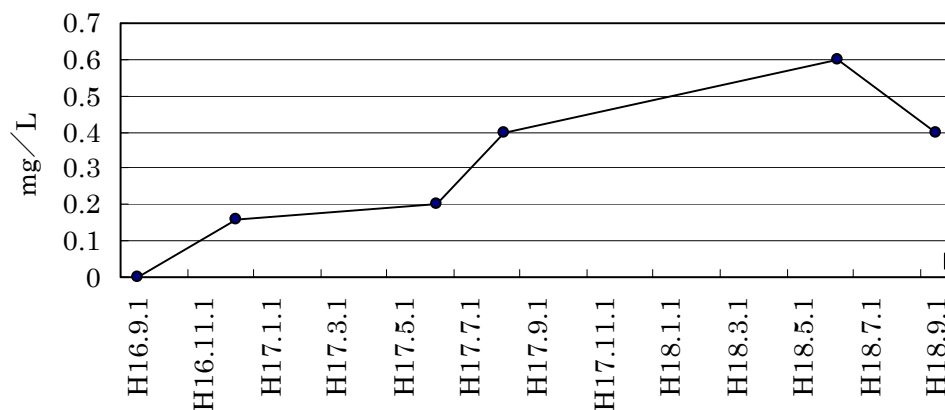


図 1-13 谷保用水 郷土文化館下 アンモニア性窒素



表 1-2 谷保用水 郷土文化館下 データ

採水日	項目	pH (-)	EC (mS/m)	COD (mg/l)	アンモニア性窒素 (mg/l)
H16.9.18		7.2	14.1	7	0.16未満
H16.12.19		7.0	20.5	1	0.16
H17.6.5		7.2	24.3	6	0.2
H17.8.31		6.9	—	10	0.2
H18.2.4		6.5	—	1	0.16未満
H18.6.4		7.1	—	7	0.25
H18.9.5		7.1	—	13	0.4

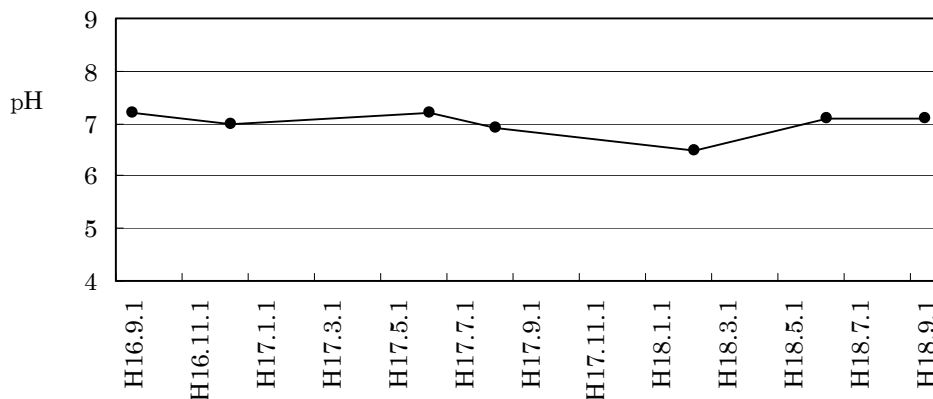


図 1-14 谷保用水 おんだし上流 pH

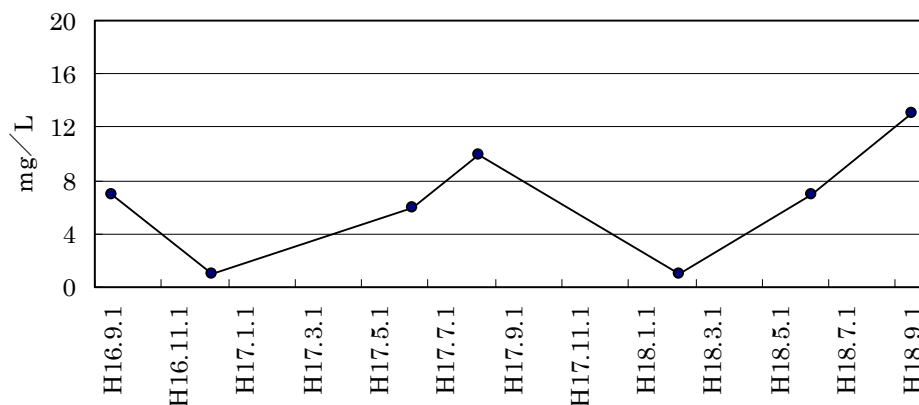


図-15 谷保用水 おんだし上流 COD

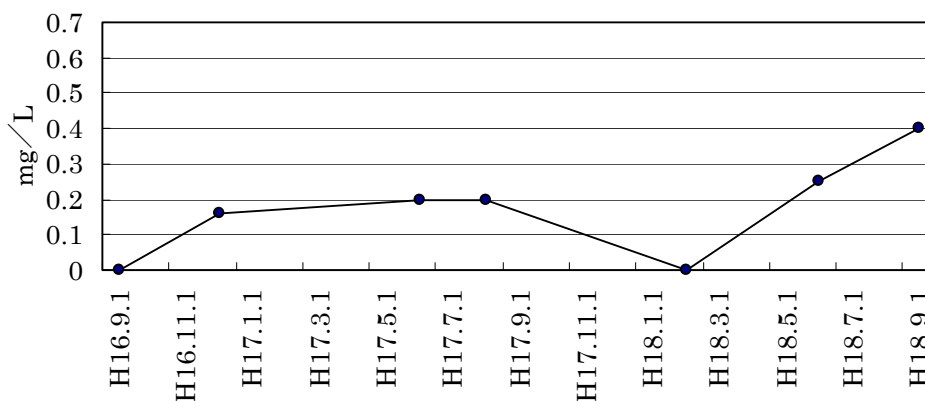


図 1-16 谷保用水 おんだし上流 アンモニア性窒素

表 1-3 ママ下湧水 データ

採水日 \ 項目	pH (-)	EC (mS/m)	COD (mg/l)	アンモニア性窒素 (mg/l)
H16.9.18	6.5	11.3	0	0.16未満
H16.12.19	6.1	21.8	0	0.16未満
H17.6.5	6.7	25.6	0	0.3
H17.8.31	6.4	—	1	0.1
H18.2.4	6.5	—	3	0.16
H18.6.4	6.4	—	3	0.2
H18.9.5	6.6	—	5	0.16未満

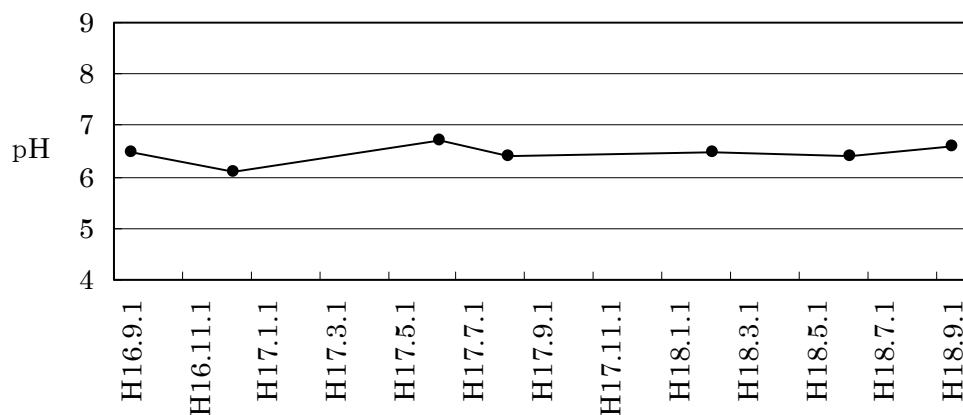


図 1-17 ママ下湧水 pH

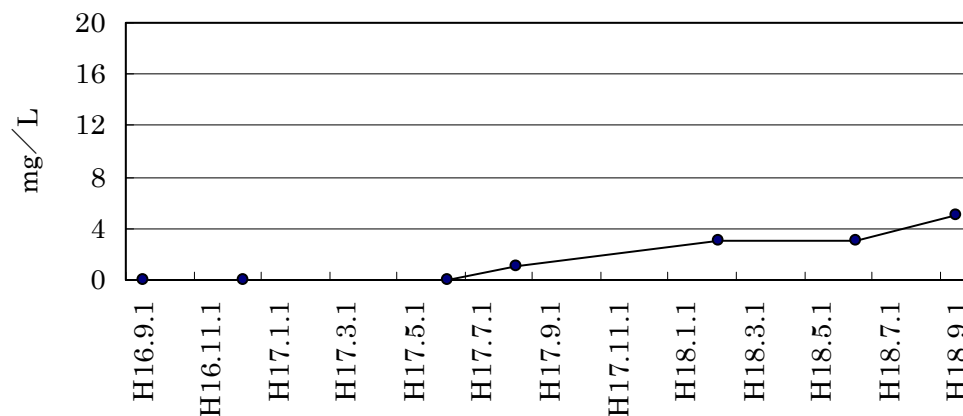


図 1-18 ママ下湧水 COD

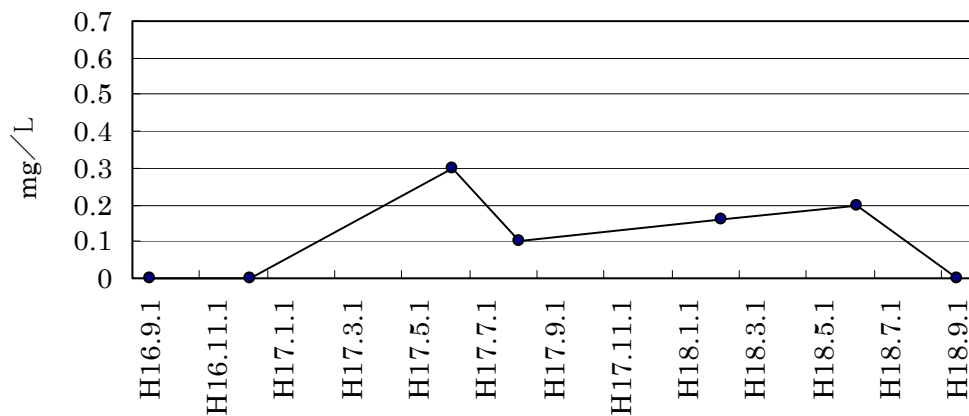


図 1-19 ママ下湧水 アンモニア性窒素

表 1-4 矢川甲州街道下流 データ

項目 \ 年度	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H01	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
pH (—)	6.8	6.9	7.2	7.0	6.9	6.8	6.9	6.9	6.9	7.3	7.0	6.4	7.0	6.8	6.9	7.1	6.9	7.0	7.3	7.2	7.0	7.3	7.1	6.9	7.2	7.1	7.4	7.4	7.2	7.5	7.5
DO (mg/l)	8.7	8	7.2	7.0	7.0	8.0	7.1	7.0	7.8	5.8	6.6	7.4	5.7	7.8	8.9	9.3	9.1	10.3	10.0	10.2	9.9	9.4	9.8	9.6	10.1	9.4	9.6	9.7	9.3	10.3	
BOD (mg/l)	5.1	15	13	14	10	15	16	18	18	34	12	16	19	11	7.5	6.5	4.0	2.1	2.3	2.7	2.2	2.5	1.8	2.9	2.2	2.0	1.2	1.6	1.3	1.1	1.1
COD (mg/l)	5.2	9.5	8.6	6.5	4.8	5.5	7.8	8.9	3.7	11	8.7	6.2	7.9	7.8	5.4	3.4	2.7	2.0	2.3	2.3	1.3	1.6	1.5	1.8	1.9	1.6	1.2	1.7	1.8	2.0	2.0
SS (mg/l)	8	12	12	21	17	13	19	16	43	17	11	10	9	11	7	9	5	7	3	3	2	1	4	2	2	3	5	3	5	5	4

19

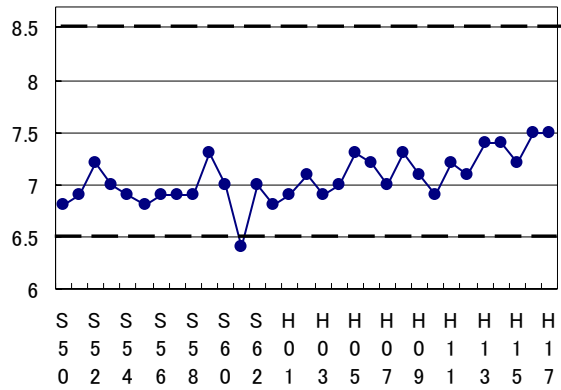


図 1-20 矢川甲州街道下流 pH

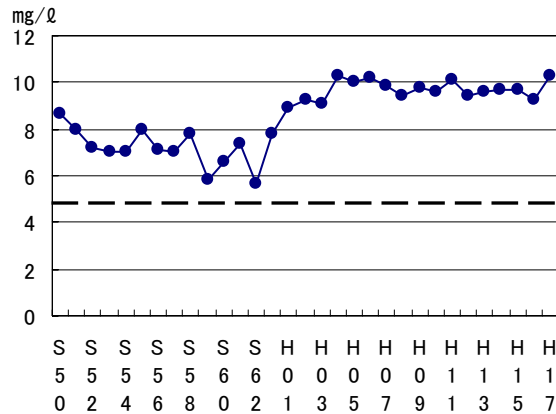


図 1-21 矢川甲州街道下流 DO

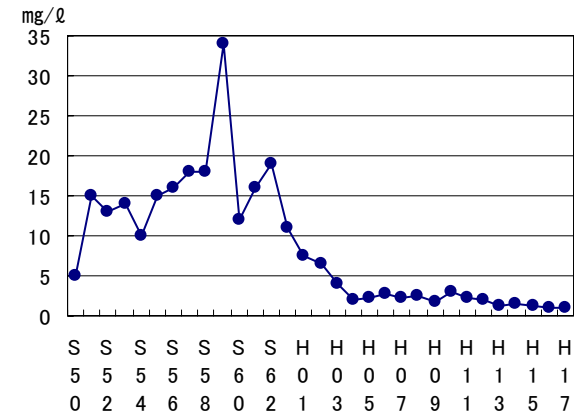


図 1-22 矢川甲州街道下流 BOD

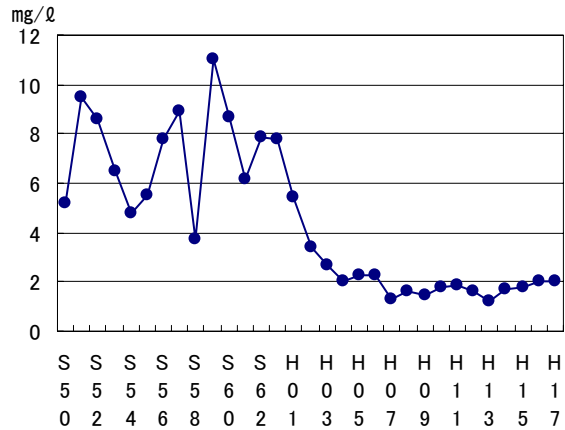


図 1-23 矢川甲州街道下流 COD

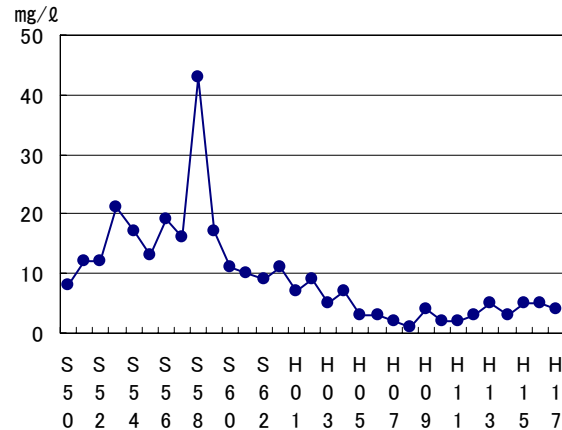


図 1-24 矢川甲州街道下流 SS

---:環境基準(B類型)

### 調査3 湧水・川・用水の生物調査

#### ■水生動物調査

##### 1. 調査日・調査地点

調査日	調査地点			
	矢川	ママ下の川	谷保用水	多摩川
平成16年9月18日	○	○	○	
平成16年12月19日	○	○	○	
平成18年6月4日	○	○	○	○
平成18年6月9日	○	○	○	○
平成18年9月2日	○	○	○	○
平成18年12月10日		○		

##### 2. 調査結果

別紙

##### 3. 調査結果のまとめ

- ①郷土文化館下は生物相の変動は少なく、出現種が多様で出現数も安定した水域であった。
  - ②おんだし上流は止水期もあるので季節変動がおおきく、生物がほとんど確認されない時もあった。
  - ③ママ下湧水は、生物相の大きな変動はなかったが、出現種および出現数は少なかった。  
ママ下湧水は、他の水域と比較して、きれいな水域だが、栄養源（有機物）が少なく、生物の餌となる珪藻類等の繁殖が困難な状況下にあるものと考えられた。
  - ④いずれの調査地点も、生物が生息するうえで水質的な問題はないので、安定した水量や周辺環境を整えば、多様な生物相になると推測された
  - ⑤平成4～6年の調査記録と比較すると、今回確認できなかった動物として、ヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、コガムシ、ニジマス等があげられる。また水生の甲虫も見られなくなった。尚ニジマスはその頃放流した魚で、元々いない魚である。
- \*今回調査の対象とした底生の顕微鏡的小型生物については、過去の調査資料が見つからなかったため、考察ができなかった。

表 1-6 出現した水生動物

調 査 地 点		出現した水生動物			
		平成16年4月～平成18年9月		平成16年4月～平成18年9月	
		谷保用水 郷土文化館下	谷保用水 おんだし上流	ママ下湧水	多摩川 (参考)
I きれいな水	カワゲラ類				
	シロタニガワカゲロウ	●	●		●
	エルモンヒラタカゲロウ				
	シロハラコカゲロウ	●		●	
	その他のカゲロウ類	●	●		●
	ウルマーシマトビケラ				●
	ニンギョウトビケラ	●			
	ヒゲナガトビケラ科	●			
	ナガレトビケラ類				
	ヤマトビケラ類				
	その他のトビケラ類	●	●	●	
	ガガンボ類	●		●	
	ブユ類	●		●	
ヨコエビ類	●	●	●		
ウズムシ類	●	●			
II 少しよごれた水	サナエトンボ科	●			
	オニヤンマ			●	
	コオニヤンマ			●	
	ハグロトンボ	●		●	
	コガタシマトビケラ	●	●	●	
	ゲンジボタル				
	ヒラタドロムシ属				
	スジエビ				
	ヌカエビ				
	カワニナ				
シジミ (クワツジミ?)	●		●		
III きたない水	サホコカゲロウ	●		●	●
	アメリカザリガニ	●	●	●	
	ミズムシ	●	●	●	●
	ヒル類	●	●	●	●
IV 大変きたない水	ユスリカ類	●	●		●
	イトミミズ類		●	●	●
	サカマキガイ				
	ミズダニ類	●	●	●	



## (2) 井戸調査





## (2) 国立市井戸概況調査

### 1. 調査方法

#### (1) アンケート調査

平成 13 年に実施された災害用井戸指定のための実態調査結果、および地下水汚染調査を実施している井戸等を中心として、63 箇所に対しアンケート調査を実施した(資料 2-1、2-2、2-3)。

#### (2) 現地調査

アンケートにより調査の了承を頂いた井戸等について、簡易水質調査及び所有者に対する聞き取り調査を実施した(平成 18 年 12 月現在、25 箇所実施)。

### 2. 調査結果

#### (1) アンケート調査によって得られたこと

- ・井戸の所在に地域格差がある(谷保地区に集中)(資料 2-2)。
- ・井戸所有者の約 80%が井戸を使用または使用を検討している(資料 2-4)。

#### (2) 現地調査によって得られたこと(資料 2-5、2-6、2-7)

- ・災害対策用井戸で手押しポンプを設置していないところがほとんどである。
- ・現在井戸を使用していない 11 箇所のうち 8 箇所で、今後井戸の使用を検討している。
- ・現在使用していない井戸においても、簡易水質検査で異常が認められた井戸はない。
- ・過去の調査資料と異なる結果がある(資料 2-8 : H13 水質検査の優先順位票におけるランク付け)。

### 3. 基本計画の策定に向けた提案事項(資料 2-9、2-10)

#### (1) 防災対策における井戸の位置付け

- ・災害時の「飲料水」は確保されているが、「生活水」は確保されていない。
- ・災害対策用指定井戸(21 箇所)は「生活水」を確保する上で必要十分な数と言えない。  
⇒指定井戸を増やす。
- ・指定井戸設置場所数に地域格差があることへの対応  
⇒地域ごとの面積・世帯数に対する井戸の必要数の検討、隣接市との協力体制の検討を行う。

#### (2) 井戸所有者への井戸保全に関する意識啓発の必要性

- ・井戸は個人の財産であることに留意しつつ、公的な活用への働きかけを行政が行う仕組みを検討する。
- ・井戸の掘削、手押しポンプ設置、発電機設置、水質検査等の井戸の設置や保守管理に関わる各種補助金の支給等を検討する。
- ・下水道法への対応について検討する。

#### (3) 環境保全、節水啓発施策

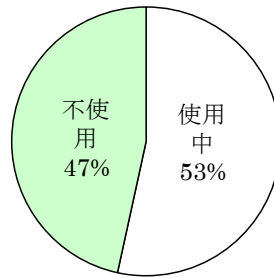
- ・手押しポンプが設置された井戸がある公園・小学校等の整備について検討する。

	調査地点名	設問						
		1	2		3		4	5
		使用状況	最後に使用した時期 (年月頃)	現在の状況	井戸の取水方法	使用可否	今後の井戸の取扱い	今後の調査
		1.使用 2.不使用		1.開放してある。 2.蓋をしてあるが開けることは可能である。 3.コンクリート等で被った。 4.蓋をして土で埋めた。 5.井戸を埋めた。 6.井戸へ簡単に近づけ 7.井戸へ近づくのが難し 8.その他	1.つるべ 2.手押しポンプ 3.電動ポンプ 4.その他	○使用可 ×使用不可	1.今後も使用する 2.現住木使用だが 今後使田オス 3.使用しない 4.未定	○了承する ×了承できない
1	青柳1	1			3	○	1	○
2	青柳3	1			3	○	1	○
3	青柳4	2	S40	2	全てなし		4	○
4	青柳6	2	H16.6	6		2	×	○
5	青柳9	1				3	○	×
6	中3	1				3	○	○
7	中4	1				3	○	○
8	中6	2	S40	3, 6		?	3	○
9	西1	2	H16.3	1, 2, 3, 6		3	○	○
10	西2	1				3	○	○
11	西3	2	S35	2, 6	全てなし		4	○
12	東1	1				3	○	○
13	東3	2	S50.4	4	全てなし		4	○
14	東4	1				3	○	○
15	東5	1				3	○	×
16	富士見台1	1				3	○	○
17	富士見台2	2	H8.1	2, 3, 6, 8		3	○	○
18	谷保4	1				2	○	○
19	谷保5	2	S55	2		3	×	○
20	谷保6	2	S41	1, 6	全てなし		2	○
21	谷保7	2	S49	2, 6	全てなし		4	○
22	谷保8	2		5		-	3	-
23	谷保10	1				3	○	○
24	谷保11	2		2, 6		3	×	○
25	谷保14	2	H元.1	2, 6		3	?	×
26	谷保15	2	S50	2, 6	全てなし		2	○
27	谷保16	1				3	○	○
28	谷保17	1				3	○	○
29	谷保18	1				3	○	○
30	谷保20	2	H16.4	2, 6		?	3	○
31	谷保22	2		1, 3		?	3	○
32	谷保23	2	H元	2, 6	全てなし		3	○
33	谷保24	1				3	○	○
34	谷保25	1				3	○	○
35	谷保26	1				3	○	○
36	谷保27	2	H13~14	2		3	×	○
37	谷保28	1				3	○	○
38	谷保31	1				3	○	○
39	谷保33	1				3	○	○
40	谷保34	1				3	○	○
41	谷保35	1				3	○	○
42	谷保36	1				3	○	○
43	谷保40	2	S35	3		?	3	○
44	谷保46	2		2		?	3	○
45	谷保48	2		2		?	4	○

資料 2-4 アンケート調査結果内訳

使用状況

(箇所)	
使用中	24
不使用	21
計	45

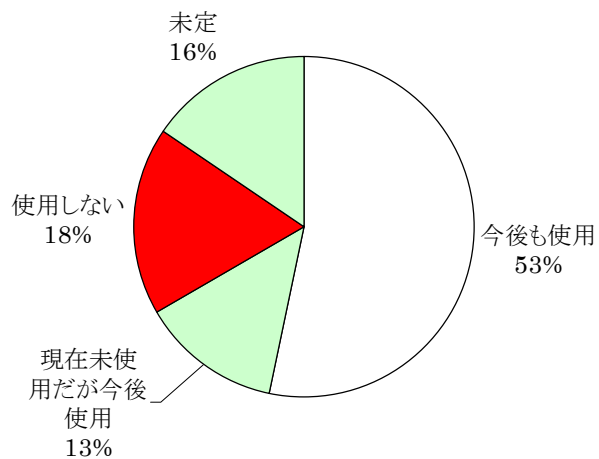


使用中の井戸の取水方法

(箇所)	
つるべ	0
手押しポンプ	1
電動ポンプ	23
その他	0
計	24

今後の井戸の取扱い

(箇所)	
今後も使用する	24
現在未使用だが今後使用する	6
使用しない	8
未定	7
計	45



今後の調査協力

(箇所)	
了承	41
了承できない(埋立等)	4
計	45

資料 2-5 現地調査結果一覧 1

調査地点名		谷保39	谷保44	谷保6	谷保15	青柳6	青柳4	谷保32	谷保43	谷保27	
災害用指定	指定	○				○					
	H13調査ランク	D下	I		J	C下	J			K	
環境部調査井戸				○							
現地調査実施日		H16.6.3	H16.6.8	H16.10.2	H16.10.2	H16.11.6	H16.11.6	H16.11.10	H16.11.10	H16.12.2	
視認・実測調査	天候	晴	曇	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	
	取水方法	つるべ	無	無	無	無	無	無	無	無	無
		手押しポンプ	無	無	無	?	あり(使不可)	無	無	無	無
		電動ポンプ	あり	あり(使不可)	あり	あり	あり	あり(使不可)	あり	あり	あり(使不可)
	水質等	pH	6.8	6.5	6.2	6.4	6.1	6.3	6.3	6.2	6.6
		気温 (°C)	24.5	28.3	28.0	28.0	22.0	22.0	22.0	21.0	17.5
		水温 (°C)	18.0	18.0	18.1	17.6	16.5	18.0	19.5	19.5	18.6
		電気伝導率 (mS/m)	29.0	23.0	23.1	10.0	13.9	21.9	24.1	22.6	24.7
		色相	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色
		臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
		CODMn P.test(ppm)	5	6	1	2	3	2	2	1	2
		NH4+ P.test(ppm)	—	—	<0.2	<0.2	<0.2	0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		水位 (m)	測定不能	4.1	10.76	10.2	測定不能	4	3.7	5.1	4.3
	水深 (m)	測定不能	1.9	1	1.8	測定不能	1.35	1.3	3.5	1	
敷地内の井戸の位置		東北の角	北	西	南西	北西	南	西	南西	北	
聞き取り調査	使用状況	使用/不使用	使用	不	不	不	不	不	使用	不	
		常時/不定期	常	—	—	—	—	—	常	—	
	使用目的 (未使用理由)		洗濯	(水道の開始) S47～不使用		(水道の開始) S32～不使用	(水が干上がった 時期あり) H16.6～不使用	S40～不使用	(検査で飲用不 適だったため) —	飲用, 料理, 撒き 水	(下水道ができた ため) H8～不使用
		水質検査	実施/未実施	実施	未	実施	未	実施	未	未	未
		頻度	1回/年	—	1回/年	—	1回/年	—	—	—	—
		公費/自費	公費	—	公費	—	公費	—	—	—	—
	今後の取り扱い		今後も使用	使用しない (井戸はそのまま)	今後使用	今後使用	今後使用	今後使用	今後使用	今後使用	未定
	掘った時期		S35～36年	S37年2月	S41年	T4年11月	不明	350年前	S2年頃	100年位前	S30年頃
	深さ (m)		約4(13尺)	6	不明	12	不明	5.35	5	8.6	5.3
	地下水流向		北西→南東	北→南	北→南	北→南	不明	不明	不明	不明	不明
水質変化の有無		無	無	不明	不明	上記	無	不明	不明	不明	
備考				調査時井戸に詳しい方が不在	石積み		水位測定 1回/月 東京都が実施	近年水位低下	昭和の初めに土垣 からコンクリートに変 えた		

資料 2-6 現地調査結果一覧 2

調査地点名		谷保26	西3	西1	谷保48	谷保46	中3	中4	西2	東1	
災害用指定	指定	○					○	○	○	○	
	H13調査ランク	C下	I		I	I	D下	D下	C上	A	
環境部調査井戸											
現地調査実施日		H16.12.2	H16.12.11	H16.12.11	H16.12.11	H16.12.11	H17.2.5	H17.2.5	H17.2.5	H17.2.5	
視認・実測調査	天候	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	
	取水方法	つるべ	無	無	無	無	無	無	無	無	無
		手押しポンプ	無	無	無	無	無	無	無	無	無
		電動ポンプ	あり	無	あり	あり(使不可)	無	あり	あり	あり	あり
	水質等	pH	6.8	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.4	6.2
		気温 (°C)	15.4	12.0	13.0	16.0	17.0	5.0	5.0	6.2	8.1
		水温 (°C)	18.5	17.0	17.7	17.7	17.9	15.9	16.0	17.0	16.0
		電気伝導率 (mS/m)	25.7	23.4	24.0	26.7	26.8	24.6	24.1	24.9	19.9
		色相	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色
		臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
		CODMn P.test(ppm)	2	1	3	4	3	1	2	1	2
		NH4+ P.test(ppm)	<0.2	<0.2	<0.2	0.4	0.3	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		水位 (m)	4.7	7.7	7.6	3.1	2.4	測定不能	9.7	9.6	測定不能
	水深 (m)	1.5	2.5	2.9	2.5	2	測定不能	測定不能	1.2	測定不能	
敷地内の井戸の位置		中央	北西角	北西角	南	南	南東	北西	北西	西	
聞き取り調査	使用状況	使用/不使用	使用	不	使用	不	不	使用	使用	使用	
		常時/不定期	常	—	常	—	—	常	常	常	
	使用目的 (未使用理由)		撒き水、手洗い	(水道の開始)	洗濯、撒き水、風呂(時々)	(モーター故障) S49～不使用	(水道の開始)	洗濯、撒き水、その他	洗濯、撒き水、その他	洗濯、撒き水、風呂、トイレ	撒き水、その他
		実施/未実施	実施	未	未	未	未	実施	実施	実施	実施
	水質検査	頻度	1回/年	—	—	—	—	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年
		公費/自費	公費	—	—	—	—	公費	公費	公費	公費
	今後の取り扱い		今後も使用	未定	今後も使用	使用しない (井戸はそのまま)	使用しない (井戸はそのまま)	今後も使用	今後も使用	今後も使用	今後も使用
	掘った時期		H7年	S29～30年	S29年以前	不明	M25年10月	50年位前	S28年以前	不明	S28年頃
	深さ (m)		6.2	10.2	10.5	5.6	4.4	不明	不明	不明	15
	地下水流向		不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
水質変化の有無		無	不明	不明	無	不明	不明	不明	不明	不明	
備考		9年前建物工事時に水が出たため井戸にした。以前は他の場所にあった。		阪神淡路震災以後モーターをつけて使用。1年に1回1～2月に枯れる。その後溜めて使用。	S20年以前に手押しポンプがあった。	富士見台団地深井戸できてから自噴せず。古くは牛の水飲場。	10年前にポンプ新設、年1回2月頃枯れる。井戸がもう一つある。	何回も井戸を掘り下げた。大学通り下水工事中20日間位水枯れた時あり。	水は枯れない。10年位前まで手押しポンプを使用。	S63年ビル建設の折電動化。発電機あり。枯れたことなし。	

資料 2-7 現地調査結果一覧 3

調査地点名		東4	富士見台1	谷保16-1	谷保16-2	谷保50	谷保11	谷保9	
災害用指定	指定	○		○					
	H13調査ランク	D下		D下, J					
環境部調査井戸			○						
現地調査実施日		H17.2.15	H17.2.15	H17.6.30	H17.6.30	H17.6.30	H18.8.28	H18.8.28	
視認・実測調査	天候	晴	晴	曇	曇	晴	曇	曇	
	取水方法	つるべ	無	無	無	無	無	無	無
		手押しポンプ	無	無	無	無	無	無	無
		電動ポンプ	あり	あり	あり	無	あり	あり	無
	水質等	pH	6.7	6.6	6.5	6.8	6.6	6.0	—
		気温 (°C)	16.0	16.0	27.0	27.0	29.0	27.9	—
		水温 (°C)	15.7	16.2	18.9	15.1	18.0	17.0	—
		電気伝導率 (mS/m)	33.3	26.5	23.3	19.8	22.3	21.2	—
		色相	無色	無色	無色	無色	無色	無色	—
		臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	—
		CODMn P.test(ppm)	2	1	3	1	1	5	—
		NH4+ P.test(ppm)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	—
	水位 (m)	14.4	4.5	測定不能	10.65	8.9	10.85	—	
	水深 (m)	測定不能	2.3	測定不能	1.4	1.3	1.55	—	
敷地内の井戸の位置		北	南	北	南東(納屋)	南東	南西角	東	
聞き取り調査	使用状況	使用/不使用 常時/不定期	使用 常	使用 常	使用 常	不 不定期	不 不定期	不 不定期	
	使用目的 (未使用理由)	撒き水, その他	撒き水, その他	洗濯, 農業, 風呂	(他に井戸を掘つため)	撒き水, 農業	(費用・構造の問題)	(埋めた)	
	水質検査	実施/未実施	実施	実施	実施	未	未	未	未
		頻度	1回/年	1回/年	1回/年	-	-	-	-
		公費/自費	公費	公費	公費	-	-	-	-
	今後の取り扱い	今後も使用	今後も使用	今後も使用	使用しない (井戸はそのまま)	今後も使用	今後使用	使用しない	
	掘った時期	S30年頃	M38年	S30年頃	T13年以前	不明	S31年以前	S27~28年頃	
	深さ (m)	不明	6.8	18	12.05	10.2	12.4	不明	
	地下水流向	不明	不明	南東	南東	不明	不明	不明	
	水質変化の有無	無	無	無	不明	無	無	不明	
備考	枯れたことなし。砂利層まで掘らずに水が噴出。	矢川が枯れたときも枯れなかった。つるべにしようかと思っている。	自家発電設備付。畑や庭の水やり等に使用しているが枯れたことはない。	下は玉石組みでつるべ井戸だった。大正14年10月に改装(震災で一部崩れたため)。	昔は自噴井戸がありわざわざ田に水を引いていた。	S32頃ポンプで取水。当時濁ったこと枯れたことはなく、あらゆる用途に使用。	塞がれていたため調査不能。S24年井戸がなく大家さん宅からもらい水を運ぶのが大変だった。		

資料 2-8 応急飲料水等に関する資料

	浄水場・給水所		応急給水槽		受水槽						井戸					
	箇所	確保水量 (m <sup>3</sup> )	箇所	水量 (m <sup>3</sup> )	公共		民間		計		公共		民間		計	
					箇所	有効水量 (m <sup>3</sup> )	箇所	有効水量 (m <sup>3</sup> )	箇所	有効水量 (m <sup>3</sup> )	箇所	水量 (m <sup>3</sup> /h)	箇所	水量 (m <sup>3</sup> /h)	箇所	水量 (m <sup>3</sup> /h)
立川市	4	2420	0	0	0	0	0	0	0	0	2	72	0	0	2	72
府中市	4	8560	2	1700	35	1237	0	0	35	1237	27	1620	22	-	49	-
小平市	2	7760	27	540	29	1024	1623	-	1652	-	12	333	82	10	94	343
日野市	5	11460	0	0	14	720	11	1162	25	1822	0	0	0	0	0	0
国分寺市	2	12500	0	0	14	762	3	165	17	927	0	0	0	0	0	0
多摩市	6	21100	1	1500	19	705	0	0	19	705	5	500	0	0	5	500
国立市	2	4008	0	0	12	1102	1	27	13	1129	14	844	21	-	35	-

	給配水										資器材					
	給水車			給水タンク				容器(ポリタンク)			ろ水器 (台)	エンジン ポンプ (台)	自動給水分 配装置(ウオー ター・パッカー) (台)	組立水槽 (台)	給水 バケツ (個)	その他
	2m <sup>3</sup> 未満 (台)	2~4m <sup>3</sup> (台)	4m <sup>3</sup> 以上 (台)	0.5m <sup>3</sup> 未満 (基)	0.5-1m <sup>3</sup> 未満 (基)	1-2m <sup>3</sup> 未満 (基)	2m <sup>3</sup> 以上	3~9L (個)	10L (個)	11~20L (個)						
立川市	0	0	0	0	0	13	0	0	0	307	6	18	2	0	21000	-
府中市	0	1	0	0	15	0	0	0	0	60	21	6	4	72	10000	-
小平市	0	1	0	0	0	0	19	0	0	857	7	51	1	193	747	-
日野市	0	2	0	0	0	2	0	300	50	100	2	6	0	3	20	給水栓15箇所
国分寺市	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	38	4	0	4	0	水中ポンプ6台
多摩市	0	0	0	0	0	23	0	0	0	150	42	6	0	46	0	給水袋55000枚
国立市	0	0	0	0	0	3	0	0	300	40	5	3	1	5	0	給水袋13700枚

31

	非常災害用井戸															
	市	民間	計	選定基準	水質検査				助成制度			表示板		管理主体		
					実施	年間実施 回数(回)	実施主体		定額	修繕費用	貸与備品	設置	表示名称	市	所有者	
							市	所有者								
立川市	0 (2)	0 (0)	0 (2)	-	- (○)	0 1	- (○)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (○)	- (-)	
府中市	27 (0)	0 (0)	27 (0)	-	○ (-)	1 0	○ (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
小平市	12 (39)	81 (7)	93 (46)	現に使用し今後も使用する予定のもの、飲料に 適するもの、付近住民が使用しやすい場所 にあること	○ (-)	1 0	○ (-)	- (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	震災対策用井戸 -	- (-)	
日野市	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-	- (-)	0 0	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
国分寺市	13 (0)	0 (0)	13 (0)	児童公園等、公共用地に市が 設置	○ (-)	1 0	○ (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	○ (-)	○ (-)	むかしの井戸 -	○ (-)	
多摩市	5 (0)	0 (62)	5 (62)	-	○ (○)	1 1	○ (○)	- (-)	○ (○)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
国立市	14 (0)	0 (21)	14 (21)	-	○ (○)	常時 1	○ (○)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	○ (○)	○ (○)	- 災害対策用井戸	○ (○)	

※上段：災害時飲料用，下段（）：生活用水

出典：東京都総合防災部ホームページより抜粋 <http://www.soumu.metro.tokyo.jp/04saigaitaisaku/15kusityouson.htm>

平成15年度 区市町村防災事業の現況（平成15年4月1日現在）6 応急飲料水（浄水場・給水所、応急給水槽、受水槽・井戸・プール等、給配水資機材等、非常災害用井戸等）

資料 2-9 国立市の他自治体との相互応援

協定等の名称	締結年月日	協定の相手方	相互応援の内容
甲州街道沿道12市の大規模災害発生時等における相互応援に関する協定	平成8年12月1日	八王子市他11市	生活必需物資、医薬品、資機材の提供、車両等の提供、職員の派遣、被災者の一時受け入れ、ボランティアの斡旋等
災害時の避難場所相互利用に関する協定	平成12年3月1日	立川市	避難場所に避難している市民に対して、区別なく救援活動を行う
消防の相互応援に関する協定	昭和40年9月10日	立川市他3市	消防の相互応援
消防の相互応援に関する協定	昭和59年12月1日	府中市、国分寺市	消防の相互応援

出典：東京都総合防災部ホームページより抜粋

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/04saigaitaisaku/15kusityouson.htm>

平成 15 年度 区市町村防災事業の現況（平成 15 年 4 月 1 日現在）15 他自治体との相互応援

	平成16年1月1日現在
	人 口
立川市	168851
府中市	236902
小平市	182860
日野市	173267
国分寺市	115295
多摩市	145870
国立市	73506

資料 2-10 東京都の防災計画

<p>飲料水の供給</p> <p>1 応急給水活動</p> <p>(1) 震災時の応急給水の方法</p> <p>イ 車両による応急給水</p> <p>給水拠点からの距離が概ね2km以上離れている避難場所において応急給水を行う。</p> <p>(2) 給水拠点での都(多摩地区については都営水道市町水道部所)と区市町の役割分担</p> <p>ア 応急給水槽においては、区市町が応急給水に必要な資器材等の設置及び住民等への応急給水を行う。</p> <p>イ 浄水場(所)・給水所等においては、都が応急給水に必要な資器材等の設置を行い、区市町は住民等への応急給水を行う。</p> <p>ウ 飲料水を車両輸送する必要がある避難場所においては、都が区市町村により設置された仮設水槽まで飲料水を輸送・補給し、区市町村は住民等への応急給水を行う。</p> <p>(3) 飲料水の給水基準</p> <p>震災時における飲料水の給水基準は、<u>1日1人当たり3リットル</u>とする。</p> <p>2 給水拠点の整備</p> <p>(1) 応急給水槽の整備</p> <p>都は、震災時の飲料水等を確保するため、居住場所から概ね2kmの距離内に1か所の給水拠点の設置を目標としてきた。この結果、<u>応急給水充足率※は平成14年度末においては96%</u>に達する。当面の目標としては、給水拠点が空白地域の早期解消を図るため、これら地域への重点的な応急給水槽の整備を行っていく。また、面的整備だけでは把握できない、応急給水が不足している地域の抽出と効率的な応急給水方法の調査を実施し、応急給水計画の見直しを行う。</p> <p>※ 応急給水充足率: 災害時に応急給水が必要とされる計画給水面積(1,258.81km<sup>2</sup>)において、応急給水槽などの設置により給水が充足される面積の占める割合。</p> <p>(2) 応急給水用資器材等の整備</p> <p>都は、震災時の断水に備え飲料水等を確保するため、浄水場、給水所等にエンジンポンプなど応急給水用資器材を整備して給水拠点としてきた。平成14年度末の都の給水拠点は120か所である。今後は、資器材の老朽化に対応して計画的に更新を図っていくとともに、給水拠点の充実のため、資器材の整備を推進していく。また、災害時に迅速かつ的確な給水活動の実施を確保するため、資器材を1か所に収納できる専用倉庫の整備を推進する。さらに、応急給水用給水設備の改良を行っていく。</p>
--

東京都地域防災計画 震災編(平成15年修正) 東京都防災会議 第3部 災害応急対策計画 第12章 飲料水・食料・生活必需品等の供給(p211-212)より一部抜



### (3) 水に関する昔の暮らし聞き取り調査



### (3) 水に関する昔の暮らし聞き取り調査

#### 調査方法

国立市では今から29年前に昔の暮らしの聞き取り調査を行っている。当時は「国立市民具調査団」で現在は「くにたちの暮らしを記録する会」としてさまざまな活動をしている会が、教育委員会の委託を受けて調査したものだ。

今回の聞き取り調査は、「記録する会」の中心メンバーや地域に住む古老の方々の情報により、まず聞き取り対象者のリストを作成した。その後、70歳代以上の方で、用年次よりこの地域にお住まいの方を中心に、計11地区28名を対象に聞き取りを実施した。水に関係のある業種として豆腐屋や風呂屋も対象にした。

聞き取りの方法は、対象者の自宅、ないしは公共施設等で直接聞き取りを行い、補助記録としてテープ、写真も使用した。一度の調査には約1～2時間をかけ、主にグループリーダーが用意した質問等を行い、記録係が記録をとった。

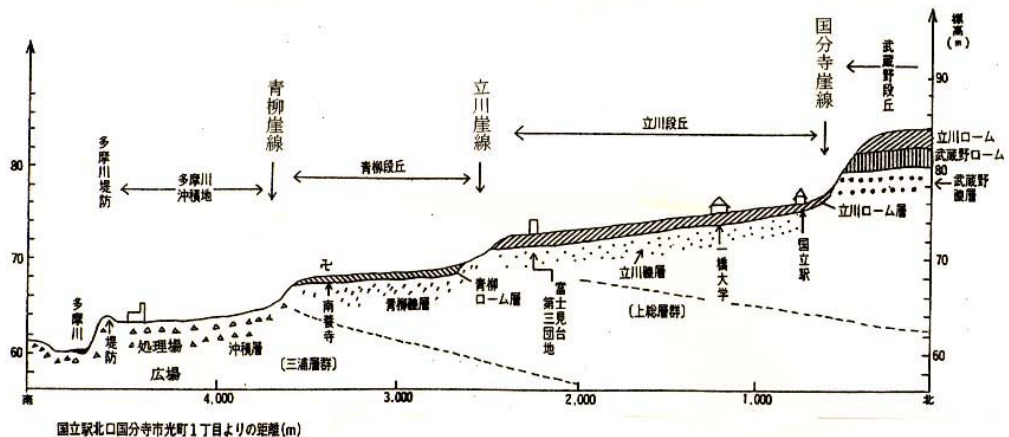
聞き取りの偏りを補うために、国立市教育委員会が1983(昭和58)年3月に、国立市文化財調査報告として刊行した『国立の生活誌—古老の語る谷保の暮らし—』三冊の中から水に関するものを抜粋し、今回の聞き取り調査に重ねて事例に厚みを持たせることが出来た。(この部分は資料編を参照)

聞き取りは生活に密着したものだが、それをそのまま地域の歴史とするには事実確認が必要となる。そのため国立の歴史や多摩川の年表などと合わせて、客観的な事実とつながる面を報告することで、それを補う一助とした。

聞き取りの中心は以下の三点で、これは年表の分類にも生かしている。

- ① 地域固有の水環境  
多摩川、井戸、用水、湧き水に関すること
- ② 地域社会の中で慣習的に行われてきたこと  
漁業、農業、雨乞いなど
- ③ 生活の中で位置づいていたこと  
遊び、生き物など

#### 国立の地形図



## 調査日・調査地区

No.	地区	調査日	対象者	備考
1	谷保下谷保地区	2004. 7. 23	佐藤定彦・好子さん	
			佐藤利雄さん	
			関吉男さん	
			北島清三さん	
2	谷保坂下地区	2004. 8. 04	長島浪春さん	
3	谷保四軒在家地区	2004. 8. 27	山口松男さん	
			佐伯秀雄さん	
			佐伯吉蔵さん	
4	谷保青柳地区	2004.11.07	佐藤恵さん	
			遠藤一夫さん	
5	谷保久保地区	2004.11.10	遠藤政雄さん	
6	谷保南区	2004.11.25	佐伯茂さん	
7	谷保坂下地区	2005. 1. 31	島村幸夫さん	
8	中地区	2005. 2. 05	佐藤兼吉さん	
			柳川すみえさん	災害用対策井戸No.7
			石山雄策さん	災害用対策井戸No.11
9	西地区	2006. 4.18	千葉さく子さん	災害用対策井戸No.1
			「鳩の湯」高張末松さん、大和さん	
10	東地区	2006. 7. 04	「小山商店」小山幸男さん	
			渡辺豆腐店 渡辺さんご夫妻	
11	富士見台地区	2006. 7. 24	「もぎ豆腐店」茂木進さん	
12	谷保下谷保地区	2006. 8. 28	小山栄子さん	
			松村春次さん	
13	立川市	2007. 3. 29	「石田産業」石田隆一さん、石田高章さん	

## 聞き取り調査のまとめ

※ 各地区名のあとの数字は、上の表の「調査日・地区」の番号に対応する。

### I 多摩川

多摩川は谷保地域の人々にとって、無くてはならない恵みの川であり、遊びの場であり、そして洪水などで怖い顔も見せていた。交通の要と言う役割も持っていた。

#### 四軒在家地区 ③

多摩川は、奥多摩のダムが出来るまでに、堤防すれすれまで水が上がったことがある。サイという魚を捕った。これは骨っぽくて美味しくないがよく捕れた。

#### 久保地区 ⑤

多摩川の堤防づくりは農家の救済事業だった。川の中には冷たい水が湧いているところがあるし、急に深くなるところもある。知らない人はそれでおぼれる。鮎捕りなら俺は名人だよ。今なら6月第一日曜から9月一杯まで捕るが、9月になると卵を持ってまっ黒になる。魚は土用になると川を登り、8月末になると川を下っていく。そこを考えて網を打つ。網は自分で絹のより糸で編んだが、大人になると1200から1500目の網を作った。立高の下に青木という川魚屋があった。

多摩川の3大難所といわれたのは、四谷橋の油面、狛江の猪方？と並び、谷保青柳の雨なれ下だった。今の多摩川がほぼこの形になったのは、1650年代。地の人で溺れた人はいない。終戦後、多摩川の水が汚れた。共同作業などの後、多摩川の魚を唐揚げなどで食べるとゲップがガソリンくさかったもんだ。

## 南区 ⑥

“川”の恵みって、(自分の)お母さんが言っていたが、「手をけがしたときも、川で手を洗ったら治る」ってね。それくらい綺麗だったんだらう。今、川が一時よりは綺麗になったというが、遊ぶ人はいなくなった。昔は子どもが沢山河原で遊び、沢山の人が釣りをしていたもんだが。多摩川漁業組合の組合員もどんどん数が減ってきた。平成7年に749名だったのが、平成15年には579名だ。昔、川が増水したときには、丸太捕りを良くやった。流れてくる丸太を鎌で引っかけて捕る。俺なんか泳いで行って抱えてきたりしたよ。流れが速いから、堰に行く前に岸に戻れるように計算して泳ぐ。丸太捕りが一番面白いが、サツマやリンゴなんかも流れてくる。みんな食った。丸太は苦勞しととっても、焼き印が押してあって押収されてしまうこともある。豚が流れてきたこともあった。鳴きながら流されていくんだ。河川敷に植えたものや、飼ってた動物が水で流されるんだらうな。

## 南区 ⑥

捕った魚は、煮付けにして食べた。生醤油で煮たと思うよ。うちは8人兄弟で7人が男だから、多摩川の魚が無かったら今の健康な身体はなかった。

## II 井戸

聞き取りで話の出た井戸は、ほとんどが地表から最初の不透水層の上に流れる自由地下水(浅層地下水)を汲み上げる素掘りの浅井戸や掘り抜き井戸で、上総掘りによる噴き上げ井戸の話も一部ある。揚水方法は釣瓶による時代から手押しポンプ、そして現在はほとんど電動ポンプに変わっている。地域の地形により掘る深さが違う。

水が出やすい地域は掘るのも簡単でどの家にも井戸はあったが、掘るのに一身上かかるといわれた地域などは、共同井戸を使用していた。

### 下谷保地区 ①

地形が高いので40尺掘った。大きな井戸は直径4メートル以上あり、一番下に石垣を組んで立ち上げた。つるべ井戸だから、わらを編んだものをまた3本合わせ、太い縄でつるした。毎年正月の20日には1年中使えるだけの縄を編んだ。梅林下の家に掘り抜き井戸があって、水が吹き出していた。

天秤井戸というのもあって、水位の高い井戸で跳ね上げて使った。反対に石を縛り付ける。

### 四軒在家地区 ③

どこの家にもあって釣瓶井戸だった。大体7尺ほどの深さかな。

### 青柳地区 ④

打ち込み式の井戸で3本あったが現在は2つ。飲用も大丈夫。掘り抜き井戸で震災にも耐え、直径1メートル以上の井戸の中は綺麗な石組みがそのまま残り4尺ほど下に水面が見える。350年ほど前先祖がこの地に移り住んだ時に掘ったもの。水口がよいといわれ涸れたことがないというが、現在使用していない。

### 青柳地区 ④

掘り抜き井戸で震災にも耐え、直径1メートル以上の井戸の中は綺麗な石組みがそのまま残り4尺ほど下に水面が見える。350年ほど前先祖がこの地に移り住んだ時に掘った

もの。水口がよいといわれ涸れたことがないというが、現在使用していない。

#### 久保地区 ⑤

上水道が通る前まで使用。水の味？全然違うね（井戸の方が美味しい）。乳牛を飼って、いたときなどは、夏腐らないように乳をつるしておいた。

#### 久保地区 ⑤

どこの家にも井戸はあり自分たちで掘った。2～3人いれば大丈夫で1週間もかからない。まず形を決めて地面を切るようにして回りながら、柄の短いスコップで掘る。だんだん深くなると3本の櫓を組んで井戸中の土を鋤簾の柄の短いので掬いながら軽菰？に入れて上げる。ナメに来ると堅いので石鑿で刻むように掘っていく。この辺は砂ナメで、堅くて大変だった。それでも1日で15尺は掘った。水が出てからも3尺は掘る。2月から3月頃が井戸掘りに適していた。水涸れのひどい年は、さらに掘り下げる。以前は石積みだったが、昭和の初めにコンクリートの丸に代えた。

このあたりにも上総掘りで掘った噴き上げ井戸が8軒はあった。

#### 坂下地区 ⑦

甲州街道の上では深く掘らないと水が出ないから一身上はたくと言われた。

この辺じゃ水は出やすいが、わざわざ掘らなくとも川がそこにあるんだから、みんなそれを飲んでた。のど渇くと腹這いになって、口を付けて飲む。うまかった。誰も腹こわしたりしなかった。水道になったとき、最初臭くって飲めなかった、みんなきらったもんだ。掘り抜き井戸は3本あった。天満宮の梅林の横に梅林がもう一つ続いていたが、その家にもあった。ポンプ（手押し）の井戸はどこの家にもあった。松丸太を組み、その上に石を組んでのせて作っていく。井戸綱は1月20日に作るんだ。この日は恵比須講で休みだったから。物日と言ってご馳走を作った。

#### 中地区 ⑧

昭和27年に家が建った時から井戸はもちろん今のところにあつた。何度も掘り直している。だからかなり深くなっていて、水量も多いし涸れることもない。水道が出来てからも、飲用以外は全部利用している。

#### 中地区 ⑧

掘ったのは50年ほど前の昭和25年頃で、親父がこの家を建てるときに掘った。一度も掘り直しをしていない。10年前頃から1～2月に水が涸れるようになったので、奥多摩の人を人づてに頼んで掘り直しを依頼したが「もう手掘りはしない」と断られた。電動ポンプに付け替えてずっと使っている。

#### 西地区 ⑧

50年前に家を建てる時水道がなかったから立川の羽衣町の人に頼んで井戸を掘った。飲用以外の何にでも使用している。風呂、洗濯、庭の水まき、トイレにも使っていて大変助かっている。出が悪くなって掘り直しを1度やった。一度も涸れたことはない。10年前手押しポンプが壊れたときに探したが手に入らず、あきらめて電動ポンプに変えた。以前、台風で停電になったときには、ご近所の皆さんが水を求めて並んだ。

#### 東地区 ⑧

昭和28年に家を建てて越してきた時に井戸も今の場所に掘った。手押しポンプで50尺だから15m掘った。生活井戸として当然何にでも使っていた。一度も涸れていない。

建て替えの時に自宅とマンションの境ギリギリに井戸をそのまま残した。電動ポンプにその時に変えたが掘り直しはしない。井戸の役目は時代で変わってきた。

まず生活の必需品だった。次に水道が通って生活に必要ななくなったとき、作業所で使った。今はそれも必要なくなり、洗車とテナントが利用するだけだが防災のことはいつも頭にあった。井戸は人間が活着ている以上、かならず何かに使うことができるものだ。発電機は仕事上持っている。どんなときでも井戸は大丈夫。

#### 東地区 ⑨

昭和29年に結婚してくにたちに来た。風呂屋が出来るので、承諾の判をついた。自分に家にも井戸はあったし、周りのどの家にも井戸はあった。ウチの井戸は25<sup>㍓</sup>と聞いていたがやはり2月頃になると涸れた。家の建て替えで井戸を閉じるとき、神様が入るから、といわれて息抜きの管を挿した。千葉の別荘では利根川の水だが、一度源流に行ってみて驚いた。藻が生えて緑色で水はまずい。それに比べて国立の水は本当に美味しいと思う。

昔は大雨が降ると停電になり、すぐ水があふれた。八興社の売店のあったあたり、あの辺が一番低かった。奥さんが一生懸命土嚢を積んでいたのを覚えている。排水どころかマンホールからかえって水が吹き出す。私たちはいざというとき、本当に安心。鳩の湯さんの所に行けば水が手にはいるから。何かの時には行こうといっている。水の大切さを孫が学校で学んできたけど、洗面器一杯の水で顔を洗い、コップ1杯で歯磨きをすることができる。子どもたちにもっと伝えることがある。

#### 下谷保地区 ⑫

庭の端に井戸が残っている。残念ながら15年位前に、電気を通して途中でザッとこぼれてしまうようになり、それ以来使われていない。私がこの家に、昭和32年に来たときにはもう（井戸は）あった。そのころはちゃんからポンプでガチャコンガチャコンやっていた。33年に息子のオムツを洗っていたときも、やはりちゃんからポンプ。一度も濁ったことがないし、もちろん涸れたこともない。風呂でも何でも全部使っていた。

#### 下谷保地区 ⑫

昭和27年か28年位前に井戸を掘った。昭和24年にお嫁に来たが、その時は井戸もなく貫い水だった。大家さんに家から水を汲んで運んだが本当に大変だった。それで一生懸命儉約して、お金をためて井戸を掘ることにした。当時倉を建てるか、井戸を掘るか、と言われるほど大変なことだった。水がないと人間は活着ていないから。1ヶ月くらい井戸掘りにかかった。中で掘る人と外で土をあげる人がいた。佐藤正太郎さんと言う人だよ。近所だったが今はいない。50メートル(?)くらいの深さで、土管を20数本入れた。

(注：このあたりの井戸は全部10メートルから12メートルあたりです)

深いので西瓜なども中につるして冷やせないから、汲んで冷やした。初めガチャコンしていたが、5~6年して柄が折れた後モーターにした。涸れることはなかったが、水道が通ったあたりから水質が悪くなり、保健所の許可が下りなくなったので、井戸を閉じた。

ただ、井戸神様がいらるので全部閉めることはないようにしてある。いまでも暮れには天神様のお札を貰い、貼っているし、正月の3が日は主人がお神酒や餅、お供えをあげている。井戸は粗末にはできないから。

#### 立川市 ⑬ (井戸掘り業者)

昭和36年頃に地質調査を始めた。多摩ニュータウン建設のときだが、

あのあたりはまだ水道が入っていなかった。昭和39年か40年頃に、2ヶ月も雨が降らない日照りが続き、井戸も涸れた。地質調査の機械が当時4台あって、その中の1台を井戸用にと考えた。そのうち2台に増やした。しかし砂が混じったり、水の濁りを除く技術を持って無かった。当時、10メートルから20メートルのところまで掘れば水が出る。それにパイプを入れればよいただと思ったが、やはり素人でダメだ。東中野に井戸を掘るところがあると聞いて、見に行ったりして経験をつんだ。20～30メートルのところは、汚染されている。だから今では、70～100メートルまで掘るようにしている。

昔からここに住んでいる。(立川市富士見町2丁目)小さい頃はもちろん水道は無く、家には手掘りの井戸があった。手押しポンプで24メートル、60センチの丸(土管)が入っている。良い水で涸れたこともなかった。学校から帰るといつも20リットルのドラム缶に水を汲むのが仕事だった、それがきつくて嫌で、毎日何とか逃れようと、遅く帰るようにしていた。昭和16～17年頃の戦争中にモーターがついた。高砂ポンプというシリンダー式のものだこの工場を立て直すときに、埋め立てることにした。

昭和25年から26年頃に、横田か立川かの基地からガソリンが流れた。立川の水(地下水)は秩父から来ていると聞いたことがあるが、油が流れたと聞いて、井戸掘って汲み上げ、そのガソリンで車を走らせたという。ほかにも井戸を掘って油を汲もうと、つるはしで6メートルくらい掘ったら、つるはしの火花で引火して爆発して死んだ話がある。拝島の駅の北側を掘ったときも、やはりガソリンくさかったから、横田だ。立川の曙町でもガソリンくさいと言う話は当時あった。

立川の熊野神社を昭和50年頃に手掘りで井戸を掘ったが、7～8メートルで水は出た。飲めるかどうかは知らない。国立でも泉で10メートルの井戸を掘った。普段は深井戸で、国立なら60～80メートルくらい掘る。そのほうが安心。打ち込み井戸は砂利にあると大変だ。機械で掘るのは10メートルでも、100メートルでも同じこと。

機械1台で5,000万はする。国立学園でも80メートルくらい掘った。それを自然水位の24メートルまで、上がってくるのを待つ。うちの井戸は外に130メートルの井戸を2本掘ってある。東京都では40項目もの水質調査をするが、それで良い水だといって、災害用に指定させてくれと言われ、その代わり検査は無料だった。

機械は今3台ある。年間30本以上掘る。新しいのばかりでなく、堀直しもある。機械のセットに大体1～2日かかり、10～25日掘る。また撤去に1日はかかる。水道水の節約になるから、豆腐や、風呂や、植木造園などから、今でも依頼が多い。

福祉施設なども依頼がある。冷暖房に使うことが多い。値段や日数は、地盤の固さで違う。大体このあたりの地質はわかっている。国立でもずいぶん掘っているからわかる。目的によって深さは変わるが、大体は5日くらいだ。小さな機械でやれば、6メートル直角があれば掘れる。大きいのも6×10メートルあれば掘れる。温泉を掘るのならどれくらいかかるか?1メートル7万円くらい。国立の河川敷に掘るなら、1,200メートル掘れば出る。

うちで特許を目指している井戸は、空気圧で10メートル上がるという超簡単井戸だ。普通、手押しの空気圧のは、8メートルくらいしか出ない。

#### IV 湧き水



国立は多摩川の崖線からの湧き水が昔から豊富だった。現在でも湧き水だけの矢川やママ下の川（清水川）などがかろうじて残っている。

#### 下谷保地区 ①

子どものころは、ハケ沿いに湧き水がたくさんあって、サワガニがたくさんいた。こめけ（米池）付近では、1メートルも掘れば水が出た。天神下の佐藤兼吉さんの宅の下には湧き水があって、池ができていた。

#### 坂下地区 ⑦

自分の家は「清水のたてば」といわれ、涸れることのない湧き水がいつも湧き、新撰組も戊辰戦争の時かな、甲州街道を通って行ったとき、ここによってわらじを代えたり、食べ物を食べたりして休んでいったそうだ。

みんな水っていうものは大事だって考えていた。だから甲州街道が昭和2～3年に作ったときに、だいぶん地盤を高くして作ったが、自分たちの家は高さをそのままにしておいた。水はだいぶ上に家が建って、吸い込みのため地下が汚れるまで、ずっと飲んでいた。

#### 坂下地区 ⑦

この辺（兼吉さん宅）じゃ水は出やすいが、わざわざ掘らなくとも川がそこにあるんだから、みんなそれを飲んでたよ。のど渇くと腹這いになって、口を付けて飲む。うまかったよ。誰も腹こわしたりしなかったな。水道になったとき、最初臭くって飲めなかったよ、みんなきらったもんだ。

常磐の泉は昔からみんな水汲みに来たよ。天秤担いで水汲みは女の人の仕事だったからね。水が良いから渋谷からも荷車に積んで水汲みに来たんだ。湧き水だから冬暖かで、夏は冷たくてうまいんだよね。

わさびっ田てえのはこの辺にもあったよ。水が綺麗じゃないと出来ないからね。

## V 仕事→水車・豆腐・わさび田・用水・農業・漁業

### 水車

水の豊富な矢川やハケの湧き水を利用して水車が掛けられていた。個人所有の水車もあり、多くは共同で麦や米を搗くのに使用した。残念ながら現在は一つも残っていない。

#### 四軒在家地区 ③

この地区は水が豊富で、水車は7～8つほどあった。一番よく利用したのは滝乃川の上にある共同水車。順番を待ってよく米や麦をついた。

#### 坂下地区 ⑦

水車は2つあった。以前はもう1つあったと聞いていた。一つは大きな水車で俺の家のそばにあり共同水車だから皆で使った。甲州街道の下をくぐり一間くらいの川が流れてたが湧き水だもんで綺麗だった。特別に掘を造り、水を上に上げてそこで水車を廻した。杵は3本あったが、水の少ないときは1本だけでつく。もう一つは天満宮の南の端にあった。

### 豆腐屋

豆腐屋はスーパーの豆腐に押されるのと、高齢での後継者不足によりだんだんと減っている。しかしまだ西に1軒、東に3軒、富士見台に1軒残る。西の豆腐屋は昔ながらのラ

ッパを吹きながら自転車での営業も営む。どの店もこだわりの豆腐で人気を保つ。水が肝心との話は共通。

### 東(3丁目)地区 ⑨

ここで開業したのは、昭和33年。自分は確か1歳?いや2歳だった。何も無いところから始めた。周りは松林で、水道も無かったな。家は大方そろっていた。そのころはどこでも井戸を掘って使っていた。深さ?17メートル。始めはガチャガチャの手押しポンプだったが、今は電気ポンプで揚げる。掘り直しはしていない。砂利が溜まったら掘る(掻き出す)程度。ちょっとしか溜まんないので、溜まったら揚げるようにしている。

保健所で毎年検査を受けて、洗いものに使ったりしている。豆腐作りなどには使わない。なぜって?奥多摩のほうが心配だからね。ごみの処分場だって汚染されていると思う。それが心配だ。最初は納豆から始めた。もちろん国産大豆を使っていた。(そのころでも)国産は少なかったな。今のような小粒でなく、枝豆くらいの中粒だったよ。そのうちに、せっかくだから豆腐も作ってくれと言われ、作るようになった。

国産大豆も、金沢や山形、青森、北海道、山梨などから取り寄せている。豆腐は九州の大豆を使う。なぜかって?蛋白が多いからね。豆腐屋は、昔からあるのは鳩乃湯の隣と、東の郵便局となり、団地の中の2軒と富士見通りにもあったが、今は移転している。

### 東(2丁目)地区 ⑩

今は店を開けるのは遅いよ。なぜならお客さんが、朝早くから買いに来なくなったからね。

昔は6時にはもう鍋を持って豆腐を買いに来たよ。奴に切ってとか、さいの目に切ってとか言ってね。だから2時起き、3時起きして豆腐を作ってた。今の親父さんなんか何食ってんだかね。バスに乗るのを見ながら思うね。水とおんなじで、食生活も大事だって事さ。

(谷保で豆腐屋をやっていた)矢沢さんのカネチャンも亡くなったし、滝乃川学園のそばの豆腐屋さんも亡くなったな。それからは(自分が)滝乃川にも届けに行くけど、以前より少なくなった

### 富士見台地区 ⑪

この場所(富士見台ダイヤ街)に来たのは、団地が出来たときだから昭和41年。28歳のときだった。それまでは小平で兄の豆腐屋を手伝っていた。このあたりは道路は舗装されていたが、大雨が降ると店の前まで水浸しだった。下水道ができてそういうことは無くなった。夫婦ふたりで全部手作りだから、朝は4時から起きて仕事は大変だった。初めから水道だよ。地下水は汚れていてそれに保健所がうるさいのでやめた。豆腐は水が美味しくなくっちゃだめだから、カルキを抜いて使っている。それでも水道はまずくなった。前と違うよ。昔から防腐剤なんて使ってない。豆腐はいたむのが当たり前だ。スーパーなんか1週間先の日付(賞味期限)を入れて売っている。それを当たり前と思って買っている。なんだか当たり前のことがなくなってきた。みんなそうじゃないか。

今の人は豆腐を長持ちするもんだと思っているのを見るとね。

うちは昔から本にがりで作っていて、今も変えていない。甘みが増すんだ。オートメーションだと本にがりは入れられないからね。みんな生活が忙しくなった。前は入れ物を持って買いに来たけど、何でもパックになっちゃった。公害がおきるわけだよ。便利は良いけ

ど捨て場所が無くなるだろう。今でもたまにいるよ、入れ物持って買いに来る人が。そういう人は袋も持ってくる。

昔は売ってなくて、今売るようになったもの？ そうだな、絹揚げはなかったな。それから寄せ豆腐も売ってなかった。昭和の33～34年頃までは、東京じゃ木綿ばかり作っていた。絹ごしは関西だ。今ではこっちでも作るようになった。冬は湯豆腐で木綿が売れ、夏はやっこで絹が売れる。豆は組合で吟味したものを使っている。

毎日同じ豆で同じ造り方をしていても、仕上がりが違うときがある。今日のは、と手ごたえを感じるときかな(そういうときにやりがいを感じる)。どうして豆腐屋を継ぐ気になったのかって？ 人が上にいるのではなく、自分でやれるのがいい

## 風呂屋

風呂屋は現在国立市内に2軒となった。西地区の松の湯さんは代替わりで地域の人でないため、取材が難しく断念した。以前は北に1軒、国立地域に3軒開業していたという。現在残る2軒ともに地下水を使用している。

### 東地区 ⑨

風呂屋は昭和29年11月に開業したと聞いているが、自分は昭和31年に国立に来て、はじめ風呂屋を借りその後買い取った。最初薪を焚いていたが、そのうち廃油を焚いたりして、今はガス。簡単で人手も入らない、1時間で焚けるが、お金がかかる。薪の時は3～4人使っていた。立川基地から薪を集めた。それは梱包材だ。トラックに積んで家で割って使った。

国立の水は最高！ どんなに周りが渇水の時でも涸れることはない。井戸屋に検査してもらったとき、200㍓だと聞いていたのが、調べたら160㍓だと言われたが、ゴーゴーと流れる音がするほどだ。前はよく水を汲みに来る人がいたほど、美味しいと評判だった。もちろん今でも美味しい。毎年検査して大丈夫といわれている。毎日飲んでる。風呂にも良いんだ。ここの湯は湯冷めをしないってお客さんが言う。(地下水でミネラル豊富だから) 小平でも風呂屋をやっていたが3年前にたたんだ。あそこは水が悪い。場所によっては、400㍓掘ってもよくない。水は自然の恵みだ。

## VI 府中用水とその周辺

多摩川から取り入れる府中用水は、農業の要だった。名前は府中用水だが国立部分(府中はかなり暗渠化されているという)は昔ながらの様子を何とか残している。しかし区画整理事業が進展するにつれて、ハケ下地域の田んぼとなし畑などの風景も消えようとしている。

### 農業

#### 下谷保地区 ②

昔は水番ってというのがいて、用水の番をしていたんだ。場所は、今のヤクルトあたりで部落の間で当番制だったんだ。なかには、夜中密かに自分の田んぼにだけ水を引くのもいた。だけど、田んぼの水を見ればすぐばれるんだよ。夏にはスイカを売りに行くんだ。トラック1, 2台分のスイカを渋谷や世田谷あたりへ売りに行った。国立の特産品といえば千両ナスだな。昔、谷保ナスというナスを作っていたんだけど、有名だったんだ。千両ナ

スは、みどり農協の原田和夫さんが考案したナスで、今でも四軒在家でつくっている。

### 四軒在家地区 ③

南部線の北はみんな桑畑で、何で桑が多いかというと、ほとんど小作人だった谷保の農家では、米を作っても四六か、三七で出さなきゃいけない。換金作物といえば養蚕しかなかった。

## Ⅶ 暮らし

### 防災

東地域は国分寺崖線の下にあたり、低地となるために雨が降ると水があふれ、道路は水浸しとなり、一番水はけの悪い多摩蘭坂の坂下あたりは舟を出したと言われるほどであった。府中境とでは土嚢を積んで水をせき止める争いもあったと言う。

#### 東(3丁目)地区 ⑫大雨-停電-溢水-安心

場所によっては、400を掘ってもよくない。水は自然の恵みだ。私たちはいざというとき、本当に安心。高張さんの所に行けば水が手にはいるから。何かの時には高張さんに所に行こうと行っている。昔はよく雷が鳴ると長い停電になった。モーターだから停電になると止まる。でもタンクが大きいから、以前停電の時に3時間の間大丈夫だったから、いざというときでも2~3時間は持つね。

自家発電の装置でもあればいいが、お金がかかるので無理とあきらめた。(昔は)大雨が降ると停電になり、すぐ水があふれた。八興社の売店のあったあたり、あの辺が一番低かった。奥さんが一生懸命土嚢を積んでいたのを覚えている。水が多いときは胸まで来たよ。下水(の排水)には苦勞したよ。あふれた水がしみ込んでいかない。(かえって吹き出すのよ、)大きな池を掘ってもすぐ一杯になる。水はじわじわ溜まるんだ。バスも止まる。商店は大変だよ。店の中に入るんだから。

水の大切さを孫が学校で学んできたけど、洗面器一杯の水で顔を洗い、コップ1杯で歯磨きをすることができる。子どもたちにもっと伝えることがある。

#### 東(2丁目)地域 ⑫

このあたり(桐朋通りに面している)は、そのころ砂利道だったから、バスが通ると黄色い砂煙、雨が降ると水煙だ。道の横に水溜りがあって大きな魚なんか泳いでたりした。何しろ地盤が低かったから、大学通りから水が押し寄せてきた。いつだかずいぶん前(国立排水路が出来る前)に、大雨が降ったとき、通りがすごい水浸しで、どの家も戸を閉めていたけど、うちは二人で土嚢を家の外に積んでいた。

そのとき、ママの森(幼稚園)の前の十字路のマンホールの鉄板と言うか蓋が、ポーンと音を立てて飛び上がり、水が噴出したんだ。お父さんがそれを見ていて、急いで飛んで行って拾ったけど、ママの森の園長さんに感謝されたっけ。誰が落ちるかわからない。水で見えないからね。危なかったよ。商売ものの入れ物なども雨で流されたことがある。

急いで拾いにいったりした。長靴なんて役に立たないくらい水が出た。

## VIII 自然→生き物・遊び

金銭的には貧しかったかもしれないが、豊かな自然の中で子どもたちははぐくまれた。夏は水遊び、釣りが遊びの中心だった。女の子もみなたくましく遊んでいた様子がわかる。取り戻したい風景の第一と言える。

### 生き物

#### 下谷保地区 ①

昔いた魚は、フナ、ドジョウ、ハヤ、ナマズ、ゲバチ、ウナギ、イタブナ、八目ウナギ、バカッパヤ、雷魚なんかかな。ウナギは本宿用水を上ってきたんだ。だから用水にはうなぎがいっぱいいた。田んぼではタガメがいっぱいとれた。タガメのことをカップとよんでいたよ。今じゃ1匹で3万円もするっていうけどね。荒田には食用ガエルがいたな。3メートルくらいとんだよ。他には、トノサマガエル、アカガエル、アマガエル、ヒキガエル、ウシガエルがいた。毎年9月15日は大瀬干しだった。

#### 南区 ⑥

- ・かじか 浅いところに沢山いた。灯りをつけて捕る。
- ・ことう（とこぶし） 砂に潜って頭だけ出している。近頃また出て来た。
- ・うぐい ほんばや 少なくなっていたが、10年くらい前からまた増えてきた。
- ・おいかわ 今でも一杯いる。
- ・あゆ 今でも放流している。組合で場所を決めて都に報告している。琵琶湖のものだね。
- ・どじょう 「ど」で捕った。泥に潜っていて面白いほど捕れた。このごろは食べるほどいないね。
- ・くちぼそ 最近少ないね。
- ・なまず 数が減ったな～。
- ・あぶらはや 昔は居なかったよ。
- ・こい これも昔はもっと数が少なかったと思う。
- ・うなぎ 流し針で捕った。10メートルほどの紐に、1メートルごとに針をかけるんだ。

#### 坂下地区 ⑦

うなぎ・なまず・どじょう・ふな・はや・げばち・いたぶな（タナゴ）が捕れた。鯉はほとんどいなかったな。たまにいと人気があつてどこで捕ったか聞かれた。ある時農業試験場に行って鯉の卵をもらってきて育てたら、大雨で流された。その年は鯉が沢山捕れたな。おばば（ホトケドジョウ）も沢山いた。大きなカラスガイやゲンゴロウ、タガメもいた。タガメはカップって言ってた。大きかったよ5～6センチもあるくらいね。

メジロ・カワラヒワ・ホオジロ・スズメ・ヒバリ・チョウマン（ツグミだらうな）

蛍は沢山いた。チョット行くと100匹は捕れた。綺麗だったな。用水も素堀だったし。夜になると蚊帳の中に入ってきたりする。蛇も沢山いてアオダイショウが多かったが、ヤマカガシもいたな。マムシは良く脅かされたが、いるところは皆知っていたから食われる人なんていなかった。梨園に蛇はよくいた。蛇はカエルを食うんだが見てるとホントにカ

エルの方から蛇に近寄っていくんだね。ウナギは流し針で捕った。太いドジョウを沢山捕ってきて「ど」に入れておくと捕れる。川魚は全部生醤油で煮て食べた。鳥も食べたが肝に当たることもあった。大山トンボが用水の土手に、ずらっと閲兵式のように並んで脱皮するのも見られたな。

## 遊び

昔の子どもたちの遊びは、お金を掛けずに自然をうまく利用して遊んでいた

### 下谷保地区 ①

子どもたちは泳ぎを荒田のたまりで覚えるんだ。だんだん泳ぎが上手になってくるにつれ、砂利場、多摩川へと泳ぐ場所を変えていくんだ。

### 久保地区 ⑤

遊びは何と言っても川遊び。ママ下より多摩川に行った。パンツだけで家から砂利道をタッタッタと走っていく。箱眼鏡を口にくわえて、篠竹に5寸釘で作った手製の銚で突く。黒いチューブのゴムで勢いをつけて突くのもやった。3本銚、5本銚もあった。絹糸を縫って投網を編んだ。俺たち子どもは唐傘網という800目くらいのものを編み、出来上がったのは柿渋に漬ける。おもりも手製でほとんど1年がかりで作ったが絹なのですぐ破れる。多摩川では、並んで釣り糸を垂らす人の下に潜って、糸を全部ひとまとめに縛って逃げる。みんな糸が絡んでしまい、次に行くと「コラッ！また来たなっ！」と怒鳴られたが面白かった。

### 南区 ⑥

遊びといったら、何と言っても多摩川だな。いつも川で遊んで魚を捕ったりしていた。初めて泳ぎを覚えたのも多摩川だ。深いから危なかったのでは？そんなこと無いよ、兄弟と一緒にだからちょっと手を離しては、すぐ戻ったりしてだんだんに泳げるようになるんだ。

### 坂下地区 ⑦

川をたらいに乗って遊んだ。水で身体が冷えてくると田んぼに行って浸かって暖めた。

## 国立の歴史と多摩川の年表

次ページに記す

『国立の生活誌—古老の語る谷保の暮らし—』Ⅰ～Ⅲよりの抜粋  
資料編を参照

西暦	元号	市の主な出来事	多摩川のできごと	府中用水とその周辺のできごと	水(井戸・湧き水)	仕事	自然(生き物・遊び)	西暦	元号
1181	平安時代	谷保天満宮が出来る						1181	平安時代
1347	室町時代	南養寺が出来る						1347	室町時代
1596	慶長元年		8月多摩川大洪水、流路変更、本宿(府中市)に接続していた青柳村が青柳島となる					1596	慶長元年
1604	慶長9年	甲州街道が出来る						1604	慶長9年
1617	元和3年	谷保村が上・下二村に分かれる						1617	元和3年
1627	寛永4年			1596年の多摩川大洪水で被害を受けた府中用水再興〔守屋左太夫〕柴間開発許可発行				1627	寛永4年
1653	承応2年			大水により、青柳村一村流失 府中用水、大規模な堀割工事開始。青柳雨成下から引水				1653	承応2年
1654	承応3年		6月 玉川上水、羽村から四谷大木戸まで通水					1654	承応3年
1655	明暦元年		3月 野火止用水開設					1655	明暦元年
1659	万治2年			7月関東一円大水害。多摩川洪水で、青柳島全村流失				1659	万治2年
1671	寛文11年		8月 大風雨、浅川増水し、多摩川氾濫	多摩川氾濫により、青柳・石田が南岸より北岸に移転				1671	寛文11年
1822	文政5年			5月 大嵐で多摩川大水になり、雨成下崩れる 谷保地区水害のため普請を行う				1822	文政5年
1868	明治元年	国立の村々が葦山県になる						1868	明治元年
1871	明治4年	全部の村が神奈川県になる						1871	明治4年
1873	明治6年	潤沢学舎(今の国立一小)が出来る						1873	明治6年
1875	明治8年	上谷保村と下谷保村がひとつになって谷保村となる	8月 暴風雨、六郷橋破損、多摩川洪水、周辺地域浸水					1875	明治8年
1876	明治9年	潤沢学舎が谷保小学校になる						1876	明治9年
1888	明治21年	谷保小学校が谷保尋常小学校となる						1888	明治21年
1889	明治22年	甲武鉄道(今の中央線)が通る 青柳村と石田村が谷保村に入る	9月 多摩川洪水、調布村・矢口村・今泉・古市場4ヶ村の堤防決壊、各地で浸水	4月 市町村制施行により、谷保村に青柳村・石田村合併。府中駅、西府村、多磨村とあわせて府中町外3ヶ村用水と呼ばれる				1889	明治22年
1893	明治26年	谷保村が東京府に入る						1893	明治26年
1896	明治29年		4月 河川法公布					1896	明治29年
1900	明治33年			5月 府中用水取水樋門設置	一・一の井戸崩れ(明治38年位の1月9日、1-13)、(明治41年、1-14) ・佐藤彦一家自宅の井戸完成、関東大震災でも壊れず(明治41年)	馬場吉太郎さん、沼崎静雄さんとの共同井戸から木の手桶を提げて風呂汲みを手伝った(大正4年前後、3-12)	多摩川では、石ぶつつけや手づかみでも魚が捕れた。馬場吉太郎さん、5センチ位のアユが魚籠に入りきれないほど捕れた(大正5-6年前後)	1900	明治33年
1923	大正12年	関東大震災が起こる			震災後井戸水は一週間くらい真っ白	佐伯徳次郎さん、最後の雨乞い(1916、7年頃、1-14)		1923	大正12年
1926	大正15年	国立駅が出来る	8月 日野橋が開通し、万願寺の渡しの日野の渡しとともに廃止 多摩川の砂利採取が、震災後の復興事業により需要増加、盛んになる		・佐伯ゼンさん、自宅に井戸完成(1-9) ・長島範三郎さん、谷保へ引越当時隣家に自然に湧く湧水を貰っていた(3-9) ・国立駅ガード付近の雑木林に湧水有り、北島芳雄さん屋敷まで導水(3-2) ・天満宮のお滝の水豊富(3-9)	4月の大水時に太くて長い木が流れてきてみんなで止めに行った。物置をつくった家も。持ち主が調べに来たことも(1-16)		1926	大正15年
1929	昭和4年	南武線が通り、谷保駅が出来る			瀬戸登夜さん、庭先の井戸付近に風呂を移転したが野天風呂だった(3-8)			1929	昭和4年
1930	昭和5年		この頃多摩川の筏流しと鵜飼が終わりになる				アメリカザリガニ、横浜に輸入(2)	1930	昭和5年
1932	昭和7年	矢川駅が出来る						1932	昭和7年
1934	昭和9年		日野橋から下流の多摩川での砂、砂利採取規制		甲州街道の掘抜きに豊富な清水。洗い場として活用していた(3-3)	戦争中まで沢蟹や蛙を食べた(1-7)	アメリカザリガニ、天神様の縁日で亀と一緒に売られる。一匹五銭。帰りに売れ残りを捨てていった(2)	1934	昭和9年
1947	昭和22年	谷保中学校(今の国立一中)が出来る	9月 キャスリーン台風により多摩川で出水					1947	昭和22年
1948	昭和23年		9月 アイオン台風により多摩川で出水	5月 府中町外三ヶ村普通水利組合、農林省・東京都の協力を得て府中用水改良工事に着手する 7月 府中用水取入口が不完全であったため谷保村青柳地区の水田300町歩に砂利が入る				1948	昭和23年
			6月 土地改良法施行 6月 デラ台風により多摩川調布で出水 9月 キティ台風の影響により多摩川調布で出水					1949	昭和24年
1951	昭和26年	谷保村が国立町になる 谷保小学校が国立第一小学校、国立小学校が国立第二小学校、谷保中学校が国立中学校となる		5月 揚水機場工事終了				1951	昭和26年
				5月 府中用水で導水開渠およびヒューム管工事完成 8月 府中町外三ヶ村普通水利組合から府中町外一町二ヶ村揚水土地改良区へと組織変更				1952	昭和27年
1954	昭和29年		9月 台風14号により多摩川出水			・多摩川の堤防は土手だった(1-1)まだ蛇籠を生産していた。手間賃120円(1-1) ・11月鳩の湯開業、最初薪を焚く		1954	昭和29年
1957	昭和32年		3~4月 多摩川の異常濁水により給水制限					1957	昭和32年
1958	昭和33年	国立中浄水場ができる					小山商店(豆腐)開業(①)	1958	昭和33年
1959	昭和34年	町営水道がひかれ始める						1959	昭和34年
							濁水時に水争い。佐藤一夫さん「木刀持って、水番に立ってろ」と言われる(2)。渡辺豆腐店開業(②)。	1960	昭和35年
1961	昭和36年	清化園し尿処理場が出来る						1961	昭和36年
1962	昭和37年			7月 府中用水組合発足			多摩川の砂利採取中止(昭和46年頃、2)	1962	昭和37年
				1月 土地改良区、湖南処理場問題で都に調停を依頼 4月 土地改良区内で国立市と府中市が分離				1965	昭和40年
1967	昭和42年	国立町が国立市になる 中央自動車道が通る					茂木豆腐店開業	1967	昭和42年
1970	昭和45年	谷保浄水場が出来る						1970	昭和45年
1974	昭和49年	清化園清掃工場が出来る						1974	昭和49年
1975	昭和50年	国立市の水道が東京都営になる						1975	昭和50年
1985	昭和60年			9月 大瀬干しが復活する				1985	昭和60年
1986	昭和61年	城山公園が出来る						1986	昭和61年
1989	平成元年	北多摩二号下水道終末処理場ができる					四軒在家東部の豆腐店。4代目の兼吉さんが営業していた。(1-22)	1989	平成元年
1991	平成3年	古民家が復元され、公開される						1991	平成3年
1998	平成10年			9月 この年を最後に大瀬干しは行われていない				1998	平成10年





## 調査のまとめ

私たちはこの聞き取り調査を通して、地域社会の水環境やそれにまつわる慣習、文化がどのように形作られてきたのか、それが継承されてきたのかを知ることが出来た。また1980（昭和55）年、国立市民具調査団により始まった聞き書き調査をまとめた「国立の生活誌」の中から水に関する記事を抜き出し、資料とすることにより、すでに多くの習慣や記憶が地域から衰退していることを知った。水がなくては生きていけないことに変わりはない。では昔とどこが変わったのか。

- ① 現在の日本では水をわずかな金銭で簡単に得ることができ、さして労力を要することもない。
- ② 川の水が多目的に使われるようになったため汚染も進み、そのままでは飲める状態になく、魚などの生物も減少した。
- ③ 地面がコンクリートやアスファルトで覆われ、雨水浸透が難しくなった。
- ④ 畑や田んぼ、樹林が減少し、雨水浸透が減少した。
- ⑤ 地中に汚染物質が浸み込み、湧き水や井戸が汚染された。
- ⑥ 生活のスタイルが変化し、農業や漁業などの一次産業が激減した。
- ⑦ 都市化が進み、人口も増え、地域のつながりも希薄となり、慣習を伝えるすべを無くしてしまった。

これだけ変わればもう昔の話を伝えることは不可能なのだろうか。ではまだ残されているものは何かを探して見よう。

- ① 青柳崖線の緑の回廊が存在する。
- ② 立川崖線から青柳崖線にかけて湧き水と、それを集めて流れる矢川が存在する。
- ③ 南部地域には田んぼと畑と府中用水が残っている。
- ④ 井戸が市内に100本以上現存する。
- ⑤ 国立市の上水道には、55%ほどの地下水が含まれ、夏冷たく冬は暖かい美味しい水である。
- ⑥ 南部地域には昔からの住民が住み、天満宮の祭り保存や子ども会など、地域のつながりを濃く残している。
- ⑦ 国立市は8,15平方キロメートルの面積で、人口も7万3千人ほどの比較的小さなまちであり、顔の見える関係を作りやすい。

失ったもの、残っているものを簡単に比べることはできないが、宝物がまだまだたくさん残っていることもわかる。地域の個性を生かしたまちづくりを考えたとき、「環境＝水＝ひとの暮らし」は重要なポイントといえる。

## 調査結果による提案事項

- ① 井戸の復活—小学校ごと、公園ごとに井戸を設置する  
飲み水が蛇口からでるものでなく、自然の生態系の中でこそ得られる貴重なものだという実感をもつようにする。第二小学校にある深井戸は防災だけでなくもっと日常に使えるようにしたい。
- ② 環境教育に地域の水環境の学習を取り入れる  
地域に残る井戸の見学や、ママ下湧水などの湧き水探検を取り入れる。
- ③ 多摩川の復権  
多摩川に関する学習や遊びをもっと取り入れ、川に親しむ機会を増やす。
- ④ 国立の昔からの暮らしを伝える活動推進  
くにたち郷土文化館とも連携し、子どもから大人まで、昔の暮らしの体験の機会を増やす。例えば用水路や川の掃除なども、用水組合などとの連携でイベントとして行う。

## (4) 子ども参加の調査

学校のプール生き物調査

多摩川探検隊



#### (4) 子ども参加の調査

子ども参加の調査活動は、学校のプール生き物調査と多摩川探検隊である。

#### 学校のプール生き物調査ーヤゴ救出作戦ー

##### 調査の目的

小学校のプール開きのための清掃前に、小学校の協力を得て授業の中で児童と共にプール内に生息している ヤゴ（トンボの幼虫）やその他の水生生物の調査と、清掃にともなって下水に流されトンボに羽化できないヤゴの救出を行う。身近なプールに多様な生物の生息を知ること、児童、先生が市内の水環境に関心をもつことができると考える。児童にとっては、捕獲や救出の喜びを得ること、飼育を通しての情操面での育みなど、教室の授業では 学べないことを体験でき教育的効果が大きいと思われる。

##### 調査方法

- ① 事前に、この調査の目的、方法、教育的効果などを学校に説明。
- ② 実施日の前日に水深10cm程度までプールの水を抜く。
- ③ 調査は、タモ網などでプールの底をすくいヤゴやその他の水生生物を捕獲し、容器に入れ観察する。
- ④ 調査終了時に、ヤゴについては種名ごとに数を児童が集計。
- ⑤ 飼育方法について、プリントを作成配布し、説明。
- ⑥ まとめとして、児童と調査の考察を行う。
- ⑦ 捕獲した生物の一部をサンプルとして持ち帰り、同定を行う。

##### 調査結果

2005（平成17）年度

国立市立国立第一小学校から国立第八小学校までの市内全8校と、国立音楽大学附属小学校の計9校の小学校のプールで生き物調査を行うことが出来た。

資料の市民プランに詳しく内容を載せてあるが、赤とんぼ系のヤゴ(アキアカネかコノシメトンボ)がほとんどで、シオカラトンボとギンヤンマのヤゴが見つかったのは嬉しいニュースだった。シオカラトンボのヤゴは7小と音小の2校で、ギンヤンマのヤゴは4小と7小である。特に7小は学校のプールではなかなか見つからないものが両方いたことになる。どこのプールでも見られたのは、コミズムシとユスリカの幼虫、フタバカゲロウの幼虫、アメンボである。6小にはトビケラ(ニンギョウトビケラと思われる)の幼虫がたくさんいたことと、マツモムシが多かったのも特徴といえる。

2006（平成18）年度

この年は市内公立8校の小学校と、小平12小学校を調査した。

例年通りアカトンボ系(アキアカネとコノシメトンボ)のヤゴが多かったが、イトトンボ系のヤゴも少数ながら見つけることが出来た。6小にはやはりニンギョウトビケラの幼虫が多数見つかったが、矢川が校庭の端を通っているという、地理的環境が大きいと思われる。小平12小のプールには、網にあふれるほどたくさんのオタマジャクシがいて、子どもた

ちの歓声を浴びていた。オタマジヤクシはアズマヒキガエルとアマガエルであった。

## 調査のまとめ

ヤゴ救出作戦の意図（下水に流され死んでしまうヤゴを救いトンボに羽化させる）がようやく学校に理解されるようになり、2006年度は、子どもたちと一緒に調査活動が終わった後に、全部の学校がヤゴの飼育を申し出てくれた。教室で飼ったり飼育に自信のある児童は自宅で飼うことにした。

2006年は例年と比べ、ヤゴの大きさが7小以外はすべて小さく若齢で、その他の生物であるアメンボやコミズムシなども数が少なく、これは、春遅くまで気温が低かったこと、プール清掃の日程がいつもより早かったために生育が間に合わなかったと考えられる。

また生き物が多いプールを見ると、周りに木があり、日当たりが良いことが目に付く。落ち葉などがプールに沈み、適当に生き物が住める環境となるようだ。一方、ヤゴなどの生き物が極端に少ないのは8小で、建物の陰に隠れているプールの立地条件によるものと考えられる。ここは例年、他の学校に比べて生き物の種類も数も少ない。

学校のプール、こんな身近なところにヤゴやその他の生物が育っているのを体験を通して知った児童にとって、生物とヒトとの共存を多少とも感じ取れた時間になったと思う。ヤゴを見つけた児童のうれしそうな表情を見ると、大人として、身近に存在する自然に興味を持つ機会をつくることの大切さを感じる。

## 多摩川探検隊—多摩川をもっと知ろう—

### 1. 目的

国立の歴史をたどるときに多摩川の存在は大きい。地形的には古多摩川の名残の河岸段丘が3つ、武蔵野段丘面、立川段丘面、青柳段丘面と現在の多摩川沖積地まで続き、国立市の南、日野市との境に多摩川は位置する。

河口からは約40キロメートルの距離にあり、昔は交通の要であった。漁業も盛んで、鮎漁や鵜飼なども行われていた。多摩川は日常の暮らし、仕事、子どもたちの遊びの場であった。子どもは学校から帰ると魚釣りや水遊びに夢中で、自然との付き合い方もその中で身につけることが出来た。それが近年は川の水も少なく汚染され漁業が成り立たなくなり、いつしか生活の中で川に親しむ機会を失ってきた。

水の懇談会の調査活動が進むにつれ、多摩川をもっと身近なものにするために、特別調査として取り上げることを決めた。親子で参加としたのは、今の子どもたちの親の世代もすでに自然との付き合い方の未経験者が多いことから、単なるイベントで終わらせないために親子で体験することにより、「探検隊」終了後も引き続き川との付き合いを継続できるように考えた。

### 2. 調査体験の方法

(1) 川に入って昔の方法で魚とりの体験をする。投網、あんま釣り、「ど」の仕掛けなど

→多摩川漁業組合国立支部の協力

(2) 川の仕組み、水質、生き物調べなどを体験

NPO多摩川環境研究会・NPO国立市動物調査会の協力

### 3. 調査日

2005 (平成17) 年度	7月16日 (土)	第1回多摩川探検隊
	8月21日 (日)	第2回多摩川探検隊
2006 (平成18) 年度	8月 6日 (日)	第1回多摩川探検隊
	8月20日 (日)	第2回多摩川探検隊
2007 (平成19) 年度	8月26日 (日)	多摩川探検隊

### 4. 調査者

市報の呼びかけに応じた小学3年生以上の親子、2005年度11組、2006年度13組、2007年度は子どもと大人合わせて15名、保護者も兄弟等も複数の参加、水の懇談会、多摩川漁業組合国立支部、NPO多摩川環境研究会、NPO国立市動物調査会

### 5. 調査結果

多摩川探検隊は夏休み単発の事業だが、多摩川漁業協同組合国立支部の協力を得て楽しい事業となっている。今の時代、大人も子どももほとんどの人が多摩川で遊んだ経験を持たない。だからこそ投網や小さな竹ざおに糸をたらし、針には自分で餌を刺して小魚を釣るということが貴重な経験となる。捕った魚を調べたり、水中の石の裏につく生き物を調べたり、魚の名前を調べたりするのは楽しく、遊んで覚えたものは忘れない。

#### 子どもたちが捕獲し確認できた種

2005 (平成17) 年度 7月16日 (土) 第1回多摩川探検隊  
オイカワ・モツゴ・タモロコ・コイなど多数

8月21日 (日) 第2回多摩川探検隊

2006 (平成18) 年度 8月 6日 (日) 第1回多摩川探検隊

オイカワ、タモロコ、モツゴ、コイ、ジュズカケハゼ、ナマズ、スジエビ等7種15個体

8月20日 (日) 第2回多摩川探検隊

オイカワ、コイ、ニゴイ、ギンブナ、ジュズカケハゼ、モツゴの6種12個体

2007 (平成19) 年度 8月26日 (日) 多摩川探検隊

アブラハヤ、オイカワ、シマドジョウ・コイなど





## (5) 雨 水 利 用



## (5) 雨水利用と水循環～概要

人間の身体の6～7割は水分であり、また、毎日の暮らしのなかで何らかの形で常に水とふれ合っていることを考えると、水と暮らしの関わりは大変深いものがある。また、陸上の水分は、もとをたどればすべて雨水といえること、上水道の水ははるか上流から持ってきているのに身近な雨はそのまま下水道に捨てている矛盾を考えるならば、水循環についての基本計画を策定するにあたって、雨水についての認識・理解を深めるテーマは必要不可欠であると考えられ、また、それはできるだけ具体的な形で、かつ生活の中で常に意識されるものとするのが望ましい。そこで、雨を邪魔物扱いせず、生活の中で常にふれあえるものとしたらどうかと考え、雨水利用をとりあげることとした。

### 現状

#### 1. 国立市における降雨量について

国立市泉一丁目にある北多摩2号水再生センターにおける平成14年度～平成18年度の年間降水量の平均は1,578.5mmである。これは年間で1平方メートル当たり約1,600Lの降雨量があり、一坪あたり年間ドラム缶(200L)約26本分の雨を貯めることができることを意味する。仮に10坪の屋根で集水すると実に年間約52立方メートル(52,000L)になり、トイレの水を約5,000回流せることになる。

また平成18年度の流域下水道北多摩二号処理区で考察すると、年間降水量が1,640mmであったことから雨水量は1,284万tになり、そのうち381万tが簡易処理も含め処理されている。処理されない903万tの雨水については、国立市の平均的な流出係数0.6から推測すると、地下浸透量361万t、蒸発散372万tで残りの170万tが合流式下水道である流域下水道北多摩二号幹線等から河川へ流出しているものと思われる。この汚水を含んで流出する雨水が多摩川の水質を悪化する一因となっている。

#### 2. 水循環現状と課題から

降った雨は、大気中の湿度との関係もあるがつねに蒸発し大気中に戻っていく。また、いろいろな形で川に流出し、さらに海に注ぐ。降ってから川に流出したり、海に注ぐ過程において十分に時間をかけられない場合には、下水道の処理能力を超えたり河川の計画流量を上回ることとなり、道路が冠水したり地下室に浸水したり洪水が起きたりすることもあるため、一時的に貯留し地下に浸透させることで下水道の負担軽減や河川流量の平均化を図ることができる(但し、雨水を地中に浸透させることで斜面の安全性が損なわれるおそれがあるなどの区域では注意が必要である)。雨水をいろいろな形で一時的に貯留し、それをゆっくりと流出させることは、上流域での行われているダムでの洪水調整と原理的には同じである。

これを具体化する方法の一つが雨水利用である。墨田区をはじめとしてすでに全国各地でさまざまな取り組みがなされているが、国立市では現在のところ雨水利用については積極的に取り組んでいるとは言えない状況にある。そこでまず、市民レベルで「雨水を貯め

て使ってみる」ことをはじめてみるのは意義深いことであると考えられる。

なお、国立市においても雨水浸透マス設置に対する補助制度が設けられている。これは敷地面積1,000平方メートル未満の個人が所有する既設住宅または併用住宅に設置する家屋の所有者を対象に一基あたり16,000～28,000円が助成されるものであり（助成対象になるのは8基までである）、水の懇談会聞き取り調査の中で、昔はハケのあちこちで多くの湧水が見られたこと、住宅団地の建設に伴って谷保天満宮の湧水量が減少してしまったことなどから国立市は現在よりもはるかに豊かな地下水に恵まれていたことが明らかになっているが、いろいろな形で雨水を地中に戻すことが必要であろう。また、これによって地上の緑がよりいきいきとし、ヒートアイランド現象の軽減にも寄与するものと考えられる。

### 3. くにたち雨水タンク（雨タン）について

#### 「雨タン」実現の経緯

上水道がほぼ100%普及した現在の生活であるが、必ずしも上水道の水質が必要ではない場面も少なからず残されている。その代表的なものが水洗トイレの洗浄水である。これは生活用水の約1/4を占めると言われるが、これ以外にもガーデニングや家庭菜園などの草木にやる水、洗車や窓掃除に使う水、防火用水などがあげられる。たとえば国立市内の町内会に配備されている小型消防ポンプを使った場合、雨タン1本で3～5分程度の放水が可能との報告がある（資料編：北2丁目みどり会写真参照）。また、災害時に生活用水を一時的に貯留しておくという意味でも雨水貯留装置の存在価値は大きい。

しかし、雨水貯留装置を製品として新たに購入しようとする、数万円からの出費が必要となりなかなか最初の一步を踏み出すことができないケースが多い。本来の雨水利用はそのような製品を購入しなくても、雨だれが落ちる場所にバケツをおいたり、雨樋にちょっとした加工を行いポリバケツやカメなどに水を貯めたりという形ではじめることは可能であるが、洗車やガーデニング程度の利用においても必要なときに手軽に雨水を利用できる程度の貯水容量がないと、結局雨水を利用するのが面倒になり、生活の中に雨水利用が根付いていかないのも現実である。

そこで、国立市水の懇談会の活動の中で、一定の容量を持つタンクを安く入手する方法がないかと検討したところ、市内にある食品会社から使用済の食品輸送用タンクを提供していただけることとなった。このタンクは、直径約60cm、高さ約90cm、容量約200Lのプラスチック（ポリプロピレン）製ドラム缶であり、工場レベルでのリユースの頻度に達しないため使用後廃棄されていたものである。なお、食品の輸送に使われていたものであるため安全性についても全く問題がない。また、「雨タン」の愛称は、水の懇談会のなかで検討され命名されたものである。

#### 「雨タン」配布の仕組み

提供されたプラスチック製ドラム缶は国立市役所が引き取り、希望する市民に無料で配布している。配布された状態では、蛇口やオーバーフロー管の取付けなど一切の加工がなされていないため、配布を受けたあと各自のアイデアや工夫を盛り込んで雨水タンクとして利用してもらう。このあたりは、製品として販売されている雨水貯留装置とは大きく異なるが、導入コストをできるだけ抑え雨水利用の敷居を低くすること、利用の方法に応じ

て適切な加工を施せること、また、D. I. Y. を積極的に楽しんでもらうというのを利用する側が受け身にならないという意味では重要なポイントと考えた。配布にあたっては、雨水タンク以外への転用や、他者への転売をしないこと、不要となった際には適切に処分することなど、一定の条件に同意してもらうことが前提となっている（「市民プラン」資料編：「くにたち雨水タンク申込書」参照）。

## 配布状況

配布状況は表1の通りである。2006年～2007年度の2年間でおよそ60個が配布された。市役所東側の自転車置き場にサンプルとして1つ、くにたち福祉会館北側に位置する「自主学校 遊」に一つ、北2丁目みどり会防災倉庫に一つ、その他は個人宅での設置となっている。また、2006年と2007年の10月に開催された「環境フェスタ」においてもPRを兼ねたワークショップを開催し、ワークショップに参加された方（個人）のお宅にも設置されている（資料編：「環境フェスタでの雨タンPR」参照）。

なお、配布当初、一般紙の多摩版のページで紹介されたこともあり（資料編：「朝日新聞多摩版記事～節水訴え庁舎に雨水タンク」参照）、一部タンクは国立市外に配布されているが、現在は市内の方が市役所のサンプルを見て申し込むという流れに落ち着いている。また、このタンクが廃物利用であり定期的にまとまった数が入手できるものではないため、希望してもすぐに雨タンを入手できないケースもあるが、これは仕組みを考えるとやむを得ないものである。

## まとめと提言

- 市民にむけて、雨水利用を呼びかけていくこと。
- くにたち雨水タンク（雨タン）の配布を今後も継続していくこと。
- 雨水利用の先進自治体での実施事例を調査し、雨水タンク等雨水貯留装置設置のための補助金の創設に向けて検討を進めること。
- 市役所や図書館、公民館、公園、公立学校等公共施設敷地内における雨水タンク等雨水貯留装置、地下浸透施設の設置を積極的に進めること。

## 5. おわりに

湧き水を目にし、生活の中で利用し、遊べるという環境は、今の時代にあって稀有のことかもしれない。この事実をもっと多くの市民が共有すれば、雨水浸透の必要性が見えてくるのではないか。地元で取れた野菜や米を、田植えから稲刈りまで体験できる環境を大切にすることで、農業を大切にすまちづくりを考えることができる。

ハケと湧水、用水がつながる地域を見ると、生き物の種類や植物相が市内でもっとも豊かである。多摩川も含めて多様な水環境がそれを支えている。国立市の上水道にはまだ半分以上の地下水が含まれていて、市内の13本の水源井がこの役目を担う。

南部地域を中心として個人宅にも多くの井戸が残る。管の老朽化や建て替えなどで年々数を減らしつつあるが、井戸の存在は防災とも関連して、まちづくりの核となる可能性を秘めている。

このように国立市の状況を見ると、水に恵まれた歴史を持つまちの様子が見えてくる。しかし都市化は年々進み、多摩川に近く自然を最も残している南部地域でも、区画整理や大型開発などで用水の暗渠化が進み、湧き水をもたらず崖線（ハケ）も寸断されてきている。開発と保全のあいだで常に悩ましい選択を迫られる。

私たち市民自らが水の実態を知るための調査を企画し、多くの市民を巻き込みながら調査を重ねてきたのは、ひとえにこの国立で実効性を担保した水循環のあるまちづくりを進めたいという思いからだ。

市民の調査といっても、まったくの素人から専門知識を持った社会人までが含まれる。会議ではみな平等の立場で話し合う。合議制というのはまとめるのに時間を要するが、途中段階を大切にしたい。個人個人の思いもあり、専門家のようにきっちりまとめた調査結果を導き出せない部分もあった。また予算の関係も含め、当初予定したよりも長期間となったことで就職や転勤などもあり、中心となる活動者の減少を余儀なくされた。それも含めて市民調査の今後の課題となるだろう。

市行政との協働はさまざまな問題を抱えながら、何とか思いを同じにするもの同士という立場でつながることが出来た。困難な中をともに活動した仲間たち、協力してくれた地域の方々、楽しく参加してくれた子どもたち、それと辛抱強く裏方を担った担当職員の方々に改めて感謝申し上げます。

これからも調査の中で見つけた宝物を、もっと市民全体に広げるような活動を進めていきたい。

## 調査報告書 資料編

(1) 湧水・用水調査 P 2 ～ P 1 1

湧水・川・用水の時代的変遷の古地図

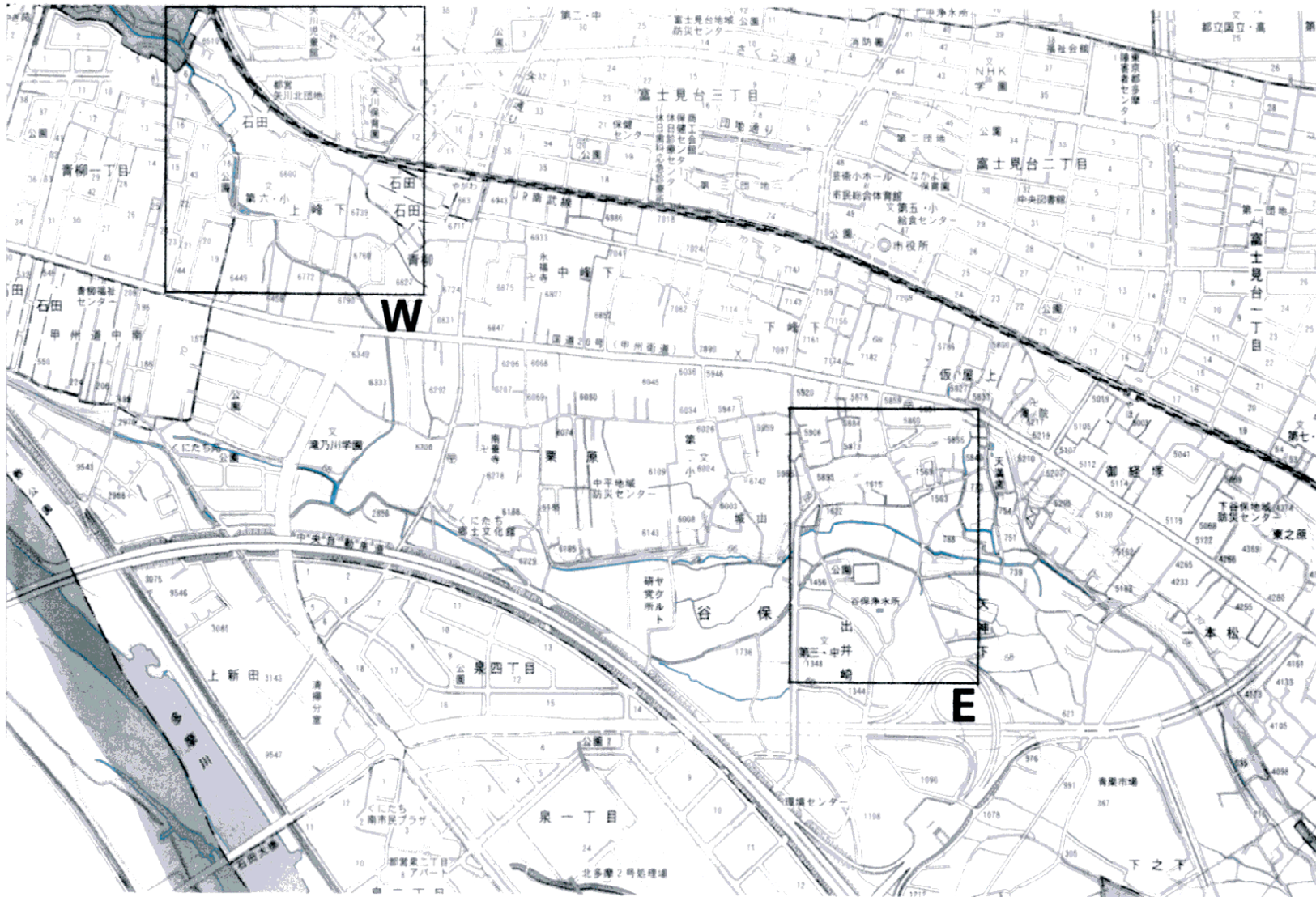
(2) 水に関する暮らし聞き取り調査 P 1 2 ～ P 3 8

『国立の生活誌－古老の語る谷保の暮らし－』Ⅰ～Ⅲよりの抜粋

※各項目の後の数字はP～Pにある聞き取りを行った方の番号に対応する

(3) くにたち水マップ

(4) くにたちの水循環市民プラン



第1図 主たる調査地域 国土地図株式会社「国立市全図」に図示  
 W：西部地域 E：東部地域





第2图 西部 (W) /古地图 (原图複写)

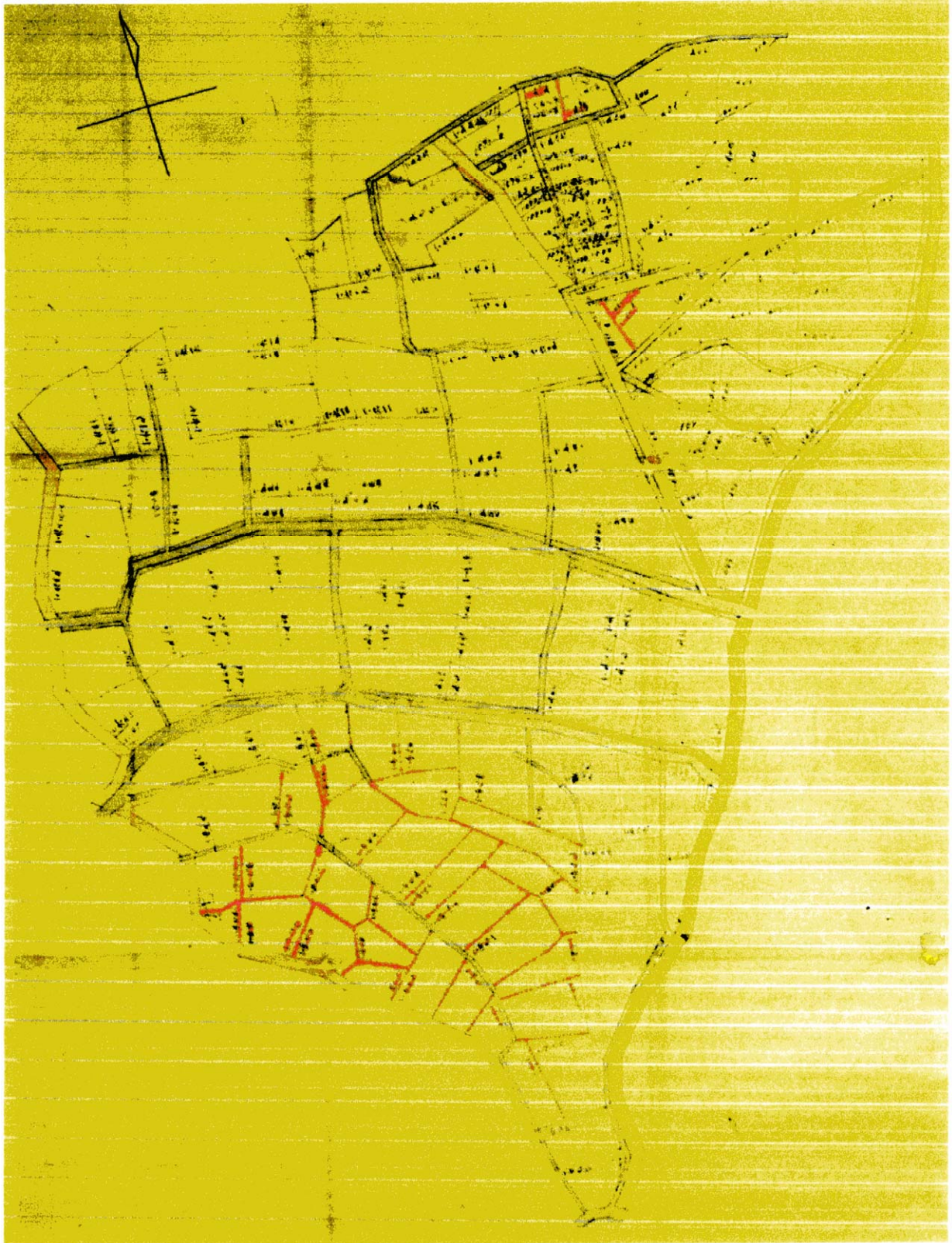






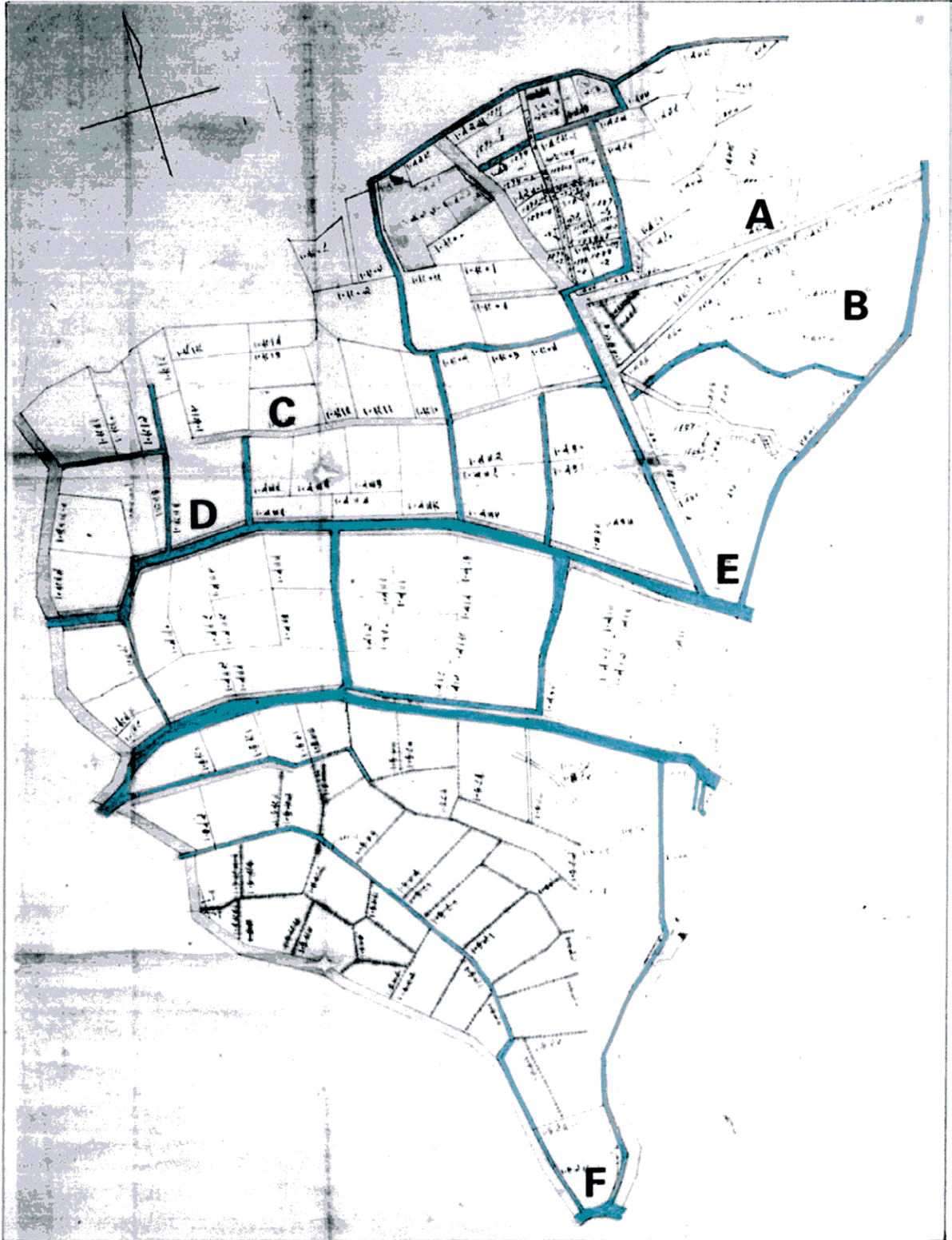
第4図 西部 (W) / 国立市全図(水系図)



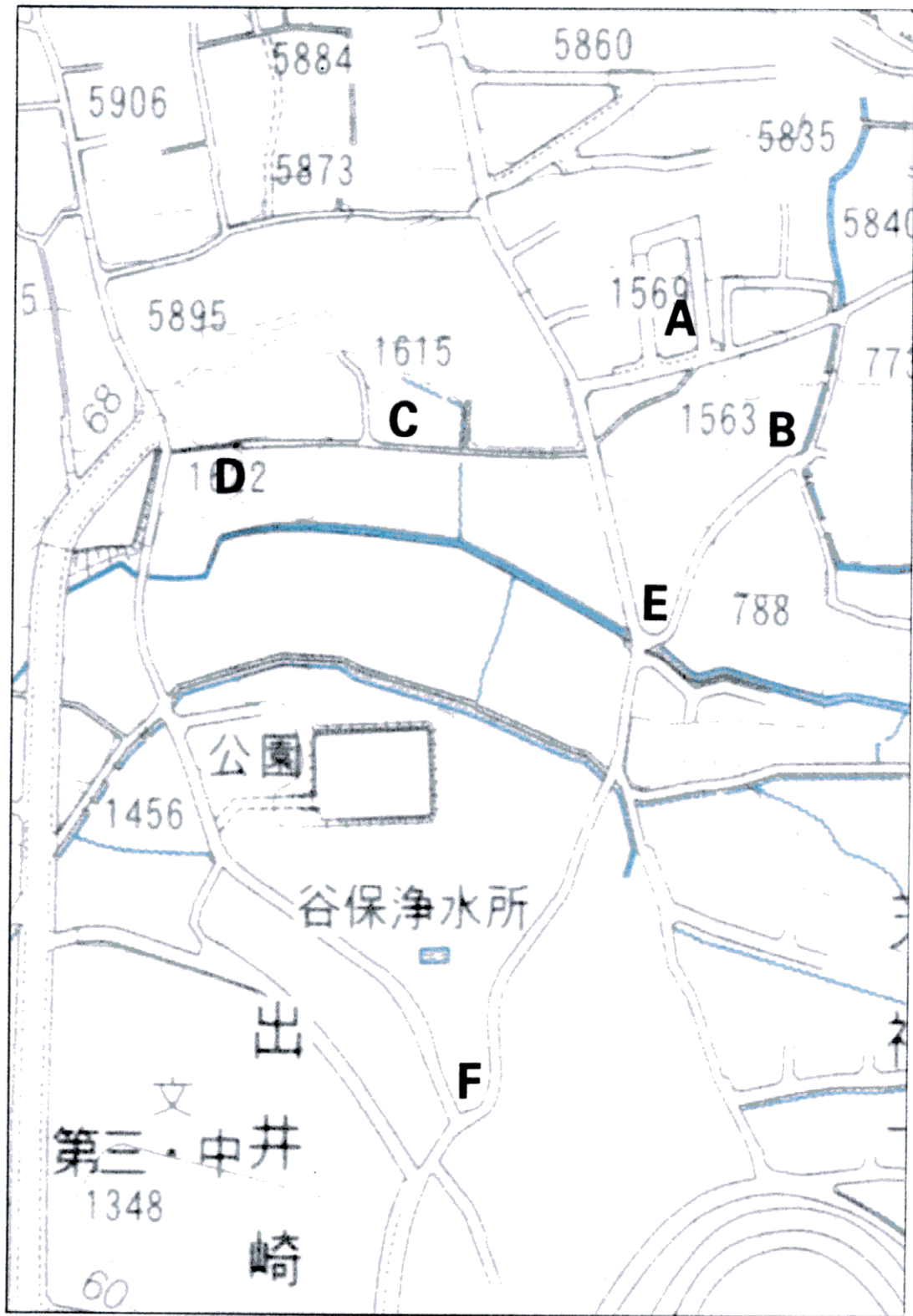


第5図 東部 (E) /古地図(原図複写)





第6図 東部 (E) /古地図(水系図)



第6図 東部 (E) / 国立市全図(水系図)



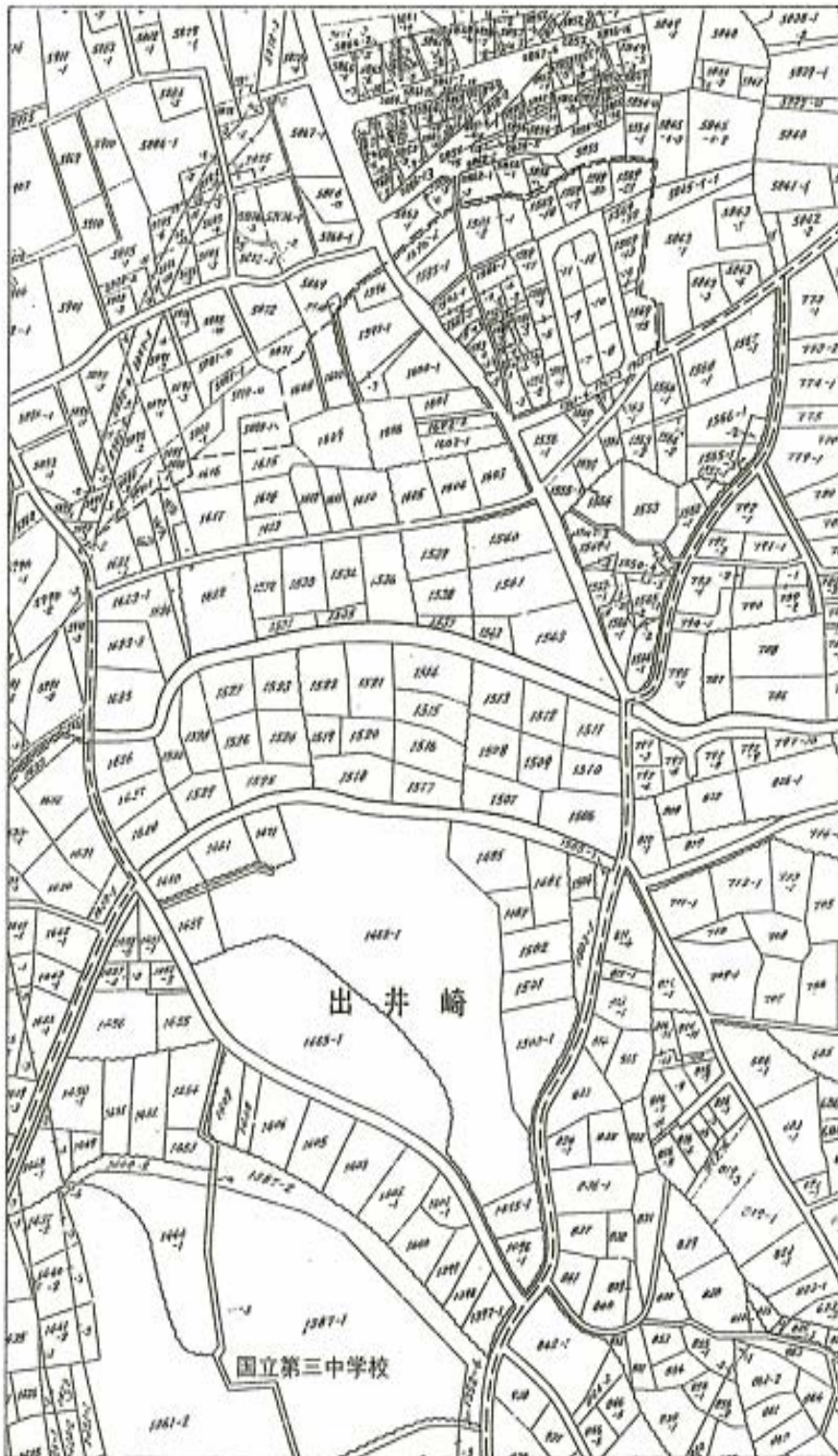


第8圖 參謀本部陸軍部測量圖



第9図 西部 (W) 参考資料





第10図 東部 (E) 参考資料

## (2) 『国立の生活誌—古老の語る谷保の暮らし—』 I～IIIよりの抜粋

※各項目の後の数字はこの資料巻末の聞き取りを行った方の番号に対応する

### I 多摩川

#### 1. 蛇籠

昭和30年頃まで多摩川の堤防は土だったので、護岸も蛇籠でやった。川は堤防の中で、蛇行しているから当たった所は掘れてくるので、そこに松の杭を打って、細い木の枝を丸く蛇籠のように縛って、杭に絡めて沈める。それを沈礁という。その上に水の流れを防ぐために蛇籠を置く。子ども時分多摩川にもぐると護岸の下には土が無い。そだでとめてあるから。青柳じゃ冗談に「風邪引いたら、蛇籠飲め」といった。セキ止めだから。竹の蛇籠のあと、鉄の蛇籠を使った。(I-1)

#### 2. 大水

大水が出たと言え、お地藏様の手前まで水が来てこちらから対岸まで、全部見通しに水が入って草も見えず凄かった。大水で水量杭の土手が切れると言う騒ぎで、切れたら四谷や小野宮の方まで水で流されるというので、半鐘撞いたり、お米が一俵たける大釜でご飯炊いておむすびを、青柳の上講中全部が集まって出した。

それで蛇籠を作ったり用水を作ったりした。それまでは蛇籠を作っていなかった。用水の取り入れ口を作ろうと、父が先頭で三人相談して、東京から岩沢という石屋が泊まって作った。その残りの四角い石が二つ庭にある。今入らなくなったけれど、大水が出たときは水門を開けたり、閉めたりした。用水の水は蛇籠で上げ下げした。だから家の下の河原で冬の間蛇籠を作った。(I-7)

#### 3. 大水

今でも水量杭が中央高速道橋架下あたりに立っている。真四角で目盛りが付いている。昔大雨が降ったときここまで来れば土手ぶちまで水が来ても、何尺何寸出たとか、すぐ水量が見られた。(I-10)

昔多摩川の堤が切れたというのがそのあとは残っていた。田んぼを押し流して段が出来ている。私の住んでいた水車小屋の300メートル位下で五尺位こちらの田んぼと差が付いた。その当時は今のような高い堤防でなかったようだ。私が子どものころは今の高さの堤防だった。その頃河原には家が3軒しかなかった。消防団をやっているときに多摩川の土手いっぱいに出た水が出て、土手の上で見張りをしていたこともあったが怖かった。家にいても多摩川の川瀬の音が聞こえた。近くに聞こえるときは雨が近いし、遠くに聞こえるときはお天気で、それで毎日の天気を知った。(I-10)

#### 4. 流木

洪水のとき、貯めてあった木が流れてきて、ずいぶんこの辺でも拾った。一抱えもある丸太が奥多摩から流れてきて、それで家を建てた人もあった。引取りに来ても、縁の下に隠して俺の家にはないと言ってそれで昔は済んだ。(I-7)

## 5. 増水

トキちゃんという娘さんが府中に買い物に行って、帰りに大雨が降って、渡船場で船に乗ってから流された。どうにか命だけは助かったが2日くらいは夢中で「助けてよ」「助けてよ」と言っていた。水が急に増えるから舟と一緒に下流に流された。こっちが降らなくても上の方で降ると、こちら側の人には知らないから使いに行く。帰ってこられなくなる。運の悪い人は川の真ん中まで来た所で、堰からどっと来ると逃げるも何も出来ない流されてしまって。兵隊さんが一度号令かけて「向こうへ渡れ」と言ったが、水に慣れない人が沈んだ。それをやっとならして助けてもらい、向こうの店のカドヤへ連れて行って寝かせたら、やっとならして息が出来てきたら「銃を、銃を」と言った。その時分、銃には天皇陛下の紋章がついていて命にかかわるから言ったそうだという事を聞いた。  
(I-15)

## 6. 蛇籠

蛇籠は、堰作りや掘割の護岸のために使い、語源はわからないけれど蛇籠を使って雨乞いもした。昔、蛇籠作りの職人をしていた河内由太郎さんの話だと、太さは5尺3寸から5寸、長さは9メートル、7メートル、4メートル半の3種類ということだった。川に堰をするときに、横に沈めて流れを止めるのに9メートルの長いを使い、深さによってじゃ籠を積む高さを決めるので、底の本数が違ってきて、7本並べたり、5本並べたりする。長いじゃ籠に石を入れながら沈め、7本並べると次に6本、5本、4本、3本、2本、1本とピラミッド型に積み上げ、水が溜まると積み上げた蛇籠の負担が大きくなり、崩れるので、巻籠といって、水と同じ流れの方向に横に並べたじゃ籠に帯をかけたのが4メートル半の長さで、これも石を入れながら沈めて補強に使った。梅雨や台風などの大水で堰が流されるとその都度砂利を上げて、堰作りなどの補修作業を9月までの水が必要な間はみなで出てやった。

職人は、用水組合から1年に700本作ってほしいなどと注文が出て作り、河内さんのときは、まるいた竹7、8本で1わと言ったが、それをさいて蛇籠を作ると1本しか出来なかったという。竹は九州や千葉からきたそうで、一日に4、5本作れて、5本出来ればよい方で、1本の手間賃が初めは15円で、だんだん上がって終わりの昭和30年頃は120円だったそう。蛇籠は補修に必要な分まで見込んであるので、秋まで残っているが、1年たつと弱って使えないのを近所の人には知っていて、9月過ぎると足で踏んでボロボロ折って、離して薪に持っていった。(I-1)

## 7. 堤防工事

多摩川の蛇籠は最後に針金になったけれど、竹で編んで作り、隣の遠藤組や久保の佐伯さんや、青柳の丸山の先代が用水工事の入札をやって工事した。堤防が壊れた所の請負は、青柳の「角屋」のマキ(一族)がいて、府中ザンヤに住む土方建設とやった。業者同士お互いに行ったり来たり仲良くしていた。沈礁には、その場所を深くさらって粗朶を沈めて、上にじゃ籠を沈めたが、竹の蛇籠に石を詰める仕事は、網目の小さな穴から大きい石を入れるので、慣れたものでないと出来なかった。石を運ぶだけの仕事の人は別に、1本いくらと手間賃を多く貰っていた。(III-7)

## 8. 万願寺の渡し

日野の万願寺に船宿があった。そこに渡し場があって渡船は有料で当時1銭か2銭くらい。青

柳南側の渡船場までは今の滝乃川の裏道を通って降りていった。

## 9. 万願寺の渡し

多摩川は昔は天井川で水がいっぱいになると凄く、土手が切れたこともあった。今、台座だけが残っているがそこに鉄塔があり、そこまで水がきていて、夫は上を歩いたり腰掛けて遊んだと言うが、今は手が届かなくなっている。大正14年、日野橋が秋にできた年の4月、大水が出ると太くて長い木が流れてきて、みんな止めに行った。それで物置を作った家もあると言う。持主が調べに来たこともあるそうだ。

渡しも日野に寄った深いところだけ船で渡し、河原の浅瀬に途中まで板の渡し場が作ってあった。船はそこまで着いた。(I-16)

## 10. 多摩川の渡し

多摩川の渡しは万願寺、日野、関戸、是政で、今のほうが向こうに行くのに遠回りするようで不便だ。この辺に橋があれば便利。今でも渡船しているところが1か所平間という所だ。川崎の、「おーい渡し」という。

### 11. 渡船場

昔は青柳の沢井左源太さんの所をずーっと入って行くと多摩川の下にどろ船が一〜二艘置いてあり、渡船場でした。日野橋はなかったので拝島の渡しとそこの渡しで川を渡りました。その船を利用して鮎漁をやっていました。立川あたりの芸者はお盆休みに二日間、田中さんの一声でみんな来ていました。そのうちに小さな橋が出来ました。(III-3)

### 12. 船場番

多摩川は水がきれいだ。向こうのあたしの方で、1年ずつ希望の人が船場番をする。そうするとお天気の日はそのからこの杵を干して、それで水のある所で橋をこしらえる。それで川向こうに渡るには1回5円、自転車が7円。そのお金を1年に何回か部落へ貰う。今度雨が降ると多摩川の水は、急に川が狭いからどっと来るから、それで橋が流されるとその人が弁償するようになる。そうすると今度は太鼓を叩いて、それで部落中が寄って「水が出ましたか」と言って、その橋を早く大水が流れてしまわないうちにはずして、高い所に置く。水が引くとまた釘打って、橋の杵作ってまた板を並べて通る。それを船場番といった。春とても景色がよくて、船で針金の太いのを引いてギッコンギッコンと引いて、そのおじさんが渡してくれる。棹で漕いだりして。水がなくなって船も夏になって通れなくなると、橋を渡っていく。渡船場は希望者が月給取りみたいに、一日いくらか番をする。45戸位の部落で、2〜3人が当たる。抽選です。自分で月給みたいに貰い、一部全体に出す。利用者はお賽銭箱みたいな箱に入れる。だから箱の近くにいれば子どもでもおばあさんでも可。一之宮の渡船場、関戸橋、府中の是政、それに日野など。(I-15)

### 13. 筏流し

上流から筏が来て、幾つも丸太を並べてゆわいで、それを曲がったこぼへ行くと、そこへ棹でギュッと曲げると、多摩川だってまっすぐな所ばかりでなくカーブの所へ行くとそれを上手に操

る。四つ位(約20メートル)横20~30センチの木を7本位つなぐ。人は一人だった。先にたつてそれで舵を取る棒を持っている。カーブの時はつかえるから上をずーっと歩いて舵を切る。上手な人は、橋の所へ来るとチョンと橋の上に乗って向こう側に降りる。下手な人はしゃがんで橋の下を通る。(I-15)

#### 14. 井堰

当時でもコンクリートがあって、我々耕作者にすれば堰したいが建設省で一時的なものではないと許可しない。昔は奥多摩湖がなくて用水や何もかも建設省で面倒見てくれたけど、湖が出来るときに水量がなくなるからといってかなりの補償金が出たので、今後は多摩川から水を供給しないようになっていてらしいが、現実には耕作者が水が入らなければ困るから、一時的なものは認めてくれたわけだ。それで毎年毎年、省から許可をもらって、多摩川をいじって水を入れるが、今の時代になったら耕作面積が減って昔ほど水がいらなくなり、実際に必要なのは国立の地域の6割は建物ができたりして、40町歩を潤せばよくなった。今、耕作者にやりなさいといっても人が集まらないし、遠藤組に頼んでブルドーザーとかの機械で砂利を持ってきて、堰して、水路作ってもらえば必要な水は入ってきている。増水すれば切られるけれど、遠藤組に頼めば半日でできてしまう。昔は砂利箕だ何だでいちいち砂利を抱えて外に出した。アリが言うみたいだった。私が兵隊から帰ってきた当時、アメリカさんが立川の飛行場作るために、日野橋の所に橋より高く砂利積み上げて、ダンプだなんてすごいトラックで取り上げて行く。我々のほうは、箕をもってアリまちだ。何百人と出て堀割して。まったく対照的であの時の写真があればと思う。(I-1)

#### 15. 筏

多摩川の筏は水が沢山ある夏が多く来ましたが、冬でも昔は水が多かったので結構見ました。長さ五間くらいの大きな丸太を幅一間くらいの筏に組んでそれを三つほどつないで一人で漕いでできました。十五間あるのを上手に操って流していました。流れの速いところでは筏の先頭と後ろがぶれるので、船頭は竿を持って上へ行ったり下へ行ったりして駆け回って、筏が真っ直ぐ流れるように操作していました。船頭が筏の上で竿を突っ張って水に流れていくのどかな様子は、絵みたいでいいものでした。その頃は、多摩川も天井川で水量も多かったのでよく氾濫しました。砂利を取った後は一丈も水位が下がりめったなことでは氾濫しなくなりました。子どもの頃、日野橋の下の高圧線の鉄塔の根固めの台に腰をかけると足が川底の砂利に着くほどでしたが今では手が届かない高さになっています。東京のコンクリートの建物は多摩川の砂利で出来たようなものです。取り過ぎで川の底が抜けるといって十年くらい前にやめになりました。佐藤彦一

#### 16. 川開き

多摩川の川開きは6月1日で、12時には花火が上がった。この日は朝2時、3時頃から家の前を人が通っていく、アユのいそうな場所を見つけて土手で時間の来るのを待っている。(I-10)

#### 17. 川の境 川開き

谷保村の区域が決まっていた。立川との境は、高幡不動の木と丸山さん(青柳の沢井酒店)の下

の土手の西端とを結んで見通しをつけていた。また川幅の中にも日野と谷保の区切りがある。水死体などがあつた時に、こっちは俺の領分でないとか、そっちはお前たちの領分だとかで争つたらしい。魚にはそんなことはないから、網を打つときこの辺はまだ大丈夫といって打つた。府中との境はよくわからないが、三家前の通りに浅瀬があつて、そこと連光寺とを目標にして見通しをつけていたらしい。そこを少し上がると浅瀬があり、投網をぶちに行つても大丈夫だといつてよく行つた。そこから先は四ツ谷(府中)分だといつて行かなかつた。川開きには百人位寄つた。(I-10)

## II 多摩川の鮎漁

### 1. 鶺鴒飼

鶺鴒飼をやつたのは堀江さんのお父さん。立川の丸芝という所に出した。丸藤へ東京者が来て船を出して遊んだ。そこは根川と中つ川と多摩川と3つに分かれていて、中つ川が清水ですごくきれいで私の胸まであつて、小さいとき夜によく泳ぎに行つた。鮎が何ぼでもいて、十五、六のとき流し針というので捕つた。中つ川へ屋形船にお客と芸者が乗つて、鮎を網でよせて鶺鴒に捕らせたり、芸者なんか川に入つて鮎を捕まえるのが面白い。鮎を料理したり太鼓たたいて踊つたりした。(I-7)

### 2. 鶺鴒飼と鮎漁

うちのおばあさんは日野の新井という所に住んでいて、子どもの頃浅川に野生の鶺鴒が群れを成してゐた。それが来るとみんな子どもが箆を持って川の縁へ飛んで行く。野生の鶺鴒がパーッと飛び込むと鮎がびっくりして陸へ飛び上がる。それをみんな箆を持って取りに行つた。鶺鴒飼は青柳の堀江奨一さんの親父さんがやつたと言ふことだ。見せるためでなく魚を捕るためにやつた。だいたい立川の丸芝という料理屋さんがあつて、あそこへみんな持つていった。昔の日野の渡船場の過度にあつた。昔は客が来たのに鮎がないと花火が上がつて漁師が鮎を持つていったものだ。花火が上がると、鮎がなくなつたから持つてきてくれといふことだつた。

その当時は、鮎が臭くなくてモジというのでよく捕つた。中村さんがモジを作つてやつた。お祭りのお飾りみたいに藁がビラビラついていて、それを川へズーッと張る。そこへ普通の「ど」のあごがないのを仕掛けて、鮎は入つたら出ることを知らないから、藁(モジ)がズーッと張つてあつて邪魔になるからそこは鮎が通らないで、藁のない「ど」の中へ頭突っ込んでしまふ。大きなビキを腰につけて、ド(あごのない)に肘から手を入れて取ると傷がつかない。一杯入つていても前へ前へと進むことしか知らないから難なく取れる。その他に水中眼鏡付けてもぐつて、上にかぎの針がついてるので鮎が泳いでいるのをひつかく。引つかくと鮎がすうっと上がってくる。そういう捕り方もあつた。傷がつくのでいくらか安かつた。あとは釣りだが速く行かないと場所がなくなつた。(I-14)

### 3. 魚とり

親父は魚とりが道楽でよせ網もやつた。おい網(しらた・白木綿製)やさし網(投網)と、絹網(ハリアミ)を持つていた。二尺位から五尺、何段も合つて、網の長さが5間程広がつた。深い所に六尺位のさし網を張り、おい網で深い所の魚を追い出し、おい網がさし網の所まで来たら止まり、その内側に目の細かい網を入れ、浅いところに追い出し、どちらに寄せるとたくさん魚が



取れるかと親父はよく知っていた。川の中の苔を見ると魚がどちらに遊びに出ているかが分かった。ある程度魚を寄せたらそこへ投網を打った。背負い籠に半分位取れた。この魚をよって(選別)アユとか、良い魚は人にくれて、かすの魚は溝の中に入れて腐らせる。その腐った魚を梨の木の肥料にした。このよせ網をするときは、若い衆を連れて大八車に網など道具を乗せていった。親父は魚の心が読めた人だったと思う。おい網やはり網など、絹糸を買ってきて自分で作っていた。投網も全部絹糸だった。そうでないと打って沈み具合がよくない。

私は若い衆になってから一橋大学のかいもり先生とよく行った。仕事を終えて毎晩六時頃から出かけ、投網をぶって12時か1時頃に帰る。投網は魚をめがけて手を広げてぶてばいい。サーーと沈むとすぐ引っ張る。2人でぶつと一番いい。一人がパツとぶつたら、もう一人がすぐこっち側でぶつと驚いて逃げる魚を捕る。それを両方で交互に繰り返してやる。網を上げるとアユのいい匂いがブンとくるからかかっているのが分かる。一夜とって10匹から15匹捕ればいいほうだ。アユ籠1枚に15・6匹位並べられる。2枚になると売りに行く。立川のシナそばやの福来軒に持っていくと喜んで買ってくれた。また二中(立川高校)の南西に川魚の買い入れ所があって、いつ持って行っても喜んで買ってくれた。

川魚はちとおかしな匂いがするから捕るだけとって食べなかった。ドジョウは朝のおみおつけの中に入れて食った。アユは前に進むが後戻りが出来ない。小さいドウでも入ると出られない。ひれが使えないからだ、前に進む力は格別だ。(I-10)

#### 4. 魚とり

多摩川にもよく釣りに行った。当時の多摩川は非常にきれいな水の流れて、魚は多く、アイ(鮎)、ハヤ、フナ、鯉。ナマズ、ゲバチ、ウナギ、オコゼ、スイッココなどで、スイッココは川の底の方において、腹の中央に吸盤がある魚だ。学校から帰ると毎日のように多摩川に通った。夏は水浴びをしたり、魚捕りをしたり。釣りはもちろんだが、石ぶっつけや手づかみでも捕れた。一番印象に残っているのは、高等1年生の時、15センチぐらいのアイが魚籠に入りきれないほど捕れた時だ。釣りは朝早くか、夕方がよく釣れたので、夕方など夢中になって遅くなってしまい迎えを受けたことも何回かあった。多摩川は今でも非常に懐かしい。私たちが育ててくれた流れだから。(III-12)

#### 5. 船で遊ぶ

田中さん(久保の田中銀春)のおじいさんは警察も一目おくらい貫禄のある人で谷保中全部の消防団長で一番長くやっていました。その人が八月一日、二日の午後にかけて多摩川に芸者さんを乗せた屋形船を浮かべみんなを呼んで、網で鮎を捕って焼いて食って飲んで鮎漁を盛大にやっていました。(III-3)

#### 6. 屋台の店

清化園の下あたり、青柳の沢井左源太さんの横を通った所の堤防の川っぶちに蛇籠を積み、堰で水たまりのようにしてそこに屋形船を二艘も三艘も浮かべて川遊びをしていました。お盆だからみんなで見に行きました。堤防の下の所に露天商がよしず張りの屋台を出しておでんやかき氷などいろんなものを売っていました。四軒在家に金ちゃん親分がいて、かき氷を専門にやっていた。

(III-3)

## 7. 大震災のとき

関東大震災のときこの辺は大体の家が傾いた。風呂の水が15センチ位しか残っていなかった。井戸水も1週間位真っ白だった。あの時の凄さは今防災訓練なんかしているが想像もつかないだろう。鶏は足が利かなくなっってバサバサコケコッコで動けない。スズメなんか木からみんな地面に下りたということだ。魚も泳げないそうで、青柳の人が魚とりに多摩川に行っていたが、鮎がみんなヒョロヒョロやたら流れてきて、みんな手で取れたという話だ。それこそ背負いきれないほど捕ってきたけれど、売るところではなかったそうだ。

## 8. 地震

正月の15日の朝、すごく大きな震度5位の地震があった。家がグラグラになったからみんな外に出た。その前の14日の暮れに暖かく、弟と2人で多摩川の土手の向こう側へ水がチョロチョロ流れていて、特に丸く深くなっている所がある。サクラエビを水の流れに従って掬うが、沢山取れるとき半日位遊ぶと2升位捕れる。そこへ弟と行ったら水が引いている。あの「ナマズがさたする」という、今考えるとそれだと思ふ。多摩川のハヤが跳ねると雨が降る、カエルが鳴くと雨が降る。小鳥（ホオジロ）が鳴く（ミノカサ欲しいーと鳴く）と雨が降る、ナマズが暴れると地震が起きるなど。みんな水が下へ引いてそのエビだけが水と水のちよつとの石の間に跳ねていたのをそれを掬って、あれで1升位とつただろう。あくる日に行ったらもう水が元通りに流れていた。（I-15）

### III 井戸

#### 1. 車井戸

車井戸があつて、あれにざるをつけて紐をつけて中途まで下げておけば、冷蔵庫と同じでちつとも悪くならない。家の井戸なんか2尺のまる（コンクリートの管）が20本入っている。今の井戸は牛車引いて働いて残した金で掘った井戸だから。（I-4）

#### 2. ありがたい井戸

井戸はみんな外にあつた。ポンプなりつるべなりで汲む。今のようにお勝手の中に水道とはいかない。家の周り半分くらい回って下げて持ってくる。風呂の水も炊事の水もそこから汲む。洗濯も外でやる。手で洗うからヒビが切れる。昔は水仕事をしてても手を拭く暇もなかつた。冷たい水で仕事したり、外からバケツ提げて水運んだりする。井戸水のほうが手が荒れるようだ。その井戸の出が何だか悪くなつてお勝手のそばに掘り直した。それもつぶして水道にした。昔このあたりには掘りぬき井戸があつて水が豊富に流れていた。甲州街道の両側にずっと流れていたのを農家の人が野菜を洗っていた。きれいな水でそんなに深い流れではなかつた。

昔は井戸のない家も多かつたので水汲みは女の仕事だつた。天秤かついで風呂の水を汲んだりなかなか大変だつた。ハケの下から担ぎ上げている家もあつた。そこは何年かして上に井戸を掘つたが、そこのお嫁さんが着物を買つてもらふより何を買つてもらふより井戸はありがたいといつたそうだ。滝の院のあの辺に住んでいる人半分くらいはみんなお天神様の方から道路を渡つて水を汲んだものだ。水は女の人がかついだ。お米はあの辺でとぐし、野菜は洗うし、本当に使う水だけを汲み上げた。雨が降りそうになると急いでみんな出てお米を洗う。降ると水がにごるか



ら。

昔は寄合井戸みたいなものがあった。みんなつるべ井戸で井戸替えとか、縄をよるとかはみんなですべてでやった。この辺はみんな井戸があった。隣ははねつるべの井戸だったが、うちはポンプだったので縄よりをすることはなかった。  
(I-5)

### 3. 共同井戸

北側の家にある3軒ぐらいの共同井戸から水汲みをするのは大変な仕事だった。下谷保の井戸は深くてつるべで汲むのは難儀だ。1月20日のえべす講で井戸縄よりをやった。その日は井戸を使っている家だけでみんな藁で手縄をなつた。3人か4人で、つかまり手とより手といて、最初によつた縄をさらによつて、3本より合わせる。その後えべす講になって飲んでた。楽しみだったんじゃないか。高等2年のとき、自分の家に井戸が掘れて、とても楽になったけれど、それでも風呂桶に汲み上げるのはまだまだ大変な仕事。井戸掘りは、三田仙吉さんと、石神の佐伯さんだった。共同井戸は石組みで、ユキノシタ等が生えていた。車井戸の場合、車の綱に砂利籠をつけて、下に人が入って籠を下ろし、さらつた砂利を入れて上に上げて、ザーとあけると同時に交代つ籠を下ろしてさらえていた。井戸の掘り場所は、両親が信心者にみてもらって、ここならいいという

方角で家の西北の角、道路沿いを掘ったら水が出た。井戸掘りの親方は、佐伯電業社のおじいさんで、私より2歳年上の三田仙吉さんは下弟子で、井戸の中の親方が「やれやー」というと、「はあい」といって、外でいろいろと下働きをやっていた。当時下谷保では、井戸にコンクリの土管を入れるのが流行で、21入っていてこれだけ入れるのは大金だったと思う。井戸は深かったけれど、水口が良くてどんどん水が出て、実家にいる間は井戸浚えはやらず、今は蓋してある。井戸が出来たとき、水神様の祭りをしてお祝いして、掘ってくれた人にお祝儀出したり、良かったなあと飲んだり騒いだりしたことは覚えている。(I-9)

### 4. 自分で掘った井戸

井戸掘りしていたこともあったが、井戸の中に入ってする人は少なかった。この庭にある井戸はあとでポンプに直したけれど、この間調べに来て地震なんかのいざというときに使うようにと言っていた。自分で掘っているからすごく丁寧に掘っている。コンクリーを入れて叩き上げているので崩れない。松の木を下に組んで入れてその上にマル(コンクリート製の土管)を入れて叩き上げた。  
(I-12)

### 5. 井戸崩れ

学校の入り口に住んでいたが、学校の井戸崩れ(1小の井戸が崩れて子どもたちが死亡した事故)があって、「何しろ谷保中の人がおいおい泣いて大変だった」と親から聞いた。突き飛ばされた人は生きていたという。子どもはお汁粉食べてのどが渇いて水飲みに井戸に行ったんだらうと母親が言っていた。「号外でちんちん大騒ぎで終わるか終わらないうちに数え歌が出来た」明治38年位の1月の9日だった。(I-13)

### 6. 井戸崩れ

私が6歳のときの1月11日昼頃のこと。遊んでいるとみんなが裸足で泣きながら下駄を持って学校から駆けてくる。「なんだい」と聞いたら「学校の井戸が崩れて大変だというので、村では半鐘をついて大騒ぎになった。青柳の方の人は馬に乗って飛んできた。うちでは兄が一年生だったので「もしや」とびっくりして家のものが学校へ飛んでいった。その時3人の子どもが亡くなった。青柳と石神と坂上の人だった。お弔いが大変だった。その時追悼歌ができた。

## 7. 井戸崩れ

1小の井戸崩れの時は私が5つだった。だからあまり覚えていない。外の騒ぎは覚えている。北風が吹いて寒かった。近所のおばさんが飛んできて「ここじゃあ子どもどうしたよ」って、その時私のおじさんが2人学校へ行っていたから心配してきてくれた。「おれんとこじゃ一人は風引いて休んで、一人は学校から帰ってるよ」といったら、「それじゃあよかったよ」「なんだよ」「学校で井戸が崩れて村中が大変だよ」その記憶だけはある。その後数え唄ができた。よくいう瓦版、新聞屋さんのハシリで、その頃あった事件なんかをそうして村中に唄って歩いた。(I-14)

## 8. 井戸崩れ

朝礼の鐘がジャンジャンと鳴ると、生徒が朝、校庭に集まった。それと同時に水飲みに行った子どもが4人いた。その時にガーッと崩れて中へ落ちた。谷保の第一小学校だ。その自分は(小学校は)一つしかない。汲み井戸でポンプはなかった。個人個人に井戸があった。ここいらは意外と浅いから。湧き水もあった。(I-22)

## 9. 井戸崩れ

井戸崩れは私たちよりずっと前だった。私のお袋の話によると、私の家も井戸が無かったので飲み水を学校の井戸へ貰いに行っていたけれど、その朝も水汲みに行ったら何かゴシャゴシャと音がした。ニワトリでも落ちたかなと思ったそうだが、そのまま何気なく帰ってきた。そうしたら学校が始まって1時間位してから鐘がなって次の時間が始まった。みんながぞろぞろ教室に入ったらしいが、その井戸崩れにあった子どもたちはなかなか威張っていたらしく、授業の始まる前に水を飲んでから教室に入るんだと言うわけで、「マキ屋」のリュウちゃんという人なんかおとなしいから、水を飲むのに「テメエ後になれ」とはじき出されたからそれで助かったと、お袋がよく言っていた。(III-10)

## 10. 学校の井戸

小学校の井戸は一箇所車井戸があった。そのころ車井戸は上等の方で、各家庭の井戸ははねつるべか、竿での引き上げだった。その車井戸も掃除のときなんか高等科の生徒が先に使って、その後でないと下級生は使わせてもらえなかった。(III-12)

## 11. 風呂の水汲み

風呂の水汲みは井戸よりつるべで汲んで外から廻って手桶を両手に提げて6回、だから12杯入れるといっぱいになった。手桶はたくさん水が入る。(I-13)

## 12. つるべ井戸

庭のつるべ井戸は「水口」がいいといって、用心水において置いてもらいたいと埋めさせない。うちの井戸は下がナメだからそれこそ崩れるということはない。おじさんたちが下まで入って、それでおじいさんが作ったコンクリを井戸屋さんに頼んで中に組んである。うちの水は、甲州街道を通る人が暑い暑いとそこで涼んで、水を貰いに来てよく飲んだ。井戸が深い、30尺もあるから水が甘味を持っている。(I-17)

### 13. 元旦と井戸

昔は当主と二十歳以上になった長男が、年男といって、早朝に起きて井戸から初水(若水)を新しいひしゃくでくみ、洗面して風呂を燃やしつける。雑煮を食べ終わる頃、風呂がわく。入浴後手のあいた人から、全員天神様にお参りした。

### 14. 共同井戸

下谷保は、天神坂の所から土地が上がって(高くなって)いるから井戸が深く、四十五尺も掘らないと水が出ませんでした。それもナメ(赤土)の高い所に当たると、一丈も一丈五尺もナメを抜いて、その下のデッカシナイ(出合わない)と水が出なかった。それに井戸の回りも、多摩川の川原から多摩川石を運んできて組み上げるので、手間がかかり、井戸掘るか、蔵建てるかと言われるくらい大変なことでした。うちの隣の井上さんとその間に、境井戸というのがあって、うちや、道向こうの北島奥五郎さんや、七、八軒の人が利用していました。うちでは父の代に、多摩川石で組んだつるべ井戸を掘りました。一月二十日の井戸綱燃りも、境井戸利用の人達とも一緒に集まって綱を燃って、エベス講の飲み講になったと話は聞いたが、やったことはない。三年に一度くらいの井戸さらえは八人くらいで一緒に仕事をしました。常に水が流れているので砂利や砂がたまり、水が浅くなります。夏から秋にかけて水は多いが春先になると水位が下がって、皆で使うと、大勢だから水が濁ってくるのでさらうというわけです。千丑や坂下の井戸は一丈から六、七尺の井戸で一軒の家でさらえたが、四十五尺もある井戸は井戸屋さんといって商売の人に中に入ってもらった。十人もかかってゲンバ桶を井戸綱の三本綱よりの太いのにかけて上げたり下げたりしてかいました。ゲンバ桶というのは直径一尺二寸、高さ一尺五寸で両方に取っ手がついている井戸さらえ用の桶で取っての穴に丈夫なシュロ縄をつけて井戸綱にかけて井戸底へ下ろして中の砂利や砂を入れて一杯ずつ上にあげました。井戸掘りとさき山(きこり)は倍手間(二倍の手間賃)で、お神酒はつきものでした。危険な仕事で度胸のある人でないと出来ません。深い井戸に一人で入るのは怖くて出来なかったので手間賃が高かったのです。地下には水道というのがあってそこに井戸が掘り当たると幸せでした。下のはじの関重吉さんの井戸は四十五尺もの深さなのにトットと波を立てて流れるのが上から見えていたので、共同井戸でもさらえなくてもよかったです。巽(南東)井戸に、乾(北)便所といわれていたので井戸についても方向を重んじてよい方角を見てもらって掘りました。関倉助さんの家も佐藤利雄さんの家の井戸に水汲みに行っていたが、明治四十一年、倉助さんが生まれた年に、うち井戸を掘ったので私は父親と井戸掘りを手伝いました。八王子の市場に青物を売りに行く親父のカルコの後押しをし、日野坂を押し上げて、帰って来るときに多摩川で横に細長い大石を二つ拾ってきました。その長い石を穴の横に押し込んで石がけして組み上げるという大変な手間をかけました。何回か中に入り石垣に足をかけて踏ん張り、綱で上に上がるときもしっかりしていて、ガクンともしませんでした。大震災のとき、方々で井戸が崩れたが、井戸石を横に奥行き深く組んだ関倉助さんやうちの井戸

は崩れませんでした。その頃、遠藤武夫さんのお父さんが道路や流しなどのコンクリ仕事を一切やっていて、コンクリのマルも作っていました。直径二尺五寸、丈二尺の円筒管でマルと呼んでいました。マルを使うと多摩川石を組むより楽で仕事が簡単になったのであちこちで井戸が掘れるようになりました。関倉助さんの井戸も、井戸石をはずすのも大変なので石の内側にマルが入っていて二重になっているので丈夫です。大地震にも耐えたので今も蓋をして手押しポンプをつけて大事にしています。時々市の人が、地震時の飲料用水の検査に井戸水を汲みに来ています。佐藤彦一

### 15. 掘りぬき井戸

天神様の参道の石段の下の南側の所に掘りぬき井戸があった。鉄管で地下に何十尺、何百尺と掘って、水の層へぶっ突くと、水が噴出す。石の下のほうから滝のようにしぶきを散らしながら水が落ちていて、近くに行くと夏なんかスーッと涼しかった。昔は注連なんか張っていた。それももう何年か前から出なくなって、場所だけが残っている。天満宮の梅林の東端にも掘り抜き井戸があって、近所の人たちの飲み水や洗濯水で大助かりした。だから、掘り抜き井戸はこの谷保にも、お大尽の家なんかは掘ってあった。10軒位はあった。夏には冷たい水で冬には温かい水が出る。掘る人はよそから来たみたいだ。2、3人で小屋を作って泊り込みで掘っていた。(III-9)

### 16. 結婚で掘った井戸

南武線の南側にいた時の井戸は、コンクリで一番下からたたき上げたすごく頑丈な井戸で、そのころとしては珍しかった。そういう井戸だから今でもちゃんと残っている。使ってないらしいが。この井戸が掘れる前までは、神奈川に嫁に行ったイセというお婆さんが、毎日使う水を天神様の清水から担いで運んだ。天秤棒を肩に担いで、前後に手桶をつけて。坂下の家々では、家に井戸が無くてあちこちから清水が出ていたから不自由はしなかったが、道路の北側の人は、南側の坂の下から担ぎ上げなければならなかったから、女衆はまあ大変だった。井戸を掘るには大金もかかるし。昭和6年にここへ引っ越してきた当時は、うちはまだ井戸を掘る余裕は無かったから、隣の水を貰っていた。自然に湧いてくるものだから気持ちよく遣わしてもらい助かった。

カアちゃんがここに嫁入りすることになって、井戸が無くっちゃあということになった。今、この家の南側にある井戸を父親と二人で掘った。その頃の人足というのは、井戸掘りの手伝いみたいなことをやっていて、お金とって家の色々な経費に使うとかして私もその手伝いで多少の経験もあったし、人足頼めばお金がかかるから、二人で掘った。大変だった。ぼちぼち掘ってひとりには上にいて、一人は中で砂利鎌で掻いて少しずつ上の人にあげてもらう。砂利は重いから沢山は入れ物の中に入れられないから。最初の頃はひとつのはしごで上がり下がりしたが、深くなるほどはしごをつないで、ぶら下げておいてそれで出入りした。二人で5日か6日ぐらいかかって、うまく水脈に当たればと祈るような気持ちで35尺位掘ったが、水が出たときには嬉しかった。(井戸の中には崩れないように枠を下から入れないといけませんが、それが入っていないから幾度か崩れた。下のほうが。(だから後で枠を入れた)

当時としては井戸はなかなか掘れない、お金がかかるから。尊い井戸なんだこの井戸は。よく冬になると井戸水が上がってしまい、リヤカーへ四斗樽をつけて天神様の清水へ水汲みにいくうちがあるが、うちのは水口がいいせいだか上がらずにしまった。今でも近くに行くと水が流れる

音が聞こえる。蓋を取ってみると水が光って見える。震災とか大きな天災で水道が止まってしまっていて出ない場合、いざと言うときにはこういう井戸も使用できるわけだ。黴菌があまり無ければ。ポンプでもつけて使っていれば、上がらずにいつもきれいな水が使える。始終使った方がいい水が出るらしい。電機でモーターを使って汲み上げて、水道のように配管して蛇口をひねると水が出て、市の水道が出来るまではこうして使っていたこともあるのだ。

昔は井戸を掘るにも、住んでいる家の人の方角とか便利さをいろいろ見て、そこへ掘るわけだ。家を中心にして方位を見て、辰巳(東南)の方向が井戸にはいいと年寄りに言われた。だからこの土地に来た時の最初の家から見て、辰巳の方向でこの辺がいいということで掘った。(Ⅲ-9)

### 17. 今でも井戸

国立駅が出来たのは大正十五年四月一日でした。今の駅のガードの右側に通り道があったがそこを閉めて新しい今のガードの道が出来ました。そのあたりの雑木林の所に清水が湧いてうちの屋敷のところまで通っていました。この辺は水が多く、うちは今でも井戸水を使っていますが井戸は枯れません。水道は一口だけです。(Ⅲ-2)

### 18. 掘り抜きの水

昔は甲州街道に堀があり、長屋さんの掘り抜きから清水のような水が流れていて堀のところが少し広くなって段があり、そこに洗い場があった。家につるべ井戸はありましたが掘り抜きの水の方がきれいで便利だったのでみんな使っていた。橋場の川(矢川)へ流れ込んでいた。昭和十年ころまでは使っていましたが掘り抜きの水もだんだん出なくなりました。(Ⅲ-3)

### 19. 風呂の水汲み

毎日の家の手伝いは風呂へ掘り抜きの水を汲むことでした。大きいバケツでは汲めないので小さなバケツを両手にさげて風呂の釜の上まで何回も運びました。通り(甲州街道)を横切ってピチャンコピチャンコ音を立てながら何回も何回も往復しなければならず大変な仕事でした。堀は消防小屋のあたりにありました。(Ⅲ-3)

### 20. 野天風呂

昔は家の中に風呂場があった。私が6歳8ヶ月の時に、庭先の前の井戸の近くに風呂場を移転したけれど、野天風呂だった。風呂桶に水を入れるのだが、つるべ井戸から手桶に水を汲んで、両手に下げて背伸びして入れたので大変だった。なにしろ1、2年生の頃だったから、何回行ったり来たりした事か。にわか雨が降ると野天風呂も大変。番傘を風呂桶の上に立てて体を洗うどころか汗を流した。次の番に入るようにするには忙しい。大粒の雨は音を立てて降りだし、たちまちゴロゴロピシャー。もう風呂に入るどころで無かった。にわか雨はこぼすように降りだし。庭はたちまち川のように流れてまたピカッと光ってあたり一面明るく真昼のようだった。雨が通り過ぎると薪をたいて残った人が風呂に入ったものだ。(Ⅲ-8)

### 21. 風呂

小学校も5、6年生になると家の手伝いをさせられた。そのころ家の井戸ははねつるべで沼崎静雄さんと共同だったので、両屋敷の角にあったから子どもには遠く、木の手桶を提げて運ぶ風呂汲みは大変だった。(Ⅲ-12)

## 22. ハケ下

甲州街道の南側の遠藤仁さんの井戸になると、黒土一・五尺、赤土一尺、砂利十二尺ぐらいで水層となる。松本、遠藤さん共に水足はよく、「ハケ下」の湧き水（清水）と水脈が同一と考えられます。遠藤仁さんの隣の遠藤文武さんの井戸は私が最初から掘った井戸ではなかったが、渇水期に水不足になり、更に掘り下げたが水中に転がりナメがあって、そのために水足は良くなかったです。ナメ層は水を遮り、その層を掘り抜かないと水は出てこないのが大変だ。清水が出ている所は、その下にナメ層があり、水が下に浸透できずにそこから湧き出ている所も多くある。遠藤茂治さんの周辺は、水層になって細かい砂層となり、赤砂（ぼう砂ともいう）が出て、これもまた水足は悪く、井戸の場合一定量の水を汲み上げ、またもとの所まで水が溜まるのに時間がかかる。水足としては、砂利層よりは十分遅い。（Ⅲ－15）

## IV 湧き水

### 1. 矢川

矢川は水の量が多くてとてもきれいだった。4・5月頃湧き水が増えてくると川淵にすれすれほど水があって、子どもなど魚掬いをしたり泳いだりした。蛍もたくさんいた。冬場になって水が少なくなると、川淵の人たちは、水の溜まっている深みに土手を作り、その中の水をかい出し、その中にどうを置いて魚を追い込んだ。これをかい干し、またはかいつけといった。よくこうやって魚をたくさん捕った。ヤモメ、フナ、ハヤがとれた。どの家でも矢川沿いに洗い場があって、洗濯物をゆすいだ。矢川の源は立川高校の下。昔大きな石を積んだ柵のような中にちよろちよろ流れ出していて、桑畑のようなところに流れ込んでいた。ちょうど城山の2番息子さんが住んでいた所だ。沢蟹が水の湧いている所にいた。

### 2. 地下水

地下水が下がった。井戸水なんか一番よくわかる。家の井戸裏にあるのは両方のつるべを回して洗濯なんかしていた。それがもう水がない。大雨が降ると今のヤクルトに行く道、坂の両側が雨が沢山降った折、右の道より少し高くなっているが、あそこなんか水がどっと湧いて、たらいを持って行って洗濯していた。湧き水できれいだった。木が沢山あったから。下の田なんかきれいな水が両方の山から湧き出て、下から魚が上がってきた。下がハケみたいになっていて、ここは高いからずっと天神様まで谷保のハケという。

### 3. ハケ下の川

ハケの下の川はとてもきれいで冷たかった。石や泳ぐ魚も良く見えた田圃から上がってくるとあの冷たい水で一息ついた。湧き水だから美味しかった。それで生えている草を鎌で刈っていつもきれいにしたものだ。（Ⅰ－3）

### 4. 清水

この辺もわたしが嫁に来たときは淋しかった。この辺りは清水が流れて板を並べなければ歩けなかった。道路のふちに堀があってその堀に両方とも清水が流れていた。家に入るときは清水の橋を渡って出入りした。よっぽどよい清水の出口があった。家の下の堀で洗濯できた。今は家が上に建ってしまって何か流すので、もし水が流れても汚くてしょうがない。（Ⅰ－11）

## 5. 池のこと

震災の後、表の今の出入り口の所に大きな池があった。道路に水が流れ出て、西府の方まで流れていた。道路の脇に簡単な堀があってそこを本宿の方まで流れていた。掘り抜き井戸があって大体30メートル位の深さがあったが、それを掘るのに3人来て2ヶ月以上もかかった。掘り抜き井戸で穴だけが石を掘るのが大変で、ポンプも無いが水が自然に噴いていた。バケツに一分で二杯位出ていた。家の西を曲がって表へ出て池に流れ込むので、堀を作って池まで持っていった。池よりあふれて道路の堀にその水がいつも流れていた。昔は冬でも水が温かく、野菜から鍋釜何でも洗っていた。池の周囲だってコンクリでなく板を並べて崩れないようにしただけのものだった。それでも溜まった水の量が多いからずいぶん道路に流れていた。ほかの家でも掘ったようだが駄目だった。ここは深く掘らないと水が出ないので、井戸にはずいぶんお金がかかったようだ。(Ⅲ-14)

## 6. 洗い場

昔はこの下へ行って、清水の出るところでお釜や野菜を洗っていました。洗濯もしました。天満宮のところでは最近までお米をといでいました。昔はこの下にでこぼこしたケヤキの一本橋があってその上で五人も六人も一緒に並んで洗っていました。その頃は各家毎に井戸がありませんでしたから。裏のタカちゃん(杉本高助)のところなどはうどんを食べるときには、釜や切りだめを入れた鍋を持って来て清水にひたしておいて、田んぼへ行った帰りに洗って帰っていました。清水は下からぼこぼことても豊富に湧いていました。(Ⅲ-5)

## 7. 野水

この谷保は、水が豊富でいい水が出た。雨季になって雨が降り、夏になると第三団地の南側にちょっとした雑木林みたいなものがある。あそこから流れ出したんだ。南武線の下には今でも川の跡があるが、そこをくぐっておたか森の前(南側)を流れて、市役所通りの西端を南へ流れて甲州街道へ出た。その時分甲州街道は砂利道で、両端にずーっと堀のようなものがある、その水が石神から千丑を通過して、坂下の所で南側に渡って天神下の川へ落ちていった。この清水は夏の間だけで、冬は空堀になる。今は甲州街道の下が下水道になっていて、坂下橋の下から田んぼの方へは昔のままの川が流れている。

(奥さん)私なんか子どもだったから、ああ野水が湧いた位しか考えられなかったが、何しろ多い時は膝くらいまであった。私の里の畑がその堀の北側にあったが、道が川になっているからその川を越して、帰りには野菜もみんな洗ってきた。

(範三郎さん)戦後は地下水が下がってしまった感じで、あまり出ないようだ。(Ⅲ-9)

## 8. 天満宮の清水

天神様の周りだって清水がすごく出た。天神坂のほとりに清水の茶屋があって、水晶のような水が出ていた。庭のあちこちから水が湧き出したり、囲炉裏の中にまで出てしまう家があった。それも夏に。天満宮の常盤の泉は、年中コンコンと湧き出していて、弁天池に注ぎ池には鯉や金魚や亀が沢山いた。だのにこの何年か水が少なくなって、鯉が可哀想だというので水道の水を入れたりしている。天神様の拝殿の石垣に沿って小さい堀があって、南の神楽殿の裏側へどつとど

流れていて、高い所からお滝になって落ちていた。下には滝つぼがあった。今でも昔の形がいくらか残っている。子どもの頃はそのお滝にかかったり、サワガニを捕って遊んだりしていた。大正14、5年頃は水が豊富だった。(Ⅲ-9)

## 9. 清水の茶屋

私の親父は天神様の坂下の長島と言う家のもので、昔は「清水の茶屋」といって茶店をやっていた。いつごろからやっていたのかははっきりしないが、何でも新撰組の侍たちが京都から江戸へ下るときにはもうこの茶屋はあったそうで、茶店ではそばなども売っていたし、わらじなども売っていたようだ。新撰組の侍がわらじを買ってお金を払うとき、お釣りを渡そうとすると「釣りはいらぬから次に来る人にわらじをやってくれ」といって行ったとか、昔話に聞いた。(Ⅲ-10)

## 10. 水の道

市役所より南へ80メートルの所(峰下)では甲州街道よりだらだらと上り坂のため、水位がぐんと下がり、水底まで23尺位。すぐ上(北)が峰上でいちだんと高く、その下なので何百年もの流土の関係か、黒土が深くその下が赤土で5尺位で砂層となる。この井戸の水際は井戸掘り職人の使う言葉で「転がりナメ」が1尺位あって、砂利層に変わり水層となる。水質(水足)は非常によく、秩父方面から品川方面へと流れ、井戸の中でもその流れがよく分かる程の速さだ。(Ⅲ-15)

## 11. 地層

ここらは仮屋上というが黒土が深くて農家にはもってこいの土地だ。甲州街道のほうへ行くとすぐ赤土が出てしまうが、ここら辺はまあ黒土が1メートル位、赤土が3メートルから4メートルあって、その下が砂利だ。その砂利を掘っていくわけだが、それこそいい地盤だ。深くなるとでっかい石なんか無くて、大きくても片手で握れるくらいのと、あとは小砂利、赤砂利と言って赤っぽい。水は35尺位のところで出たが、砂利や砂の一杯詰まった間を流れてくるからとてもきれいだ。うちの地下水は西から東に向かって流れるような感じだ。昔は消毒もしないで生の水を使ったけれど、いい水だからうまかった。夏は冷たくて冬は温かい。冬の朝は水蒸気が上がる。天神様の沸き水が流れているのを見ると、煙のように水蒸気が上がっていた。手を入れてもあつたかく思えた。(Ⅲ-9)

## 12. 千丑の地層

千丑の土地(甲州街道筋)は平均して黒土が少なく、赤土も少なくすぐ砂利層だ。地面から約1尺が黒土で、その下の赤土が1、2尺ある位ですぐ砂利層。所によると黒土が1尺ですぐ下が砂利層という所もあり、そうした所は4、50年前頃は「野水」といって庭から清水が湧き出ている家も数戸あった。おそらく「はげ下」または天満宮の清水と水層が一致すると思う。私の家でも昭和10年頃まで庭の片隅に堀を作っておき、6月から9月頃まで庭一面の湧き水を集めて、甲州街道端にあった川に流していた。(Ⅲ-15)

## V 仕事→水車・豆腐・わさび田・用水・農業・漁業



## 1. 水車

当時は矢川と湧水の水と、多摩川の水を府中用水から入れて、両方の水を使っていた。水の取り入れ口が2段になっていて、下はめがね橋にして矢川と湧水の水を使っていた。上側はコンクリートを一段高くして、多摩川の水がかかるようにしていた。だから強い水力だった。水の量が多いときは一段を堰きとめて堀のほうへ捨て水として流していた。一年中水には困らなかった。このやり方は祖父である先代が始めた。水のいり口から一間くらいのところに水車があって、その前に自宅があってそのふちの下を水が流れていた。そして府中用水の下にその水をくぐらすようにして流していた。今でも水車のあとが残っている。

水路を作るのにその両側の地主さんの了解を取らなければいけない。この両側の田畑で出来た米や麦はみんな無料で搗いてやった。(I-10)

## 2. 水車

粉はうちでとった麦を水車で挽いてもらう。今、立川の至誠老人ホームになっている所に内藤さんという精米なんかしている人がいてそこで頼んだ。根川の水を利用してガッタン、ガッタンやられた。一回に一俵位ずつ粉にひいてもらって、粉を入れる専用の樽、油樽といったが、とてもしっかりしたいい樽なのでずっと昔から使っていた。(I-21)

## 3. 水車

昔は小麦を粉にひいたり、大麦をついて丸麦にするのに、水車が方々にあった。府中の矢崎と是政の間の田んぼの中にあつたヤッコ車が有名だったが、私の子どもの頃跡が残っていた。立川にも日野橋の所から田んぼへ下りるすごい急坂の下の水車には、車の後押しをして私も何度も行った。谷保でも天満宮の池の向こう側に「もや車」があって、その奥で遠藤さんが大きく堀を掘ってでっかい水車を幾年かやったのを、小さくて物覚えに覚えている。日野橋の下の水車はやめた後、立川高校のほうへ引っ越して蕎麦屋をやっている。(III-7)

## 4. 豆腐屋

部落の東寄りに豆腐屋があつた。代々続いたお店で、最近まで4代目の兼吉さんという人が、引き続いて商売していたが、昨今休業した。先代の豊次さんという人が大変商売上手で、豆腐製造販売の傍、米から石炭なども売り、おおぜい使用人を使って手広く商売していた。屋号は山田屋さんといった。当時豆腐一丁5銭、油揚げ4枚10銭だった。(I-22)

## 5. わさび田

山の下にかなり高い石垣があつて、その下は清水が出てわさびっぱだった。わさび田に小さな沢蟹がたくさんいて、天ぷらにして食べた。カニ取りに行つては石垣崩すとよく怒られた。大ひき蛙がわさび田にたくさんいて取りに行つた。捕らえたら足からクルリと皮をむき囲炉裏の足付の金網で焼いてしょうゆつけて食べたが美味しくスタミナがついた。戦争中までよく食べた。(I-7)

## 6. わさび田

谷保では湧水があちこちで出ていたのでワサビ田を持っている家がけっこうありました。「笹

山」(遠藤邦教宅)では屋根続きの段丘のすぐ下の用水の所のエラみたいになっている所で作っていた。うちではカメじいさん(祖父)の時代にお寺さん(南養寺)から二場所借りて作っていた。今住宅になっているが以前は沼になって清水が流れていてちょうど田口さん(せんべい屋)の下の方と段丘の南下あたりにケヤキが一本ありました。私が兵隊に行ったのが昭和十七年ですからその前です。久保の堀江信さんも向山(現中央高速道あたり)の椿の木の下でやっていた。滝乃川(滝乃川学園)の方でも四軒在家の人がやっていました。(Ⅲ-3)

## 7. わさび田

うちから坂を下りて「井口」の家の所に来ると清水が流れている。今は広い道が出来たが、道より1丈(約3メートル)ばかり低いところにワサビがつくってあった。その石垣の一段と高くなっている所に、お弁天様が祀ってあった。(Ⅲ-8)

## 8. 風呂

近所の人は風呂が買えなかった。買うと焚き物がないから。私の実家は山があったから、それで毎晩風呂を立てると、近所の人4、5人位「おあとでおふるまいになすって下さいまし」と言ってくる。子どもでも何でもそういう風に言ってくる。そうすると今度は入って帰る時に「お先に有難うございました」と言って帰る。私の母などはお茶を入れたりぬるくなると燃やしたりしている。木の風呂で上に煙突があって、前に釜があってそこに薪を入れて燃す。その接待だけでも家のものは大変だがそういう生活をしていた。(I-15)

## VI 府中用水とその周辺

### 1. 府中用水

府中用水は名の通り下流の是政まで水が使われていた。谷保田圃百町歩の耕作者が500人くらいだとその耕作者が全員、さらに府中の耕作者が全員出て工事をした。用水組合で4月から5月にかけて日割りを決め、今日は谷保、明日は西府・四谷村の人がやるなど人足の計画を立て、多摩川の堰や本流から用水取り入れ口までの掘割の仕事を、冬の間用意して会った蛇籠を使ってやる。(I-1)

### 2. 水路掃除

毎年府中用水では、4月29日に用水の本流の掃除を全員でした。各々の小堀の掃除は自分たちでやり、5月上旬頃水門から上の掃除を業者にやらせる。(I-1)

### 3. 番水

田植え時期に水が少ないときは、普通6月20日過ぎから7月半ばにやる田植えを、谷保村中に言って早目にまとめて済ませる。それから3~4日続けて府中に水を送って、あちらの田植えを済ませて、それでも雨が降らないと一日おきに番水になる。府中用水で組合がひとつだから、役員が話し合って取り決め、夕方の6時から24時間、南養寺に朝鐘を鳴らしてもらい、一日交代で水を分け合う。取り入れ口のところに持ち主がいて、鐘の音と同時に堰を開けて水を入れる。次の日の6時に府中の人に来て取り入れ口をふさぐ。各々の田に時間決めて水を通すが、大正時分には鎌やまんがなど喧嘩の道具を持ってくることもあったという。

昔は堀の水がきれいで、茶碗洗ったり、お茶沸かして飲んだりした。(I-1)

#### 4. 用水のサラエ (掃除)

種ふりの前の準備として、用水のサラエがあります。一年もたつと、ゴミがつまったり、草が生え、流れが悪くなるので、通水前に、一せいに掃除をします。府中用水本線のサラエは、青柳からこちらまで、谷保中の田圃を作っている人全員、地主まで出てやりました。今年(昭和五十六年)も、四月二十九日にやって、長男がいきました。矢川下の所で、雨成から下ってきた青柳の人と会いました。長男は近くの湧水の所へ、はじめていき、湧き出る水の美しいのに驚いていました。欠席者は、三百円だすので、終わってから一杯飲んで皆で話し合い、田圃を持っている隣どうしの人の親睦になりました。また、四月二十六日に下谷保の人達で、各々の田圃の前の小堀をサラエしました。夏には、夏掃除といって、一回用水を止めて、水草を掃除します。水苗を作っていた時は、苗間を作るとすぐ通水しましたが、今は陸苗なので、六月半ばに通水すればよくなりました。青柳から下谷保まで、段差がひどいので(三メートルぐらい)用水が直線だと、全部の田に水がいかないのので、用水は高い所をうねってきています。高速道路と、それに続く新道で、田圃が切られて、小さい区画になったりしました。関吉男さんの田圃は、うちの田圃の近くですが、府中分なので、府中の用水組合に入っていて、府中のサラエの方にだけ参加しています。

佐藤彦一

#### 5. 水番

府中用水は谷保・西府・多磨・府中の四ヶ町村の用水なので、水が少ないときに、田圃をやっている人だけの話し合いで、水番を行いました。昼間は主に府中で水をかけて、夜は谷保で使うという具合に水を分けるため、水路に錠をしたり、はらったりしました。南養寺の鐘を合図に、錠を開閉しましたが、水番の人は、時間前に場所に行っています。昭和三十五年頃、佐藤一夫さんは「木刀持って、水番に立っている」といわれたといっていました。渇水時には水争いがおきやすく、植えたばかりの田に、夜、人目を盗んで、水を入れたのがみつかる大変でした。

佐藤彦一

#### 6. 番水

稲は6月に田植えをするがまごまごしているとじきに7月になってしまう。7月に水が無いときがある。雨が降らないと多摩川の水が少ないので、マチ(堰)をしても、用水へ入る水が少ないときには番水をやった。府中用水は是政の方からも水引きに来ているので、マチをせき止めて、南養寺の鐘を合図に時間で谷保の方を先に掛けて、後半日は向こうへ水を渡して、尻の是政や府中の者に掛けてもらったわけだ。番水は当番で行った。青柳の下の谷保堰をいくらかせきとめて、府中との分かれる堰を止めて、谷保へ水を入れた。その頃はみんな田んぼを作っていて、どの家も水がなければしょうがないから。水が少ない時は、田を干したりして、水が持たなくて水が掛からないと大騒ぎだ。お互い時間で水掛け合うから。水時間だと夜も寝ないで掛けにいった。田んぼの場所で水の掛かる時間が違って、上と尻では尻のほうが遅く掛かる。上の田の取り入れ口をふさいで、尻の田へ水を持ってきて最後には用水の取り入れ口の元がしまってしまう。水が府中の方へ行き、堀の水が空っぽになるので、下の田は大変だったが、番水をやる時は稲がよく出来た。田んぼ作る人が減って何年も水は間に合っているようだが。(III-7)

## 7. 田植え

一番辛かったのは畑仕事でした。おじいちゃん(夫)は水かけが大変だった。一番どんじり(水回りがもっとも下)の田んぼなので上の田んぼの人が堰を止めてしまえば水が来ないから、掛かりづらいのです。田植えは六月半ばころから七月の三、四日ころまでですが、たいがい山の神と言われたくらい田植えが出来ませんでした。山の神というのは一番最後のどんじりになることを言います。下谷保の鈴木茂七さんの家が一番遅かった。何しろ上から順番に水を引いてくるから、ここが一番水が掛からなかったから、一番田植えが遅くなる。(Ⅲ-5)

## 8. 田植え

5月にハケ下の出井崎の田から植え始めて、今は掘りも空で水の気が無いけれど、昔は田んぼから水が湧き出し、多摩川の用水からも水が流れて使いきれないほど水が掛かる。うちの田は冷たい水が掛かるから4、5俵で3俵の時もある。それで田んぼの水の湧き出るところを掘り割って、冷たい水がそこから外へ出るようにすると、田の水が温まって大変よくなる。天神下の田も同じようにして手をかけて冷たい水を溜池みたいにしておいて外に出した。夕立降りなんて雨が沢山降った後なんかもう水が一杯で、稲を植えたのが分からない位に水が堀からあふれて入ってきた。雨がやむと、すぐ行って用水の水を仕切って、田へ水が入らないようにしないと稲がだめになってしまうので、ずいぶん大変だった。それで天神下の田は埋め立てて、川のふちに道を作って売ってしまい、今家が建っている。(Ⅲ-7)

## 9. 魚とり

魚とりが好きで、父親の竹のすき箕を持ってひとりで行った。府中用水の手前にたくさん魚のいるところがあった。はだしで砂利場を赤いフンドシ(腰巻)で、手ぬぐいをかぶってカンカラ持って行く。堀へすき箕をかけ向こうから足でガサガサ追ってくると、魚が怖いから箕に入る。あるときえらいいるねと思って足で追い、うなぎかなとすき箕をあげるとシマヘビが入っていてニューと出てきて驚いた、それから行かなくなった。(Ⅰ-2)

## 10. 魚とり

夏は川で魚掬いをして面白かった。フナ、ドジョウ、ハヤとか。すくい箕というので捕る。男の子は釣りをするが女の子はやらない。(Ⅰ-3)

## 11. 魚とり

戦争前のママネの堀は水がきれいで魚がえらあいた。半日遊べばドジョウが2升くらい捕れた。多摩川で四谷のひとが鮎取りの鵜を使っているのを見たこともあった。普段食べる魚は西府の駅のそばの稲毛屋から1週間に1回くらい売りに来た。(Ⅰ-4)

## 12. 魚とり

家は暇なときに麦が作れない田を馬や牛で耕しておく。そうすると春になってそこへ水がたくさん入ると、魚がそこへ寄ってくる。ナマズなんか寄ってきて、そうすると水が引いてしまうと、

その田が深く耕してあるから水のたまりになる。そこへ行って村中の人が頬かむりして捕ったりした。手で押さえたりザッコミでこうして掬う。昔はとっても悠長だから、何でも。私の実家は用水が前と後ろにある。こんな所に家があって、時々夜中に用水をせいでしまう。そうするとこち側が空になるから、魚を捕るような人もいる。用水を止めて。海から遠いからあまり魚を農家では買えない。お祭りとかお盆でなければそんなにお魚を普通の農家では食べなかった。(I-15)

### 13. 登りどう

一番はじめが、レンゲの花の咲く4月ごろから田んぼに水が入る。苗間用のが。そうすると田んぼへ30センチくらいの杭を打って、厚い板で水をきれいに止めると水が真ん中にどうどうと落ちる。それで魚の登るところへ登りどう(筈)をかけると、オババドジョウ、オギノネ、フナムグレが捕れ始めてだんだんドジョウに代わってくる。田植えが始まる直前までオババドジョウはきれいな水のところにしかいなかった。下の川なんかによくいた。石の下の周りに、水の温まっているところにごちゃごちゃいて、あれは大きくなならないカジカみたいな魚だった。ドジョウは売った。7月15日位になると田んぼへいっぱい水を張っておく、どこのうちでも。そうすると水の入り口を止めて一晩中水がひかない程度にして登りどうをうつ。水の水口に。そうすると田んぼ中のドジョウがみな入るわけだ。この辺じゃ井上ウシさんの田んぼなんか特に良く捕れた。うちは竹があるからおじいさんは毎日毎日どう作りだ。6月ごろになるとだから朝が早い。(III-5)

### 14. ばかどう

どうわらのばかどうといって、細いどうがある。川で捕るどうと違って田んぼのは細い。それをえらい時には50本位よその田んぼでも何でもかけた。だから昼間はゆっくり昼寝をしておく。夜、飯を食って9時か10時頃どんな遅い家でも夜回りを終えて家に帰った頃を見計らってどうをぶちに行った。おやじは目が悪かったからどこの田んぼに行けばどんな魚がいるというのを良く知っていた。それが7月20日ごろからだ。昔はこんな四斗樽で買っていくほど捕れた。9月一杯位まで。一貫目3円50銭ぐらい売れた。その当時、男が一日働いて70銭か80銭位の時だった。立川市や府中市の魚屋が買いに来た。(III-5)

### 15. しじみ採り

実家の近くに川幅3間位の用水があり、ジョレンでかいて水が澄むと3センチ位の蜆がいっぱいいいた。拾ってはまたジョレンでかいて採り、じきに差し渡し1尺位のザルいっぱいになり、面白いのでよく採りに行った。その夜はしじみ汁にした。(I-16)

## Ⅶ 暮らし

### 1. 雨乞い

雨乞いときは、口が箕で、胴が蛇籠で、舌が古うちわ、耳を菅笠で作って、天神様の弁天池から、丸山さんの立川境の雨成に沈めてお祭りした。家々の入り口に、桶やバケツに水を入れて待っていて、蛇が来たら水をかけるのでビシャビシャになった。ご利益があるもので少ないとき

でもいく粒か雨が降った。(I-1)

## 2. 雨乞い

一番おしまいは50年位前。暑い時分に旱魃で、作物がだめになっていよいよ困ったときに、天神様で蛇籠を5つつなげてじゃを作って、弁天池からお囃子、ドンドコ叩きながら道をねって歩く。くね(垣根)の所でみんな見物していると、面白がって桶で水をかけられた。うかうか見られない隠れて見ていた。蛇を雨成に持って行って水に漬ける。ヤッショイヤッショイヤった。雨はすぐに凄く降った。3回くらいあった。(I-7)

## 3. 雨乞い

最後にしたのが60年位前か、私が13、4歳位の頃だったと思う。日照りが続いてどうしようもない時にした。谷保の雨乞いは遅いと言われたが、ぎりぎりまで待ってした。天神様に集まってみんなで竜を作るんだが、口の上下が箕で下が渋うちわで、牙が竹の地もぐりといって下の方で金色で尖がっているのを掘って、良いのを牙にして頭は籠だと思ったが、そいつに箕を掛けてあのささらになっているのを掛けて、胴が蛇籠。胴に麦からを巻いて杉の葉を差して、裏のほうは針金で芯をこしらえ、そいつに麦からを巻きつけて細くして蛇籠は寸胴だからふくらみを入れて感じを出した。お神輿みたい胴棒でかついで甲州街道をねって来るが、途中でバケツで水を掛けられて大騒ぎしながら青柳のアマナレまでねって来て、そこでねり壊してしまう。雷さんは胴が麦わらで、顔はざるだ。こいつが頭になって赤い布を張って金紙か、銀紙か、そういうので目や鼻をつけて、胴は赤い布を張って太鼓バチつけてセメン樽に(今で言うビヤ樽)乗せて、雷さまの周へ藤づるを巻いて、それにワラをきれいにすぐったやつを15センチ位の丸にして、三箇所まるいて押切りデキリッと切る。そうすると切り口がピシッとしてのが出来る。それを周囲につけて色を付けて太鼓だ。それをお神輿のようにかついでねって行く。それが通る前にひと樽を抜いて通るひとにでも誰にでも好きなほど飲ませた。四軒在家の佐伯さんのおじいさんがかついで、満作の唄なんか唄って、一杯機嫌でよかよか飴の唄なんか唄って騒いで、ひよろひよろしながらついて行く。各戸でバケツに一杯ずつ水を汲んで待っている。通る人も見物する人もうっかりしていると水を掛けられてしまう。通行人だけはかけないように青竹を持って警戒している者もいる。担ぐ者は子どもでも青年でも誰でもいい。その前に支度が出来ると天神様で神主さんが祈祷してそれからねり出す。神主さんは水のかからぬうちに行くのだが、三本幣束を持って水際に立てる。暑い盛りに担ぎ出し、下谷保の府中境まで担いで、それから甲州街道を青柳までねる。終わる頃には帰るのが忙しいほど、てきめん雨に降る。昔は八大竜王という掛け軸があって拝殿の所へ掛けて祈祷したものだ。また反対にお天気祭りもあったが、それは雨ばかり降って困って天神様の神楽殿へ鬼の面をかぶった人形を作って、八つ手の葉のような形の大きなうちわを作って風を起こし、青柳稲荷の所へ月を作って丸くして、黄色く塗って(月はボール紙)、ススキを飾って秋の情緒を出してみんなでお祈りした。(I-14)

## 4. 雨乞い

あまりお天気が続いて雨が降らないと、雨乞いのためのお祭りだ。各家から一人ずつ全部のムラから集まって、天神様の庭で竜と雷神様を作る。雷神様も竜も大きなものだ。雷神様の身の丈は10尺はあった。竹で骨組みを作り布を巻いて作った。目玉なんかは金紙を貼ってキラキラさ

せた。竜は箕を二つ合わせて口にして、体は五間もある蛇籠を使った。午前中に竜と雷神様を作ってお昼からその竜と雷神様を大勢で担いで、下谷保から青柳まで甲州街道を練って歩く。街道筋の家の錠口の所の桶に汲んである水をバケツで竜と雷神様にかける。きっと雨を持ってきてくれるようにと祈りながらかけるのだろう。たいてい夏休みの頃だから子どもたちもついて歩いて、ビショビショになりながら賑やかだった。(Ⅲ-10)

## Ⅷ 自然→生き物・遊び

### 1. 水遊び

夏の遊びは水泳、多摩川の用水の取り入れ口の上流の水溜り。男も女も素裸で、女は6年生くらいから腰巻、男は15歳くらいの若衆になってから褌を締めた。水門のところがトンネルになっていて、こうもりがいて人が行くと飛び出してきて面白がったり怖がったりした。(Ⅰ-1)

### 2. 水遊び

ハケの下の川で泳いだ。川を下るのは良いが泳いで上るのは大変。そのころはズロースなんて無くピンクの腰巻をはいて泳いだ。(Ⅰ-3)

### 3. 雨成縁

夏は南下の雨成縁でよく泳いだ。水がきれいですごく深く1丈くらいあった。私はおてんばでかなり大きくなるまで崖から深んどへ飛び降りたりした。小さいうちはパンツなんかありゃしない、真裸のほうが多かった。少し恥ずかしくなると手拭巻いたりした。雨成と渡船場の所(清化園の前の川で、昔水を計る杭が立っていたので水量杭といった)で1丈くらい深くて、府立二中(都立立川高校)の生徒が泳ぎに来ていたので、一緒に泳いだ、2人ぐらい犠牲者がいた。(Ⅰ-7)

### 4. コメケ(米池)

水遊びはやった。当時は海水着なんて着ないで、パンツもはかずに泳いだ。天神様の下の川のコメケ、坂を下りたところのあの川は浅くて、近くのコメケで遊んだ。(Ⅰ-9)

### 5. おんだし

よくおんだしで泳いだし、矢川でもよく泳いだ。また魚とりもよくやった。多摩川には大きくなってからでないと危ないから行かなかった。子ども時分、家の前の府中用水では水が多くて流れが速いから釣りはできなかった。だからワキドウというのをやった。この辺は神奈川県峯の下といった。(Ⅰ-10)

### 6. 多摩川

学校から帰ると妹を背負ったりして多摩川に行って遊んだ。小砂利があって砂遊びが楽しかった。川には蛇籠があって、水がきれいだから魚がいっぱいてスイスイ、スイスイ泳いでいた。(Ⅰ-13)

### 7. 清水の水遊び

その山根のすぐ下に川があって、きれいな清水がぼこぼこ出ていたのでみんなで裸でよく水浴びをしました。今のアパートのある所にうちがあって、その前を通って川へ行けるようになっていました。(Ⅲ-5)

## 8. 河原

近所の友達と遊んでいたけれど、夏のうちは遠くても河原までだった。夏休みになれば農家だから、うちで草むしりに畑へ行けなんていわれても、手伝いをしないで多摩川へ行って魚捕ったり水浴びしたりで怒られた。(Ⅲ-10)

## 9. 魚とり

多摩川で魚が一番釣れた場所は、柳屋さん(沢井左源太さん)の通りをまっすぐ川に下りたところから百米位下の深いところ。水のぶつかるところで一丈位深かった。松の丸太を四角に組んで、金で止めたチンショというのを三段に置き、この中に重石を入れ沈ませていた。その上側に竹の蛇籠があった。

柳谷さん通りを堤防に突き当たった右側の角には、多摩川を管理している河川事務所があって、うるさくて砂利や石など持って帰ることが出来なかった。魚とりに行ったときには監視しないが川を止めたりしてね。魚をとることは相当うるさかった。

この一番深いところで子どもの時分釣りをしたこともあった。チンショの上に蛇籠があり、その上で釣る。竿が長いから平気だった。よそから来た人は釣竿を皆もっていたが、私はマダケで曲がっているところをあぶってまっすぐにして、釣り糸は木綿糸で重りには石の格好のいいのを見つけて付けた。浮は何の木でもかまわず使って、自分で長さ5センチ位で太さ2~3センチ位のものを作った。餌はミミズで肥えまなどにいる大きいのでなく、ママの下の土の中にある5センチ位のが良い。子ども同士で裸足で、パンツもはかず着物を着て釣竿を担いで行った。6月1日前にはそれが出来なかった。アユを6月1日前に釣っていると、おまわりさんに捕まった。釣れる魚はほとんどがアユだけ。学校に上がる前から釣りに行った。針はアユの場合は毛の付いたカザリというものを使った。

多摩川ではよく泳いだもんだ。泳いだり、川に入ったりして遊びながらの釣りだから一日中釣ってもいくらか釣れなかった。捕った魚は草に3匹から5匹位突通して、ぶら下げて持ってきた。草の茎をひげから通して口に出した。魚とりは夏の遊び。

その頃の多摩川は砂利畑で石ころがごろごろしていた川原だった。アシやオギなどは全然生えてない。だから浮も重りも使わないで釣った。砂場のようなところでミミズをくっつけて沈めておけば良い。いい加減で上げるとかかっている。この魚はトコブシとか砂むぐりともいった。ハヤがかかることもあった。カジカ突きはあまりやらなかった。(Ⅰ-10)

## 10. 魚とり

多摩川のそばだったから、魚とりをした。父は投げ網が好きで向こうにオオクリ川という大きな川があるがそこで魚を捕った。

投げ網、その後は朝鮮網と言って、両方で木の枝を楕円形に曲げ、真ん中に網を張って捕る。それだと一回に5升位捕れる。だから親戚が喜んで「仲間に入れてもらいたい」とよく来た。女学校時分はよく多摩川に遊びに行っていて、魚が石の中へもぐると大きな石を持ってポーンと投げると、



魚が浮き上がる。石と石の間にいたのが死ぬわけだ。それをみんなで集めて遊んだ。名前は知らない。1月から2月位の寒いときに、ボラという魚が水のきれいな所で捕れる。プチプチした数の子のような卵が石の下にいるが、それがとても美味しい。石にかじりついて生んでおくのをみんなが行って取ってしまう。かわいそうに。数の子と同じでまっ黄色で美味しい。(I-15)

### 11. 魚とり

夏には多摩川で石ブツケといって、川の浅瀬で、一つの石を持ち上げて、魚の潜っていそうな石をめがけて投げて、トンテンと音がすると、魚がパッと浮く。そんなことをして、魚もけっこう捕りました。水中眼鏡なんかはちょっと深瀬でないと使えなかったし、魚はよく見えても、引っ掛けるに技術がなくて、なかなか引っ掛けられなかった。川へは、一人で行くことはなく、皆まとまって、五人なり十人なりで行くので、疲れたと思ったことはなかった。自分が小さいときは、大きい人に連れて行ってもらい、大きくなったら小さいのを連れて行き、「もう帰るドー」といって集めたりした。リーダーになったら、いくらか責任観念があって、一応みている気持ちでした。南のハケ下を流れる川を下ノ川といって、魚がエライいて、子どもたちが魚を捕るのに川に堰して、持主に怒られたりした。清い水で水泳ができ、正月の餅用の米をといだり、時期にはとれた大根を洗ったりした。上へいくと清水がでて山葵っ場があり、うちの下ノ川の清水をオタキといって、きれいな水が出た。夏はとても涼しく、つかると倒れるくらい冷たくて、よく水飲みに行った。大震災で水は止まったが十五年ぐらい前までは沢ガニがいた。もっと前にはエビ、シジメ(シジミ)、カラス貝が沢山いて、よく煮て食べた。二十五年ぐらい前には、清水の所で、一寸(約三センチ)ぐらいの長さのエビで、頭に黒い筋があり、身がすき通ったのがいました。夜行くと目が光り、ザルですくって捕ったり、当時清水が出る所には粘土があったので取ってきて、孫が遊んでいました。戦後、上新田の田圃の東側の、砂利を取った田圃の穴に、きれいな清水が湧いて魚もいたので子どもはよく遊びに行った。大人に見つかり、土手を荒らすからと叱られ、たたかれそうになったのを、危うく首を引っ込めて逃げて、用水が胸まであるのを歩いて必死になって逃げた子もいました。また、夏は野水がでたので、よく女たちは洗濯にいき、天神下のバクロ(昔、馬喰やった人の家の所)でも洗濯しました。ザリガニは、昭和五年に、食用として横浜の方で輸入されたらしいが、昭和十年前後、天神様の縁日に亀といっしょに、一匹五銭で出ていた。帰りに、売れ残りを捨てていったのが、谷保では増えたものだろうと言われていました。その頃、南武線の終点の川崎にはザリガニがいっぱいいました。 佐藤彦一

### 12. 魚掬い

谷保の南部は田んぼ地帯で、川がずいぶんあった。こめいけ、松原堀、田中堀、府中堰、松山堀、青柳堀、本宿堀などに、ハヤ、フナ、イタブナ(タナゴ)などの魚がうんといたから、学校から帰るとかばんを放り出してスクイミ(砂利箕。農事用のものより小さい)を被り、バケツを持って魚掬いに行った。川の中に入り、その時分は水が透き通っていて、川底はきれいな小砂利で、魚の動きが手に取るようによく見えた。イタブナはひれが赤くて目の周りが青く光った雄ばかり追いかけて掬ったりした。雌よりきれいだったから。一度ドードー(川のしりから水の落ちるところ)で7センチ位の鯉が捕れて取っても嬉しかった。それからは一番先にそこに駆けていったけれど駄目で、柳の下にいつもドジョウはいなかった。

また竿釣りも好きで、近くの川の方々に溜りがあったので、そこにメメズ（ミミズ）をつけて投げ入れ、浮きの動きを待つ。魚によって針の引きが違う。ハヤやイタブナは餌に食いつくと共に浮きを引き込むが、フナはくい、くいと小刻みに糸を引く。くーい、くーいと静かに引く時は怖いエモリ（イモリ）で、エモリは針を飲み込んでしまう。エモリは背が黒くて腹が赤くて2本の足があって、体に比べて大きめの尾っぽを曲げてまったく気持ちが悪くて、「ヤァー、田舎の金魚がかかっちゃった、駄目だ」と放り投げたものだ。（Ⅲ－12）

### 13. ドジョウ捕り

竿や糸を使わないで筈（どう）を使うのはドジョウ捕りだ。6月に田植えをして稲が育ち、何回か田の草取りが済むと3日位水を切って田を干す。それをトッポシというが、その時の楽しみはドジョウ捕りで、そのころは食べ頃の大ききになる。干した田んぼへ朝早く水を一杯入れると土の中に潜っていたドジョウが喜んで出てくる。10時頃に水入れを止めて今度はしりみのくちを切って排水すると、水が少なくなってこれは大変といっせいにドジョウが登り始めるから、そこを狙って田の一枚一枚のみのくちに登りどうを打って置く。ドジョウはみのくちから更に上に行こうとしてどうに吸い込まれるようにスイスイと入っていくんだ。筈は竹で出来ていてアゲがあり、一度入ると外に出られないようになっている。けれど筈を下手に置くと魚は筈の前まで来て中に入らないこともある。筈が一杯になると揚げて魚籠に移してまたかけ直すのだが、魚の動くのは正午ごろまでで、時間の過ぎるほどに動かなくなるものだ。2時間位で魚籠に一杯になることもあって、それが何よりの楽しみだった。

### 14. ホタル

5月末あたりいっぱいいた。南養寺南東のハケ下の周りの川のふちからや、天神様から下組の下までずっと青く、すごくきれいにいっぱいいた。

それはヤマブキっていったか大きなホタルだった。7月末には小さなキツネツポタル。ほうきを持ってよく捕りに行った。トンボも沢山いた。川の水にお尻をつけてチョンチョン、卵を産んでいた。

### 15. 蛍捕り

蛍も沢山いて、用水の川っぶちを棒で左右にはじくと、光り出すので捕れた。男のいじめっ子に教えると捕ってしまうので、来たらやり過ごしてから捕った。夜、子どもがいなくなると沢山出てきて飛び交い、光りの柱ができ、きれいだった。（Ⅰ－16）

### 16. 蛍とタニシ

6月末頃になるとホタルがさかりに出る季節だ。ホタルこい、ホタルこい、向こうの水はにがいぞ、こっちの水は甘いぞ、とってたかボウキを持って捕ったものだ。この下にはたくさんいた。みな清水でホタルの幼虫が良く食べるカワニナがいた。だからホタルはカワニナがいる所であればいい。タニシもたくさん出た。よく捕ってゆでて中身をむいて酢味噌にして食べた。（Ⅲ－5）

- |             |             |                 |
|-------------|-------------|-----------------|
| 1. 中村良作さん   | 石田          | 1917年5月生        |
| 2. 小沢ミチさん   | 千丑          | 1897(明治31)年9月生  |
| 3. 佐伯ナツさん   | 久保          | 1907(明治40)年6月生  |
| 4. 北島春治さん   | 下谷保         | 1903(明治36)年6月生  |
| 5. 三田トミさん   | 石神在 多磨村生    | 1905(明治38)年9月生  |
| 6. 原田末吉さん   | 四軒在家在 由木村生  | 1907(明治40)年8月生  |
| 7. 沢井チヨさん   | 青柳          | 1894(明治27)年1月生  |
| 8. 西野トリさん   | 石神在 千丑生     | 1909(明治42)年8月生  |
| 9. 佐伯ゼンさん   | 四軒在家在 下谷保生  | 1915(大正4)年4月生   |
| 10. 佐伯吉郎さん  | 四軒在家在 久保生   | 1905(明治38)年9月生  |
| 11. 杉田くにさん  | 千丑在 日高町生    | 1888(明治21)年7月生  |
| 12. 小沢タキさん  | 千丑          | 1905(明治38)年3月生  |
| 13. 佐伯イヨさん  | 久保在 石神生     | 1901(明治34)年9月生  |
| 14. 佐伯徳次郎さん | 四軒在家        | 1903(明治36)年12月生 |
| 15. 三田ナカさん  | 中平在 多磨村生    | 1911(明治44)年7月生  |
| 16. 加藤ユキさん  | 石田在 日野市豊田生  | 1904(明治36)年10月生 |
| 17. 沢井ノブさん  | 青柳在 立川市番馬生  | 1895(明治28)年9月生  |
| 18. 原田マサさん  | 四軒在家在 坂下生   | 1905(明治38)年5月生  |
| 19. 柳沢そでさん  | 四軒在家在 中平生   | 1902(明治35)年6月生  |
| 20. 中村栄蔵さん  | 久保          | 1902(明治35)年6月生  |
| 21. 岩沢ともさん  | 青柳在 日野市堀之内生 | 1905(明治38)年12月生 |
| 22. 佐伯又兵衛さん | 四軒在家        | 1899(明治32)年7月生  |
| 23. 松本 清さん  | 千丑          | 1915年(大正4)年2月生  |

II 国立の生活誌II 佐藤彦一家の暮らし 国立市文化財調査報告第16集  
 佐藤 彦一さん 下谷保 1900(明治33)年

III 国立の生活誌IV 古老の語る谷保の暮らし(三)国立市文化財調査報告第25集

- |             |          |                 |
|-------------|----------|-----------------|
| 1. 遠藤 万平さん  | 谷保 石神    | 1891(明治24)年5月生  |
| 2. 北島 芳雄さん  | 東 下谷保生   | 1912(大正元)年12月生  |
| 3. 佐伯 辰丈さん  | 谷保 久保    | 1917(大正6)年1月生   |
| 4. 佐藤リキ子さん  | 坂下 西恋ヶ窪生 | 1915(大正4)年8月生   |
| 5. 杉本 ノヨさん  | 下組       | 1918(大正7)年9月生   |
| 6. 鈴木 大助さん  | 坂下       | 1904(明治37)年8月生  |
| 7. 鈴木 茂七さん  | 下谷保      | 1911(明治44)年10月生 |
| 8. 瀬戸 登代さん  | 石神       | 1923(大正12)年1月生  |
| 9. 長島範三郎さん  | 坂下       | 1916(大正5)年5月生   |
| 10. 長島巳之吉さん | 中平       | 1905(明治38)年2月生  |

- |     |         |         |                     |
|-----|---------|---------|---------------------|
| 11. | 早川 ムメさん | 千丑 大森生  | 1901 (明治 34) 年 2 月生 |
| 12. | 馬場吉太郎さん | 千丑      | 1904 (明治 37) 年 8 月生 |
| 13. | 土方 クマさん | 石田 小宮村生 | 1919 (大正 8) 年 1 月生  |
| 14. | 本田 定弘さん | 下谷保     | 1905 (明治 38) 年 3 月生 |
| 15. | 高柳 利孝さん | 千丑      | 1925 (大正 14) 年 5 月生 |



# くにたち水マップ

「くにたち」は、噴火による火山灰が降り積り、多摩川の水の流れにより侵食されてきた河岸段丘地です。西から東へ走る三本の崖線の下には、それは豊かな水が湧いていました。現在は、水が簡単に手に入るようになりましたが、今も、地下水たちは大活躍しています。この「くにたち水マップ」で、「くにたちの水」を発見してみませんか。

この「くにたち水マップ」で、「くにたちの水」を発見してみませんか。



ママ下湧水

**マークの説明**

- 災害対策用指定浄水器(24カ所)  
災害時には協力していただける民家の浄水器
- 雨タン(個人宅を中心に約60個)  
雨水を溜めるタンクで200リットル入る
- 水源井戸(12カ所13本)  
水道用の地下水を汲み上げる深井戸

●制作・発行/くにたちの市民調査会(国立市 水の懇話会)  
●協力/国立市 ●表紙の絵/安井 宏門  
●この「くにたち水マップ」は、とうきょう環境浄化財団の研究助成によるものです。



学校のプール生き物調査  
ヤゴ救出作戦

トンボは水に卵を産みます。ところがまちの中で自然の池を見つけるのは大変。そこで見つけたのが学校のプールです。夏が終わっても防火用水として水が入ったままのプールに、トンボは喜んで卵を産みます。ところが5月ごろ水泳準備のため水を抜いて掃除をする時に、せっかくながらヤゴ(トンボの幼虫)も下水に流れてしまいます。それを助けるのが「ヤゴ救出作戦」です。

子どもや先生が、水の懇談会メンバーと一緒にプールの底にたまった泥や落ち葉を網ですくうと、おやおや何か動くものがあります。はじめは「きたな〜い」と大騒ぎだった子どもも、だんだん「見つけた!」と夢中になります。

学校のように身近なところで自然を体験し、生き物のいのちについて考える野外学習として「ヤゴ救出作戦」の評価は高く、国立市内のほとんどの小学校で毎年行っています。



八小2年生の授業風景

◆船場番◆

多摩川は水が綺麗だ。向こうで1年ずつ希望の人が船場番をする。天気の良い日はそこから舟を干して橋をこしらえる。川向こうに渡るには1回5円、自転車は7円。そのお金を1年に何回か部落へ貰う。雨が降ると川が狭いのでどっと水がきて橋が流されると弁償することになるから、太鼓を叩くと部落中が寄って橋を外す。水が引くとまた舟を作って板を並べて通るんだ。(中平)

昔のくらし

◆天満宮の清水◆

天神坂のほとりに清水の茶屋があって水壘のような清水が出ていた。庭のあちこちから水が湧き出したり、囲炉裏の中にまで出してしまう家があった。天満宮の常盤の泉は年中コンコンと湧き出し、拜殿の石垣に沿って小さな堀があって、南の神楽殿の裏側へドツと流れて高い所からお滝になってあちていた。(坂下)

昔のくらし

◆井戸◆

井戸はみんな外にあった。ポンプやつるべで汲む。風呂の水も炊事の水もそこから汲み洗濯も外でやる。お米もとぎ、野菜も洗う。本当に使う水だけを汲み上げた。冷たい水で外で仕事したり、外から天秤担いたりバケツで運んだりするのでヒビが切れる。昔は井戸のない家も多かったので水汲みは女の仕事だった。(石神)

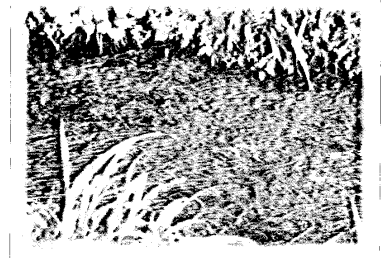
昔のくらし

◆矢川◆

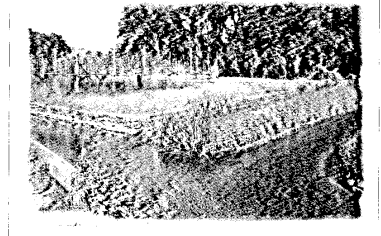
矢川は水の量が多くてとても綺麗だった。4〜5月ごろ湧き水が増えてくると川瀬すねすねほど水があって、子どもが魚釣りをしてたり泳いだりした。堂もたくさんいた。冬場水が少なくなると深みに土手を作り、水をかき出してドウを置いて魚を追い込みたくさん捕った。ヤモメ、フナ、ハヤが捕れた。どの家も矢川沿いに洗い場があって洗濯していた。(久保)

昔のくらし

湧水・用水



ママ下清水

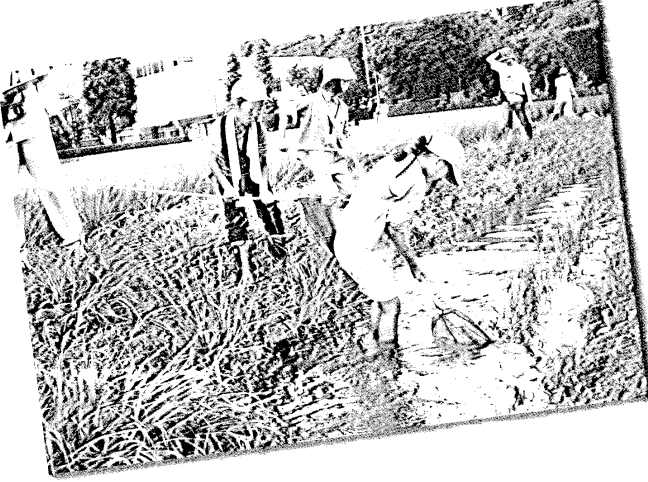


おんだし

くにたちの南部には、多摩川、矢川などの河川や府中用水が流れています。またハケと呼ばれる崖の下には湧き水が見られ、都内でも有数の水環境にありました。流れの周辺には多くの動植物が息していました。今ではほとんど姿を消しています。そこで湧水と用水の生物調査を行い現状を確認しました。

河川や用水、湧水など自然の水環境が残っているのは南部地域だけです。しかし区画整理などでこの自然も消えようとしています。開発と共存できる保全のあり方を考える必要があり、水循環にとっても大きな課題です。

府中用水の生物調査



始めてみるよ!!

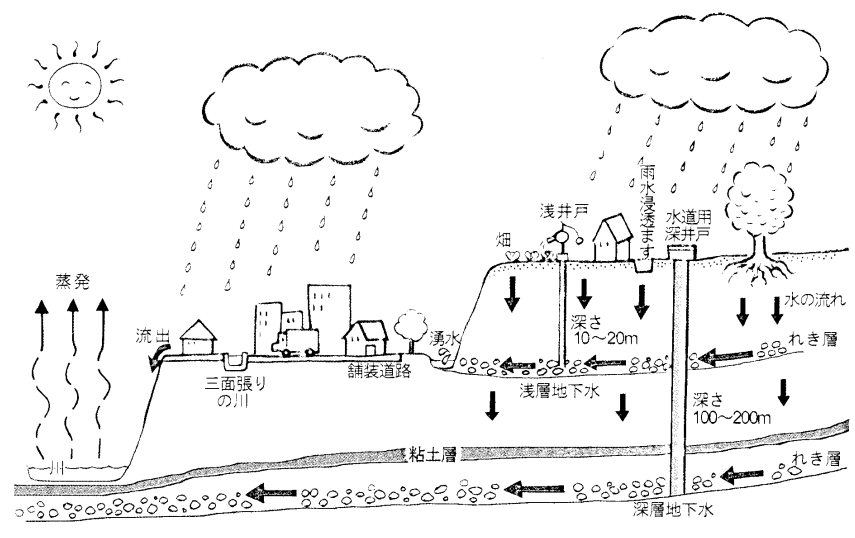
雨タン  
001号

- 「雨タン」は、国立市内にある食品会社から食品輸送に使われていたプラスチック製のタンクを提供いただくことで実現した雨水タンクです。
- 提供いただいたタンクそのものは「素材」ですが、様々なアイデアを注がれて雨水タンクに活用されています。
- 2006年4月からこれまでに国立市内を中心に60個あまりが設置されました。
- リユース品なので、いつも手に入るといったものではありませんが「雨タン」の愛称ですこしずつ増えていけばいいと考えています。

くにたちの水マップ

水の旅 ~水循環のしくみ~

ひとが生きていくのに欠かすことができない水。その水はどこから来ているのでしょうか。太陽のエネルギーを受けて海面や地表から蒸発した水は、雲になり、雨として地表に戻ってくるという循環の中にあります。かつて森林や畑、田んぼが多かったときには、雨はゆっくりと地面にしみ込み海に戻っていました。しかし都市化が進み地面がアスファルトで覆われるようになると、地下に浸透せず直接下水道に入るようになりました。これが原因で都市型洪水やヒートアイランド現象などの障害も起きています。自然の循環が崩れかけているのです。



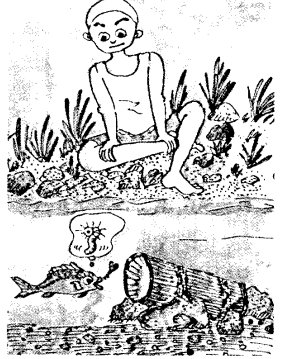
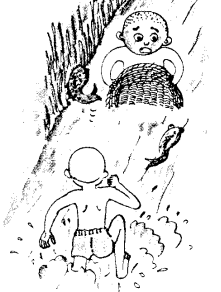
国立市水の懇談会

【誕生】 国立市の水道水には今でも地下水が半分以上は入っているため、都心に比べ「美味しい水」といわれますが、近年地下水の割合が減少しています。矢川の水も濁ることがあります。くにたちの水環境はどのようになっているのでしょうか。水循環基本計画の策定に向けて国立市は、市民やNPO団体、漁協、農業者、用水組合、事業者などに呼びかけ、2003(平成15)年に現在の「国立市水の懇談会」を立ち上げました。会では、調査を市内全域で行い、その結果を「くにたちの水循環市民プラン」としてまとめ、市へ提出しました。調査から生まれた提案は、これから策定する水循環基本計画に反映されることになっています。

【活動】 湧水・用水、井戸、昔の暮らし聞き取りの3つのワーキングチームによる調査の他に、雨水利用、学校のプール生き物調査、多摩川探検隊の3つの特別調査を行い、子どもたちも参加できる調査活動を展開しました。市民の皆さんに気軽に水のことを知ってもらえるようにと、この「くにたち水マップ」をつくりました。

暮らしの中の水

自然界で得られる水と人々の暮らしとは、切っても切り離せない関係にあります。しかし上水道やペットボトル入りの水が普及するにつれ、気候風土に恵まれた伝統的な水文化が日常から消えていきました。地域の方に昔の様子を尋ねてみると、自然と一体となった暮らしが浮かび上がってきます。



暮らしの中で育まれた知恵や工夫、仕事や遊びなどの話をされる時、どなたも楽しそうです。今よりも不便で貧しかった時代、それでも心の自由さがはじけていました。くにたちでは25年ほど前に国立市民具調査団(現国立の暮らしを記録する会)が大規模な聞き取り調査を行い、「国立の生活誌」としてまとめています。今回は「記録する会」の協力を得て水に関する話を転載しました。私たちは恵まれた国立の水文化を、今後も伝える努力をしていきたいと思ひます。

国立の生活誌「古老の語る谷保の暮らし」より  
国立市立国立第一小学校創立百年記念誌「谷保」より  
絵:早川 薫太郎

多摩川探検隊

多摩川で遊んだことはありますか? ちょっと前まで子どもたちはみんな水遊びや魚釣りに夢中でした。生活排水で水が汚れ、川が遊び場でなくなってしまったのはいつからでしょうか。でも川もずいぶんきれいになり、去年は鮎がいっぱい捕れました。3年前から毎年夏に、昔の悪がきの指導で魚釣りや投網の練習など、多摩川の遊びを復活しました。おとなも夢中になる体験を紹介します。



八月〇〇日 朝から晴れて暑い。班に分かれて投網の練習をする。なかなか上手に網が広がらず何度トライしてもたんだん広がらなくなってきたけど、漁業組合のおじさんのように二度で大きな魚は捕れない。な、手、魚、を、す、く、う、人、も、い、て、す、こ、い、今、度、は、あ、ん、ま、釣、り、に、挑、戦、竹、に、テ、ク、ス、を、結、び、針、に、は、さ、さ、し、ハ、エ、の、子、を、つ、け、る、水、の、中、で、半、を、細、か、く、動、か、す、の、が、コ、ソ、だ、け、と、け、つ、う、難、し、い、あ、ち、こ、ち、で、釣、れ、た、よ、と、嬉、し、い、さ、う、な、声、が、聞、こ、え、る、オ、イ、カ、ワ、タ、モ、ロ、コ、モ、ソ、ゴ、コ、イ、ジ、ユ、ス、カ、ケ、ハ、セ、ナ、マ、ス、ス、シ、ン、ビ、な、ど、が、捕、れ、た、

◆わさび田◆

山の下にかなり高い石垣があって、その下は清水が出てわさび田だった。小さな沢蟹がたくさんいて天ぷらにして食べた。大ひざ蛙もたくさんいて、捕らえたら足からクルリと皮をむき、囲炉裏の足付の金網で焼き、しょうゆをつけて食べたが美味しくスタミナがついた。戦争中までよく食べた。(青柳)

昔のくらし

◆川遊び◆

川でたらいに乗って遊んだ。身体が冷えると田んぼで浸かって暖めた。(坂下)

くにたちの井戸

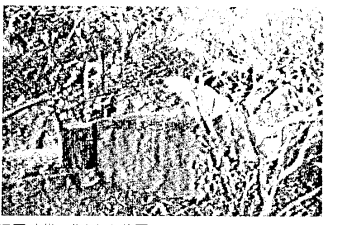
水道水源としての井戸 現在、私たちが飲んでいる水道水は、地下水が50%以上含まれています。この地下水を汲み上げている公共の井戸は市内に13本あります。

一般家庭の井戸 市内には個人所有の井戸が100カ所以上残っています。井戸はふだんから飲料用の他、撒き水や洗濯などの生活用水として利用されますが、災害時には飲料水・生活用水を確保するための貴重な水源となります。これらの井戸を保全していくことは節水や水循環の視点の他に、災害対策として重要な意味ももっています。

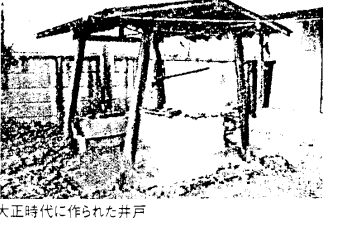
災害時に利用できる井戸 市では、一般家庭の井戸を災害時に飲料水や生活用水として使えるように、災害対策用指定井戸として24カ所指定していますが、必要十分な数とはいえません。今後、指定井戸を増やしていく必要があります。



近年に作られた井戸



江戸時代に作られた井戸



大正時代に作られた井戸

# くにたちの水循環市民プラン

—水循環基本計画策定におけた市民調査と提案—

2007年(平成19年)  
国立市水の懇談会





## はじめに(前文)

地球環境が壊れてきている。今年の暖冬だけでなく大雨や少雨など、季節感が狂うような年が毎年のように続く。この傾向は日本だけでなく世界共通の問題といわれる。オゾン層の破壊やエルニーニョ現象など、早急な対策が求められているが、その原因はひとつではない。では対策を講じる主体はどこにあるのだろうか。国か、地方自治体の責任か。私たち一人ひとりがやれることはないのだろうか。ここでは命のみなもとである水を取り上げ、市民から見た水循環を提案している。

水循環は水と密接に関わって暮らしてきた歴史を抜きには語れない。地域を流れる河川、湧き水や井戸。まさに水の恵みのもとで暮らしは成り立っていた。水源には水神さまを祭り、井戸にも感謝の気持ちをこめて井戸神様を祭ることで、自然への感謝の思いを現していた。

また、川の水を引いて田畑を作り、獲れた魚は貴重な蛋白源として利用し、交通の要でもあった。井戸や湧き水は生活の中心であり、子どもたちにとっては、川や用水などでの水遊び、魚とりなどは一番身近な遊びの場でもあった。

一方、こうした自然の恵みに頼る生活は非常に時間や労力を要し、人々は苦しい生活をよぎなくされていたことが聞き取りからも読み取れる。

時代が進み、人々が暮らしやすい環境を追い求めた結果、川は管理され、コンクリートやアスファルトが地面を覆い、下水道が完備され、いつでも水が豊富に使えるようになってきた。しかしその過程で大切なものが忘れ去られてきたのに気づく。水を自然の恵みとしていた時代は、川や地下水などを地域の共有財産として、力を合わせて守る工夫をしていた。それが地域のつながりの大きな土台にもなってきた。しかしペットボトル入りの「美味しい水」が普及した今では、蛇口から流れる水がどこから来たのか、そうした関心も失われている。このように自然と暮らしが切り離された結果、川の役割も大きく変わり、井戸はほとんどの家で姿を消した。東京の多くの地でほとんどの湧き水が涸れている現状である。

このまま資源を食いつぶすような生活を続けていいのだろうか。便利な生活を手放すことは出来ないにしても、もう一度水と暮らしとの関係を見直し、必要なものを再確認する中で新しい関係を再構築することを検討する必要がある。

国立市では「国立市水循環基本計画」を策定するにあたり、2002(平成14)年に職員による市内検討委員会を立ち上げ、2003(平成15)年8月に、「水循環に関する現状と課題について」と題する報告書をまとめた。また環境に関心のある市民やNPO団体、漁協、用水組合、農業者、事業者などに呼びかけ、「(仮)水資源、水環境の懇談会」を2003(平成15)年に立ち上げた。市はこの会を幅広い立場の市民と行政が協

議、協働するゆるやかな結合体として位置づけ、意見や考え方などを水循環基本計画に反映させるものとした。その後名称を「水の懇談会」と変更し、2004(平成16)年度からは机上のプランに終わらせず実際の市民の暮らしに直結した提案を目指すため、取り組み課題を整理して活動を具体化し3つのグループに分かれて調査をすることになった。

調査は、出来るだけ多くの市民や子どもたちも参加できるようなものを考え、基本調査は湧水・用水の環境調査と、井戸調査、水に関する昔の暮らし聞き取り調査の3項目と決めた。その他、特別調査として学校のプール生き物調査と、子ども中心の調査隊として2004(平成16)年度は湧き水探検隊、2005(平成17)年度、2006(平成18)年度は多摩川探検隊を実施した。活動途中で雨水の利用についても調査に加え、実際に雨水を溜めて利用する「雨タン」の設置活動を行っている。

「水の懇談会」では2005(平成17)年4月に中間のまとめを作成し、3項目の提案も行っているが、その後の調査も加え、「くにたちの水循環市民プラン」としてまとめることとなった。

この市民プランは、今後「国立市水循環基本計画」策定に向けた市内検討委員会へ提出し、市民の調査と提案を市の計画に反映させることとなっている。調査を重ねることで得た知識は提案としてまとめ、本市民プランの柱としたい。

## 目 次

・ワーキンググループ1	
湧水・用水調査のまとめ	1
・ワーキンググループ2	
フィールドワークによる井戸調査のまとめ	38
・ワーキンググループ3	
水に関する昔の暮らし聞き取り調査のまとめ	77
・雨水利用	128
・特別調査	
1. 学校のプールの生き物調査	147
2. 子ども達の湧き水調査	164
3. 親子で川の調査と遊びの体験	170
・その他の活動	182
・今後の取り組みについての提案	186
・資料	
提案書	188
水の懇談会等開催経過	190
水の懇談会名簿	198



ワーキンググループ1

湧水・用水調査班



## I 緒言

### 1. 調査の目的

国立市は、その南部に多摩川をはじめ矢川などの河川や用水が流れる。一方ハケと呼ばれる崖下など、あちこちに水が湧き出し、また市内全域が豊富な地下水にも恵まれる。このように国立市は、都内でも有数のすぐれた水環境の中にある。

これら水の流れの周辺には、かつて多くのさまざまな動植物が生息していた。

しかし最近農地や樹林が宅地や工場用地となるなど、急速な都市化の傾向は国立市も例外ではない。そのため湧水も湧水量も減少し、そこから流れる小河川や用水も多くが暗渠化されたり枯渇したりして、そこに棲息した動植物も姿を消してしまった。

そこでこのような国立市の貴重な水環境を取り戻し、動植物が水辺に戻ってくるよう、かつての豊かな自然環境を復元・保全するために、われわれが国立市民としても、なすべきことを考える。そのために、ワーキンググループ1では、まず国立市における湧水・川・用水の時代的変遷を明らかにし、これら水環境とそこに棲む動植物の現状を調査し、われわれが抱える問題点を指摘して、その対策の方法を提言する。

### 2. 調査項目

ワーキンググループ1は、上記目標達成のために、下記の3項目について調査する。

- ①湧水・川・用水の時代的変遷を明らかにする
- ②湧水・川・用水の水質調査を行う
- ③湧水・川・用水の生物調査を行う

### 3. 調査者

水の懇談会ワーキンググループ1のメンバー

笠間信也 神成カネ 佐藤富美 高山俊昭 濱里一明 矢野きく子  
山本修太 (計7名)

## II 湧水・川・用水の時代的変遷

### 1. 調査の目的

国立市内の湧水、河川、用水の変遷を明らかにする。またその結果をもとに、現在われわれが直面している問題点を指摘し、かつ将来のために何をなすべきかを提言する。

### 2. 調査の方法

古地図と現在出版され、一般に広く使用されている各種地図を対照することにより、過去と現在の湧水、河川、用水を比較し、加えて現地調査、地元住民の聞き取りを通して、その時代的変遷を明らかにする。

本調査に使用した地図は、下記の通りである。

- 明治初期に作成された古地図
  - 参謀本部陸軍部測量図 2万分の1を1万5千分の1に修正したもの  
明治15年測量、同27年修正
  - 国土地理院発行 1万分の1地形図 「立川」(東京10-2-4)  
昭和61年編集・平成11年修正(平成11年11月現地調査実施)
  - 国土地理院発行 1万分の1地形図 「国分寺」(東京10-2-2)  
昭和61年編集・平成11年修正(平成11年11月現地調査実施)
  - 国土地図株式会社 1万分の1「国立市全図」平成16年2月編図
  - ゼンリン住宅地図 東京都38 2千分の1
  - ゼンリン住宅地図 2006 06「東京都国立市」2千分の1
- その他若干の参考資料

### 3. 調査日と調査項目

平成17年1月29日	郷土館での古地図写真撮影
平成17年2月1日	国立市役所での古地図写真撮影
平成17年2月22日	立川市役所での古地図写真撮影
平成17年3月1日	国立市南部地域の現地調査

### 4. 調査結果

#### (1) 重点的調査地域

今回はとくに下記2地域を選定し、重点的に調査を行った。これら2地域を国土地図株式会社「国立市全図」に示すと、図1-1のようになる。

#### 西部地域(W) 市立国立第六小学校周辺地域

国立市青柳／谷保境界域とJR南武線周縁、及び国道20号線(甲州街道)北



側の地域。主として市立国立第六小学校周辺一帯。

#### 東部地域 (E) 谷保浄水所周辺地域

谷保浄水所とその北側及び東側一帯。

#### (2) 古地図と現況との対応

古地図と現在市販され、また一般に広く使用されている各種地図との比較は、主として、道路と地番を手掛かりにして行った。

#### 西部地域 (W)

本地域の古地図を縮小複写し、図 1-2 に示す。この図では道路は赤色、水路は紺色で表現されている。この古地図に示された水路を強調し、図 1-3 に水系図として示した。

本地域を「国立市全図」の中に示し、拡大したものが図 1-4 である。図の水色は現在の水路を示す。

図 1-3 と図 1-4 は次のような基準で対応する(地番については図 1-9 の参考資料を参照)。

本地域北部の都営矢川北団地北側の道路と地番 6659 (図 1-3 と図 1-4 の A、および写真 1-1)。

A の南側に隣接する地番 6658 地点 (図 1-3 と図 1-4 の B)。

本地域北西端の立川市との境界に接する土方邸とその東側に隣接する地番 6556 地点 (図 1-3 と図 1-4 の C)。

地番 6518 (図 1-3 と図 1-4 の D)。

地番 6619 で現在 JR 南武線矢川三号踏切南側のくにたち文具店のある地点 (図 1-3 と図 1-4 の E、及び写真 1-2)。

地番 6614 地点 (図 1-3 と図 1-4 の F)。

以上地点 A~F、都営矢川北団地北側の道路、および本調査地域の南部を流れる矢川をもとに、図 1-3 と図 1-4 は対応される。

#### 東部地域 (E)

本地域の古地図を縮小複写し、図 1-5 に示す。この図で紺色が水路を表す。この同じ図の水路のみを強調して水系図と示したものが、図 1-6 である。図中水色が水路を示す。

本調査地域を「国立市全図」で示し、拡大したものが図 1-7 である。図に示した水色は現在の水路を示す。

図 1-6 と図 1-7 に示した地域を道路と下記に示す地番 (図 1-10 の参考資料を参照) で、相互に対応させる。

A は地番 1569 により。

B は地番 1566 により。

C は地番 1615 により。

D は地番 1622 により。

E は道路と地番 1544 により。

F は道路と地番 1496 により。

### (3) 水路の時代的変遷

#### 西部地域 (W)

図 1-3 と図 1-4 を比較すると、本調査地域が JR 南武線の敷設開通、都営矢川北団地の建設、市立第六小学校の新設により、大きく変貌を遂げたことがわかる。その結果、古地図に示された道路は大幅に改修された。

矢川はまた谷川とも書き、立川段丘崖の麓から湧出する豊富な地下水が水源となっている。甲州街道を横断して府中用水の支流と合流する全長 1.5km の小川である。本調査地域における矢川は、もともと北西から南東方向に直流していたが (図 1-2、1-3)、国立第六小学校の建設に伴って、そのキャンパスに沿って屈曲する流路に変更された (図 1-4)。現在は河川改修が進み、清流となって市民の憩いの場となっている (写真 1-3)。

この地域の水系の変遷で顕著なことは、多くの水路が失われた現実である。矢川から流れ出す水路、あるいは湧水から矢川に流入する小川や用水は、現在ではほとんど見られない。

この事実を最近の数年に限ってみても、同様の傾向が認められる。数年を隔てて改訂された調査地域のゼンリン住宅地図によれば、矢川からの支流が何本か存在していたものが、僅か数年後に、主として矢川に平行して流れる用水が地表では直接見られなくなっている。一部は暗渠となり、また小さな水路は凹地となって、痕跡を残すのみである (写真 1-4)。

#### 東部地域 (E)

東部地域も谷保浄水所の建設など都市化の影響が見られるが、大部分の場所で、まだ昔からの道路がそのまま残されている。図 1-6 と図 1-7 を比較すると、西部地域同様、水路は驚くほど少なくなっている。調査地域中央を東西に流れる二本の水路は、北側が湧水の流れ、南側が田中堀と呼ばれる用水で、これはまだ昔の面影を残している。しかしこれから流出する、あるいは流入する南北の水路はほとんど姿を消してしまった。一方本地域の北部には豊富な湧水がみられ、また東から西への流れもあったという。

### 5. 問題点の指摘

国立市南部のハケに沿って存在した湧水は、その豊富な水量で知られた。現在も若干湧水の存在が知られている。しかしながら水量も減少し、湧水からの流れもあまり見られなくなった。かつてこの地域でも盛んだった稲作が衰退し、したがって田に水を引く用水も不要となった。加えて高速道路の建設、土地の

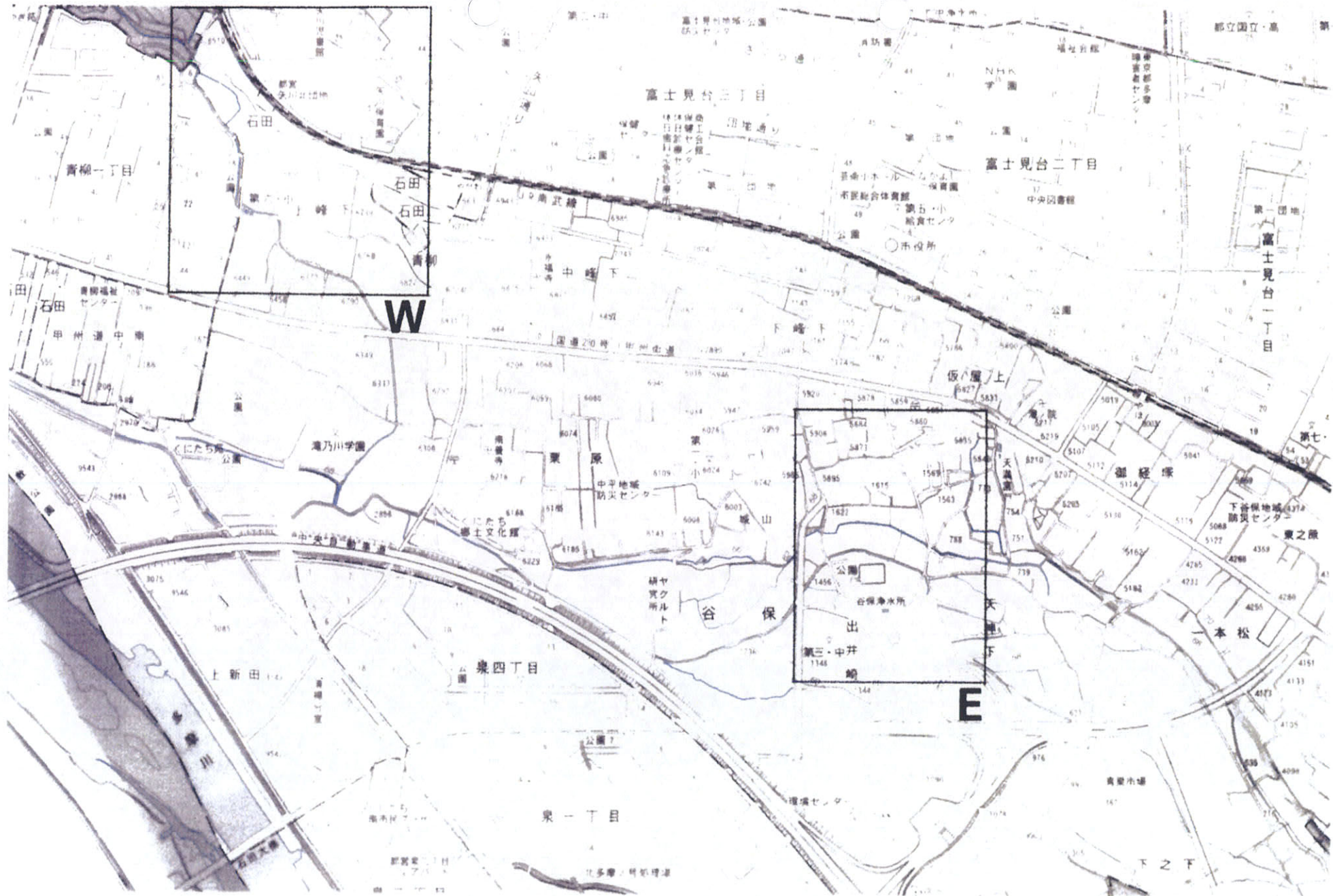
急激な宅地化や工場用地化により、残った河川や用水の大部分も暗渠化し、国立市が誇った湧水は、その存在意義を失う結果となっている。

## 6. 今後の取り組みと提言

国立市が文教都市として知られ、一度は住んでみたい街として多くの人があこがれる。しかし国立市の南部一帯が、豊かな田園地帯であること、あるいは田園地帯であったことを知る人は、地元住民でも少ない。国立市民はいま一度、市の南部の自然をどのように取り戻して保全するか、真剣に考慮すべきときに来ている。豊かな湧水とそこから流れる川の周辺には、動植物が集い、繁茂し、住民に安らぎを与える。稲作が衰退したいま、不要となった用水は、豊かな自然を守る新たな資源として活用すべきであろう。

### 添付図表

- 図 1-1 主たる調査地域
  - 図 1-2 西部 (W) / 古地図 (原図複写)
  - 図 1-3 西部 (W) / 古地図 (水系図)
  - 図 1-4 西部 (W) / 国立市全図 (水系図)
  - 図 1-5 東部 (E) / 古地図 (原図複写)
  - 図 1-6 東部 (E) / 古地図 (水系図)
  - 図 1-7 東部 (E) / 国立市全図 (水系図)
  - 図 1-8 参謀本部陸軍部測量図
  - 図 1-9 参考資料
  - 図 1-10 参考資料
- 写真 1-1、1-2、1-3、1-4



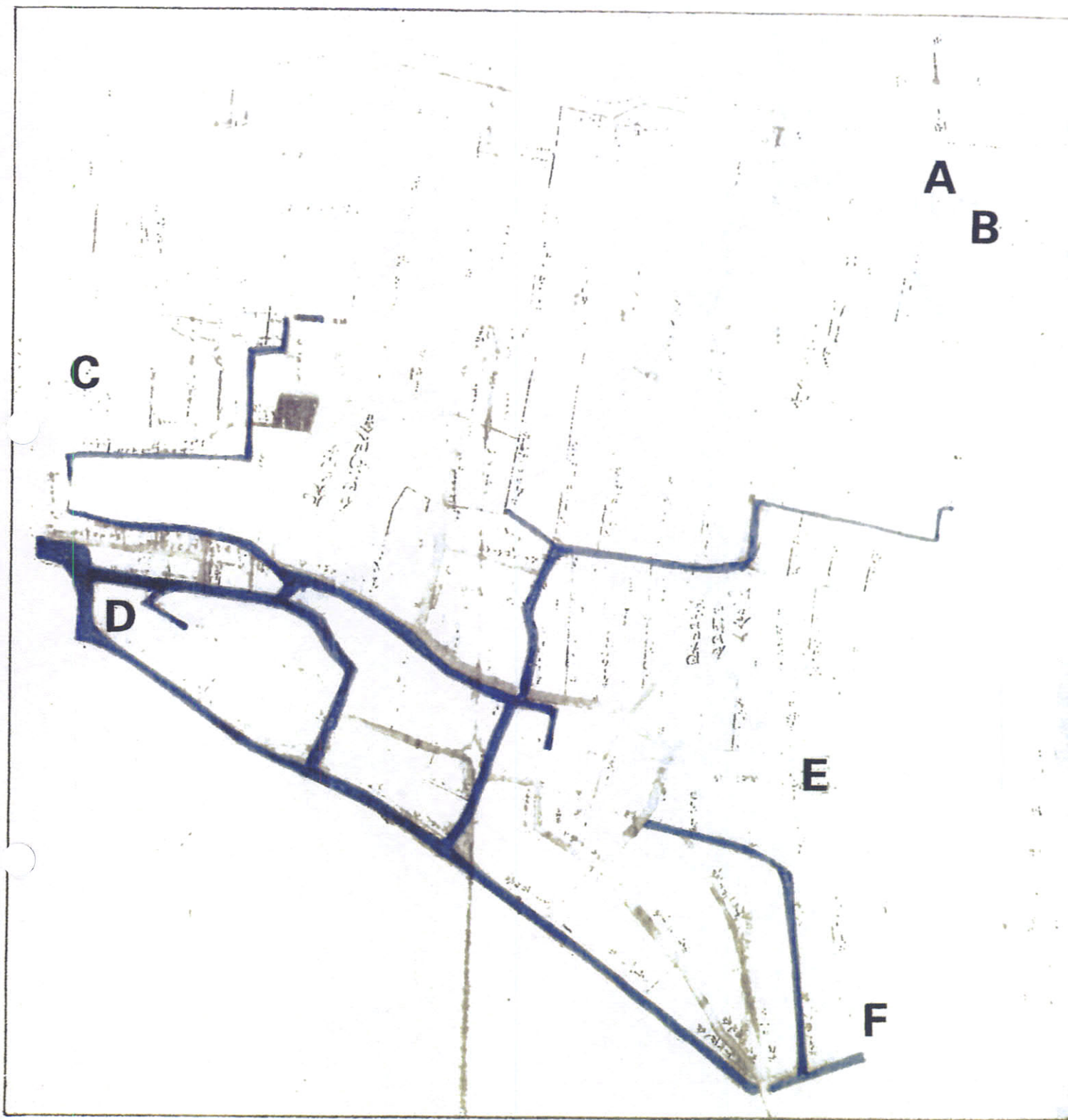
第1図 主たる調査地域 国土地図株式会社「国立市全図」に図示  
 W：西部地域 E：東部地域



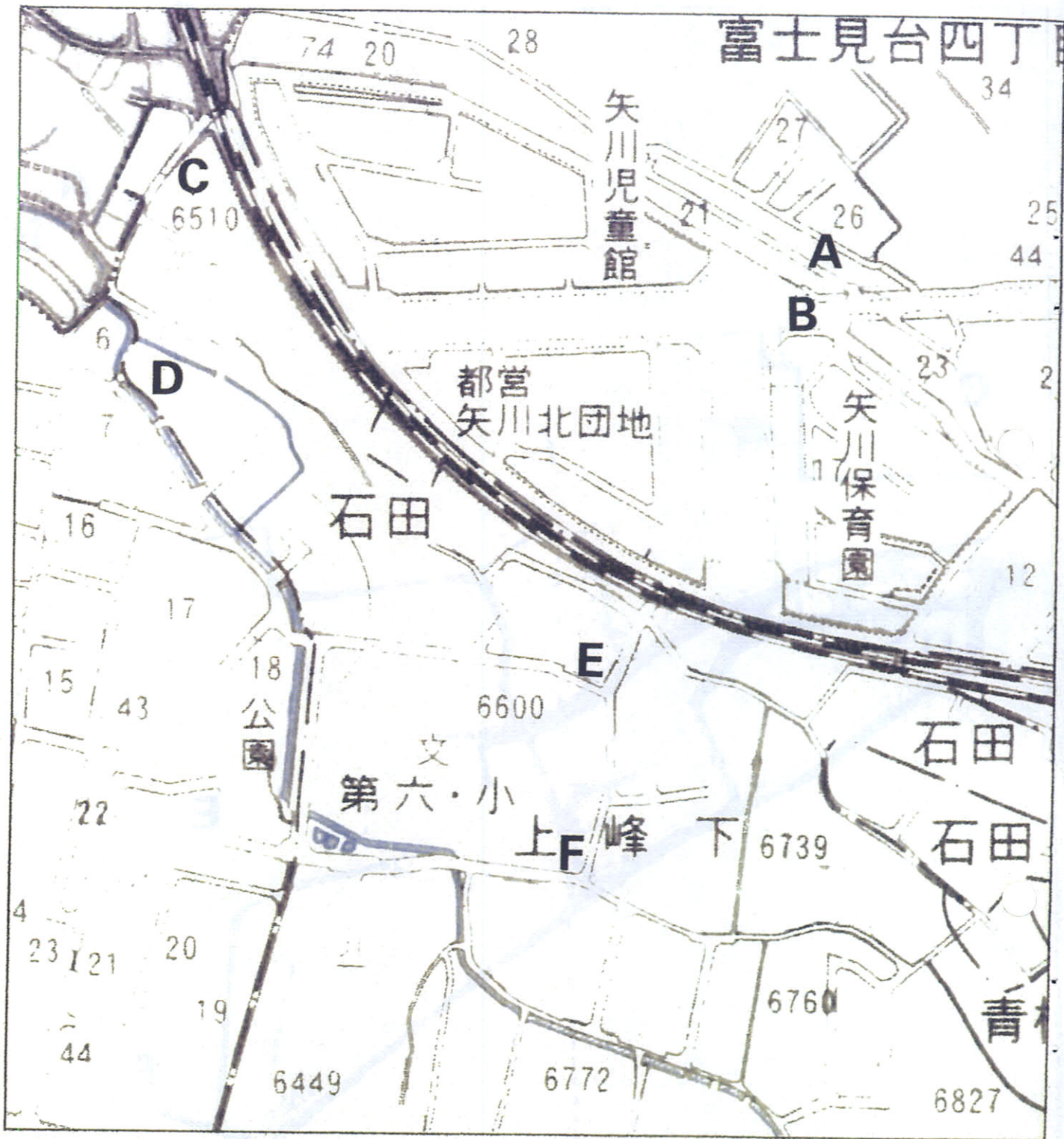


第2図 西部 (W) / 古地図 (原図複写)



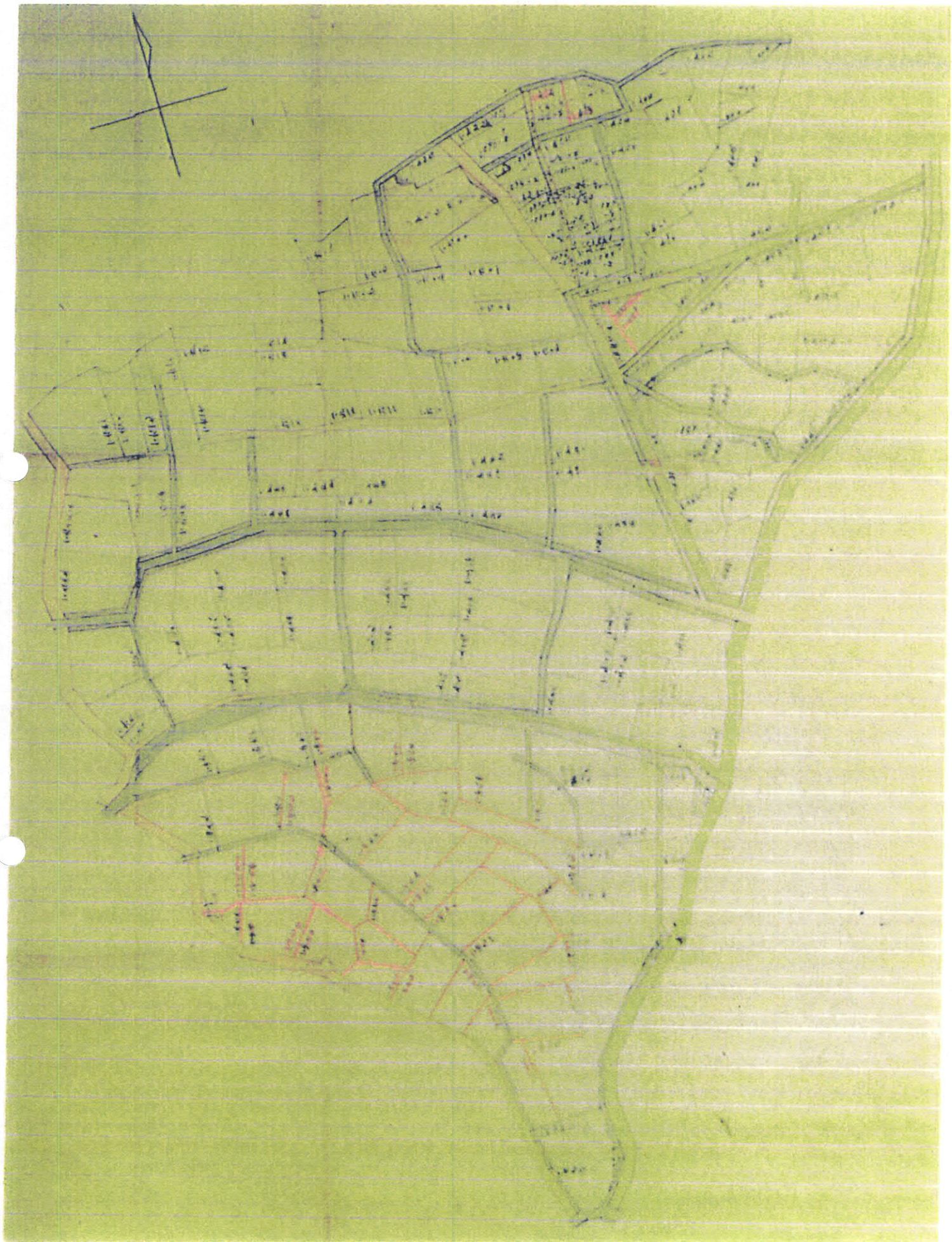


第3図 西部 (W) /古地図 (水系図)



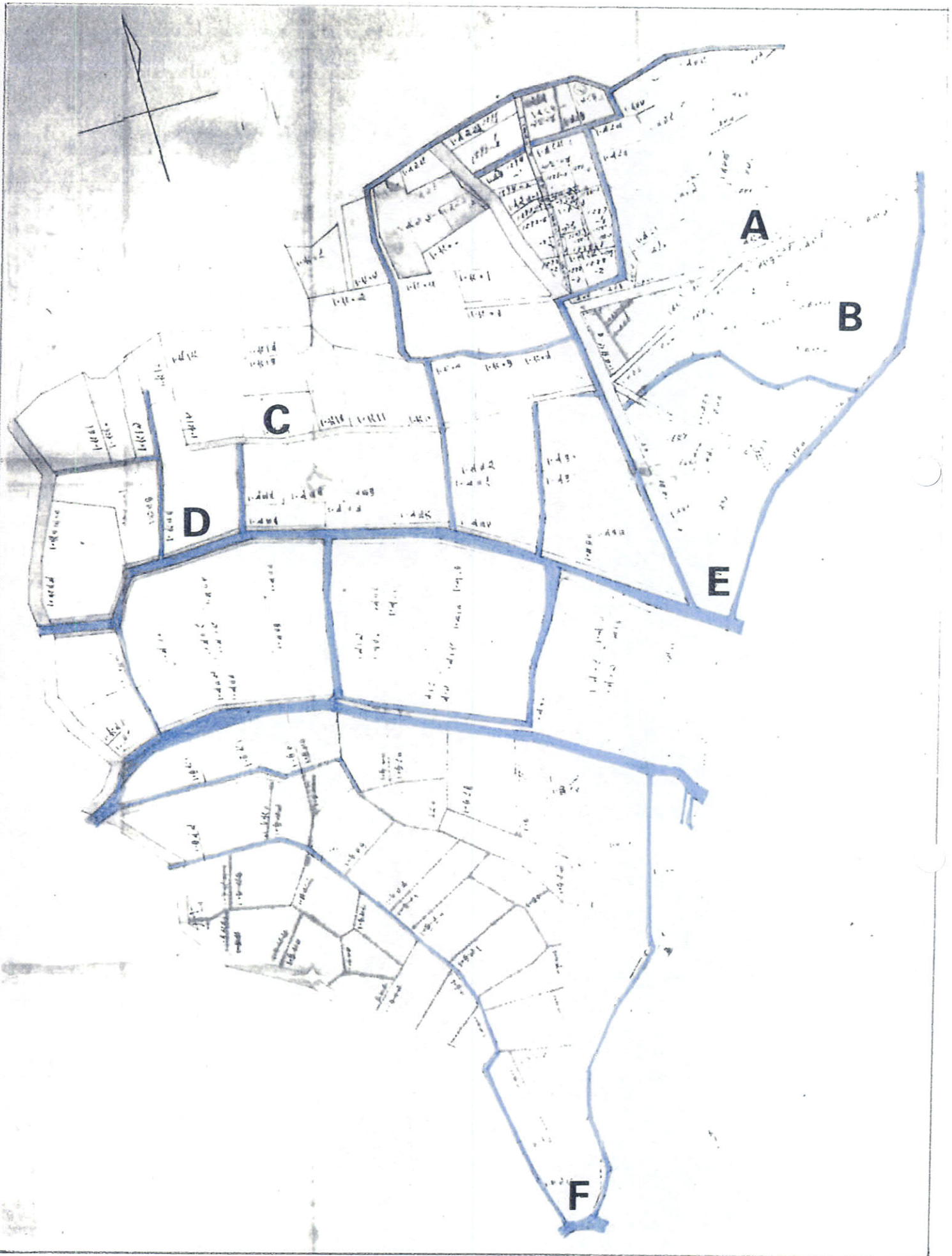
第4図 西部 (W) / 国立市全図 (水系図)



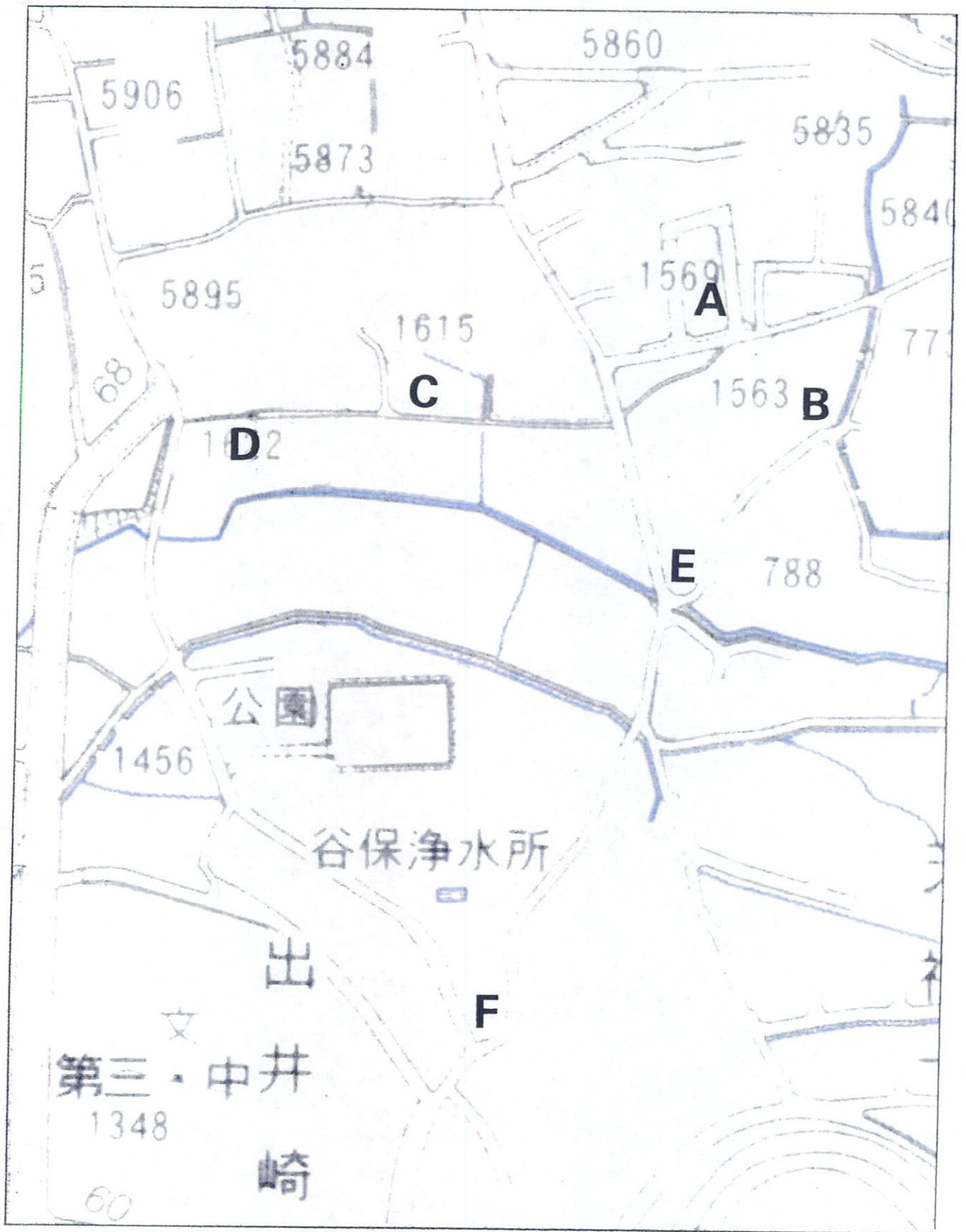


第5図 東部 (E) /古地図 (原図複写)





第6図 東部 (E) /古地図 (水系図)



第7図 東部 (E) / 国立市全図 (水系図)

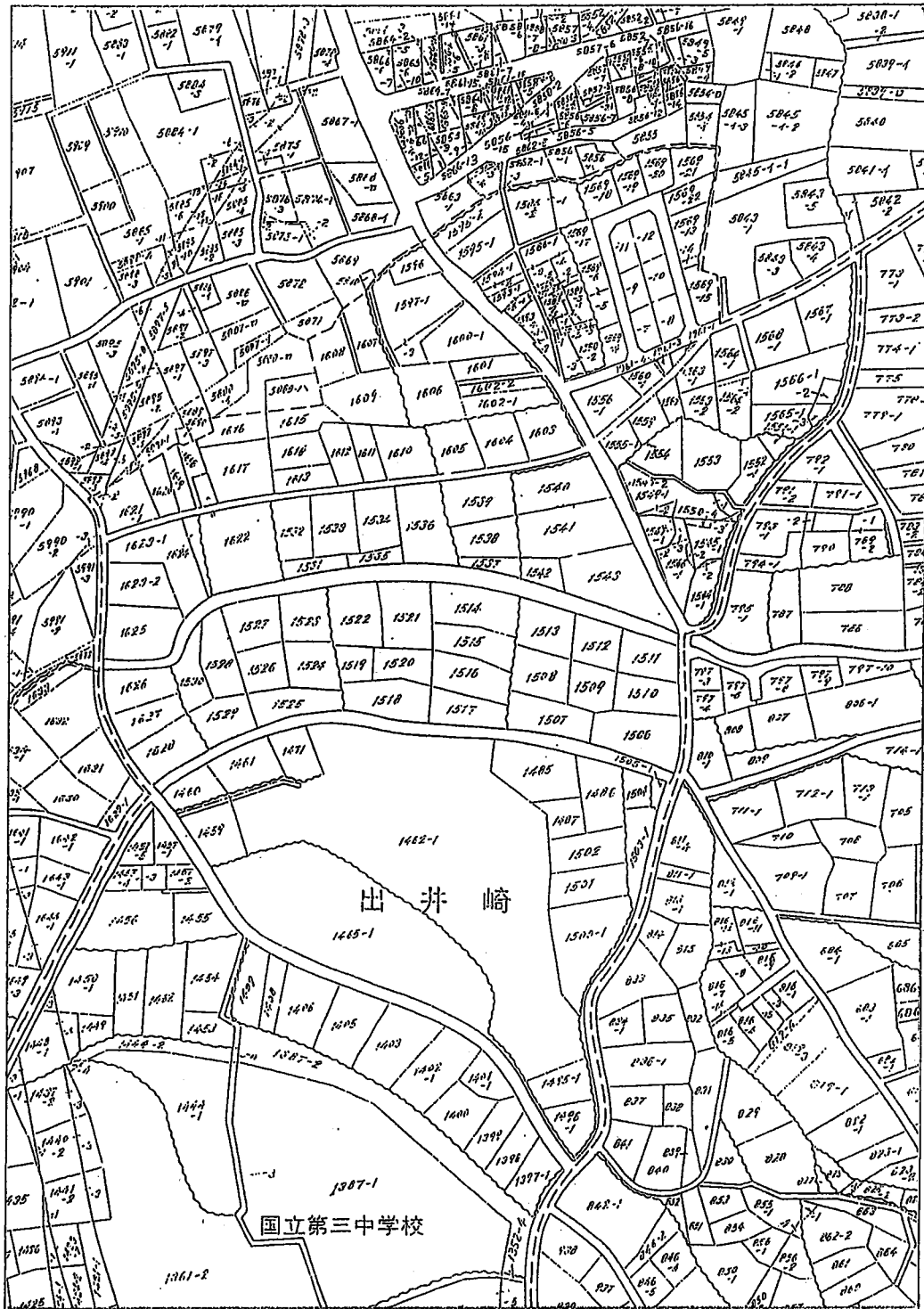


第8図 参謀本部陸軍部測量図





第9図 西部 (W) 参考資料



第10図 東部 (E) 参考資料



1 都営矢川北アパート北側の地番 6659 付近 (第3図と第4図のA・B)



2 地番 6619 (くにたち文具店) と JR 南武線矢川三号踏切 (第3図と第4図のE)





1 市立国立第六小学校キャンパスにそって流れる矢川



2 市立国立第六小学校北側（国立市谷保）に見られる水路跡

### Ⅲ 湧水・川・用水の水質調査

#### 1. 調査の目的

湧水・川・用水の水質を測定し、その結果を過去のそれと比較し、水質の経年変化を明らかにする。

#### 2. 調査地点（水質調査地点位置図参照）

- ①谷保用水 郷土文化館下
- ②谷保用水 おんだし上流（第5回は未実施）
- ③ママ下湧水
- ④多摩川（第6回、第7回のみ実施）

#### 3. 調査年月日

- ①第1回：平成16年9月18日
- ②第2回：平成16年12月19日
- ③第3回：平成17年6月5日
- ④第4回：平成17年8月31日
- ⑤第5回：平成18年2月4日
- ⑥第6回：平成18年6月4日
- ⑦第7回：平成18年9月5日

#### 4. 調査項目および方法

- ①水温（棒状ガラス製温度計）
- ②pH（ガラス電極pHメーター）
- ③電気伝導度（電気伝導度計）〈第4回目以降は未測定〉
- ④COD（簡易測定キットによる方法）
- ⑤アンモニア性窒素（簡易測定キットによる方法）
- ⑥川幅
- ⑦水深
- ⑧流量（流速計による方法）
- ⑨透視度（透視度計）
- ⑩色相・臭気（目視・官能法）

#### 5. 調査結果

別紙



## 6. 調査結果のまとめ（多摩川を除く）

### （1）谷保用水 郷土文化館下

pH は 6.9～7.2 の間で安定しており、この 2 年間で大きな変動は認められませんでした。COD とアンモニア性窒素については、平成 18 年 3 月以降増加傾向にあり、汚染が懸念されます。今後とも引き続き調査を行い、水質状況の推移に注意する必要があると思います。

### （2）谷保用水 おんだし上流

この地点は、郷土文化館下の上流側に位置しています。pH は、平成 17 年 6 月の測定値を除くと 7 付近で安定した値を示しています。COD とアンモニア性窒素については、郷土文化館とは異なった挙動を示していますが、年単位での経時変化をみると上昇傾向にあるようです。この地点においても、今後とも引き続き調査を行い、水質状況の推移に注意する必要があると思います。

### （3）ママ下湧水

pH は 6.1～6.7 の間で安定しています。COD は平成 17 年 8 月の調査から検出されており、その後増加の傾向を示しています。原因は特定できませんが、有機物や無機物による汚染があるものと考えられます。アンモニア性窒素は平成 17 年 6 月の調査から検出されており、COD 同様何かの要因でこの時期から汚染が始まったものと推定されます。前の 2 地点同様、今後とも引き続き調査を行い、水質状況の推移に注意する必要があると思います。

## 7. 調査結果のまとめ

昭和 50 年度から平成 17 年度までのデータを用いて考察します。

pH が環境基準（B 類型：6.5 以上 8.5 以下）を超過したのは昭和 61 年度だけであとはすべて基準内でした。傾向は、上下しながらも経年的に単調増加の兆しが認められます。

DO は、環境基準（B 類型：5 以上）を下回ったことはありませんでした。平成 4 年度を境として安定した数値を示しています。

BOD、COD、SS については、DO 同様、いずれも平成 4 年度を契機として水質が非常に良くなっており、このとき以降、pH も含めてこれらの項目について環境基準（B 類型：BOD 3 mg/L 以下、SS 25 mg/L 以下、COD 基準なし）をすべて満足しています。

この原因は、下水道の接続によるものであると思われます（国立市内の下水道普及率は、平成 6 年度末に 100% を達成しています）。自然環境（特に水質について）を保全してゆく上で、下水道の果たす役割がいかに大きいものであるかがこれらのデータから認識することが出来ます。

<参考> 矢川 甲州街道下

調査結果：別紙

国立市が調査したものであり数値は年間平均値を表しています。

## 9. 用語の説明

### ①pH（水素イオン濃度）

ピーエイチ（英語）またはペーハー（独語）と読み、水が酸性であるかアルカリ性であるかを示す数値です。pH7 が中性でそれより数値が大きければアルカリ性、小さければ酸性であることを意味します。単位はありません。

### ②BOD（生物化学的酸素要求量）

微生物が、水中の有機物等を二酸化炭素や水などに分解するために必要とする酸素の量のことです。河川水の汚濁の度合いを示す代表的な指標で、この数値が大きいかほど水は汚れていることとなります。魚が棲息できる BOD 濃度は 5mg/L 以下、悪臭が発生し始める濃度は 10 mg/L といわれています。

### ③COD（化学的酸素要求量）

過マンガン酸カリウムなどの酸化性物質が、水中の有機物を二酸化炭素や水などに分解するために必要とする酸素の量のことです。有機物の他に一部の無機物も測定値に含まれます。海域や湖沼の汚濁の度合いを示す代表的な指標で、この数値が大きいかほど水は汚れていることとなります。湖沼等の非常に清澄な水は、1 mg/L 以下、水道原水として使用される水は 3 mg/L 以下、不快を感じない程度は 8 mg/L といわれています。

### ④DO（溶存酸素）

水中に溶けている酸素の量のことです。酸素の少ない川では、悪臭が発生し、魚介類は生存できなくなります。悪臭発生の限界は 2 mg/L といわれています。

### ⑤SS（浮遊物質量）

水中に浮かび、ただよっている物質（プランクトン、生物体の死骸・破片・糞やその分解物、それに付着する微生物などの有機物、および泥粒などの無機物）のことです。これが多いと川底にヘドロ等がたまったり、魚介類に悪い影響を与えます。

### ⑤アンモニア性窒素

窒素は、自然界では種々の形態をとりつつ循環しており、水中では動植物体に由来する有機体窒素とアンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、硝酸性窒素等の無

機体窒素の形態で存在しています。アンモニア性窒素とは、水中に含まれるアンモニウム塩あるいはアンモニア中の窒素のことをいいます。このアンモニア性窒素は、主として、し尿、生活雑排水等に由来する 경우가多く、水の汚染指標として重要視されています。

#### ⑥電気伝導率（電気伝導度）

電気伝導率は、電気の通り易さを示すものです。単位は、“ $\mu\text{S}/\text{cm}$ （マイクロジーメンズ/センチメートル；正式には $\text{mS}/\text{m}$ （ミリジーメンズ/メートル）”を用います。きれいな湧き水では、 $100\mu\text{S}/\text{cm}$ （ $10\text{mS}/\text{m}$ ）以下を示します。

電気伝導率は、用水・河川水・湧水等への下水・し尿・工場排水などの混入の推定に利用されます。

#### ⑦透視度

透視度とは、水の透き通りの度合いを示すもので、水層を通して底に置いた標識板の二重線が初めて明らかに見分けられたときの水層の高さ（深さ）を表します。したがって、透視度の数値が大きいほど透き通った水ということになります。

単位は、“ $\text{cm}$ （センチメートル）または 度”で表します。

表 1-1 谷保用水 郷土文化館下 データ

採水日 \ 項目	pH (-)	EC (mS/m)	COD (mg/l)	アンモニア性窒素 (mg/l)
H16.9.18	6.9	14.8	7	0.16未満
H16.12.19	7.3	21.0	4	0.16
H17.6.5	5.3	24.1	6	0.2
H17.8.31	7.0	-	13	0.4
H18.6.4	7.2	-	8	0.6
H18.9.5	7.1	-	18	0.4

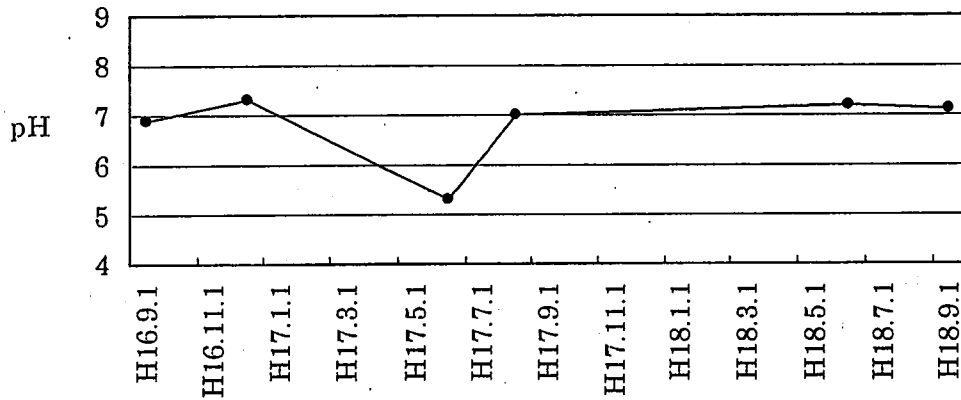


図 1-11 谷保用水 郷土文化館下 PH

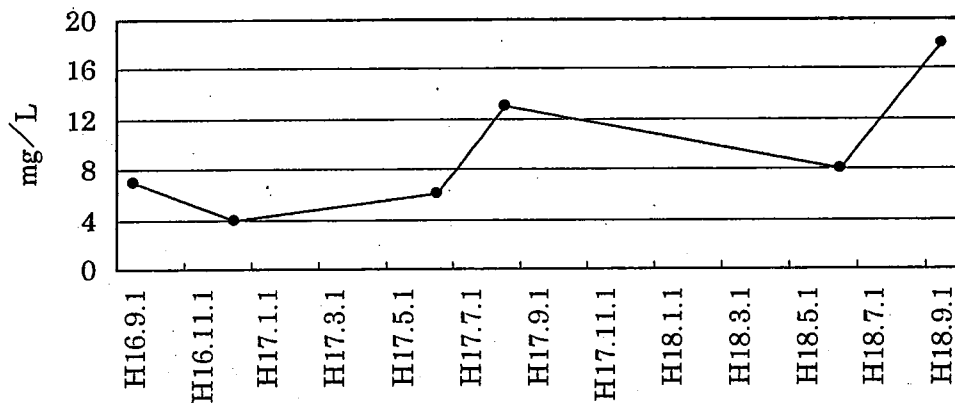


図 1-12 谷保用水 郷土文化館下 COD

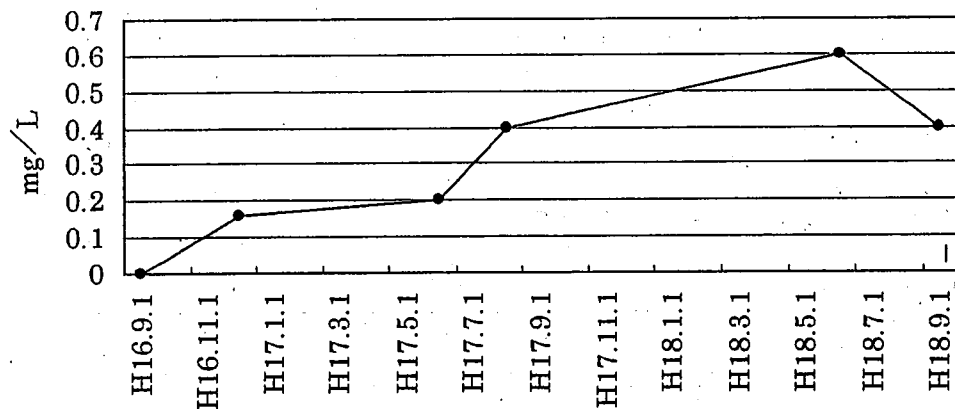


図 1-13 谷保用水 郷土文化館下 アンモニア性窒素

表 1-2 谷保用水 郷土文化館下 データ

採水日	項目	pH (-)	EC (mS/m)	COD (mg/l)	アンモニア性窒素 (mg/l)
H16.9.18		7.2	14.1	7	0.16未満
H16.12.19		7.0	20.5	1	0.16
H17.6.5		7.2	24.3	6	0.2
H17.8.31		6.9	-	10	0.2
H18.2.4		6.5	-	1	0.16未満
H18.6.4		7.1	-	7	0.25
H18.9.5		7.1	-	13	0.4

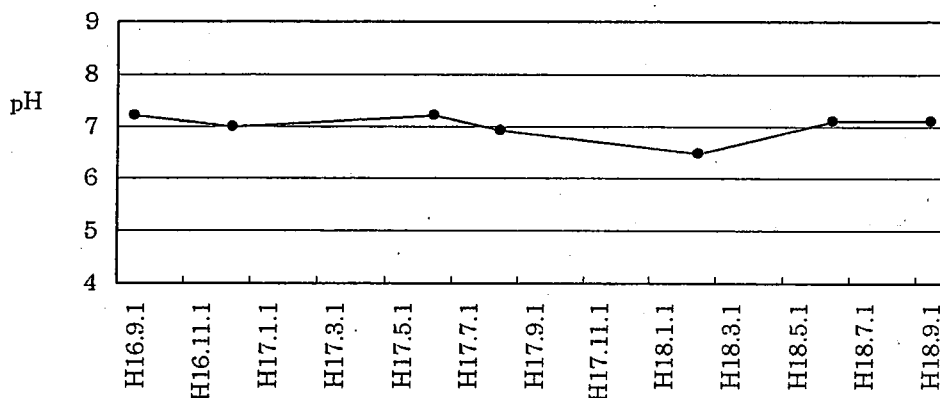


図 1-14 谷保用水 おんだし上流 PH

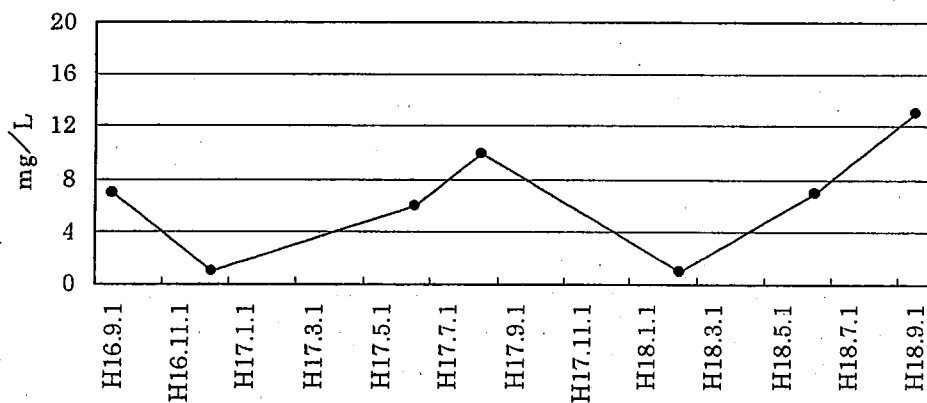


図-15 谷保用水 おんだし上流 COD

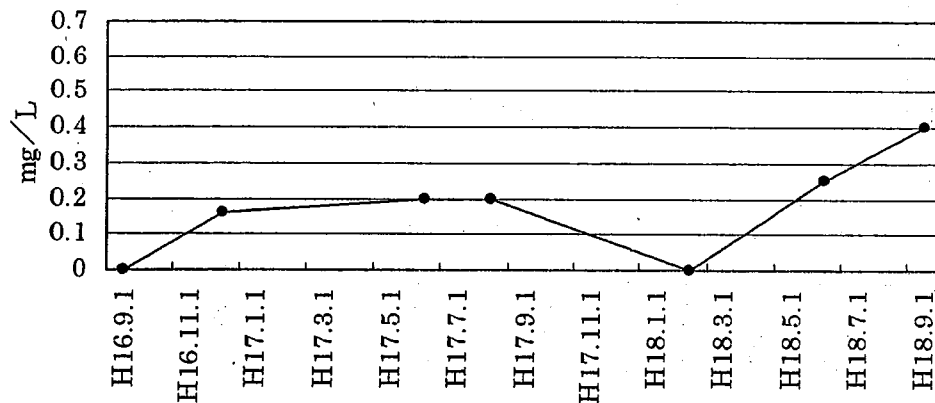


図 1-16 谷保用水 おんだし上流 アンモニア性窒素

表 1-3 ママ下湧水 データ

採水日	項目	pH (-)	EC (mS/m)	COD (mg/l)	アンモニア性窒素 (mg/l)
H16.9.18		6.5	11.3	0	0.16未満
H16.12.19		6.1	21.8	0	0.16未満
H17.6.5		6.7	25.6	0	0.3
H17.8.31		6.4	-	1	0.1
H18.2.4		6.5	-	3	0.16
H18.6.4		6.4	-	3	0.2
H18.9.5		6.6	-	5	0.16未満

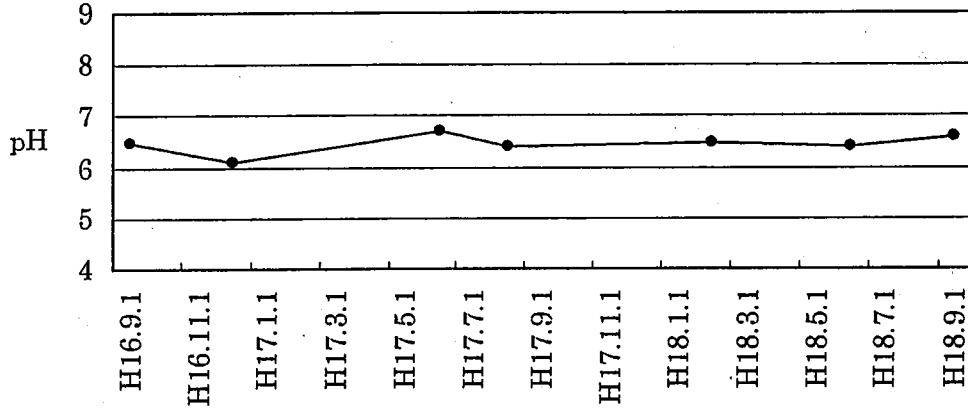


図 1-17 ママ下湧水 PH

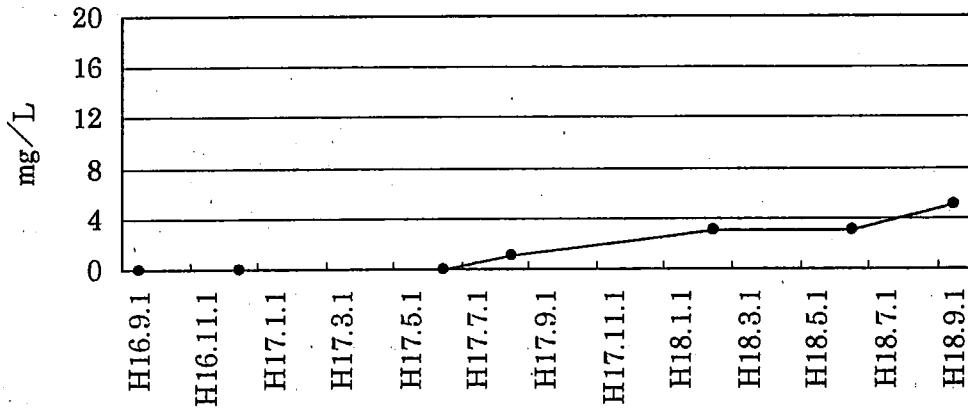


図 1-18 ママ下湧水 COD

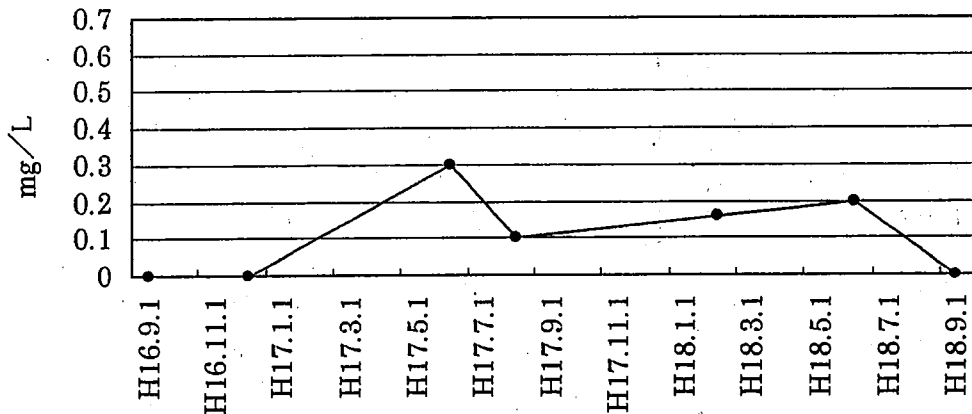


図 1-19 ママ下湧水 アンモニア性窒素

表 1-4 矢川甲州街道下流 データ

項目 \ 年度	S50	S51	S52	S53	S54	S55	S56	S57	S58	S59	S60	S61	S62	S63	H01	H02	H03	H04	H05	H06	H07	H08	H09	H10	H11	H12	H13	H14	H15	H16	H17
pH (-)	6.8	6.9	7.2	7.0	6.9	6.8	6.9	6.9	6.9	7.3	7.0	6.4	7.0	6.8	6.9	7.1	6.9	7.0	7.3	7.2	7.0	7.3	7.1	6.9	7.2	7.1	7.4	7.4	7.2	7.5	7.5
DO (mg/l)	8.7	8	7.2	7.0	7.0	8.0	7.1	7.0	7.8	5.8	6.6	7.4	5.7	7.8	8.9	9.3	9.1	10.3	10.0	10.2	9.9	9.4	9.8	9.6	10.1	9.4	9.6	9.7	9.7	9.3	10.3
BOD (mg/l)	5.1	15	13	14	10	15	16	18	18	34	12	16	19	11	7.5	6.5	4.0	2.1	2.3	2.7	2.2	2.5	1.8	2.9	2.2	2.0	1.2	1.6	1.3	1.1	1.1
COD (mg/l)	5.2	9.5	8.6	6.5	4.8	5.5	7.8	8.9	3.7	11	8.7	6.2	7.9	7.8	5.4	3.4	2.7	2.0	2.3	2.3	1.3	1.6	1.5	1.8	1.9	1.6	1.2	1.7	1.8	2.0	2.0
SS (mg/l)	8	12	12	21	17	13	19	16	43	17	11	10	9	11	7	9	5	7	3	3	2	1	4	2	2	3	5	3	5	5	4

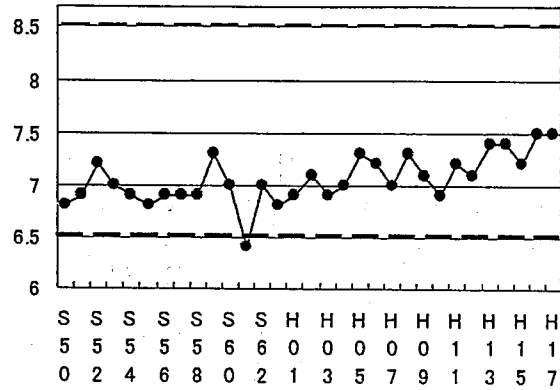


図 1-20 矢川甲州街道下流 pH

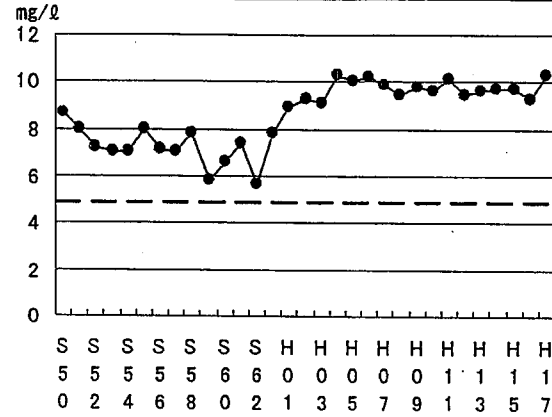


図 1-21 矢川甲州街道下流 DO

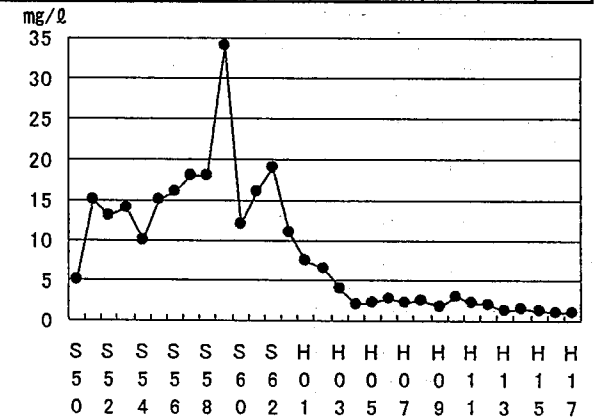


図 1-22 矢川甲州街道下流 BOD

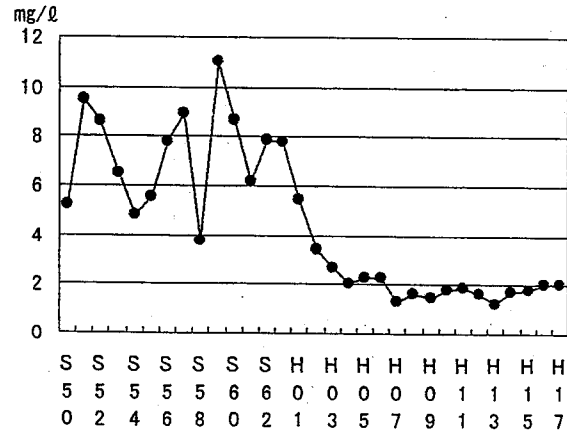


図 1-23 矢川甲州街道下流 COD

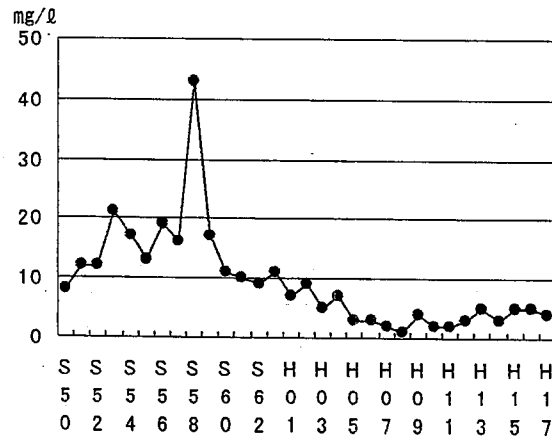
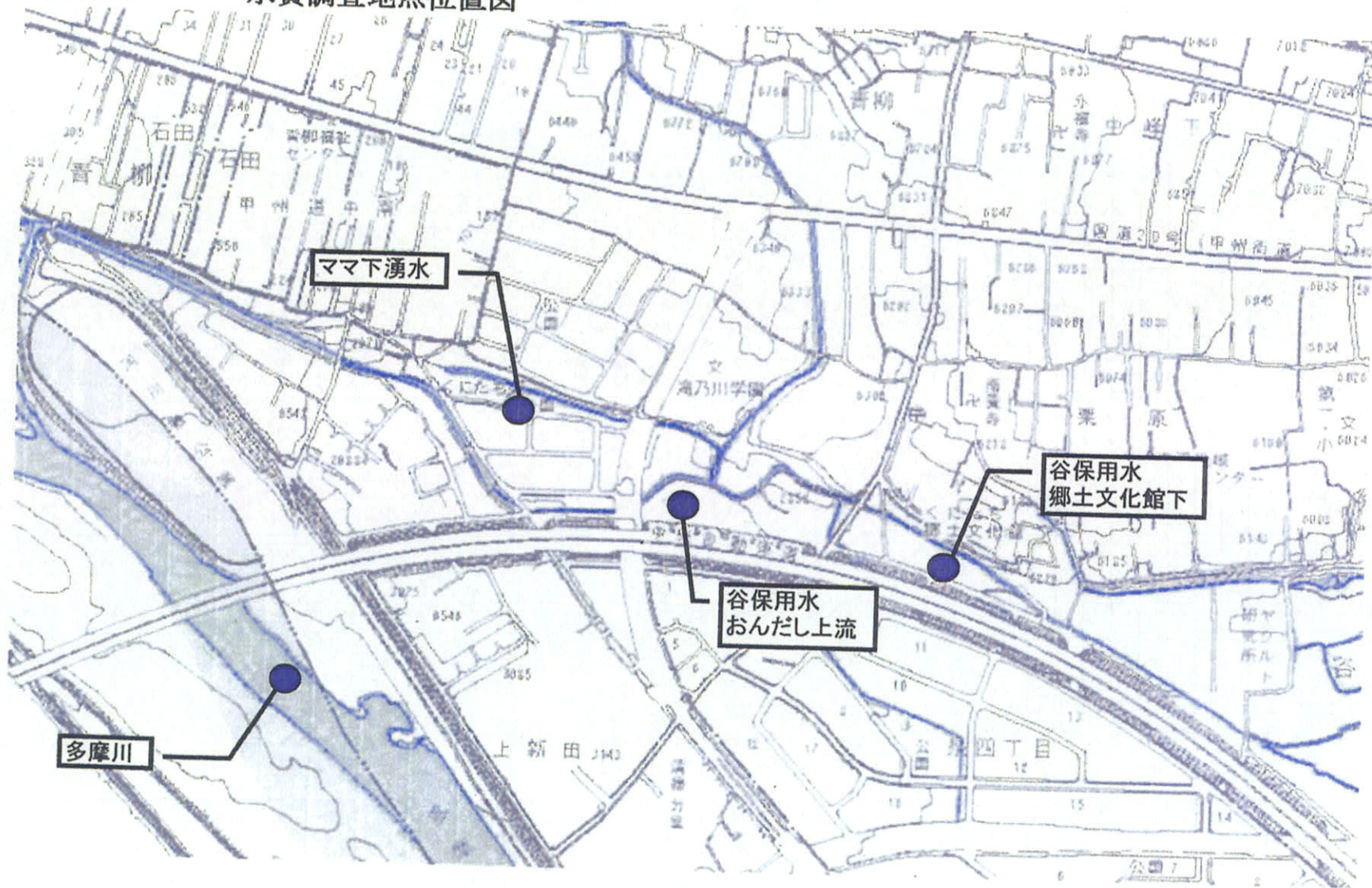


図 1-24 矢川甲州街道下流 SS

---:環境基準(B類型)

図1-25 水質調査地点位置図





#### IV 湧水・川・用水の生物調査

##### ■水生動物調査

##### 1. 調査日・調査地点

調査日	調査地点			
	矢川	ママ下の川	谷保用水	多摩川
平成16年9月18日	○	○	○	
平成16年12月19日	○	○	○	
平成18年6月4日	○	○	○	○
平成18年6月9日	○	○	○	○
平成18年9月2日	○	○	○	○
平成18年12月10日		○		

##### 2. 調査結果

別紙

##### 3. 調査結果のまとめ

- ①郷土文化館下は生物相の変動は少なく、出現種が多様で出現数も安定した水域であった。
  - ②おんだし上流は止水期もあるので季節変動がおおきく、生物がほとんど確認されない時もあった。
  - ③ママ下湧水は、生物相の大きな変動はなかったが、出現種および出現数は少なかった。ママ下湧水は、他の水域と比較して、きれいな水域だが、栄養源（有機物）が少なく、生物の餌となる珪藻類等の繁殖が困難な状況下にあるものと考えられた。
  - ④いずれの調査地点も、生物が生息するうえで水質的な問題はないので、安定した水量や周辺環境を整えば、多様な生物相になると推測された
  - ⑤平成4～6年の調査記録と比較すると、今回確認できなかった動物として、ヒメゲンゴロウ、マメゲンゴロウ、コガムシ、ミヤマチャバネセセリ、ニジマスがあげられる。また水生の甲虫も見られなくなった。尚ニジマスはその頃放流した魚で、元々いない魚である。
- \*今回調査の対象とした底生の顕微鏡的小型生物については、過去の調査資料が見つからなかったため、考察ができなかった。

## ■植生調査

### 1. 調査日・調査項目・調査地点

調査日	調査地点		
	矢川	ママ下の川	谷保用水
平成16年10月18日	○	○	○
平成17年2月21日	○	○	○

### 2. 調査結果

別紙

### 3. 調査結果のまとめ

#### ①現在見られる水草

貧栄養の水を好むナガエミクリとセキショウが見られた。地域的に見られなくなった種は富栄養を好む種で以下のようなものである。

オンダシ : コカナダモ、ミクリ、カワジシャ

ママ下の川 : ミクリ、

矢川 : コカナダモ

ヤクルト横 : ササバモ

②下水道整備以前（平成初期）に行った聞き取りから、下水道整備前の優占種は、富栄養水に生育する植物が多い。

矢川 : アイノコイトモ（貧栄養の水でも富栄養の水でも生育する種）\*1

用水 : 富栄養を好む、クロモ、コカナダモが一面に生えていた

オンダシ下流 : 富栄養を好むヒルムシロが一面に生えていた

#### ③下水道整備に伴い、当たらなくなった植物

富栄養を好む オオカナダモ、クロモ、コカナダモ、ヒルムシロは減った。

現在見られる植物

生活雑排水が影響を与えなかった時代のきれいな水に多く見られた貧栄養性の ナガエミクリ、アイノコイトモが見られる。帰化植物のオオカワジシャとホザキノフサモが全体的に増えている。

### 4. 考察

かつて矢川には生活雑排水が垂れ流しになっていた時代があり、水草は富栄養に対応した種が繁茂していたが、下水道整備後は、湧水を水源とした矢川、ママ下の川では、貧栄養を好む種に変わり、従来水草に戻ったと思われる。過去と変わった点は、帰化植物の進入が見られ増えていることがわかった

府中用水、石田街道と交差する地点では、以前は、コセンダングサと、ヒメ

ガマが優占種であったが現在は、富栄養性のミクリが全面覆い尽くして生育している。

\*1：アイノコイトモはイトモとヤナギモの交雑種で貧栄養、富栄養の双方で生育する

富栄養：水中に栄養になる有機物などが多い水（汚染された水）

貧栄養：湧き水のように栄養になる物質が溶けていない水

表 1-6 出現した水生動物

調査地点	出現した水生動物		平成16年4月～平成18年9月		
	谷保用水 郷土文化館下	谷保用水 おんだし上流	ママ下湧水	多摩川 (参考)	
I きれいな水	カワゲラ類				
	シロタニガワカゲロウ	●	●		●
	エルモンヒラタカゲロウ				
	シロハラコカゲロウ	●		●	
	その他のカゲロウ類	●	●		●
	ウルマーシマトビケラ				●
	ニンギョウトビケラ	●			
	ヒグナガトビケラ科	●			
	ナガレトビケラ類				
	ヤマトビケラ類				
	その他のトビケラ類	●	●	●	
	ガガンボ類	●		●	
	ブユ類	●		●	
ヨコエビ類	●	●	●		
ウズムシ類	●	●			
II 少しよごれた水	サナエトンボ科	●			
	オニヤンマ			●	
	コオニヤンマ			●	
	ハグロトンボ	●		●	
	コガタシマトビケラ	●	●	●	
	ゲンジボタル				
	ヒラタドROMシ属				
	スジエビ				
	ヌカエビ				
	カワニナ				
シジミ (クイナシシ'ミ?)	●		●		
III きたない水	サホコカゲロウ	●		●	●
	アメリカザリガニ	●	●	●	
	ミズムシ	●	●	●	●
	ヒル類	●	●	●	●
IV 大変きたない水	ユスリカ類	●	●		●
	イトミミズ類		●	●	●
	サカマキガイ				
	ミズダニ類	●	●	●	

表 1-7 出現した水草

	谷保用水	谷保用水	ヤクルト	ママ下の川	矢川		備考
	郷土文化館下	オンダシ上流	南東上流		おもかげ橋	滝乃川学園	
ナカエミクリ	1			5	2		
ホサキフサモ	r						
アイノイトモ					+		
オオカリシヤ	r		r				帰化植物
オランダカラスシ(クレソン)						r	帰化植物
ミソソバ				1	1		
セキショウ			+	3		1	
セリ				1			
シユスダマ					1		

被度 5 : 75~100%

被度 4 : 50~75%

被度 3 : 25~50%

被度 2 : 5~25%

被度 1 : 0~5%

まれ : r わずか : +



シロタニカワカゲロウ



コカダシマトビケラ



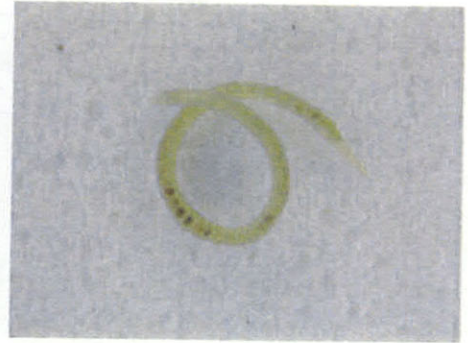
ユスリカ



シロハラコカゲロウ



サホコカゲロウ



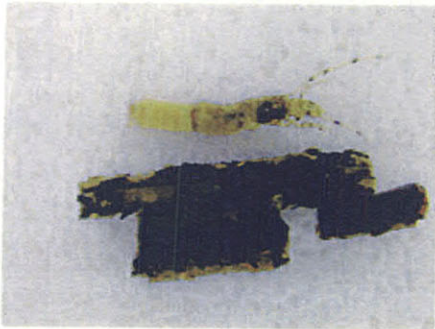
イトミミズ



ニンギョウトビケラ



アメリカザリガニ



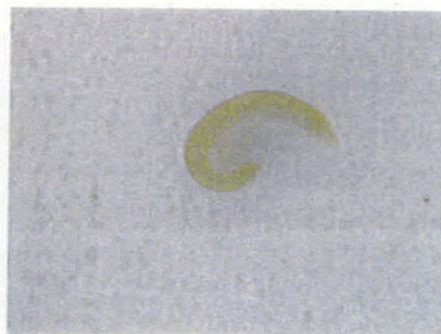
ヒゲナカトビケラ



ミスムシ



ブユ科



シマインビル







## V. 市民対象学習会

府中用水の全国疎水百選への入選を記念して、市民を対象にして府中用水の学習会を現地にて行った。

学習会 全国疎水百選入選記念事業「初夏の府中用水をたずねて」

### 主旨

府中用水は、江戸時代の初期に開削された全長6kmの農業用水で、国立市青柳で多摩川から取水され、途中で崖線からの豊かな湧水を受け入れつつ、約30haの田畑を潤しながら府中市是政まで続いている。用水は本来の農業用灌漑としての役割以外にも、貴重な水辺空間としての景観を創出し、様々な動植物の生息の場となり、子ども達にとっては生き物とふれあえる遊びの場となり、大人にとっては、憩いの場としても重要な役割を担っている。しかしながら、時代の変遷とともに農地の宅地化や農業用水の暗渠化が進み、府中用水も本来の姿を失いつつある。疎水百選入選をよい機会として、もっと多くの市民に用水の果たしてきた役割や歴史を知ってもらい、貴重な府中用水の保全につながるよう企画した。

### 実施日時

7月29日（5月27日の雨による順延）。午前9時～12時。

### 行程

府中用水取水口→谷保堰→おんだし→あくすい→文化館下→古民家南→城山→谷保天神南→谷保天神

### 学習内容

取水口にて ・府中用水の歴史について

・用水の管理や利用について

あくすい ・湧水と用水の分流について

郷土文化館下 ・水質検査としての生物調査を実施

・用水の生態系について

ヤクルト南側の用水分岐点 ・用水から分岐した流れを切り口とした用水に関する農業の歴史について

天神下の田んぼ ・用水と田んぼが作る憩いの場として景観としての機能、教育的機能について

谷保天満宮 ・用水の役割について

・まとめ

### 講師

WG 1の笠間、三田、山本、矢野、環境管理係堀江係長で分担。

（府中用水土地改良区に依頼したが、スケジュールの調整ができなかった）

#### 全国疎水百選とは

農林水産省では、日本の美しく豊かな”水・土・里”を育て維持していくことが重要と考え、なかでも農業のための用水をテーマとして疎水百選を実施した。

農業に利用されている。歴史的施設がある。農村景観、生物がすむ環境が作られている。地域コミュニティとしての役割を持つ。以上の4点が選考基準となっている。





府中用水取水口にて設備と歴史を学習



府中用水と谷保用水に分かれる谷保堰で、水にまつわる昔の生活について学習



矢川、ママ下湧水の水が合流した府中用水の流れ



ママ下湧水で湧水の学習



農作業中の方から、国立市農業の現状などの説明を受けた



あくすいで用水と湧き水が分流される



最後に立ち寄った谷保天満宮境内の滝で涼をとった。

## VI 調査結果のまとめ

### (1)水路の時代的変遷

古地図と現在使用されている地図を対照することにより、過去と現在の湧水、河川、用水を比較し、加えて現地調査、地元住民の聞き取りを通して、その時代的変遷を明らかにした。

#### ①西部地域 (W)

J R南武線の敷設開通、都営矢川北団地の建設、国立市立第六小学校の新設により、大きく変貌を遂げたことがわかる。その結果、古地図に示された道路は大幅に改修された。

また、水系の変遷に付いても、多くの水路が失われた事が判った。

#### ②東部地域 (E)

都市化の影響が見られるものの、大部分の場所で、昔からの道路がそのまま残されている。しかし水路については調査地域中央を東西に流れる二本の水路を除いて、驚くほど少なくなっている事が判った。

### (2)湧水・川・用水の水質調査

水質を測定し、昭和50年度から平成17年度までの測定値と比較し、水質の経年変化を明らかにした。

①pHが環境基準(B類型;6.5以上 8.5以下)を超過したのは昭和61年度だけであとはすべて基準内でした。傾向は、上下しながらも経年的に単調増加の兆しが認められます。

②DOは、環境基準(B類型;5以上)を下回ったことはありませんでした。平成4年度を境として安定した数値を示しています。

③BOD、COD、SSについては、DO同様、いずれも平成4年度を契機として水質が非常に良くなっており、このとき以降、pHも含めてこれらの項目について環境基準(B類型;BOD 3 mg/l以下、SS 25 mg/l以下、COD基準なし)をすべて満足しています。

④この原因は、下水道の接続によるものであると思われます(国立市内の下水道普及率は、平成6年度末に100%を達成しています)。

⑤自然環境(特に水質について)を保全してゆく上で、下水道の果たす役割がいかに大きいものであるかがこれらのデータから認識することが出来ます。

### (3)湧水・川・用水の生物調査

#### ■水生動物調査

①郷土文化館下は生物相の変動は少なく、出現種が多様で出現数も安定した水

域であった。

- ②おんだし上流は止水期もあるので季節変動がおおきく、生物がほとんど確認されない時もあった。
- ③ママ下湧水は、生物相の大きな変動はなかったが、出現種および出現数は少なかった。ママ下湧水は、他の水域と比較して、きれいな水域だが、栄養源（有機物）が少なく、生物の餌となる珪藻類等の繁殖が困難な状況下にあるものと考えられた。
- ④いずれの調査地点も、生物が生息するうえで水質的な問題はないので、安定した水量や周辺環境を整えば、多様な生物相になると推測された

#### ■植生調査

植生調査を行い、過去の聞き取りから

##### ①現在見られる水草

生活雑排水が影響を与えなかった時代のきれいな水に多く見られた。貧栄養の水を好むナガエミクリとセキショウおよびアイノコイトモが見られる。過去と変わった点は、帰化植物のオオカワジシャとホザキノフサモが全体的に増えている事が判った。

②下水道整備以前（平成初期）に行った聞き取りから、優占種は、富栄養水に生育する植物が多い。

矢川：アイノコイトモ（貧栄養の水でも富栄養の水でも生育する種）

用水：富栄養を好む、クロモ、コカナダモが一面に生えていた

オンダシ下流：富栄養を好むヒルムシロが一面に生えていた

#### VII 問題点の指摘

国立市南部のハケに沿って存在した湧水は、その豊富な水量で知られた。現在も若干湧水の存在が知られている。しかしながら水量も減少し、湧水からの流れもあまり見られなくなった。かつてこの地域でも盛んだった稲作が衰退し、したがって田に水を引く用水も不要となった。加えて土地の急激な宅地化は、残った河川や用水の大部分を暗渠化し、国立市が誇った湧水は、その存在意義を失う結果となっている。

水質、植生に関しては、下水道が整備された結果、過去と大きく変化していないが、帰化植物の増加が生態系に悪影響を与える可能性がある。

#### VIII 今後の取り組みと提言

国立市が文教都市として知られ、一度は住んでみたい街として多くの人があこがれる。しかし国立市の南部一帯が、豊かな田園地帯であること、あるいは田園地帯であったことを知る人は、地元住民でも少ない。国立市民はいま一度、

市の南部の自然をどのように取り戻して保全するか、真剣に考慮すべきとき  
きている。豊かな湧水とそこから流れる川の周辺には、動植物が集い、繁茂し、  
住民に安らぎを与える。稲作が衰退したいま、不要となった用水は、豊かな自  
然を守る新たな資源として活用すべきであろう。



# ワーキンググループ 1



## ワーキンググループ 2

フィールドワークによる井戸調査班





## 国立市井戸概況調査

### 1. 調査方法

#### (1) アンケート調査

平成 13 年に実施された災害用井戸指定のための実態調査結果、および地下水汚染調査を実施している井戸等を中心として、63 箇所に対しアンケート調査を実施した(資料 2-1、2-2、2-3)。

#### (2) 現地調査

アンケートにより調査の了承を頂いた井戸等について、簡易水質調査及び所有者に対する聞き取り調査を実施した(平成 18 年 12 月現在、25 箇所実施)。

### 2. 調査結果

#### (1) アンケート調査によって得られたこと

- ・井戸の所在に地域格差がある(谷保地区に集中)(資料 2-2)。
- ・井戸所有者の約 80%が井戸を使用または使用を検討している(資料 2-4)。

#### (2) 現地調査によって得られたこと(資料 2-5、2-6、2-7)

- ・災害対策用井戸で手押しポンプを設置していないところがほとんどである。
- ・現在井戸を使用していない 11 箇所のうち 8 箇所で、今後井戸の使用を検討している。
- ・現在使用していない井戸においても、簡易水質検査で異常が認められた井戸はない。
- ・過去の調査資料と異なる結果がある(資料 2-8 : H13 水質検査の優先順位票におけるランク付け)。

### 3. 基本計画の策定に向けた提案事項(資料 2-9、2-10)

#### (1) 防災対策における井戸の位置付け

- ・災害時の「飲料水」は確保されているが、「生活水」は確保されていない。
- ・災害対策用指定井戸(21 箇所)は「生活水」を確保する上で必要十分な数と言えない。

⇒指定井戸を増やす。

- ・指定井戸設置場所数に地域格差があることへの対応

⇒地域ごとの面積・世帯数に対する井戸の必要数の検討、隣接市との協力体制の検討を行う。

#### (2) 井戸所有者への井戸保全に関する意識啓発の必要性

- ・井戸は個人の財産であることに留意しつつ、公的な活用への働きかけを行政が行う仕組みを検討する。
- ・井戸の掘削、手押しポンプ設置、発電機設置、水質検査等の井戸の設置や保守

管理に関わる各種補助金の支給等を検討する。

- ・下水道法への対応について検討する。

**(3) 環境保全、節水啓発施策**

- ・手押しポンプが設置された井戸がある公園・小学校等の整備について検討する。

資料 2-1 調査井戸一覧

No.	地点名.	災害用指定井戸		環境部 有機塩素 系物質調 査井戸	WG2調査井戸			現在の使 用の状態	
		指定	H13調査 ランク		アンケート調査				現地調査 実施日
					用紙発送	返信有無	協力		
1	青柳1			○	○	○	○		使用中
2	青柳2		I		○	×	○		
3	青柳3	○	DF		○	○	○		使用中
4	青柳4		J		○	○	○	H16.11.6	不
5	青柳5	○	A		○	○	○		
6	青柳6	○	CF		○	○	○	H16.11.6	不
7	青柳7		I		○	×	○		
8	青柳8		I		○	×	○		
9	青柳9		I	○	○	○	○		
10	青柳10				○	×	○		
11	中1				△	○	○		
12	中2				○	×	○		
13	中3	○	DF		○	○	○	H17.2.5	使用中
14	中4	○	DF		○	○	○	H17.2.5	使用中
15	中5		H		○	×	○		
16	中6		J		○	○	○		不
17	北1		L		○	×	○		
18	西1				○	○	○	H16.12.11	不→使用
19	西2	○	C上		○	○	○	H17.2.5	使用中
20	西3		I		○	○	○	H16.12.11	不
21	西4		L		○	×	○		
22	西5			○	○	×	○		
23	東1	○	A		○	○	○	H17.2.5	使用中
24	東2	○	DF		○	×	○		
25	東3		L		○	○	○		不(埋)
26	東4	○	DF		○	○	○	H17.2.15	使用中
27	東5				○	○	×		使用中
28	東6		J		○	×	○		
29	富士見台1			○	○	○	○	H17.2.15	使用中
30	富士見台2		K		○	○	○		不→使用
31	谷保1				△	○	○		
32	谷保2				○	×	○		
33	谷保3		実施不可		×	○	○		
34	谷保4	○	A		○	○	○		使用中
35	谷保5		K		○	○	○		不
36	谷保6			○	○	○	○	H16.10.2	不→使用
37	谷保7				(紹介)	○	○		
38	谷保8		I		○	○	○		不(埋)
39	谷保9				(紹介)	○	○	H18.8.28	不
40	谷保10				○	○	○		使用中
41	谷保11				(紹介)	○	○	H18.8.28	不

No.	地点名.	災害用指定井戸		環境部 有機塩素 系物質調 査井戸	WG2調査井戸			現在の使 用の状態	
		指定	H13調査 ランク		アンケート調査				現地調査 実施日
					用紙発送	返信有無	協力		
42	谷保12				(紹介)	○	○		不
43	谷保13		未実施		×	○	○		
44	谷保14		H		○	○	×		不
45	谷保15		J		○	○	○	H16.10.2	不
46	谷保16-1	○	DF, J		○	○	○		使用中
47	谷保16-2				○	○	○	H17.6.30	不
48	谷保17			○	○	○	○		使用中
49	谷保18	○	DF		○	○	○		使用中
50	谷保19		未実施		×	○	○		
51	谷保20				○	○	×		不
52	谷保21		未実施		×	○	○		
53	谷保22				○	○	○		不
54	谷保23		J		○	○	○		不
55	谷保24	○	D上		○	○	○		使用中
56	谷保25	○			○	○	○		使用中
57	谷保26	○	CF		○	○	○	H16.12.2	使用中
58	谷保27		K		○	○	○	H16.12.2	不
59	谷保28	○	DF		○	○	○		使用中
60	谷保29		実施不可		×	○	○		
61	谷保30				(紹介)	○	○		
62	谷保31	○	DF		○	○	○		使用中
63	谷保32				×	○	○	H16.11.10	不
64	谷保33		未実施	○	○	○	○		使用中
65	谷保34	○	C上		○	○	○		使用中
66	谷保35			○	○	○	○		使用中
67	谷保36	○	DF		○	○	○		使用中
68	谷保37		未実施		×	○	○		
69	谷保38	○	DF	○	○	×	○		
70	谷保39	○	DF		×	○	○	H16.6.3	使用中
71	谷保40		L		○	○	○		不
72	谷保41		L		○	×	○		
73	谷保42		L		○	×	○		
74	谷保43				×	○	○	H16.11.10	使用中
75	谷保44		I		×	○	○	H16.6.8	不
76	谷保45				○	×	○		
77	谷保46		I		○	○	○	H16.12.11	不
78	谷保47				○	×	○		
79	谷保48		I		○	○	○	H16.12.11	不
80	谷保49		I		○	×	○		
81	谷保50				○	○	○	H17.6.30	使用中
合計		21	53	9	○+△=63	○=45	-	25	

資料 2-2 調査井戸数内訳

調査井戸数

単位: 箇所

WG2調査前における把握井戸数		アンケート実施	現地調査実施
災害用実態調査井戸※1	25	24	7
災害用実態調査指定井戸※2	21	18	9
有機塩素系物質調査井戸※3	11	8	2
その他	56	13	7
計	113	63	25

※1 平成 13 年に実施した災害用井戸指定のための実態調査井戸。他に調査未実施井戸 7 箇所把握。

※2 上記調査に基づき指定された井戸

※3 有機塩素化合物による地下水汚染状況把握のために調査している井戸

地域別調査井戸数

単位: 箇所

	災害用指定	H13調査対象	アンケート実施	アンケート回収	現地調査実施
青柳	3	8	9	5	2
北	0	1	1	0	0
中	2	4	6	3	2
西	1	3	5	3	3
東	3	5	6	4	2
富士見台	0	1	2	2	1
谷保	12	31	34	28	15
計	21	53	63	45	25

資料 2-3 アンケート調査結果一覧

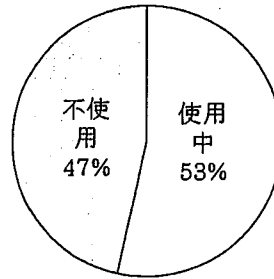
調査地点名	設問						
	1	2	3	4	5		
	使用状況	最後に使用した時期 (年月頃)	現在の状況	井戸の取水方法	使用可否	今後の井戸の取扱い	今後の調査
	1.使用 2.不使用		1.開放してある。 2.蓋をしてあるが開けることは可能である。 3.コンクリート等で被った。 4.蓋をして土で埋めた。 5.井戸を埋めた。 6.井戸へ簡単に近づけ 7.井戸へ近づくのが難し 8.その他	1.つるべ 2.手押しポンプ 3.電動ポンプ 4.その他	○使用可 ×使用不可	1.今後も使用する 2.現仕不使用に が 今後使用する 3.使用しない 4.未定	○了承する ×了承できない
1 青柳1	1			3	○	1	○
2 青柳3	1			3	○	1	○
3 青柳4	2	S40	2	全てなし		4	○
4 青柳6	2	H16.6	6	2	×	2	○
5 青柳9	1			3	○	1	×
6 中3	1			3	○	1	○
7 中4	1			3	○	1	○
8 中6	2	S40	3, 6	?		3	○
9 西1	2	H16.3	1, 2, 3, 6	3	○	2	○
10 西2	1			3	○	1	○
11 西3	2	S35	2, 6	全てなし		4	○
12 東1	1			3	○	1	○
13 東3	2	S50.4	4	全てなし		4	○
14 東4	1			3	○	1	○
15 東5	1			3	○	1	×
16 富士見台1	1			3	○	1	○
17 富士見台2	2	H8.1	2, 3, 6, 8	3	○	2	○
18 谷保4	1			2	○	1	○
19 谷保5	2	S55	2	3	×	4	○
20 谷保6	2	S41	1, 6	全てなし		2	○
21 谷保7	2	S49	2, 6	全てなし		4	○
22 谷保8	2		5			3	
23 谷保10	1			3	○	1	○
24 谷保11	2		2, 6	3	×	2	○
25 谷保14	2	H元.1	2, 6	3	?	3	×
26 谷保15	2	S50	2, 6	全てなし		2	○
27 谷保16	1			3	○	1	○
28 谷保17	1			3	○	1	○
29 谷保18	1			3	○	1	○
30 谷保20	2	H16.4	2, 6	?		3	○
31 谷保22	2		1, 3	?		3	○
32 谷保23	2	H元	2, 6	全てなし		3	○
33 谷保24	1			3	○	1	○
34 谷保25	1			3	○	1	○
35 谷保26	1			3	○	1	○
36 谷保27	2	H13~14	2	3	×	4	○
37 谷保28	1			3	○	1	○
38 谷保31	1			3	○	1	○
39 谷保33	1			3	○	1	○
40 谷保34	1			3	○	1	○
41 谷保35	1			3	○	1	○
42 谷保36	1			3	○	1	○
43 谷保40	2	S35	3	?		3	○
44 谷保46	2		2	?		3	○
45 谷保48	2		2	?		4	○



資料 2-4 アンケート調査結果内訳

使用状況

	(箇所)
使用中	24
不使用	21
計	45

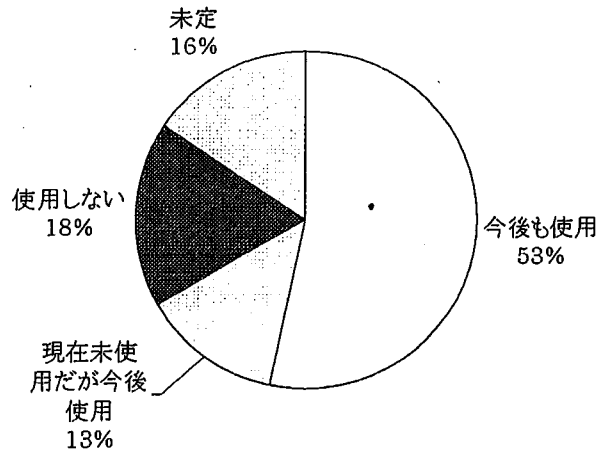


使用中の井戸の取水方法

	(箇所)
つるべ	0
手押しポンプ	1
電動ポンプ	23
その他	0
計	24

今後の井戸の取扱い

	(箇所)
今後も使用する	24
現在未使用だが今後使用する	6
使用しない	8
未定	7
計	45



今後の調査協力

	(箇所)
了承	41
了承できない(埋立等)	4
計	45

資料 2-5 現地調査結果一覧 1

調査地点名		谷保39	谷保44	谷保6	谷保15	青柳6	青柳4	谷保32	谷保43	谷保27	
災害用指定	指定	○				○					
	H13調査ランク	D下	I		J	C下	J			K	
環境部調査井戸				○							
現地調査実施日		H16.6.3	H16.6.8	H16.10.2	H16.10.2	H16.11.6	H16.11.6	H16.11.10	H16.11.10	H16.12.2	
視認・実測調査	天候	晴	曇	晴	晴	曇	曇	晴	晴	晴	
	取水方法	つるべ	無	無	無	無	無	無	無	無	無
		手押しポンプ	無	無	無	?	あり(使不可)	無	無	無	無
		電動ポンプ	あり	あり(使不可)	あり	あり	あり	あり(使不可)	あり	あり	あり(使不可)
	水質等	pH	6.8	6.5	6.2	6.4	6.1	6.3	6.3	6.2	6.6
		気温 (°C)	24.5	28.3	28.0	28.0	22.0	22.0	22.0	21.0	17.5
		水温 (°C)	18.0	18.0	18.1	17.6	16.5	18.0	19.5	19.5	18.6
		電気伝導率 (mS/m)	29.0	23.0	23.1	10.0	13.9	21.9	24.1	22.6	24.7
		色相	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色
		臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
		CODMn P.test(ppm)	5	6	1	2	3	2	2	1	2
		NH4+ P.test(ppm)	—	—	<0.2	<0.2	<0.2	0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		水位 (m)	測定不能	4.1	10.76	10.2	測定不能	4	3.7	5.1	4.3
	水深 (m)		1.9	1	1.8	測定不能	1.35	1.3	3.5	1	
敷地内の井戸の位置		東北の角	北	西	南西	北西	南	西	南西	北	
聞き取り調査	使用状況	使用/不使用	使用	不	不	不	不	不	不	使用	不
		常時/不定期	常	—	—	—	—	—	—	常	—
	使用目的 (未使用理由)		洗濯	(水道の開始) S47～不使用		(水道の開始) S32～不使用	(水が干上がった時期あり) H16.6～不使用	S40～不使用	(検査で飲用不適だったため) —	飲用, 料理, 撒き水	(下水道ができたため) H8～不使用
		水質検査	実施/未実施	実施	未	実施	未	実施	未	未	未
		頻度	1回/年	—	1回/年	—	1回/年	—	—	—	—
		公費/自費	公費	—	公費	—	公費	—	—	—	—
	今後の取り扱い		今後も使用	使用しない (井戸はそのまま)	今後使用	今後使用	今後使用	今後使用	今後使用	今後使用	未定
	掘った時期		S35～36年	S37年2月	S41年	T4年11月	不明	350年前	S2年頃	100年位前	S30年頃
		深さ (m)	約4(13尺)	6	不明	12	不明	5.35	5	8.6	5.3
	地下水流向		北西→南東	北→南	北→南	北→南	不明	不明	不明	不明	不明
水質変化の有無		無	無	不明	不明	上記	無	不明	不明	不明	
備考				調査時井戸に詳しい方が不在	石積み		水位測定 1回/月 東京都が実施	近年水位低下	昭和の初めに土垣からコンクリートに変えた		

資料 2-6 現地調査結果一覧 2

調査地点名		谷保26	西3	西1	谷保48	谷保46	中3	中4	西2	東1	
災害用指定	指定	○					○	○	○	○	
	H18調査ランク	CF	I		I	I	DF	DF	C上	A	
環境部調査井戸											
現地調査実施日		H16.12.2	H16.12.11	H16.12.11	H16.12.11	H16.12.11	H17.2.5	H17.2.5	H17.2.5	H17.2.5	
視認・実測調査	天候		晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	晴	
	取水方法	つるべ	無	無	無	無	無	無	無	無	無
		手押しポンプ	無	無	無	無	無	無	無	無	無
		電動ポンプ	あり	無	あり	あり(使不可)	無	あり	あり	あり	あり
	水質等	pH	6.8	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.3	6.4	6.2
		気温 (°C)	15.4	12.0	13.0	16.0	17.0	5.0	5.0	6.2	8.1
		水温 (°C)	18.5	17.0	17.7	17.7	17.9	15.9	16.0	17.0	16.0
		電気伝導率 (mS/m)	25.7	23.4	24.0	26.7	26.8	24.6	24.1	24.9	19.9
		色相	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色	無色
		臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭
		CODMn P.test(ppm)	2	1	3	4	3	1	2	1	2
		NH4+ P.test(ppm)	<0.2	<0.2	<0.2	0.4	0.3	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2
		水位 (m)	4.7	7.7	7.6	3.1	2.4	測定不能	9.7	9.6	測定不能
	水深 (m)	1.5	2.5	2.9	2.5	2	測定不能	測定不能	1.2	測定不能	
敷地内の井戸の位置		中央	北西角	北西角	南	南	南東	北西	北西	西	
聞き取り調査	使用状況	使用/不使用	使用	不	使用	不	不	使用	使用	使用	
		常時/不定期	常	—	常	—	—	常	常	常	
	使用目的 (未使用理由)		撒き水, 手洗い	(水道の開始)	洗濯, 撒き水, 風呂(時々)	(モーター故障) S49~不使用	(水道の開始)	洗濯, 撒き水, その他	洗濯, 撒き水, その他	洗濯, 撒き水, 風呂, トイレ	撒き水, その他
	水質検査	実施/未実施	実施	未	未	未	未	実施	実施	実施	実施
		頻度	1回/年	—	—	—	—	1回/年	1回/年	1回/年	1回/年
		公費/自費	公費	—	—	—	—	公費	公費	公費	公費
	今後の取り扱い		今後も使用	未定	今後も使用	使用しない (井戸はそのまま)	使用しない (井戸はそのまま)	今後も使用	今後も使用	今後も使用	今後も使用
	掘った時期		H7年	S29~30年	S29年以前	不明	M25年10月	50年位前	S28年以前	不明	S28年頃
	深さ (m)		6.2	10.2	10.5	5.6	4.4	不明	不明	不明	15
	地下水流向		不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明	不明
水質変化の有無		無	不明	不明	無	不明	不明	不明	不明	不明	
備考		9年前建物の工事時に水が出たため井戸にした。以前は他の場所にあった。		阪神淡路震災以後モーターをつけて使用。1年に1回1~2月に枯れる。その後溜めて使用。	S20年以前に手押しポンプがあった。	富士見台団地深井戸できてから自噴せず。古くは牛の水飲場。	10年前にポンプ新設, 年1回2月頃枯れる。井戸がもう一つある。	何回も井戸を掘り下げた。大学通り下水工事中20日間位水枯れた時あり。	水は枯れない。10年位前まで手押しポンプを使用。	S63年ビル建設の折電動化。発電機あり。枯れたことなし。	

資料 2-7 現地調査結果一覧 3

調査地点名		東4	富士見台1	谷保16-1	谷保16-2	谷保50	谷保11	谷保9	
災害用指定	指定	○		○					
	H13調査ランク	D下		D下, J					
環境部調査井戸			○						
現地調査実施日		H17.2.15	H17.2.15	H17.6.30	H17.6.30	H17.6.30	H18.8.28	H18.8.28	
視認・実測調査	天候	晴	晴	曇	曇	晴	曇	曇	
	取水方法	つるべ	無	無	無	無	無	無	無
		手押しポンプ	無	無	無	無	無	無	無
		電動ポンプ	あり	あり	あり	無	あり	あり	無
	水質等	pH	6.7	6.6	6.5	6.8	6.6	6.0	—
		気温 (°C)	16.0	16.0	27.0	27.0	29.0	27.9	—
		水温 (°C)	15.7	16.2	18.9	15.1	18.0	17.0	—
		電気伝導率 (mS/m)	33.3	26.5	23.3	19.8	22.3	21.2	—
		色相	無色	無色	無色	無色	無色	無色	—
		臭気	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	無臭	—
		GODMn P.test(ppm)	2	1	3	1	1	5	—
		NH4+ P.test(ppm)	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	<0.2	—
		水位 (m)	14.4	4.5	測定不能	10.65	8.9	10.85	—
	水深 (m)	測定不能	2.3	測定不能	1.4	1.3	1.55	—	
敷地内の井戸の位置		北	南	北	南東(納屋)	南東	南西角	東	
使用状況	使用/不使用	使用	使用	使用	不	使用	不	不	
	常時/不定期	常	常	常	—	不定期	—	—	
使用目的 (未使用理由)		撒き水, その他	撒き水, その他	洗濯, 農業, 風呂	(他に井戸を掘ったため)	撒き水, 農業	(費用・構造の問題)	(埋めた)	
水質検査	実施/未実施	実施	実施	実施	未	未	未	未	
	頻度	1回/年	1回/年	1回/年	.	.	.	.	
	公費/自費	公費	公費	公費	.	.	.	.	
今後の取り扱い		今後も使用	今後も使用	今後も使用	使用しない (井戸はそのまま)	今後も使用	今後使用	使用しない	
掘った時期		S30年頃	M38年	S30年頃	T13年以前	不明	S31年以前	S27~28年頃	
深さ (m)		不明	6.8	18	12.05	10.2	12.4	不明	
地下水流向		不明	不明	南東	南東	不明	不明	不明	
水質変化の有無		無	無	無	不明	無	無	不明	
備考		枯れたことなし。砂利層まで掘らずに水が噴出。	矢川が枯れたときも枯れなかった。つるべにしようかと思っている。	自家発電設備付。畑や庭の水やり等に使用しているが枯れたことはない。	下は玉石組みでつるべ井戸だった。大正14年10月に改装(震災で一部崩れたため)。	昔は自噴井戸がありわさび田に水を引いていた。	S32頃ポンプで取水。当時濁ったこと枯れたことはなく、あらゆる用途に使用。	塞がっていたため調査不能。S24年井戸がなく大家さん宅からもらい水を運ぶのが大変だった。	

資料5-1 応急飲料水等に関する資料

	浄水場・給水所		応急給水槽		受水槽						井戸					
	箇所	確保水量 (m³)	箇所	水量 (m³)	公共		民間		計		公共		民間		計	
					箇所	有効水量 (m³)	箇所	有効水量 (m³)	箇所	有効水量 (m³)	箇所	水量 (m³/h)	箇所	水量 (m³/h)	箇所	水量 (m³/h)
立川市	4	2420	0	0	0	0	0	0	0	0	2	72	0	0	2	72
府中市	4	8560	2	1700	35	1237	0	0	35	1237	27	1620	22	-	49	-
小平市	2	7760	27	540	29	1024	1623	-	1652	-	12	333	82	10	94	343
日野市	5	11460	0	0	14	720	11	1162	25	1822	0	0	0	0	0	0
国分寺市	2	12500	0	0	14	762	3	165	17	927	0	0	0	0	0	0
多摩市	6	21100	1	1500	19	705	0	0	19	705	5	500	0	0	5	500
国立市	2	4008	0	0	12	1102	1	27	13	1129	14	844	21	-	35	-

	給配水										資器材					
	給水車			給水タンク			容器(ポリタンク)				ろ水器 (台)	エンジン ポンプ (台)	自動給水分 配装置(ウォ ーター・パ ッカー) (台)	組立水槽 (台)	給水 バケツ (個)	その他
	2m³未満 (台)	2~4m³ (台)	4m³以上 (台)	0.5m³ 未満 (基)	0.5-1m³ 未満 (基)	1-2m³ 未満 (基)	2m³以上	3~9L (個)	10L (個)	11~20L (個)						
立川市	0	0	0	0	0	13	0	0	0	307	6	18	2	0	21000	-
府中市	0	1	0	0	15	0	0	0	0	60	21	6	4	72	10000	-
小平市	0	1	0	0	0	0	19	0	0	857	7	51	1	193	747	-
日野市	0	2	0	0	0	2	0	300	50	100	2	6	0	3	20	給水栓15箇所
国分寺市	0	0	0	0	2	0	0	0	0	0	38	4	0	4	0	水中ポンプ6台
多摩市	0	0	0	0	0	23	0	0	0	150	42	6	0	46	0	給水袋55000枚
国立市	0	0	0	0	0	3	0	0	300	40	5	3	1	5	0	給水袋13700枚

	非常災害用井戸															
	市	民間	計	選定基準	水質検査				助成制度			表示板		管理主体		
					実施	年間実施 回数(回)	実施主体		定額	修繕費用	貸与備品	設置	表示名称	市	所有者	
							市	所有者								
立川市	0 (2)	0 (0)	0 (2)	-	- (○)	0 1	- (○)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (○)	- (-)	
府中市	27 (0)	0 (0)	27 (0)	-	○ (-)	1 0	○ (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
小平市	12 (39)	81 (7)	93 (46)	現に使用し今後も使用する予定のもの、飲料に適するもの、付近住民が使用しやすい場所にあること	○ (-)	1 0	○ (-)	- (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	
日野市	0 (0)	0 (0)	0 (0)	-	- (-)	0 0	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
国分寺市	13 (0)	0 (0)	13 (0)	児童公園等、公共用地に市が設置	○ (-)	1 0	○ (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	○ (-)	
多摩市	5 (0)	0 (62)	5 (62)	-	○ (○)	1 1	○ (○)	- (-)	○ (○)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	
国立市	14 (0)	0 (21)	14 (21)	-	○ (○)	常時 1	○ (○)	- (-)	- (-)	- (-)	- (-)	○ (○)	○ (○)	○ (○)	○ (○)	

※上段:災害時飲料用、下段( ):生活用水

出典:東京都総合防災ホームページ 下記より抜粋

<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/04saigaitaisaku/15kusityouson.htm>

平成15年度 区市町村防災事業の現況(平成15年4月1日現在)

6 応急飲料水 (浄水場・給水所、応急給水槽、受水槽・井戸・プール等、給配水資機材等、非常災害用井戸等)

資料5-2 国立市の他自治体との相互応援

協定等の名称	締結年月日	協定の相手方	相互応援の内容
甲州街道沿道12市の大規模災害発生時等における相互応援に関する協定	平成8年12月1日	八王子市他11市	生活必需物資、医薬品、資機材の提供、車両等の提供、職員の派遣、被災者の一時受け入れ、ボランティアの斡旋等
災害時の避難場所相互利用に関する協定	平成12年3月1日	立川市	避難場所に避難している市民に対して、区別なく救援活動を行う
消防の相互応援に関する協定	昭和40年9月10日	立川市他3市	消防の相互応援
消防の相互応援に関する協定	昭和59年12月1日	府中市、国分寺市	消防の相互応援

出典：東京都総合防災部ホームページ 下記より抜粋  
<http://www.soumu.metro.tokyo.jp/04saigaitaisaku/15kusityouson.htm>  
 平成15年度 区市町村防災事業の現況(平成15年4月1日現在)  
 15 他自治体との相互応援

	平成16年1月1日現在 人口
立川市	168851
府中市	236902
小平市	182860
日野市	173267
国分寺市	115295
多摩市	145870
国立市	73506

資料5-3 東京都の防災計画

東京都地域防災計画 震災編(平成15年修正)東京都防災会議  
[http://www.soumu.metro.tokyo.jp/04saigaitaisaku/tiikibou015/hon\\_index.htm](http://www.soumu.metro.tokyo.jp/04saigaitaisaku/tiikibou015/hon_index.htm)  
 第3部 災害応急対策計画  
 第12章 飲料水・食料・生活必需品等の供給(p211-212)より一部抜粋

飲料水の供給

1 応急給水活動

(1) 震災時の応急給水の方法

イ 車両による応急給水

給水拠点からの距離が概ね2km以上離れている避難場所において応急給水を行う。

(2) 給水拠点での都(多摩地区については都営水道市町水道部所)と区市町の役割分担

ア 応急給水槽においては、区市町が応急給水に必要な資器材等の設置及び住民等への応急給水を行う。

イ 浄水場(所)・給水所等においては、都が応急給水に必要な資器材等の設置を行い、区市町は住民等への応急給水を行う。

ウ 飲料水を車両輸送する必要がある避難場所においては、都が区市町村により設置された仮設水槽まで飲料水を輸送・補給し、区市町村は住民等への応急給水を行う。

(3) 飲料水の給水基準

震災時における飲料水の給水基準は、1日1人当たり3リットルとする。

2 給水拠点の整備

(1) 応急給水槽の整備

都は、震災時の飲料水等を確保するため、居住場所から概ね2kmの距離内に1か所の給水拠点の設置を目標としてきた。この結果、応急給水充足率※は平成14年度末においては96%に達する。当面の目標としては、給水拠点が空白地域の早期解消を図るため、これら地域への重点的な応急給水槽の整備を行っていく。また、面的整備だけでは把握できない、応急給水が不足している地域の抽出と効率的な応急給水方法の調査を実施し、応急給水計画の見直しを行う。

※ 応急給水充足率：災害時に応急給水が必要とされる計画給水面積(1,258.81km<sup>2</sup>)において、応急給水槽などの設置により給水が充足される面積の占める割合。

(2) 応急給水用資器材等の整備

都は、震災時の断水に備え飲料水等を確保するため、浄水場、給水所等にエンジンポンプなど応急給水用資器材を整備して給水拠点としてきた。平成14年度末の都の給水拠点は120か所である。今後は、資器材の老朽化に対応して計画的に更新を図っていくとともに、給水拠点の充実のため、資器材の整備を推進していく。また、災害時に迅速かつ的確な給水活動の実施を確保するため、資器材を1か所に収納できる専用倉庫の整備を推進する。さらに、応急給水用給水設備の改良を行っていく。



## 水質検査の優先順位票

H. 13. 10. 17 作成

ランク	判 断 基 準	該当戸数
A	現在使用中 ・手押しポンプ又は自家発電機が設置してある。 ・取水しやすい場所にある。	3 戸
B	現在使用中 ・手押しポンプ又は自家発電機が設置してある。 ・取水しにくい場所にある。	該当なし
C上	現在使用中 ・電力ポンプが設置してあり、人力で取水が可能。 ・取水しやすい場所にある。	2 戸
C下	現在使用中 ・電力ポンプが設置してあり、人力で取水が不可能。 ・取水しやすい場所にある。	2 戸
D上	現在使用中 ・電力ポンプが設置してあり、人力で取水が可能。 ・取水しにくい場所にある。	1 戸
D下	現在使用中 ・電力ポンプが設置してあり、人力で取水が不可能。 ・取水しにくい場所にある。	13 戸
E	現在使用中 ・ポンプはないが人力で取水が可能。 ・取水しやすい場所にある。	該当なし
F	現在使用中 ・ポンプはないが人力で取水が可能。 ・取水しにくい場所にある。	該当なし
G	現在使用していない ・現在、水がある。 ・電力ポンプが設置してあり、人力で取水が可能。 ・取水しやすい場所にある。	該当なし
H	現在使用していない ・現在、水がある。 ・電力ポンプが設置してあり、人力で取水が可能。 ・取水しにくい場所にある。	2 戸
I	現在使用していない ・現在、水がある。 ・ポンプはないが人力で取水が可能。 ・取水しやすい場所にある。	9 戸
J	現在使用していない ・現在、水がある。 ・ポンプはないが人力で取水が可能。 ・取水しにくい場所にある。	6 戸
K	現在使用していない ・現在、水がある。 ・取水ができない。	3 戸
L	現在使用していない ・現在、水の有無が確認できない。	5 戸

水質検査実施予定表  
(現在使用中の井戸)

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年6月3日 天候（晴） 気温（24.5℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 (災害対策用井戸9号) 井戸No.谷保39

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.8 )	水温：( 18.0 ℃)	電気伝導率：( 0.290 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 5 )
	アンモニア ( - )		
	水位 (水位計による測定値)：( 測定不能 )	水深：( 測定不能 )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：東北の角

写真

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( 常時 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：2年に1回 調査者：保健所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：昭和35～36年 (1960)  
掘った時の状況：井戸を掘った人 (堀江 太郎)  
井戸の深さ：約4m (13尺)  
地下水の流れの方向：北西→南東  
水質の変化の有無 (近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他 ( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
NO3 1回目 17 2回目 20  
DO 7mg/l

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年6月8日 天候（曇） 気温（28.3℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保

井戸No.谷保44

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.5 )	水温：( 18.0 ℃)	電気伝導率：( 0.230 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 6 )
	アンモニア ( - )		
	水位 (水位計による測定値)：( 4.10 m )	水深：( 1.9 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：北

写真

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：水道の開始 最後に使用した時期（昭和47年 月頃） 現在の状況：コンクリートの蓋で覆ってある （取り外し可）
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回， 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input checked="" type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定
聞き取り調査	井戸を掘った時期：昭和37年2月（1962年） 掘った時の状況：不明 井戸の深さ：6.0m 地下水の流れの方向：北→南 水質の変化の有無（近年の状況）： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  NO3 10 DO 5mg/l	

井戸の概況

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年10月2日 天候（晴） 気温（28℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 井戸No.谷保6

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.2 )	水温：( 18.1 ℃)	電気伝導率：( 0.231 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1 )
	アンモニア ( 0.2 以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 10.76 m )	水深：( 1 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：西	写真
-----------------	----

聞き取り調査

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期（S41年 月頃） 現在の状況：時々ポンプを付けて畑等に散水
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年1回、 調査者：国立市	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input checked="" type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定
井戸の概況	井戸を掘った時期：不明 掘った時の状況：不明 井戸の深さ：11.76m 地下水の流れの方向：不明 水質の変化の有無（近年の状況）： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ・当日は、井戸に詳しい方が不在	

国立市井戸調査記録表

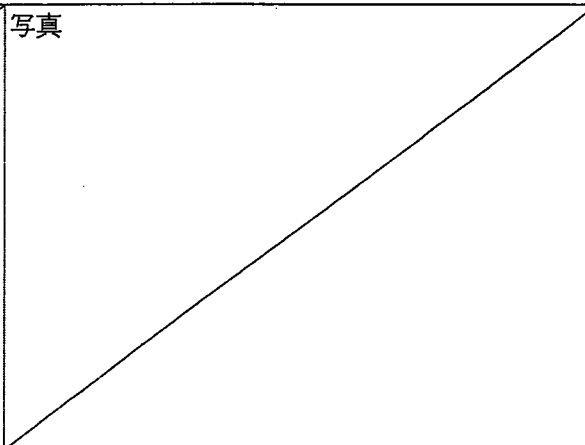
調査日：平成16年10月2日 天候（晴） 気温（28℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 井戸No.谷保15

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.4 )	水温：( 17.6 ℃)	電気伝導率：( 0.100 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2 )
	アンモニア ( 0.2 以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 10.2 m )	水深：( 1.8 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：南西



使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ・ 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：水道が入った時、中止 最後に使用した時期 (昭和32年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input checked="" type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：大正4年11月  
掘った時の状況：もっと水位があった。  
井戸の深さ：12m  
地下水の流れの方向：北→南  
水質の変化の有無 (近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他 ( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・石積み井戸、中間コンクリート。

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年11月6日 天候（曇） 気温（22℃） 調査実施者：WG2  
 井戸所在地：青柳（災害対策用井戸14号） 井戸No.青柳5・青柳6

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.11 )	水温：( 16.5 ℃)	電気伝導率：( 0.139 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 3.0 )
	アンモニア ( 0.2 以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：宅地内及び打ち込み井戸のため測定不能		

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：北西

写真

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている (常時 不定期 )	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない⇒庭にある井戸 理由：水が揚がってしまった 最後に使用した時期 (平成16年 6月頃) 現在の状況：
	用途： <input checked="" type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input checked="" type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input checked="" type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
聞き取り調査	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input checked="" type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況  
井戸を掘った時期：不明  
掘った時の状況：不明  
井戸の深さ：測定不能 (打ち込み井戸)  
地下水の流れの方向：不明  
水質の変化の有無 (近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他 ( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・庭に一基 (未使用)。  
・宅地内に井戸有り (水質検査実施済)。



国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年11月6日 天候（曇） 気温（22℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：青柳 井戸 No.青柳4

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.31 )	水温：( 18.0 ℃)	電気伝導率：( 0.219 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2.0 )
	アンモニア ( 0.2 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 4 m )	水深：( 1.35 m )	

視認・実測調査	敷地内の井戸位置図 ：南	写真
	(The area is mostly blank with diagonal lines, indicating no photo or map was provided.)	

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期（昭和40年 月頃） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回， 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input checked="" type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査	井戸の概況
井戸を掘った時期：350年前（1654年） 掘った時の状況：不明 井戸の深さ：5.35m 地下水の流れの方向：不明 水質の変化の有無（近年の状況）： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ・水位測定を月一回、東京都が実施。	

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年11月10日 天候（晴） 気温（22℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保

井戸No.谷保32

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.30 )	水温：( 19.5 ℃)	電気伝導率：( 0.241 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2 )
	アンモニア ( 0.2 以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 3.7 m )	水深：( 1.3 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：西

写真

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：水質検査を以前やって飲用不適 最後に使用した時期（ 年 月頃） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回， 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input checked="" type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：昭和2年頃（1927年）  
掘った時の状況：不明  
井戸の深さ：5m  
地下水の流れの方向：不明  
水質の変化の有無（近年の状況）：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他（ ） 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・近年、水深が浅くなった

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年11月10日 天候（晴） 気温（21℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 井戸No.谷保43

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可) 不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.22 )	水温：( 19.5 ℃)	電気伝導率：( 0.226 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1 )
	アンモニア ( 0.2 以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 5.1 m )	水深：( 3.5 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：南西	写真
------------------	----

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている (常時)・不定期 ) 用途： <input checked="" type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸) 浄水器) <input checked="" type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査：してない。少し前にやった <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況	井戸を掘った時期：100年位前 (1904年) 掘った時の状況：不明 井戸の深さ：8.6m 地下水の流れの方向：北西 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ・土垣からコンクリートに変えたのは昭和の初め。
-------	--

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年12月2日 天候（晴） 気温（17.5℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保

井戸 No.谷保27

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.56 )	水温：( 18.6 ℃)	電気伝導率：( 0.247 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2 )
	アンモニア ( 0.16 以下)		
	水位 (水位計による測定値)：( 4.3 m )	水深：( 1.0 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：北

写真

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：下水道が出来たので中止 最後に使用した時期（平成8年 月頃） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回， 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input checked="" type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：昭和30年頃  
掘った時の状況：不明  
井戸の深さ：5.3m  
地下水の流れの方向：不明  
水質の変化の有無（近年の状況）：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他（ ） 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・煎餅を20年程前まで作っていた。  
・井戸はずっと使っていた。この地に下水道が引かれた頃（7～8年前）も使っていたが、ポンプが壊れたので水道に切り替えた。  
・水質は鉄分が多いので、そのまま飲用しないで沸かして飲むように指導された。

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年12月2日 天候（晴） 気温（15.4℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 (災害対策用井戸5号) 井戸No.谷保26

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.8 )	水温：( 18.5 ℃)	電気伝導率：( 0.257 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2 )
	アンモニア (0.16 以下)		
	水位 (水位計による測定値)：( 4.7 m )	水深：( 1.5 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：中央	写真
------------------	----

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている (常時・不定期)	<input type="checkbox"/> 使っていない
	用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (手洗い)	理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 1回, 調査者：市役所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない

聞き取り調査	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定
	井戸の概況 井戸を掘った時期：平成7年 掘った時の状況：大定殿建設中に水が湧き出た 井戸の深さ：6.2m 地下水の流れの方向：不明 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ・9年前の工事のとき、水が噴出したので井戸にした。 ・それ以前には、他所 (今の母屋の中) にあった。	

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年12月11日 天候(快晴) 気温(12℃) 調査実施者：WG2

井戸所在地：西 井戸No.西3

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.34 )	水温：( 17.0 ℃)	電気伝導率：( 0.234 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1 )
	アンモニア( 0.16 以下)		
	水位(水位計による測定値)：( 7.7 m )	水深：( 2.5 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：北西角	写真
-------------------	----

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている(常時・不定期) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用(生水・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他( )	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有(有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無(一度、市役所で実施、飲み水不適) <input type="checkbox"/> 今後実施したい(有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない(井戸はそのまま・封鎖) <input checked="" type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況	井戸を掘った時期：昭和29年～30年 掘った時の状況：不明 井戸の深さ：10.2m 地下水の流れの方向：不明 水質の変化の有無(近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  ・手押しポンプ → モーター → 使用中止。 ・水道が敷設されるまで使っていた。 ・井戸を作るのに、たくさんの費用が掛かった。
-------	--

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年12月11日 天候（快晴） 気温（13℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：西

井戸No.西1

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.28 )	水温：( 17.7 ℃)	電気伝導率：( 0.240 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 3 )
	アンモニア ( 0.16 以下)		
	水位 (水位計による測定値)：( 7.6 m )		水深：( 2.9 m )

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：北西角

写真

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( <u>常時</u> ・ 不定期 )	<input type="checkbox"/> 使っていない
	用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (風呂時々)	理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回， 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 (9年位前に1回実施) <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input checked="" type="checkbox"/> 実施しない
聞き取り調査	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：不明 (昭和29年にはあった)  
掘った時の状況：不明  
井戸の深さ：10.5m  
地下水の流れの方向：不明  
水質の変化の有無 (近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他 ( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・以前は使用してなかった。阪神大震災後防災上、必要と思い9年前にモーターを付けて使用。  
・1年に1回、1月～2月 (冬場) に井戸が枯れる。その後、半年位使わないで溜める。



国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年12月11日 天候(快晴) 気温(16℃) 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 井戸No.谷保48

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	

水質等	pH：( 6.30 )	水温：( 17.7 ℃)	電気伝導率：( 0.267 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 4 )
	アンモニア ( 0.4 )		

視認・実測調査

水位(水位計による測定値)：( 3.1 m ) 水深：( 2.5 m ) 敷地内の井戸位置図 : 南	写真
---	----

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている(常時・不定期) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用(生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他( )	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：モーター故障 最後に使用した時期(昭和49年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有(有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい(有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない(井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況	井戸を掘った時期：不明 掘った時の状況：不明 井戸の深さ：5.6m 地下水の流れの方向：不明 水質の変化の有無(近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他( ) <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ・昭和20年以前には手押しポンプがあった。
-------	---

国立市井戸調査記録表

調査日：平成16年12月11日 天候（快晴） 気温（17℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保

井戸No.谷保46

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.31 )	水温：( 17.9 ℃)	電気伝導率：( 0.268 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 3 )
	アンモニア ( 0.3 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 2.4 m )	水深：( 2 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：南

写真

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：水道が引かれたので水が上がらない 最後に使用した時期（ 年 月頃） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回， 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：明治25年10月  
掘った時の状況：自噴井戸だった  
井戸の深さ：4.4m  
地下水の流れの方向：不明  
水質の変化の有無（近年の状況）：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他（ ） 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・富士見台団地開発の深井戸が出来てから自噴しなくなった。  
・水が豊富だったので、昭和19年頃、石神自治会の農繁期の給食賄い所のような場所だった。  
・他にも掘抜き井戸もあった。  
・馬の水飲み場所であった。

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年2月5日 天候（晴） 気温（5.0℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：中 （災害対策用井戸10号） 井戸No.中4

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.3 )	水温：( 16 ℃)	電気伝導率：( 0.241 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2 )
	アンモニア ( 0.16以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 9.7 m ) 水深：( 測定不能 )		

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：北西

写真

使用状況等

使用状況：	<input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ) ・ 不定期 )	<input type="checkbox"/> 使っていない
用途：	<input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 洗車 )	理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
定期的な水質検査：	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年1回, 調査者：保健所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
井戸の今後の取り扱い：	<input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：昭和28年以前にあった  
掘った時の状況：  
井戸の深さ：何回も井戸を掘り下げた  
地下水の流れの方向：  
水質の変化の有無 (近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他 ( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・深井戸用ポンプ有り  
・2月頃年1回水が枯れた (大学通り道路工事中) 20日間、今はなくなった

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年2月5日 天候（晴）気温（5.0℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：中 (災害対策用井戸11号) 井戸No.中3

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.3 )	水温：( 15.9 ℃)	電気伝導率：( 0.246 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1.0 )
	アンモニア ( 0.16以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 測定不能 )	水深：( 測定不能 )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：東南	写真
------------------	----

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ) ・ 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input checked="" type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況	井戸を掘った時期： 掘った時の状況： 井戸の深さ：測定不能 地下水の流れの方向： 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  ・50年位前に親が掘った。 ・10年前にポンプを設置 ・2月頃年1回枯れる
-------	--

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年2月5日 天候（晴）気温（6.2℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：西（災害対策用井戸1号） 井戸No.西2

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	

水質等	pH：( 6.4 )	水温：( 17 ℃)	電気伝導率：( 0.249 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1 )
	アンモニア ( 0.16以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 9.6 m )	水深：( 1.2 m )	

視認・実測調査	敷地内の井戸位置図 ：北西	写真
	(The area is currently blank, indicating a diagonal line was drawn across the image.)	

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ) ・ 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 (風呂、トイレ)	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃 ) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査	井戸の概況
	井戸を掘った時期： 掘った時の状況： 井戸の深さ： 地下水の流れの方向： 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  ・水は枯れない ・10年ぐらい前迄、手押しポンプを使っていた

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年2月5日 天候（晴）気温（8.1℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：東 (災害対策用井戸12号) 井戸No. 東1

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可) 不可	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.2 )	水温：( 14~16 ℃)	電気伝導率：( 0.199 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無色 )	COD：( 2 )
	アンモニア ( 0.16 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 測定不能 )	水深：( 測定不能 )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：西	写真
-----------------	----

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている (常時) ・ 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 洗車 )	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年1回, 調査者：保健所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況	井戸を掘った時期： 掘った時の状況： 井戸の深さ： 地下水の流れの方向： 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  ・ 15m掘った ・ 昭和28年頃掘った (63年ビル建設の折、電動化) 枯れたことはなし ・ 発電機あり
-------	--

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年2月15日 天候（晴）気温（16.5℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：西1-9-44「ちびっ子広場56号」（志水さんちの草木園） 井戸No. -

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：（使用可・不可）	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：（ <u>使用可</u> ・不可）	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：（ <u>使用可</u> ・不可）	<input type="checkbox"/> 無
	その他	（ ）	

水質等	pH：（ 6.4 ）	水温：（ 16.5℃ ）	電気伝導率：（ 0.244 ）
	色：（ 無色 ）	臭い：（ 無臭 ）	COD：（ 2 ）
	アンモニア（ 0.16以下 ）		
	水位（水位計による測定値）：（ 測定不能 ）		水深：（ 測定不能 設置時約2m ）

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：東	写真
-----------------	----

聞き取り調査

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている（ <u>常時</u> ・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他（手洗い用、散水用）	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期（ 年 月頃） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年1回、 調査者：保健所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定

井戸の概況	井戸を掘った時期：平成15年 掘った時の状況： 井戸の深さ：10m 地下水の流れの方向： 水質の変化の有無（近年の状況）： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他（ ） <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：
-------	---



国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年 2月15日 天候（晴）気温（16℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：東（災害対策用井戸13号） 井戸No. 東4

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.7 )	水温：( 15.7 ℃)	電気伝導率：( 0.333 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 2 )
	アンモニア ( 0.16以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 14.4 m )		水深：( 不明 )

視認・実測調査	敷地内の井戸位置図 ：北	写真
	(The area is currently blank with diagonal lines indicating missing content.)	

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ) ・ 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他 ( 洗車 )	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 1 回, 調査者：市役所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査	井戸の概況
<p>井戸を掘った時期：昭和30年、この地に引越してきたとき 掘った時の状況： 井戸の深さ： 地下水の流れの方向： 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/>濁った <input type="checkbox"/>色が変わった <input type="checkbox"/>臭いが変わった <input type="checkbox"/>その他 ( ) <input checked="" type="checkbox"/>変化なし</p> <p>井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ・昭和39年 (東京オリンピックの年) この辺りの井戸が出なくなったので、近所の人がもらいに来た。 ・今まで枯れたことはない。 ・掘っている時に噴出してきたので、道具も残ってしまった。 ・砂利層まで掘らずに水が噴出した。 ・掘っている時、土器が出てきた。 ・この辺はぎんぼう荘があって、私営水道を設置し、近所に配水していた。</p>	

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年2月15日 天候（晴）気温（16℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：富士見台 井戸No.富士見台1

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.6 )	水温：( 16.2 ℃)	電気伝導率：( 0.265 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1 )
	アンモニア(0.16以下)		
	水位(水位計による測定値)：( 4.5 m )		水深：( 2.3 m )

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：南扉

写真

使用状況等

使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている (常時・不定期) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用(生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他(たまに洗濯)	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期( 年 月頃) 現在の状況：
定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有(有償・無償) 頻度：年 1 回、 調査者：市役所	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい(有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない

聞き取り調査

井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない(井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定
--	---

井戸の概況

井戸を掘った時期：100年前(明治38年)  
掘った時の状況：2歳の時、石で組んでいた。これを2尺5寸のヒューム管に変えた。  
井戸の深さ：6.8m  
地下水の流れの方向：不明  
水質の変化の有無(近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
・つるべにしようかと思っている位(輪をとっておいてある)。  
・矢川が枯れた時もこの井戸は枯れない。

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年6月30日 天候（曇）気温（27.0℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保（災害対策用井戸3号） 井戸No. 谷保16-1

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可) 不可	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.46 )	水温：( 18.9 ℃)	電気伝導率：( 23.3 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 3 )
	アンモニア ( 0.1 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 測定不能 )	水深：( 測定不能 )	

視認・実測調査	敷地内の井戸位置図	写真
	(この領域は斜線で塗りつぶされています)	

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている（ <u>常時</u> ・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input checked="" type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input checked="" type="checkbox"/> 農業・ <input checked="" type="checkbox"/> その他（ ）	<input type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期（ 年 月頃） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input checked="" type="checkbox"/> 有（有償・ <u>無償</u> ） 頻度：年 回， 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない

聞き取り調査	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定
--------	--	---

井戸の概況	井戸を掘った時期：昭和30年代 掘った時の状況：井戸を掘った業者（府中市 八幡宿 関根建設） 井戸の深さ：60尺（18m） 地下水の流れの方向：巽（南東） 水質の変化の有無（近年の状況）： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他（ ） <input checked="" type="checkbox"/> 変化なし
	井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： ：自家発電設備付 ：畑や庭の水やりなどに使用していて、溜れることはない。

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年6月30日 天候（曇）気温（27.0℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 井戸No.谷保16-2

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.80 )	水温：( 15.1 ℃)	電気伝導率：( 19.1 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1以下(0に近い) )
	アンモニア ( 0.2以下 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 10.65 m )		水深：( 1.4 m )

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図 ：南東（納屋）	写真
----------------------	----

聞き取り調査

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input checked="" type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：他に井戸を掘って必要がないから 最後に使用した時期（昭和30年代後半） 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回、 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま・封鎖） <input type="checkbox"/> 未定

井戸の概況

井戸を掘った時期：関東大震災（大正13年）よりずっと前  
掘った時の状況：大正14年10月に改装（震災で一部崩れた）  
井戸の深さ：12.5m  
地下水の流れの方向：南東  
水質の変化の有無（近年の状況）：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他（ ） 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
：下は玉石組で、つるべ井戸だった。  
：夏の暑い時は、何でも井戸に吊るした。  
：子供の頃、捕った魚を井戸の中で飼っていた。

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年6月30日 天候（晴）気温（29℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保

井戸No.谷保50

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( 6.55 )	水温：( 18.0 ℃)	電気伝導率：( 22.3 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 1 )
	アンモニア ( 0.1以下 )		
	水位(水位計による測定値)：( 8.90 m )	水深：( 1.3 m )	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：南東

写真

使用状況等	使用状況： <input checked="" type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ・ <u>不定期</u> )	<input type="checkbox"/> 使っていない
	用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input checked="" type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input checked="" type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
聞き取り調査	井戸の今後の取り扱い： <input checked="" type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

井戸の概況

井戸を掘った時期：徳川時代から在ったようだ。  
掘った時の状況：  
井戸の深さ：10.20m  
地下水の流れの方向：  
水質の変化の有無 (近年の状況)：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他 ( ) 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
：昔は自噴井戸が在って、ワサビ田に水を引いていた。  
：北多摩2号幹線の本管を入れる道路工事の時、移設要請があったが井戸は動かしたくなかった。  
：

国立市井戸調査記録表

調査日：平成17年6月30日 天候（晴）気温（29℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保 井戸No.谷保11

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input checked="" type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input type="checkbox"/> 無
	その他	( )	

水質等	pH：( 6.0 )	水温：( 17.0 ℃)	電気伝導率：( 0.212 )
	色：( 無色 )	臭い：( 無臭 )	COD：( 5 )
	アンモニア ( 0.2 )		
	水位 (水位計による測定値)：( 10.85 m )		水深：( 1.55 m )

視認・実測調査	敷地内の井戸位置図 ：北西	写真
	(Diagonal line indicating no photo or map)	

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている ( 常時 ・ 不定期 ) 用途： <input type="checkbox"/> 飲用 (生水飲用・煮沸・浄水器) <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他 ( )	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由： 最後に使用した時期 ( 年 月頃) 現在の状況：
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有 (有償・無償) 頻度：年 回, 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい (有償・無償) <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input checked="" type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input type="checkbox"/> 使用しない (井戸はそのまま・封鎖) <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査	井戸の概況
井戸を掘った時期：昭和31年以前 掘った時の状況： 井戸の深さ：12.4m 地下水の流れの方向： 水質の変化の有無 (近年の状況)： <input type="checkbox"/> 濁った <input type="checkbox"/> 色が変わった <input type="checkbox"/> 臭いが変わった <input type="checkbox"/> その他 ( ) <input type="checkbox"/> 変化なし 井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他： : 昭和32年、嫁に来た時は井戸が在って、ポンプで取水していた。 : 当時は一度も濁ったことはなく、勿論枯れたこともなかった。 : 井戸水は、風呂でも何にでも全部使っていた。	

国上市井戸調査記録表

調査日：平成18年8月28日 天候（うす曇）気温（27.9℃） 調査実施者：WG2

井戸所在地：谷保

井戸No.谷保9

取水方法	つるべ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	手押しポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	電動ポンプ	<input type="checkbox"/> 有：(使用可・不可)	<input checked="" type="checkbox"/> 無
	その他	( )	
水質等	pH：( )	水温：( )℃	電気伝導率：( )
	色：( )	臭い：( )	COD：( )
	アンモニア ( )		
	水位 (水位計による測定値)：( ) m	水深：( ) m	

視認・実測調査

敷地内の井戸位置図  
：東南

写真

使用状況等	使用状況： <input type="checkbox"/> 使っている（常時・不定期） 用途： <input type="checkbox"/> 飲用（生水飲用・煮沸・浄水器） <input type="checkbox"/> 料理・ <input type="checkbox"/> 洗濯・ <input type="checkbox"/> 撒き水・ <input type="checkbox"/> 池 <input type="checkbox"/> 農業・ <input type="checkbox"/> その他（ ）	<input checked="" type="checkbox"/> 使っていない 理由：水道が出来たため。 最後に使用した時期（ 年 月頃） 現在の状況：空気抗を残し、塞いでいた。
	定期的な水質検査： <input type="checkbox"/> 有（有償・無償） 頻度：年 回， 調査者：	<input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 今後実施したい（有償・無償） <input type="checkbox"/> 実施しない
	井戸の今後の取り扱い： <input type="checkbox"/> 今後も使用 <input type="checkbox"/> 現在未使用だが今後使用	<input checked="" type="checkbox"/> 使用しない（井戸はそのまま <u>封鎖</u> ） <input type="checkbox"/> 未定

聞き取り調査

井戸の概況

井戸を掘った時期：昭和27年～28年位  
掘った時の状況：井戸掘りに1ヶ月ほどかかった。中で掘る人と、外で土を上げる人がいた。  
井戸の深さ：  
地下水の流れの方向：  
水質の変化の有無（近年の状況）：  
濁った 色が変わった 臭いが変わった その他（ ） 変化なし  
井戸にまつわる行事・習慣・思い出・その他：  
：塞がれていたなので、調査不能。  
：昭和24年、井戸も無くもらい水だった。大家さんの家から水を汲んで運んだが、本当に大変だった。  
：当時は蔵を建てるか、井戸を掘るかと言われるほど、大変だったが水が無いと人間は生きていけないので、一生懸命節約し、お金を貯めて井戸を掘った。

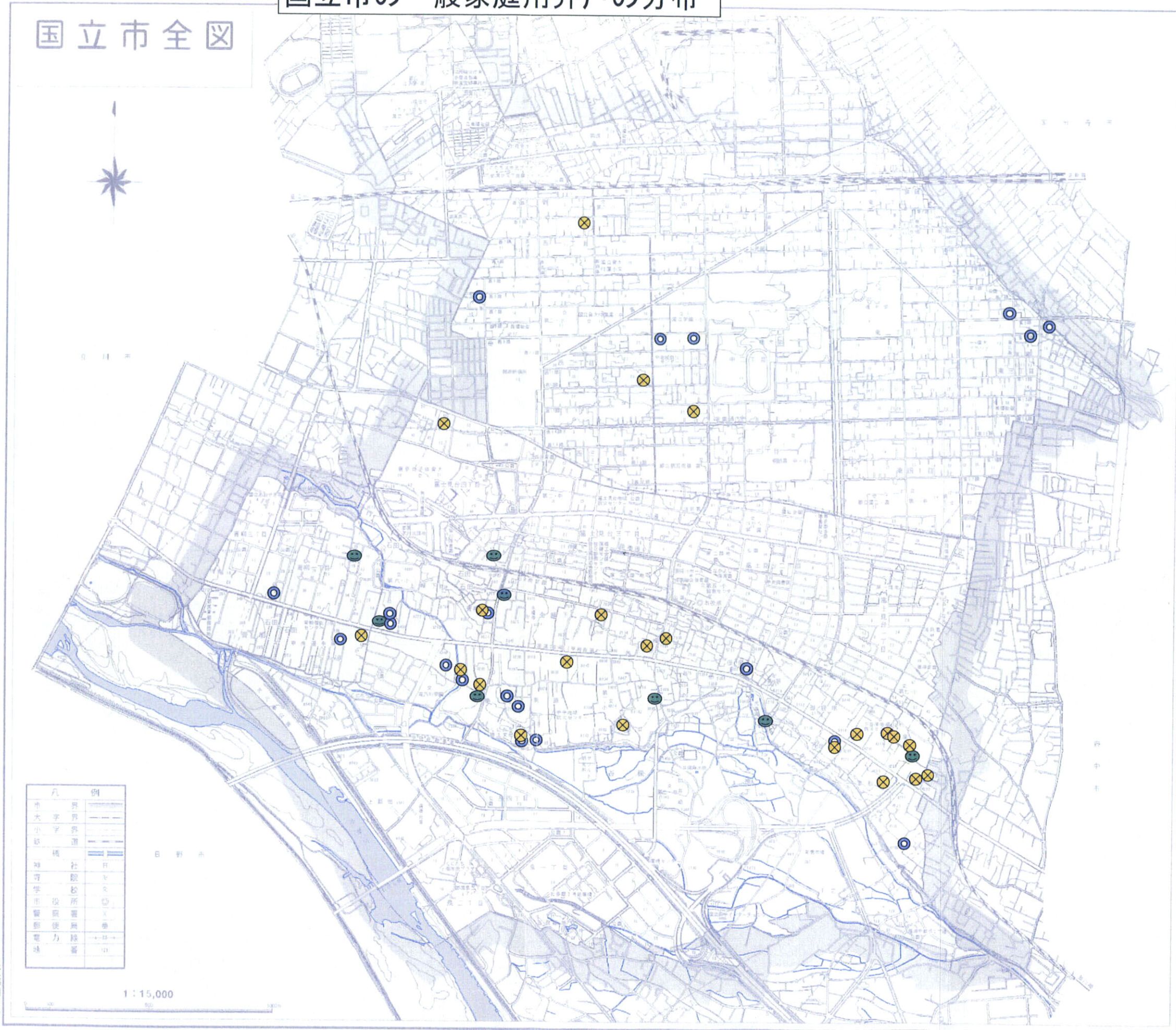


# 国立市の一般家庭用井戸の分布

国立市全図

- : 現在の災害用指定井戸(20箇所)
- : 現在使用中の井戸
- ⊗ : 使用していない井戸

注: アンケート調査等によりご了承頂いた方のみプロットしています。



凡 例	
市 界	———
大 学 界	———
小 学 界	———
鉄 道	———
橋	———
社 会 館	□
学 校	○
市 役 所	○
警 署	○
郵便 局	○
電 力 線	———
地 蔵	○

1 : 15,000





# ワーキンググループ2

## 井戸調査の様子

(調査実施 25箇所)  
(期間 H16.3~H18.8)



**残したい! 使いたい! 井戸**  
井戸の利用について考えてみませんか?





## ワーキンググループ 3

水に関する昔の暮らし聞き取り調査班





## I 水に関する昔の暮らし聞き取り調査

### 1. 目的

水循環と人々の暮らしとが密接なかかわりを持つことは、前文でも述べられている通りである。地域の気候や風土が伝統的な水との付き合い方を育んできた。しかし谷保村が国立町になり国立市へと発展するにつれて、多様な各地から人が集まる都市となった。さらに都市化が進むにつれて土地利用も変化し、上下水道などの基盤整備も進んだ。暗黙の了解で成り立っていた伝統的な水との関わりは、わずかに地域の一部に残るだけとなっている。

ワーキンググループ3では地域固有の水文化の再確認を目指し、まず水と人の伝統的な歴史を実感するための手法として、現在この地域で生活している一人ひとりに直接水に関係する昔の暮らしの聞き取りをおこなうことを計画した。暮らしの中で育まれた知恵や工夫、仕事や遊びなどの聞き取りを重ねる中で、私たちが現在置かれている環境をもう一度見直し、水環境を保全することや水文化の価値を再確認する。調査から得た成果は年表などにまとめ、市が策定予定の水循環基本計画に活かすとともに、地域の水文化の価値を市民へ伝え継承していく。

### 2. 調査方法

「昔の暮らし聞き取り調査」を行ったワーキンググループ3では、複数の「くにたちの暮らしを記録する会」のメンバーや、地域に住む古老の方々より得た情報を基に、まず聞き取り対象者のリストを作成した。その後、70代以上の方、幼年時から地域に住んでいる方を中心に、計11地区28名を対象に聞き取り調査を行った。業種（豆腐屋など）によっては、現在開業している全店を対象とした。聞き取り調査は、聞き取り対象者の自宅、ないしは公共施設などで、直接聞き取りを行った。補助記録としてテープ、写真も使用した。1回の調査当たり2～10名が1～2時間程度の聞き取りを行い、記録係が記録を行った。またワーキングチーム2の井戸調査に同行し、同じく聞き取りを行った。それに加え、「くにたちの暮らしを記録する会」のご好意で、記録する会（当時は国立市民具調査団）が教育委員会の委託を受けて28年前に調査し、1983年3月国立市文化財調査報告として刊行した『国立の生活誌・古老の語る谷保の暮らしー』三冊の中から、水に関するものを抜粋し、今回の聞き取り調査に重ねて事例に厚みを持たせることが出来た。

聞き取りは生活に密着したものであるがそれをそのまま地域の歴史とするには事実確認が必要となる。そのため、国立の歴史や多摩川の年表などと合わせ客観的な事実とつながる面を報告することで、今後役に立つと考える。

聞き取りの中心は以下の三点とし、年表の分類にも生かした。



①地域固有の水環境

多摩川、井戸、用水、湧き水に関すること

②地域社会の中で慣習的に行われてきたこと

漁業、農業、雨乞いなど

③生活の中で位置づいていたこと

遊び、生き物など

調査日・地区

No.	地区	調査日	対象者	備考
1	谷保下谷保地区	2004. 7. 23	佐藤定彦・好子さん	
			佐藤利雄さん	
			関吉男さん	
			北島清三さん	
2	谷保坂下地区	2004. 8. 04	長島浪春さん	
3	谷保四軒在家地区	2004. 8. 27	山口松男さん	
			佐伯秀雄さん	
			佐伯吉蔵さん	
4	谷保青柳地区	2004.11.07	佐藤恵さん	
			遠藤一夫さん	
5	谷保久保地区	2004.11.10	遠藤政雄さん	
6	谷保南区	2004.11.25	佐伯茂さん	
			島村幸夫さん	
7	谷保坂下地区	2005. 1. 31	佐藤兼吉さん	
8	中地区	2005. 2. 05	柳川すみえさん	災害用対策井戸No.7
	西地区		石山雄策さん	災害用対策井戸No.11
			千葉きく子さん	災害用対策井戸No.1
9	東地区	2006. 4. 18	「鳩の湯」高張末松さん、大和さん	
2006. 7. 04		「小山商店」小山幸男さん 渡辺豆腐店 渡辺さんご夫妻		
11	富士見台地区	2006. 7. 24	「もぎ豆腐店」茂木進さん	
12	谷保下谷保地区	2006. 8. 28	小山栄子さん	
			松村春次さん	
13	立川市	2007. 3. 29	「石田産業」石田隆一さん、石田高章さん	

3. 調査者

水の懇談会ワーキンググループ3メンバー（延べ60人）

4. 調査のまとめ

私たちはこの聞き取り調査を通して、地域社会の水環境やそれにまつわる慣習、文化がどのように形作られてきたのか、それが継承されてきたのかを知ることが出来た。また1980（昭和55）年、国立市民具調査団により始まった聞き書き調査をまとめた「国立の生活誌」の中から水に関する記事を抜き出し、資料とすることにより、すでに多くの習慣や記憶が地域から衰退していることを知った。水がなくては生きていけないことに変わりはない。では昔とど

こが変わったのか。

- ①現在の日本では水をわずかな金銭で簡単に得ることができ、さして労力を要することもない。
- ②川の水が多目的に使われるようになったため汚染も進み、そのままでは飲める状態になく、魚などの生物も減少した。
- ③地面がコンクリートやアスファルトで覆われ、雨水浸透が難しくなった。
- ④畑や田んぼ、樹林が減少し、雨水浸透が減少した。
- ⑤地中に汚染物質が浸み込み、湧き水や井戸が汚染された。
- ⑥生活のスタイルが変化し、農業や漁業などの一次産業が姿を消した。
- ⑦都市化が進み、人口も増え、地域のつながりも希薄となり、慣習を伝えるすべを無くしてしまった。

これだけ変わればもう昔の話を伝えることは不可能なのだろうか。ではまだ残されているものは何かを探して見よう。

- ①青柳崖線の緑の回廊が存在する。
- ②立川崖線から青柳崖線にかけて湧き水と、それを集めて流れる矢川が存在する。
- ③南部地域には田んぼと畑と府中用水が残っている。
- ④井戸が市内に100本以上現存する。
- ⑤国立市の上水道には、55%ほどの地下水が含まれ、夏冷たく冬は暖かい美味しい水である。
- ⑥南部地域には昔からの住民が住み、天満宮の祭り保存や子ども会など、地域のつながりを濃く残している。
- ⑦国立市は8、15平方キロメートルの面積で、人口も7万3千人ほどの比較的小さなまちであり、顔の見える関係を作りやすい。

失ったもの、残っているものを簡単に比べることはできないが、宝物がまだまだたくさん残っていることもわかる。地域の個性を生かしたまちづくりを考えたとき、「環境＝水＝ひとの暮らし」は重要なポイントと言える。湧き水を目にし、生活の中で利用し、遊べるという環境は、今の時代にあって稀有なことだということを多くの市民が共有すれば、雨水浸透の必要性が見えてくる。地元で取れた野菜や米を、田植えから稲刈りまで体験できる環境を大切にすることで、農業を大切にすまちづくりを考えることができる。ハケと湧水、用水がつながる地域を見ると、生き物の種類や植物相が市内でもっとも豊かである。多摩川も含めて多様な水環境がそれを支えている。井戸の存在は防災とも関連して、まちづくりの大きな柱となる。

水遊びや魚とりなどの、自然の中で遊ぶ体験をもっと子どもたちに伝えてい

こう。道具づくりや創意工夫が遊びをもっと楽しくさせるだろう。これから私たちは、気づいた宝物を市民全体に広げる活動をしていきたい。

## 5. 提案

- ①井戸の復活—小学校ごと、公園ごとに井戸を設置する  
飲み水が蛇口からでるものでなく、自然の生態系の中でこそ得られる貴重なものだという実感をもつようにする。第二小学校にある深井戸は防災だけでなくもっと日常に使えるようにしたい。
  
- ②環境教育に地域の水環境の学習を取り入れる  
地域に残る井戸の見学や、ママ下湧水などの湧き水探検を取り入れる
  
- ③多摩川の復権  
多摩川に関する学習や遊びをもっと取り入れ、川に親しむ機会を増やす
  
- ④国立の昔からの暮らしを伝える活動推進  
くにたち郷土文化館とも連携し、子どもから大人まで、昔の暮らしの体験の機会を増やす。例えば用水路や川の掃除なども、用水組合などとの連携でイベントとして行う。

## II 水の懇談会による聞き取り調査のまとめ

※各地区名の後の数字は「WG3 水に関する昔の暮らし聞き取り調査」の項目「調査日・地区」の番号に対応する（78ページ参照）

### I 多摩川

多摩川は谷保地域の人々にとって、無くてはならない恵みの川であり、遊びの場であり、そして洪水などで怖い顔も見せていた。交通の要と言う役割も持っていた。

#### 四軒在家地区 ③

多摩川は、奥多摩のダムが出来るまでに、堤防すれすれまで水が上がったことがある。サイという魚を捕った。これは骨っぽくて美味しくないがよく捕れた。

#### 久保地区 ⑤

多摩川の堤防づくりは農家の救済事業だった。川の中には冷たい水が湧いているところがあるし、急に深くなるところもある。知らない人はそれでおぼれる。

鮎捕りなら俺は名人だよ。今なら6月第一日曜から9月一杯まで捕るが、9月になると卵を持ってまっ黒になる。魚は土用になると川を登り、8月末になると川を下っていく。そこを考えて網を打つ。網は自分で絹のより糸で編んだが、大人になると1200から1500目の網を作った。立高の下に青木という川魚屋があった。

多摩川の3大難所といわれたのは、四谷橋の油面、狛江の猪方？と並び、谷保青柳の雨なれ下だった。今の多摩川がほぼこの形になったのは、1650年代。地の人で溺れた人はいない。

終戦後、多摩川の水が汚れた。共同作業などの後、多摩川の魚を唐揚げなどで食べるとゲップがガソリンくさかったもんだ。

#### 南区 ⑥

‘川’の恵みって、(自分の)お母さんが言っていたが、「手をけがしたときも、川で手を洗ったら治る」ってね。それくらい綺麗だったんだらう。今、川が一時よりは綺麗になったというが、遊ぶ人はいなくなった。昔は子どもが沢山河原で遊び、沢山の人が釣りをしていたもんだが。

多摩川漁業組合の組合員もどんどん数が減ってきた。平成7年に749名だったのが、平成15年には579名だ。

昔、川が増水したときには、丸太捕りを良くやった。流れてくる丸太を鎌で引っかけて捕る。俺なんか泳いでいって抱えてきたりしたよ。流れが速いから、堰に行く前に岸に戻れるように計算して泳ぐ。丸太捕りが一番面白いが、サツマやリンゴなんかも流れてくる。みんな食った。丸太は苦勞してとっても、焼

き印が押してあって押収されてしまうこともある。豚が流れてきたこともあった。鳴きながら流されていくんだ。河川敷に植えたものや、飼ってた動物が水で流されるんだらうな。

## 南区 ⑥

捕った魚は、煮付けにして食べた。生醤油で煮たと思うよ。うちは8人兄弟で7人が男だから、多摩川の魚が無かったら今の健康な身体はなかった。

## II 井戸

聞き取りで話の出た井戸は、ほとんどが地表から最初の不透水層の上に流れる自由地下水（浅層地下水）を汲み上げる素掘りの浅井戸や掘り抜き井戸で、上総掘りによる噴き上げ井戸の話も一部ある。揚水方法は釣瓶による時代から手押しポンプ、そして現在はほとんど電動ポンプに変わっている。地域の地形により掘る深さが違う。

水が出やすい地域は掘るのも簡単でどの家にも井戸はあったが、掘るのに一身上かかるといわれた地域などは、共同井戸を使用していた。

### 下谷保地区 ①

地形が高いので40尺掘った。大きな井戸は直径4メートル以上あり、一番下に石垣を組んで立ち上げた。つるべ井戸だから、わらを編んだものをまた3本合わせ、太い縄でつるした。毎年正月の20日には1年中使えるだけの縄を編んだ。梅林下の家に掘り抜き井戸があって、水が吹き出していた。天秤井戸というのもあって、水位の高い井戸で跳ね上げて使った。反対に石を縛り付ける。

### 四軒在家地区 ③

どこの家にもあって釣瓶井戸だった。大体7尺ほどの深さかな。

### 青柳地区 ④

打ち込み式の井戸で3本あったが現在は2つ。飲用も大丈夫。掘り抜き井戸で震災にも耐え、直径1メートル以上の井戸の中は綺麗な石組みがそのまま残り4尺ほど下に水面が見える。350年ほど前先祖がこの地に移り住んだ時に掘ったもの。水口がよいといわれ涸れたことがないというが、現在使用していない。

### 青柳地区 ④

掘り抜き井戸で震災にも耐え、直径1メートル以上の井戸の中は綺麗な石組みがそのまま残り4尺ほど下に水面が見える。350年ほど前先祖がこの地に移り住んだ時に掘ったもの。水口がよいといわれ涸れたことがないというが、現在使用していない。

### 久保地区 ⑤

上水道が通る前まで使用。水の味？全然違うね（井戸の方が美味しい）。乳牛

を飼って、いたときなどは、夏腐らないように乳をつるしておいた。

#### 久保地区 ⑤

どこの家にも井戸はあり自分たちで掘った。2～3人いれば大丈夫で1週間もかからない。まず形を決めて地面を切るようにして回りながら、柄の短いスコップで掘る。だんだん深くなると3本の櫓を組んで井戸中の土を鋤簾の柄の短いので搦いながら軽菰？に入れて上げる。ナメに來ると堅いので石鑿で刻むように掘っていく。この辺は砂ナメで、堅くて大変だった。それでも1日で15尺は掘った。水が出てからも3尺は掘る。2月から3月頃が井戸掘りに適していた。水涸れのひどい年は、さらに掘り下げる。以前は石積みだったが、昭和の初めにコンクリートの丸に代えた。このあたりにも上総掘りで掘った噴き上げ井戸が8軒はあった。

#### 坂下地区 ⑦

甲州街道の上では深く掘らないと水が出ないから一身上はたくと言われた。この辺じゃ水は出やすいが、わざわざ掘らなくとも川がそこにあるんだから、みんなそれを飲んでた。のど渇くと腹這いになって、口を付けて飲む。うまかった。誰も腹こわしたりしなかった。

水道になったとき、最初臭くって飲めなかった、みんなきらったもんだ。掘り抜き井戸は3本あった。天満宮の梅林の横に梅林がもう一つ続いていたが、その家にもあった。ポンプ（手押し）の井戸はどこの家にもあった。

松丸太を組み、その上に石を組んでのせて作っていく。井戸綱は1月20日に作るんだ。この日は恵比須講で休みだったから。物日と言ってご馳走を作った。

#### 中地区 ⑧

昭和27年に家が建った時から井戸はもちろん今のところにあつた。何度も掘り直している。だからかなり深くなっていて、水量も多いし涸れることもない。水道が出来てからも、飲用以外は全部利用している。

#### 中地区 ⑧

掘ったのは50年ほど前の昭和25年頃で、親父がこの家を建てる時に掘った。一度も掘り直しをしていない。10年前頃から1～2月に水が涸れるようになったので、奥多摩の人を人づてに頼んで掘り直しを依頼したが「もう手掘りはしない」と断られた。電動ポンプに付け替えてずっと使っている。

#### 西地区 ⑧

50年前に家を建てる時水道がなかったから立川の羽衣町の人に頼んで井戸を掘った。飲用以外の何にでも使用している。風呂、洗濯、庭の水まき、トイレにも使っていて大変助かっている。出が悪くなって掘り直しを1度やった。一度も涸れたことはない。10年前手押しポンプが壊れたときに探したが手に入らず、あきらめて電動ポンプに変えた。

以前、台風で停電になったときには、ご近所の皆さんが水を求めて並んだ。

#### 東地区 ⑧

昭和28年に家を建てて越してきた時に井戸も今の場所に掘った。手押しポンプで50尺だから15m掘った。生活井戸として当然何にでも使っていた。一度も涸れていない。

建て替えの時に自宅とマンションの境ギリギリに井戸をそのまま残した。電動ポンプにその時に変えたが掘り直しはしない。

井戸の役目は時代で変わってきた。

まず生活の必需品だった。次に水道が通って生活に必要ななくなったとき、作業所で使った。今はそれも必要なくなり、洗車とテナントが利用するだけだが防災のことはいつも頭にあった。

井戸は人間が生きていく以上、かならず何かに使うことができるものだ。発電機は仕事上持っている。どんなときでも井戸は大丈夫。

#### 東地区 ⑨

昭和29年に結婚してくにたちに来た。風呂屋が出来るので、承諾の判をついた。自分に家にも井戸はあったし、周りのどの家にも井戸はあった。ウチの井戸は25mと聞いていたがやはり2月頃になると涸れた。

家の建て替えで井戸を閉じるとき、神様が入るから、といわれて息抜きの管を挿した。千葉の別荘では利根川の水だが、一度源流に行ってみて驚いた。藻が生えて緑色で水はまずい。それに比べて国立の水は本当に美味しいと思う。

昔は大雨が降ると停電になり、すぐ水があふれた。八興社の売店のあったあたり、あの辺が一番低かった。奥さんが一生懸命土嚢を積んでいたのを覚えている。排水どころかマンホールからかえって水が吹き出す。

私たちはいざというとき、本当に安心。鳩の湯さんの所に行けば水が手にはいるから。何かの時には行こうといっている。水の大切さを孫が学校で学んできたけど、洗面器一杯の水で顔を洗い、コップ1杯で歯磨きをすることができる。子どもたちにもっと伝えることがある。

#### 下谷保地区 ⑩

庭の端に井戸が残っている。残念ながら15年位前に、電気を通して途中までザッとこぼれてしまうようになり、それ以来使われていない。

私がこの家に、昭和32年に来たときにはもう（井戸は）あった。そのころはちゃんからポンプでガチャコンガチャコンやっていた。33年に息子のオムツを洗っていたときも、やはりちゃんからポンプ。一度も濁ったことがないし、もちろん涸れたこともない。風呂でも何でも全部使っていた。

#### 下谷保地区 ⑪

昭和27年か28年位前に井戸を掘った。昭和24年にお嫁に来たが、その時は井戸もなく貰い水だった。大家さんに家から水を汲んで運んだが本当に大



変だった。それで一生懸命倅約して、お金をためて井戸を掘ることにした。当時倉を建てるか、井戸を掘るか、と言われるほど大変なことだった。水がないと人間は生きていないから。1ヶ月くらい井戸掘りにかかった。中で掘る人と外で土をあげる人がいた。佐藤正太郎さんと言う人だよ。近所だったが今はいない。50メートル(?)くらいの深さで、土管を20数本入れた。(注:このあたりの井戸は全部10メートルから12メートルあたりです)深いので西瓜なども中につるして冷やせないから、汲んで冷やした。

初めガチャコンしていたが、5~6年して柄が折れた後モーターにした。涸れることはなかったが、水道が通ったあたりから水質が悪くなり、保健所の許可が下りなくなったので、井戸を閉じた。ただ、井戸神様がいたので全部閉めることはないようにしてある。いまでも暮れには天神様のお札を貰い、貼っているし、正月の3が日は主人がお神酒や餅、お供えをあげている。井戸は粗末にはできないから。

立川市 ⑬ (井戸掘り業者)

昭和36年頃に地質調査を始めた。多摩ニュータウン建設のときだが、あのあたりはまだ水道が入っていなかった。昭和39年か40年頃に、2ヶ月も雨が降らない日照りが続き、井戸も涸れた。地質調査の機械が当時4台あって、その中の1台を井戸用にと考えた。そのうち2台に増やした。しかし砂が混じったり、水の濁りを除く技術を持って無かった。

当時、10メートルから20メートルのところまで掘れば水が出る。それにパイプを入れればよいだけだと思ったが、やはり素人でダメだ。東中野に井戸を掘るところがあると聞いて、見に行ったりして経験をつんだ。20~30メートルのところは、汚染されている。だから今では、70~100メートルまで掘るようにしている。

昔からここに住んでいる。(立川市富士見町2丁目)小さい頃はもちろん水道は無く、家には手掘りの井戸があった。手押しポンプで24メートル、60センチの丸(土管)が入っている。良い水で涸れたこともなかった。学校から帰るといつも20リットルのドラム缶に水を汲むのが仕事だった。それがきつくて嫌で、毎日何とか逃れようと、遅く帰るようにしていた。

昭和16~17年頃の戦争中にモーターがついた。高砂ポンプというシリンダー式のものだこの工場を立て直すときに、埋め立てることにした。昭和25年から26年頃に、横田か立川かの基地からガソリンが流れた。立川の水(地下水)は秩父から来ていると聞いたことがあるが、油が流れたと聞いて、井戸掘って汲み上げ、そのガソリンで車を走らせたという。ほかにも井戸を掘って油を汲もうと、つるはしで6メートルくらい掘ったら、つるはしの火花で引火して爆発して死んだ話がある。拝島の駅の北側を掘ったときも、やはりガソリンくさかったから、横田だ。立川の曙町でもガソリンくさいと言う話は当時あ

った。

立川の熊野神社を昭和50年頃に手掘りで井戸を掘ったが、7~8メートルで水は出た。飲めるかどうかは知らない。国立でも泉で10メートルの井戸を掘った。普段は深井戸で、国立なら60~80メートルくらい掘る。そのほうが安心。打ち込み井戸は砂利にあたると大変だ。機械で掘るのは10メートルでも、100メートルでも同じこと。機械1台で5、000万はする。国立学園でも80メートルくらい掘った。それを自然水位の24メートルまで、上がってくるのを待つ。うちの井戸は外に130メートルの井戸を2本掘ってある。東京都では40項目もの水質調査をするが、それで良い水だといって、災害用に指定させてくれと言われ、その代わり検査は無料だった。

機械は今3台ある。年間30本以上掘る。新しいのばかりでなく、堀直しもある。機械のセットに大体1~2日かかり、10~25日掘る。また撤去に1日はかかる。水道水の節約になるから、豆腐や、風呂や、植木造園などから、今でも依頼が多い。

福祉施設なども依頼がある。冷暖房に使うことが多い。値段や日数は、地盤の固さで違う。大体このあたりの地質はわかっている。国立でもずいぶん掘っているからわかる。目的によって深さは変わるが、大体は5日くらいだ。小さな機械でやれば、6メートル直角があれば掘れる。大きいのも6×10メートルあれば掘れる。

温泉を掘るのならどれくらいかかるか？1メートル7万円くらい。国立の河川敷に掘るなら、1、200メートル掘れば出る。うちで特許を目指している井戸は、空気圧で10メートル上がるという超簡単井戸だ。普通、手押しの空気圧のは、8メートルくらいしか出ない。

#### IV 湧き水

国立は多摩川の崖線からの湧き水が昔から豊富だった。現在でも湧き水だけの矢川やママ下の川（清水川）などがかろうじて残っている。

##### 下谷保地区 ①

子どものころは、ハケ浴いに湧き水がたくさんあって、サワガニがたくさんいた。こめけ（米池）付近では、1メートルも掘れば水が出た。天神下の佐藤兼吉さんの宅の下には湧き水があって、池ができていた。

##### 坂下地区 ⑦

自分の家は「清水のたてば」といわれ、涸れることのない湧き水がいつも湧き、新撰組も戊辰戦争の時かな、甲州街道を通って行ったとき、ここによってわらじを代えたり、食べ物を食べたりして休んでいったそうだ。

みんな水っていうものは大事だって考えていた。だから甲州街道が昭和2~3年に作ったときに、だいぶん地盤を高くして作ったが、自分たちの家は高さ

をそのままにしておいた。水はだいぶ上に家が建って、吸い込みのため地下が汚れるまで、ずっと飲んでいた。

#### 坂下地区 ⑦

この辺（兼吉さん宅）じゃ水は出やすいが、わざわざ掘らなくとも川がそこにあるんだから、みんなそれを飲んでたよ。のど渇くと腹這いになって、口を付けて飲む。うまかったよ。誰も腹こわしたりしなかったな。水道になったとき、最初臭くって飲めなかったよ、みんなきらったもんだ。

常磐の泉は昔からみんな水汲みに来たよ。天秤担いで水汲みは女の人の仕事だったからね。水が良いから渋谷からも荷車に積んで水汲みに来たんだ。湧き水だから冬暖かで、夏は冷たくてうまいんだよね。わさびっ田てえのはこの辺にもあったよ。水が綺麗じゃないと出来ないからね。

### V 仕事→水車・豆腐・わさび田・用水・農業・漁業

#### 水車

水の豊富な矢川やハケの湧き水を利用して水車が掛けられていた。個人所有の水車もあり、多くは共同で麦や米を搗くのに使用した。残念ながら現在は一つも残っていない。

#### 四軒在家地区 ③

この地区は水が豊富で、水車は7～8つほどあった。一番よく利用したのは滝乃川の上にある共同水車。順番を待ってよく米や麦をついた。

#### 坂下地区 ⑦

水車は2つあった。以前はもう1つあったと聞いていた。一つは大きな水車で俺の家のそばにあり、共同水車だから皆で使った。甲州街道の下をくぐり一間くらいの川が流れてたが、湧き水だもんで綺麗だった。特別に掘を造り、水を上に上げてそこで水車を廻した。杵は3本あったが、水の少ないときは1本だけでつく。もう一つは天満宮の南の端にあった。

#### 豆腐屋

豆腐屋はスーパーの豆腐に押されるのと、高齢での後継者不足によりだんだんと減っている。しかしまだ西に1軒、東に3軒、富士見台に1軒残る。

西の豆腐屋は昔ながらのラッパを吹きながら自転車での営業も営む。どの店もこだわりの豆腐で人気を保つ。水が肝心との話は共通。

#### 東(3丁目)地区 ⑨

ここで開業したのは、昭和33年。自分は確か1歳?いや2歳だった。何も無いところから始めた。周りは松林で、水道も無かったな。家は大方そろっていた。そのころはどこでも井戸を掘って使っていた。深さ?17メートル。始めはガチャガチャの手押しポンプだったが、今は電気ポンプで揚げる。掘り直

しはしていない。砂利が溜まったら掘る（掻き出す）程度。ちょっとしか溜まないので、溜まったら揚げるようにしている。保健所で毎年検査を受けて、洗いものに使ったりしている。豆腐作りなどには使わない。なぜって？奥多摩のほうが心配だからね。ごみの処分場だって汚染されていると思う。それが心配だ。

最初は納豆から始めた。もちろん国産大豆を使っていた。（そのころでも）国産は少なかったな。今のような小粒でなく、枝豆くらいの中粒だったよ。そのうちに、せっかくだから豆腐も作ってくれと言われ、作るようになった。国産大豆も、金沢や山形、青森、北海道、山梨などから取り寄せている。豆腐は九州の大豆を使う。なぜかって？蛋白が多いからね。豆腐屋は、昔からあるのは鳩乃湯の隣と、東の郵便局となり、団地の中の2軒と富士見通りにもあったが、今は移転している。

#### 東(2丁目)地区 ⑩

今は店を開けるのは遅いよ。なぜならお客さんが、朝早くから買いに来なくなったからね。昔は6時にはもう鍋を持って豆腐を買いに来たよ。奴に切つてとか、さいの目に切つてとか言ってね。だから2時起き、3時起きして豆腐を作ってた。今の親父さんなんか何食ってんだかね。バスに乗るのを見ながら思うね。水とおんなじで、食生活も大事だって事さ。

（谷保で豆腐屋をやっていた）矢沢さんのカネチャンも亡くなったし、滝乃川学園のそばの豆腐屋さんも亡くなったな。それからは（自分が）滝乃川にも届けに行くけど、以前より少なくなった

#### 富士見台地区 ⑪

この場所（富士見台ダイヤ街）に来たのは、団地が出来たときだから昭和41年。28歳のときだった。それまでは小平で兄の豆腐屋を手伝っていた。このあたりは道路は舗装されていたが、大雨が降ると店の前まで水浸しだった。下水道ができてそういうことは無くなった。

夫婦ふたりで全部手作りだから、朝は4時から起きて仕事は大変だった。初めから水道だよ。地下水は汚れていてそれに保健所がうるさいのでやめた。豆腐は水が美味しくなくっちゃだめだから、カルキを抜いて使っている。それでも水道はまずくなった。前と違うよ。昔から防腐剤なんて使っていない。豆腐はいたむのが当たり前だ。スーパーなんか1週間先の日付（賞味期限）を入れて売っている。それを当たり前と思って買っている。

なんだか当たり前のことがなくなってきた。みんなそうじゃないか。今の人は豆腐を長持ちするもんだと思っているのを見るとね。うちは昔から本にがりで作っていて、今も変えていない。甘みが増すんだ。オートメーションだと本にがりは入れられないからね。みんな生活が忙しくなった。前は入れ物を持って買いに来たけど、何でもパックになっちゃった。公害がおきるわけだよ。便

利は良いけど捨て場所が無くなるだろう。今でもたまにいるよ、入れ物持って買いに来る人が。そういう人は袋も持ってくる。昔は売ってなくて、今売ってようになったもの？ そうだな、絹揚げはなかったな。それから寄せ豆腐も売ってなかった。昭和の33～34年頃までは、東京じゃ木綿ばかり作っていた。絹ごしは関西だ。今ではこっちでも作るようになった。冬は湯豆腐で木綿が売れ、夏はやっこで絹が売れる。豆は組合で吟味したものを使っている。

毎日同じ豆で同じ造り方をしている、仕上がりが違うときがある。今日のは、と手ごたえを感じるときかな(そういうときにやりがいを感じる)。

どうして豆腐屋を継ぐ気になったのかって？ 人が上にいるのではなく、自分でやれるのがいい。

## 風呂屋

風呂屋は現在国立市内に2軒となった。西地区の松の湯さんは代替わりで地域の人でないため、取材が難しく断念した。以前は北に1軒、国立地域に3軒開業していたという。現在残る2軒ともに地下水を使用している。

### 東地区 ⑨

風呂屋は昭和29年11月に開業したと聞いているが、自分は昭和31年に国立に来て、はじめ風呂屋を借りその後買い取った。最初薪を焚いていたが、そのうち廃油を焚いたりして、今はガス。簡単で人手も入らない、1時間で焚けるが、お金がかかる。薪の時は3～4人使っていた。立川基地から薪を集めた。それは梱包材だ。トラックに積んで家で割って使った。

国立の水は最高！ どんなに周りが濁水の時でも濁れることはない。井戸屋に検査をしてもらったとき、200㍓だと聞いていたのが、調べたら160㍓だと言われたが、ゴーゴーと流れる音がするほどだ。前はよく水を汲みに来る人がいたほど、美味しいと評判だった。もちろん今でも美味しい。毎年検査して大丈夫といわれている。毎日飲んでる。

風呂にも良いんだ。ここの湯は湯冷めをしないってお客さんが言う。(地下水でミネラル豊富だから) 小平でも風呂屋をやっていたが3年前にたたんだ。あそこは水が悪い。場所によっては、400㍓掘ってもよくない。水は自然の恵みだ。

## VI 府中用水とその周辺

多摩川から取り入れる府中用水は、農業の要だった。名前は府中用水だが国立部分(府中はかなり暗渠化されているという)は昔ながらの様子を何とか残している。しかし区画整理事業が進展するにつれて、ハケ下地域の田んぼとなし畑などの風景も消えようとしている。

## 農業

### 下谷保地区 ②

昔は水番ってというのがいて、用水の番をしていたんだ。場所は、今のヤクルトあたりで、部落の間で当番制だったんだ。なかには、夜中密かに自分の田んぼにだけ水を引くのもいた。だけど、田んぼの水を見ればすぐばれるんだよ。夏にはスイカを売りに行くんだ。トラック1、2台分のスイカを渋谷や世田谷あたりへ売りに行った。国立の特産品といえば千両ナスだな。昔、谷保ナスというナスを作っていたんだけど、有名だったんだ。千両ナスは、みどり農協の原田和夫さんが考案したナスで、今でも四軒在家でつくっている。

### 四軒在家地区 ③

南部線の北はみんな桑畑で、何で桑が多いかというと、ほとんど小作人だった谷保の農家では、米を作っても四六か、三七で出さなきゃいけない。換金作物といえば養蚕しかなかった。

## VII 暮らし

### 防災

東地域は国分寺崖線の下にあたり、低地となるために雨が降ると水があふれ、道路は水浸しとなり、一番水はけの悪い多摩蘭坂の坂下あたりは舟を出したと言われるほどであった。府中境とでは土嚢を積んで水をせき止める争いもあったと言う。

### 東(3丁目)地区 ⑩大雨—停電—溢水—安心

場所によっては、400を掘ってもよくない。水は自然の恵みだ。私たちはいざというとき、本当に安心。高張さんの所に行けば水が手にはいるから。何かの時には高張さんに所に行こうと行っている。昔はよく雷が鳴ると長い停電になった。

モーターだから停電になると止まる。でもタンクが大きいから、以前停電の時に3時間の間大丈夫だったから、いざというときでも2～3時間は持つね。自家発電の装置でもあればいいが、お金がかかるので無理とあきらめた。(昔は)大雨が降ると停電になり、すぐ水があふれた。八興社の売店のあったあたり、あの辺が一番低かった。奥さんが一生懸命土嚢を積んでいたのを覚えている。水が多いときは胸まで来たよ。下水(の排水)には苦労したよ。あふれた水がしみ込んでいかない。(かえって吹き出すのよね、)大きな池を掘ってもすぐ一杯になる。水はじわじわ溜まるんだ。バスも止まる。商店は大変だよ。店の中に入るんだから。

水の大切さを孫が学校で学んできたけど、洗面器一杯の水で顔を洗い、コップ1杯で歯磨きをすることができる。子どもたちにもっと伝えることがある。

## 東(2丁目)地域 ⑫

このあたり(桐朋通りに面している)は、そのころ砂利道だったから、バスが通ると黄色い砂煙、雨が降ると水煙だ。道の横に水溜りがあって大きな魚なんか泳いでたりした。何しろ地盤が低かったから、大学通りから水が押し寄せてきた。いつだかずいぶん前(国立排水路が出来る前)に、大雨が降ったとき、通りがすごい水浸しで、どの家も戸を閉めていたけど、うちは二人で土嚢を家の外に積んでいた。

そのとき、ママの森(幼稚園)の前の十字路のマンホールの鉄板と言うか蓋が、ポーンと音を立てて飛び上がり、水が噴出したんだ。お父さんがそれを見ていて、急いで飛んで行って拾ったけど、ママの森の園長さんに感謝されたっけ。誰が落ちるかわからない。水で見えないからね。危なかったよ。商売ものの入れ物なども雨で流されたことがある。急いで拾いにいったりした。長靴なんて役に立たないくらい水が出た。

## VIII 自然→生き物・遊び

金銭的には貧しかったかもしれないが、豊かな自然の中で子どもたちははぐくまれた。夏は水遊び、釣りが遊びの中心だった。女の子もみなたくましく遊んでいた様子がわかる。取り戻したい風景の第一と言える。

### 生き物

#### 下谷保地区 ①

昔いた魚は、フナ、ドジョウ、ハヤ、ナマズ、ゲバチ、ウナギ、イタブナ、八目ウナギ、バカッパヤ、雷魚なんかかな。ウナギは本宿用水を上ってきたんだ。だから用水にはうなぎがいっぱいいた。田んぼではタガメがいっぱいとれた。タガメのことをカッパとよんでいたよ。今じゃ1匹で3万円もするっていうけどね。荒田には食用ガエルがいたな。3メートルくらいとんだよ。他には、トノサマガエル、アカガエル、アマガエル、ヒキガエル、ウシガエルがいた。毎年9月15日は大瀬干しだった。

#### 南区 ⑥

- ・かじか：浅いところに沢山いた。灯りをつけて捕る。
- ・ことう(とこぶし)：砂に潜って頭だけ出している。近頃また出て来た。
- ・うぐい・ほんばや：少なくなっていたが、10年くらい前からまた増えてきた。
- ・おいかわ：今でも一杯いる。
- ・あゆ：今でも放流している。組合で場所を決めて都に報告している。琵琶湖のものだね。
- ・どじょう：「ど」で捕った。泥に潜っていて面白いほど捕れた。このごろは食べるほどいないね。
- ・くちぼそ：最近少ないね。



- ・なまず：数が減ったな～。
- ・あぶらはや：昔は居なかったよ。
- ・こい：これも昔はもっと数が少なかったと思う。
- ・うなぎ：流し針で捕った。10メートルほどの紐に、1メートルごとに針をかけるんだ。

#### 坂下地区 ⑦

うなぎ・なまず・どじょう・ふな・はや・げばち・いたぶな（タナゴ）が捕れた。鯉はほとんどいなかったな。たまにいと人気があってどこで捕ったか聞かれた。ある時農業試験場に行って鯉の卵をもらってきて育てたら、大雨で流された。その年は鯉が沢山捕れたな。おぼ（ホトケドジョウ）も沢山いた。大きなカラスガイやゲンゴロウ、タガメもいた。タガメはカッパって言った。大きかったよ5～6センチもあるくらいね。

メジロ・カワラヒワ・ホオジロ・スズメ・ヒバリ・チョウマン（ツグミだらうな）

蛭は沢山いた。チョット行くと100匹は捕れた。綺麗だったな。用水も素堀だったし。夜になると蚊帳の中に入ってきたりする。

蛇も沢山いてアオダイショウが多かったが、ヤマカガシもいたな。マムシは良く脅かされたが、いるところは皆知っていたから食われる人なんていなかった。梨園に蛇はよくいた。蛇はカエルを食うんだが見てるとホントにカエルの方から蛇に近寄っていくんだね。ウナギは流し針で捕った。太いドジョウを沢山捕ってきて「ど」に入れておくと捕れる。川魚は全部生醤油で煮て食べた。鳥も食べたが肝に当たることもあった。大山トンボが用水の土手に、ずらっと闕兵式のように並んで脱皮するのも見られたな。

#### 遊び

昔の子どもたちの遊びは、お金を掛けずに自然をうまく利用して遊んでいた  
下谷保地区 ①

子どもたちは泳ぎを荒田のたまりで覚えるんだ。だんだん泳ぎが上手くなってくるにつれ、砂利場、多摩川へと泳ぐ場所を変えていくんだ。

#### 久保地区 ⑤

遊びは何と言っても川遊び。ママ下より多摩川に行った。パンツだけで家から砂利道をタッタッタと走っていく。

箱眼鏡を口にくわえて、篠竹に5寸釘で作った手製の銚で突く。黒いチューブのゴムで勢いをつけて突くのもやった。3本銚、5本銚もあった。絹糸を縫って投網を編んだ。俺たち子どもは唐傘網という800目くらいのものを編み、出来上がったのは柿渋に漬ける。おもりも手製でほとんど1年がかりで作ったが絹なのですぐ破れる。

多摩川では、並んで釣り糸を垂らす人の下に潜って、糸を全部ひとまとめに縛って逃げる。みんな糸が絡んでしまい、次に行くと「コラッ！また来たなっ！」と怒鳴られたが面白かった。

#### 南区 ⑥

遊びといたら、何と言っても多摩川だな。いつも川で遊んで魚を捕ったりしていた。初めて泳ぎを覚えたのも多摩川だ。深いから危なかったのでは？そんなこと無いよ、兄弟と一緒にだからちょっと手を離しては、すぐ戻ったりしてだんだんに泳げるようになるんだ。

#### 坂下地区 ⑦

川をたらいに乗って遊んだ。水で身体が冷えてくると田んぼに行って浸かって暖めた。

### Ⅲ 『国立の生活誌—古老の語る谷保の暮らし—』Ⅰ～Ⅲよりの抜粋

※各項目の後の数字はこの資料末尾にある「国立の生活誌」Ⅰ～Ⅲの聞き取りを行った方の番号に対応する（125、126ページ参照）

#### Ⅰ 多摩川

##### 1. 蛇籠

昭和30年頃まで多摩川の堤防は土だったので、護岸も蛇籠でやった。川は堤防の中で、蛇行しているから当たった所は掘れてくるので、そこに松の杭を打って、細い木の枝を丸く蛇籠のように縛って、杭に絡めて沈める。それを沈礁という。その上に水の流れを防ぐために蛇籠を置く。子ども時分多摩川にもぐると護岸の下には土が無い。そだでとめてあるから。青柳じゃ冗談に「風邪引いたら、蛇籠飲め」といった。セキ止めだから。竹の蛇籠のあと、鉄の蛇籠を使った。（Ⅰ-1）

##### 2. 大水

大水が出たと言え、お地藏様の手前まで水が来てこちらから対岸まで、全部見通しに水が入って草も見えず凄かった。大水で水量杭の土手が切れると言う騒ぎで、切れたら四谷や小野宮の方まで水で流されるというので、半鐘撞いたり、お米が一俵たける大釜でご飯炊いておむすびを、青柳の上講中全部が集まって出した。

それで蛇籠を作ったり用水を作ったりした。それまでは蛇籠を作っていなかった。用水の取り入れ口を作ろうと、父が先頭で三人相談して、東京から岩沢という石屋が泊まって作った。その残りの四角い石が二つ庭にある。今入らなくなったけれど、大水が出たときは水門を開けたり、閉めたりした。用水の水は蛇籠で上げ下げした。だから家の下の河原で冬の間蛇籠を作った。（Ⅰ-7）

##### 3. 大水

今でも水量杭が中央高速道橋架下あたりに立っている。真四角で目盛りが付いている。昔大雨が降ったときここまで来れば土手ぶちまで水が来ても、何尺何寸出たとか、すぐ水量が見られた。（Ⅰ-10）

昔多摩川の堤が切れたというがそのあとは残っていた。田んぼを押し流して段が出来ている。私の住んでいた水車小屋の300メートル位下で五尺位こちらの田んぼと差が付いた。その当時は今のような高い堤防でなかったようだ。私が子どものころは今の高さの堤防だった。その頃河原には家が3軒しかなかった。消防団をやっているときに多摩川の土手いっぱいに出た水が出て、土手の上で見張りをしていたこともあったが怖かった。家にいても多摩川の川瀬の音が聞こえた。近くに聞こえるときは雨が近いし、遠くに聞こえるときはお天気、それで毎日の天気を知った。（Ⅰ-10）

#### 4. 流木

洪水のとき、貯めてあった木が流れてきて、ずいぶんこの辺でも拾った。一抱えもある丸太が奥多摩から流れてきて、それで家を建てた人もあった。引取りに来て、縁の下に隠して俺の家にはないと言ってそれで昔は済んだ。(I-7)

#### 5. 増水

トキちゃんという娘さんが府中に買い物に行っ、帰りに大雨が降って、渡船場で船に乗ってから流された。どうにか命だけは助かったが2日くらいは夢中で「助けてよ」「助けてよ」と言っていた。水が急に増えるから舟と一緒に下流に流された。こっちが降らなくても上の方で降ると、こちら側の人には知らないから使いに行く。帰ってこられなくなる。運の悪い人は川の真ん中まで来た所で、堰からどっと来ると逃げるも何も出来ない流されてしまって。兵隊さんが一度号令かけて「向こうへ渡れ」と言ったが、水に慣れない人が沈んだ。それをやっとなんか助けてもらい、向こうの店のカドヤへ連れて行って寝かせたら、やっとなんか息が出来てきたら「銃を、銃を」と言った。その時分、銃には天皇陛下の紋章がついていて命にかかわるから言ったそうだという事を聞いた。(I-15)

#### 6. 蛇籠

蛇籠は、堰作りや掘割の護岸のために使い、語源はわからないけれど蛇籠を使って雨乞いもした。昔、蛇籠作りの職人をしていた河内由太郎さんの話だと、太さは5尺3寸から5寸、長さは9メートル、7メートル、4メートル半の3種類ということだった。川に堰をするとき、横に沈めて流れを止めるのに9メートルの長いのを使い、深さによってじゃ籠を積む高さを決めるので、底の本数が違ってきて、7本並べたり、5本並べたりする。長いじゃ籠に石を入れながら沈め、7本並べると次に6本、5本、4本、3本、2本、1本とピラミッド型に積み上げ、水が溜まると積み上げた蛇籠の負担が大きくなり、崩れるので、巻籠といって、水と同じ流れの方向に横に並べたじゃ籠に帯をかけたのが4メートル半の長さで、これも石を入れながら沈めて補強に使った。梅雨や台風などの大水で堰が流されるとその都度砂利を上げて、堰作りなどの補修作業を9月までの水が必要な間はみなで出てやった。

職人は、用水組合から1年に700本作ってほしいなどと注文が出て作り、河内さんのときは、まるいた竹7、8本で1わと言ったが、それをさいて蛇籠を作ると1本しか出来なかったという。竹は九州や千葉からきたそうで、一日に4、5本作れて、5本出来ればよい方で、1本の手間賃が初めは15円で、だんだん上がって終わりの昭和30年頃は120円だったそう。蛇籠は補修に必要な分まで見込んであるので、秋まで残っているが、1年たつと弱って使

えないのを近所の人知っていて、9月過ぎると足で踏んでボロボロ折って、離して薪に持っていった。(I-1)

## 7. 堤防工事

多摩川の蛇籠は最後に針金になったけれど、竹で編んで作り、隣の遠藤組や久保の佐伯さんや、青柳の丸山の先代が用水工事の入札をやって工事した。堤防が壊れた所の請負は、青柳の「角屋」のマキ(一族)がいて、府中ザンヤに住む土方建設とやった。業者同士お互いに行ったり来たり仲良くしていた。沈礁には、その場所を深くさらって粗朶を沈めて、上にじゃ籠を沈めたが、竹の蛇籠に石を詰める仕事は、網目の小さな穴から大きい石を入れるので、慣れたものでないと出来なかった。石を運ぶだけの仕事の人とは別に、1本いくらと手間賃を多く貰っていた。(III-7)

## 8. 万願寺の渡し

日野の万願寺に船宿があった。そこに渡し場があって渡船は有料で当時1銭か2銭くらい。青柳南側の渡船場までは今の滝乃川の裏道を通って降りていった。

## 9. 万願寺の渡し

多摩川は昔は天井川で水がいっぱいになると凄く、土手が切れたこともあった。今、台座だけが残っているがそこに鉄塔があり、そこまで水がきていて、夫は上を歩いたり腰掛けて遊んだと言うが、今は手が届かなくなっている。大正14年、日野橋が秋にできた年の4月、大水が出ると太くて長い木が流れてきて、みんな止めに行った。それで物置を作った家もあると言う。持主が調べに来たこともあるそうだ。

渡しも日野に寄った深いところだけ船で渡り、河原の浅瀬に途中まで板の渡し場が作ってあった。船はそこまで着いた。(I-16)

## 10. 多摩川の渡し

多摩川の渡しは万願寺、日野、関戸、是政で、今のほうが向こうに行くのに遠回りするようで不便だ。この辺に橋があれば便利。今でも渡船しているところが1か所平間という所だ。川崎の、「おーい渡し」という。

## 11. 渡船場

昔は青柳の沢井左源太さんの所をずーっと入って行くと多摩川の下にどろ船が一〜二艘置いてあり、渡船場でした。日野橋はなかったので拝島の渡しとそこの渡しで川を渡りました。その船を利用して鮎漁をやっていました。立川あ

たりの芸者はお盆休みに二日間、田中さんの一声でみんな来ていました。そのうちに小さな橋が出来ました。(Ⅲ-3)

## 12. 船場番

多摩川は水がきれいだ。向こうのあたしの方で、1年ずつ希望の人が船場番をする。そうするとお天気の日はそのからこの杵を干して、それで水のある所で橋をこしらえる。それで川向こうに渡るには1回5円、自転車が7円。そのお金を1年に何回か部落へ貰う。今度雨が降ると多摩川の水は、急に川が狭いからどっと来るから、それで橋が流されるとその人が弁償するようになる。そうすると今度は太鼓を叩いて、それで部落中が寄って「水が出ましたか」と言っ、その橋を早く大水が流れてしまわないうちにはずして、高い所に置く。水が引くとまた釘打って、橋の杵作ってまた板を並べて通る。それを船場番といった。春とても景色がよくて、船で針金の太いのを引いてギコンギコンと引いて、そのおじさんが渡してくれる。棹で漕いだりして。水がなくなって船も夏になって通れなくなると、橋を渡っていく。渡船場は希望者が月給取りみたいに、一日いくらで番をする。45戸位の部落で、2~3人が当たる。抽選です。自分で月給みたいに貰い、一部全体に出す。利用者はお賽銭箱みたいな箱に入れる。だから箱の近くにいれば子どもでもおばあさんでも可。一之宮の渡船場、関戸橋、府中の是政、それに日野など。(I-15)

## 13. 筏流し

上流から筏が来て、幾つも丸太を並べてゆわいで、それを曲がったこぼへ行くと、そこへ棹でギュッと曲げると、多摩川だってまっすぐな所ばかりでなくカーブの所へ行くとそれを上手に操る。四つ位(約20メートル)横20~30センチの木を7本位つなぐ。人は一人だった。先にたってそれで舵を取る棒を持っている。カーブの時はつかえるから上をずーっと歩いて舵を切る。上手な人は、橋の所へ来るとチョンと橋の上に乗って向こう側に降りる。下手な人はしゃがんで橋の下を通る。(I-15)

## 14. 井堰

当時でもコンクリートがあつて、我々耕作者にすれば堰したいが建設省で一時的なものでないと許可しない。昔は奥多摩湖がなくて用水や何もかも建設省で面倒見てくれたけど、湖が出来るときに水量がなくなるからといってかなりの補償金が出たので、今後は多摩川から水を供給しないようになっていてらしいが、現実には耕作者が水が入らなければ困るから、一時的なものは認めてくれたわけだ。それで毎年毎年、省から許可をもらって、多摩川をいじって水を入れるが、今の時代になったら耕作面積が減って昔ほど水が

いらなくなり、実際に必要なのは国立の地域の6割は建物ができたりして、40町歩を潤せばよくなった。今、耕作者にやりなさいといっても人が集まらないし、遠藤組に頼んでブルドーザーとかの機械で砂利を持ってきて、堰して、水路作ってもらえば必要な水は入ってきている。増水すれば切られるけれど、遠藤組に頼めば半日でできてしまう。昔は砂利箕だ何だでいちいち砂利を抱えて外に出した。アリが這うみたいだった。私が兵隊から帰ってきた当時、アメリカさんが立川の飛行場作るために、日野橋の所に橋より高く砂利積み上げて、ダンプだなんてすごいトラックで取り上げて行く。我々のほうは、箕をもってアリまちだ。何百人と出て堀割して。まったく対照的である時の写真があればと思う。(I-1)

#### 15. 筏

多摩川の筏は水が沢山ある夏が多く来ましたが、冬でも昔は水が多かったので結構見ました。長さ五間くらいの大きな丸太を幅一間くらいの筏に組んでそれを三つほどつないで一人で漕いできました。十五間あるのを上手に操って流していました。流れの速いところでは筏の先頭と後ろがぶれるので、船頭は竿を持って上へ行ったり下へ行ったりして駆け回って、筏が真っ直ぐ流れるように操作していました。船頭が筏の上で竿を突っ張って水に流れていくのどかな様子は、絵みたいでいいものでした。その頃は、多摩川も天井川で水量も多かったのがよく氾濫しました。砂利を取った後は一丈も水位が下がりめったなことでは氾濫しなくなりました。子どもの頃、日野橋の下の高圧線の鉄塔の根固めの台に腰をかけると足が川底の砂利に着くほどでしたが今では手が届かない高さになっています。東京のコンクリートの建物は多摩川の砂利で出来たようなものです。取り過ぎで川の底が抜けるといって十年くらい前にやめになりました。佐藤彦一

#### 16. 川開き

多摩川の川開きは6月1日で、12時には花火が上がった。この日は朝2時、3時頃から家の前を人が通っていく、アユのいそうな場所を見つけて土手で時間の来るのを待っている。(I-10)

#### 17. 川の境 川開き

谷保村の区域が決まっていた。立川との境は、高幡不動の木と丸山さん(青柳の沢井酒店)の下の土手の西端とを結んで見通しをつけていた。また川幅の中にも日野と谷保の区切りがある。水死体などがあつた時に、こっちは俺の領分でないとか、そっちはお前たちの領分だとかで争つたらしい。魚にはそんなことはないから、網を打つときこの辺はまだ大丈夫といって打つた。府中との境は



よくわからないが、三家前の通りに浅瀬があつて、そこと連光寺とを目標にして見通しをつけていたらしい。そこを少し上がると浅瀬があり、投網をぶちに行っても大丈夫だといつてよく行った。そこから先は四ツ谷(府中)分だといつて行かなかつた。川開きには百人位寄つた。(I-10)

## II 多摩川の鮎漁

### 1. 鵜飼

鵜飼をやつたのは堀江さんのお父さん。立川の丸芝という所に出した。丸藤へ東京者が来て船を出して遊んだ。そこは根川と中川と多摩川と3つに分かれていて、中川が清水ですごくきれいで私の胸まであつて、小さいとき夜によく泳ぎに行った。鮎が何ぼでもいて、十五、六のとき流し針というので捕つた。中川へ屋形船にお客と芸者が乗つて、鮎を網でよせて鵜に捕らせたり、芸者なんか川に入って鮎を捕まえるのが面白い。鮎を料理したり太鼓たたいて踊つたりした。(I-7)

### 2. 鵜飼と鮎漁

うちのおばあさんは日野の新井という所に住んでいたが、子どもの頃浅川に野生の鵜が群れを成していた。それが来るとみんな子どもが箆を持って川の縁へ飛んで行く。野生の鵜がパーッと飛び込むと鮎がびっくりして陸へ飛び上がる。それをみんな箆を持って取りに行った。鵜飼は青柳の堀江奨一さんの親父さんがやつたと言ふことだ。見せるためでなく魚を捕るためにやつた。だいたい立川の丸芝という料理屋さんがあつて、あそこへみんな持っていった。昔の日野の渡船場の過度にあつた。昔は客が来たのに鮎がないと花火が上がつて漁師が鮎を持っていったものだ。花火が上がると、鮎がなくなったから持つてきてくれということだった。

その当時は、鮎が臭くなくてモジというのでよく捕つた。中村さんがモジを作つてやつた。お祭りのお飾りみたいに藁がビラビラついていて、それを川へズーッと張る。そこへ普通の「ど」のあごがないのを仕掛けて、鮎は入つたら出ることを知らないから、藁(モジ)がズーッと張つてあつて邪魔になるからそこは鮎が通らないで、藁のない「ど」の中へ頭突っ込んでしまふ。大きなビキを腰につけて、ド(あごのない)に肘から手を入れて取ると傷がつかない。一杯入つていても前へ前へと進むことしか知らないから難なく取れる。その他に水中眼鏡付けてもぐつて、上にかぎの針がついているので鮎が泳いでいるのをひつかく。引つかくと鮎がすうっと上がってくる。そういう捕り方もあつた。傷がつくのでいくらか安かつた。あとは釣りだが速く行かないと場所がなくなつた。(I-14)

### 3. 魚とり

親父は魚とりが道楽でよせ網もやった。おい網（しらた・白木綿製）やさし網（投網）と、絹網（ハリアミ）を持っていた。二尺位から五尺、何段も合って、網の長さが5間程広がった。深い所に六尺位のさし網を張り、おい網で深い所の魚を追い出し、おい網がさし網の所まで来たら止まり、その内側に目の細かい網を入れ、浅いところに追い出し、どちらに寄せるとたくさん魚が取れるかと親父はよく知っていた。川の中の苔を見ると魚がどちらに遊びに出ているかが分かった。ある程度魚を寄せたらそこへ投網を打った。背負い籠に半分位取れた。この魚をよって（選別）アユとか、良い魚は人にくれて、かすの魚は溝の中に入れて腐らせる。その腐った魚を梨の木の肥料にした。このよせ網をするときは、若い衆を連れて大八車に網など道具を乗せていった。親父は魚の心が読めた人だったと思う。おい網やはり網など、絹糸を買ってきて自分で作っていた。投網も全部絹糸だった。そうでないと打って沈み具合がよくない。

私は若い衆になってから一橋大学のかいもり先生とよく行った。仕事を終えて毎晩六時頃から出かけ、投網をぶって12時か1時頃に帰る。投網は魚をめがけて手を広げてぶてばいい。サーと沈むとすぐ引っ張る。2人でぶつと一番いい。一人がパッとぶつたら、もう一人がすぐこっち側でぶつと驚いて逃げる魚を捕る。それを両方で交互に繰り返してやる。網を上げるとアユのいい匂いがブンとくるからかかっているのが分かる。一夜とって10匹から15匹捕ればいいほうだ。アユ籠1枚に15・6匹位並べられる。2枚になると売りに行く。立川のシナそばやの福来軒に持っていくと喜んで買ってくれた。また二中（立川高校）の南西に川魚の買い入れ所があって、いつ持って行っても喜んで買ってくれた。

川魚はちっとおかしい匂いがするから捕るだけとって食べなかった。ドジョウは朝のおみおつけの中に入れて食った。アユは前に進むが後戻りが出来ない。小さいドウでも入ると出られない。ひれが使えないからだが、前に進む力は格別だ。（I-10）

### 4. 魚とり

多摩川にもよく釣りに行った。当時の多摩川は非常にきれいな水の流れて、魚は多く、アイ（鮎）、ハヤ、フナ、鯉。ナマズ、ゲバチ、ウナギ、オコゼ、スイッココなどで、スイッココは川の底の方において、腹の中央に吸盤がある魚だ。学校から帰ると毎日のように多摩川に通った。夏は水浴びをしたり、魚捕りをしたり。釣りはもちろんだが、石ぶっかけや手づかみでも捕れた。一番印象に残っているのは、高等1年生の時で、15センチぐらいのアイが魚籠に入りきれないほど捕れた時だ。釣りは朝早くか、夕方がよく釣れたので、夕方など夢中になって遅くなってしまい迎えを受けたことも何回かあった。多摩川

は今でも非常に懐かしい。私たちが育ててくれた流れだから。(Ⅲ-12)

## 5. 船で遊ぶ

田中さん(久保の田中銀春)のおじいさんは警察も一目おくくらい貫禄のある人で谷保中全部の消防団長で一番長くやっていました。その人が八月一日、二日の午後にかけて多摩川に芸者さんを乗せた屋形船を浮かべみんなを呼んで、網で鮎を捕って焼いて食って飲んで鮎漁を盛大にやっていました。(Ⅲ-3)

## 6. 屋台の店

清化園の下あたり、青柳の沢井左源太さんの横を通った所の堤防の川っぶちに蛇籠を積み、堰で水たまりのようにしてそこに屋形船を二艘も三艘も浮かべて川遊びをしていました。お盆だからみんなで見に行きました。堤防の下の所に露天商がよしず張りの屋台を出しておでんやかき氷などいろんなものを売っていました。四軒在家に金ちゃん親分がいて、かき氷を専門にやっていた。(Ⅲ-3)

## 7. 大震災のとき

関東大震災のときこの辺は大体の家が傾いた。風呂の水が15センチ位しか残っていなかった。井戸水も1週間位真っ白だった。あの時の凄さは今防災訓練なんかしているが想像もつかないだろう。鶏は足が利かなくなってバサバサコケコッコで動けない。スズメなんか木からみんな地面に下りたということだ。魚も泳げないそうで、青柳の人が魚とりに多摩川に行っていたが、鮎がみんなヒョロヒョロやたら流れてきて、みんな手で取れたという話だ。それこそ背負いきれないほど捕ってきたけれど、売るところではなかったそう。

## 8. 地震

正月の15日の朝、すごく大きな震度5位の地震があった。家がグラグラになったからみんな外に出た。その前の14日の暮れに暖かく、弟と2人で多摩川の土手の向こう側へ水がチョロチョロ流れていて、特に丸く深くなっている所がある。サクラエビを水の流れてに従って掬うが、沢山取れるとき半日位遊ぶと2升位捕れる。そこへ弟と行ったら水が引いている。あの「ナマズがさたす」という、今考えるとそれだと思う。多摩川のハヤが跳ねると雨が降る、カエルが鳴くと雨が降る。小鳥(ホオジロ)が鳴く(ミノカサ欲しいーと鳴く)と雨が降る、ナマズが暴れると地震が起きるなど。みんな水が下へ引いてそのエビだけが水と水のちよつとの石の間に跳ねていたのもそれを掬って、あれで1升位とっただろう。あくる日に行ったらもう水が元通りに流れていた。(Ⅰ-15)

### Ⅲ 井戸

#### 1. 車井戸

車井戸があって、あれにざるをつけて紐をつけて中途まで下げておけば、冷蔵庫と同じでちっとも悪くならない。家の井戸なんか2尺のまる(コンクリートの管)が20本入っている。今の井戸は牛車引いて働いて残した金で掘った井戸だから。(I-4)

#### 2. ありがたい井戸

井戸はみんな外にあった。ポンプなりつるべなりで汲む。今のようにお勝手の中に水道とはいかない。家の周り半分くらい回って下げて持ってくる。風呂の水も炊事の水もそこから汲む。洗濯も外でやる。手で洗うからヒビが切れる。昔は水仕事をしてても手を拭く暇もなかった。冷たい水で仕事したり、外からバケツ提げて水運んだりする。井戸水のほうが手が荒れるようだ。その井戸の出が何か悪くなってお勝手のそばに掘り直した。それもつぶして水道にした。昔このあたりには掘りぬき井戸があって水が豊富に流れていた。甲州街道の両側にずっと流れていたのだから農家の人々が野菜を洗っていた。きれいな水でそんなに深い流れではなかった。

昔は井戸のない家も多かったのだから水汲みは女の仕事だった。天秤かついで風呂の水を汲んだりなかなか大変だった。ハケの下から担ぎ上げている家もあった。そこは何年かして上に井戸を掘ったが、そこのお嫁さんが着物を買ってもらうより何を買ってもらうより井戸はありがたいといったそうだ。滝の院のあの辺に住んでいる人半分くらいはみんなお天神様の方から道路を渡って水を汲んだものだ。水は女の人がかついだ。お米はあの辺でとぐし、野菜は洗うし、本当に使う水だけを汲み上げた。雨が降りそうになると急いでみんな出てお米を洗う。降ると水がにごるから。

昔は寄合井戸みたいなものがあった。みんなつるべ井戸で井戸替えとか、縄をよるとかはみんな寄ってやった。この辺はみんな井戸があった。隣ははねつるべの井戸だったが、うちはポンプだったので縄よりをすることはなかった。(I-5)

#### 3. 共同井戸

北側の家にある3軒ぐらゐの共同井戸から水汲みをするのは大変な仕事だった。下谷保の井戸は深くてつるべで汲むのは難儀だ。1月20日のえべす講で井戸縄よりをやった。その日は井戸を使っている家だけでみんな藁で手縄をなつた。3人か4人で、つかまり手とより手といて、最初によつた縄をさらによつて、3本より合わせる。その後えべす講になって飲んでた。楽しみだったんじゃないか。高等2年のとき、自分の家に井戸が掘れて、とても楽になった

けれど、それでも風呂桶に汲み上げるのはまだまだ大変な仕事。井戸掘りは、三田仙吉さんと、石神の佐伯さんだった。共同井戸は石組みで、ユキノシタ等が生えていた。車井戸の場合、車の綱に砂利籠をつけて、下に人が入って籠を下ろし、さらった砂利を入れて上に上げて、ザーとあけると同時に交代つ籠を下ろしてさらえていた。井戸の掘り場所は、両親が信心者にみてもらって、こならいいという

方角で家の西北の角、道路沿いを掘ったら水が出た。井戸掘りの親方は、佐伯電業社のおじいさんで、私より2歳年上の三田仙吉さんは下弟子で、井戸の中の親方が「やれやー」というと、「はあい」といって、外でいろいろと下働きをやっていた。当時下谷保では、井戸にコンクリの土管を入れるのが流行で、21入っていてこれだけ入れるのは大金だったと思う。井戸は深かったけれど、水口が良くてどんどん水が出て、実家にいる間は井戸浚えはやらず、今は蓋してある。井戸が出来たとき、水神様の祭りをしてお祝いして、掘ってくれた人にお祝儀出したり、良かったなあと飲んだり騒いだりしたことは覚えている。

(I-9)

#### 4. 自分で掘った井戸

井戸掘りしていたこともあったが、井戸の中に入ってする人は少なかった。この庭にある井戸はあとでポンプに直したけれど、この間調べに来て地震なんかのいざというときに使うようにと言っていた。自分で掘っているからすごく丁寧に掘っている。コンクリーを入れて叩き上げているので崩れない。松の木を下に組んで入れてその上にマル(コンクリート製の土管)を入れて叩き上げた。

(I-12)

#### 5. 井戸崩れ

学校の入り口に住んでいたが、学校の井戸崩れ(1小の井戸が崩れて子どもたちが死亡した事故)があって、「何しろ谷保中の人がおいおい泣いて大変だった」と親から聞いた。突き飛ばされた人は生きていたという。子どもはお汁粉食べてのどが渴いて水飲みに井戸に行ったんだろうと母親が言っていた。「号外でちんちん大騒ぎで終わるか終わらないうちに数え歌が出来た」明治38年位の1月の9日だった。(I-13)

#### 6. 井戸崩れ

私が6歳のときの1月11日昼頃のこと。遊んでいるとみんなが裸足で泣きながら下駄を持って学校から駆けてくる。「なんだい」と聞いたら「学校の井戸が崩れて大変だ」というので、村では半鐘をついて大騒ぎになった。青柳の方の人は馬に乗って飛んできた。うちでは兄が一年生だったので「もしや」とびっく

りして家のものが学校へ飛んでいった。その時3人の子どもが亡くなった。青柳と石神と坂上の人だった。お弔いが大変だった。その時追悼歌ができた。

#### 7. 井戸崩れ

1 小の井戸崩れの時は私が5つだった。だからあまり覚えていない。外の騒ぎは覚えている。北風が吹いて寒かった。近所のおばさんが飛んできて「ここじゃあ子どもどうしたよ」って、その時私のおじさんが2人学校へ行っていたから心配してきてくれた。「おれんとこじゃ一人は風引いて休んで、一人は学校から帰ってるよ」といったら、「それじゃあよかったよ」「なんだよ」「学校で井戸が崩れて村中が大変だよ」その記憶だけはある。その後数え唄ができた。よくいう瓦版、新聞屋さんのハシリで、その頃あった事件なんかをそうして村中に唄って歩いた。(I-14)

#### 8. 井戸崩れ

朝礼の鐘がジャンジャンと鳴ると、生徒が朝、校庭に集まった。それと同時に水飲みに行った子どもが4人いた。その時にガーッと崩れて中へ落ちた。谷保の第一小学校だ。その自分は(小学校は)一つしかない。汲み井戸でポンプはなかった。個人個人に井戸があった。ここいらは意外と浅いから。湧き水もあった。(I-22)

#### 9. 井戸崩れ

井戸崩れは私たちよりずっと前だった。私のお袋の話によると、私の家も井戸が無かったので飲み水を学校の井戸へ貰いに行っていたけれど、その朝も水汲みに行ったら何かゴシャゴシャと音がした。ニワトリでも落ちたかなと思ったそうだが、そのまま何気なく帰ってきた。そうしたら学校が始まって1時間位してから鐘がなって次の時間が始まった。みながぞろぞろ教室に入ったらしいが、その井戸崩れにあった子どもたちはなかなか威張っていたらしく、授業の始まる前に水を飲んでから教室に入るんだと言うわけで、「マキ屋」のリュウちゃんという人なんかおとなしいから、水を飲むのに「テメエ後になれ」とはじき出されたからそれで助かったと、お袋がよく言っていた。(III-10)

#### 10. 学校の井戸

小学校の井戸は一箇所車井戸があった。そのころ車井戸は上等の方で、各家庭の井戸ははねつるべか、竿での引き上げだった。その車井戸も掃除のときなんか高等科の生徒が先に使って、その後でないと下級生は使わせてもらえなかった。(III-12)

### 1 1. 風呂の水汲み

風呂の水汲みは井戸よりつるべで汲んで外から廻って手桶を両手に提げて6回、だから12杯入れるといっぱいになった。手桶はたくさん水が入る。(I-13)

### 1 2. つるべ井戸

庭のつるべ井戸は「水口」がいいとあって、用心水において置いてもらいたいと埋めさせない。うちの井戸は下がナメだからそれこそ崩れるということはない。おじさんたちが下まで入って、それでおじいさんが作ったコンクリを井戸屋さんに頼んで中に組んである。うちの水は、甲州街道を通る人が暑い暑いとそこで涼んで、水を貰いに来てよく飲んだ。井戸が深い、30尺もあるから水が甘味を持っている。(I-17)

### 1 3. 元旦と井戸

昔は当主と二十歳以上になった長男が、年男とあって、早朝に起きて井戸から初水(若水)を新しいひしゃくでくみ、洗面して風呂を燃やしつける。雑煮を食べ終わる頃、風呂がわく。入浴後手のあいた人から、全員天神様にお参りした。

### 1 4. 共同井戸

下谷保は、天神坂の所から土地が上がって(高くなって)いるから井戸が深く、四十五尺も掘らないと水が出ませんでした。それもナメ(赤土)の高い所に当たると、一丈も一丈五尺もナメを抜いて、その下のデッカシナイ(出合わない)と水が出なかった。それに井戸の回りも、多摩川の川原から多摩川石を運んできて組み上げるので、手間がかかり、井戸掘るか、蔵建てるかと言われるくらい大変なことでした。うちの隣の井上さんとその間に、境井戸というのがあって、うちや、道向こうの北島奥五郎さんや、七、八軒の人が利用していました。うちでは父の代に、多摩川石で組んだつるべ井戸を掘りました。一月二十日の井戸綱撚りも、境井戸利用の人達とも一緒に集まって綱を撚って、エベス講の飲み講になったと話は聞いたが、やったことはない。三年に一度くらいの井戸さらえは八人くらいで一緒に仕事をしました。常に水が流れているので砂利や砂がたまり、水が浅くなります。夏から秋にかけて水は多いが春先になると水位が下がって、皆で使うと、大勢だから水が濁ってくるのでさらうというわけです。千丑や坂下の井戸は一丈から六、七尺の井戸で一軒の家でさらえたが、四十五尺もある井戸は井戸屋さんといって商売の人に中に入ってもらった。十人もかかってゲンバ桶を井戸綱の三本綱よりの太いのにかけて上げたり下げたりしてかいました。ゲンバ桶というのは直径一尺二寸、高さ一尺



五寸で両方に取っ手がついている井戸さらえ用の桶で取っての穴に丈夫なシュロ縄をつけて井戸綱にかけて井戸底へ下ろして中の砂利や砂を入れて一杯ずつ上にあげました。井戸掘りとさき山（きこり）は倍手間（二倍の手間賃）で、お神酒はつきものでした。危険な仕事で度胸のある人でないと出来ません。深い井戸に一人で入るのは怖くて出来なかつたので手間賃が高かつたのです。地下には水道というのがあるがそこに井戸が掘り当たると幸せでした。下のはじの関重吉さんの井戸は四十五尺もの深さなのにトットと波を立てて流れるのが上から見えていたので、共同井戸でもさらえなくてもよかつた。巽（南東）井戸に、乾（北）便所といわれていたので井戸についても方向を重んじてよい方角を見てもらって掘りました。関倉助さんの家も佐藤利雄さんの家の井戸に水汲みに行っていたが、明治四十一年、倉助さんが生まれた年に、うち井戸を掘つたので私は父親と井戸掘りを手伝いました。八王子の市場に青物を売りに行く親父のカルコの後押しをし、日野坂を押し上げて、帰って来るときに多摩川で横に細長い大石を二つ拾ってきました。その長い石を穴の横に押し込んで石がけして組み上げるといふ大変な手間をかけました。何回か中に入り石垣に足をかけて踏ん張り、綱で上に上がるときもしっかりしていて、ガクンともしませんでした。大震災のとき、方々で井戸が崩れたが、井戸石を横に奥行き深く組んだ関倉助さんやうちの井戸は崩れませんでした。その頃、遠藤武夫さんのお父さんが道路や流しなどのコンクリ仕事を一切やっていて、コンクリのマルも作っていました。直径二尺五寸、丈二尺の円筒管でマルと呼んでいました。マルを使うと多摩川石を組むより楽で仕事が簡単になつたのであちこちで井戸が掘れるようになりました。関倉助さんの井戸も、井戸石をはずすのも大変なので石の内側にマルが入っていて二重になっているので丈夫です。大地震にも耐えたので今も蓋をして手押しポンプをつけて大事にしています。時々市の人が、地震時の飲料用水の検査に井戸水を汲みに来ています。佐藤彦一

#### 15. 掘りぬき井戸

天神様の参道の石段の下の南側の所に掘りぬき井戸があつた。鉄管で地下に何十尺、何百尺と掘って、水の層へぶつ突くと、水が噴出す。石の下のほうから滝のようにしぶきを散らしながら水が落ちていて、近くに行くと夏なんかスーッと涼しかった。昔は注連なんか張っていた。それももう何年か前から出なくなつて、場所だけが残っている。天満宮の梅林の東端にも掘り抜き井戸があつて、近所の人たちの飲み水や洗濯水で大助かりした。だから、掘り抜き井戸はこの谷保にも、お大尽の家なんかは掘つてあつた。10軒位はあつた。夏には冷たい水で冬には温かい水が出る。掘る人はよそから来たみたいだ。2、3人で小屋を作って泊り込みで掘っていた。(Ⅲ-9)

## 16. 結婚で掘った井戸

南武線の南側にいた時の井戸は、コンクリで一番下からたたき上げたすごく頑丈な井戸で、そのころとしては珍しかった。そういう井戸だから今でもちゃんと残っている。使ってないらしいが。この井戸が掘れる前までは、神奈川に嫁に行ったイセというおばさんが、毎日使う水を天神様の清水から担いで運んだ。天秤棒を肩に担いで、前後に手桶をつけて。坂下の家々では、家に井戸が無くてあちこちから清水が出ていたから不自由はしなかったが、道路の北側の人は、南側の坂の下から担ぎ上げなければならなかったから、女衆はまあ大変だった。井戸を掘るには大金もかかるし。昭和6年にここへ引っ越してきた当時は、うちはまだ井戸を掘る余裕は無かったから、隣の水を貰っていた。自然に湧いてくるものだから気持ちよく遣わしてもらい助かった。

カアちゃんがここに嫁入りすることになって、井戸が無くっちゃあとということになった。今、この家の南側にある井戸を父親と二人で掘った。その頃の人足というのは、井戸掘りの手伝いみたいなことをやっていて、お金とって家の色々な経費に使うとかして私もその手伝いで多少の経験もあったし、人足頼めばお金がかかるから、二人で掘った。大変だった。ぼちぼち掘ってひとり上において、一人は中で砂利鎌で掻いて少しずつ上の人にあげてもらおう。砂利は重いから沢山は入れ物の中に入れられないから。最初の頃はひとつのはしごで上がり下がりしたが、深くなるほどはしごをつないで、ぶら下げておいてそれで出入りした。二人で5日か6日ぐらいかかって、うまく水脈に当たればと祈るような気持ちで35尺位掘ったが、水が出たときには嬉しかった。(井戸の中には崩れないように枠を下から入れないといけませんが、それが入ってないから幾度か崩れた。下のほうが。(だから後で枠を入れた)

当時としては井戸はなかなか掘れない、お金がかかるから。尊い井戸なんだこの井戸は。よく冬になると井戸水が上がってしまい、リヤカーへ四斗樽をつけて天神様の清水へ水汲みにいくうちがあるが、うちのは水口がいいせいだから上がらずにしまった。今でも近くに行くと水が流れる音が聞こえる。蓋を取ってみると水が光って見える。震災とか大きな天災で水道が止まってしまわない場合、いざと言うときにはこういう井戸も使用できるわけだ。黴菌があまり無ければ。ポンプでもつけて使っていれば、上がらずにいつもきれいな水が使える。始終使った方がいい水が出るらしい。電機でモーターを使って汲み上げて、水道のように配管して蛇口をひねると水が出て、市の水道が出来るまではこうして使っていたこともあるのだ。

昔は井戸を掘るにも、住んでいる家の人の方角とか便利さをいろいろ見て、そこへ掘るわけだ。家を中心にして方位を見て、辰巳(東南)の方向が井戸にはいいと年寄りに言われた。だからこの土地に来た時の最初の家から見て、辰巳の方向でこの辺がいいということで掘った。(Ⅲ-9)

### 17. 今でも井戸

国立駅が出来たのは大正十五年四月一日でした。今の駅のガードの右側に通り道があったがそこを閉めて新しい今のガードの道が出来ました。そのあたりの雑木林の所に清水が湧いていてうちの屋敷のところまで通っていました。この辺は水が多く、うちは今でも井戸水を使っていますが井戸は枯れません。水道は一口だけです。(Ⅲ-2)

### 18. 掘り抜きの水

昔は甲州街道に堀があり、長屋さんの掘り抜きから清水のような水が流れていて堀のところが少し広くなって段があり、そこに洗い場があった。家につるべ井戸はありましたが掘り抜きの水の方がきれいで便利だったのでみんな使っていた。橋場の川(矢川)へ流れ込んでいた。昭和十年ころまでは使っていましたが掘り抜きの水もだんだん出なくなりました。(Ⅲ-3)

### 19. 風呂の水汲み

毎日の家の手伝いは風呂へ掘り抜きの水を汲むことでした。大きいバケツでは汲めないの小さなバケツを両手にさげて風呂の釜の上まで何回も運びました。通り(甲州街道)を横切ってピチャンコピチャンコ音を立てながら何回も何回も往復しなければならず大変な仕事でした。堀は消防小屋のあたりにありました。(Ⅲ-3)

### 20. 野天風呂

昔は家の中に風呂場があった。私が6歳8ヶ月の時に、庭先の前の井戸の近くに風呂場を移転したけれど、野天風呂だった。風呂桶に水を入れるのだが、つるべ井戸から手桶に水を汲んで、両手に下げて背伸びして入れたので大変だった。なにしろ1、2年生の頃だったから、何回行ったり来たりした事か。にわか雨が降ると野天風呂も大変。番傘を風呂桶の上に立てて体を洗うどころか汗を流した。次の番に入るようにするには忙しい。大粒の雨は音を立てて降りだし、たちまちゴロゴロピシャー。もう風呂に入るところで無かった。にわか雨はこぼすように降りだし。庭はたちまち川のように流れてまたピカッと光ってあたり一面明るく真昼のようだった。雨が通り過ぎると薪をたいて残った人が風呂に入ったものだ。(Ⅲ-8)

### 21. 風呂

小学校も5、6年生になると家の手伝いをさせられた。そのころ家の井戸はねつるべで沼崎静雄さんと共同だったので、両屋敷の角にあったから子どもには遠く、木の手桶を提げて運ぶ風呂汲みは大変だった。(Ⅲ-12)

## 22. ハケ下

甲州街道の南側の遠藤仁さんの井戸になると、黒土一・五尺、赤土一尺、砂利十二尺ぐらいで水層となる。松本、遠藤さん共に水足はよく、「ハケ下」の湧き水（清水）と水脈が同一と考えられます。遠藤仁さんの隣の遠藤文武さんの井戸は私が最初から掘った井戸ではなかったが、渇水期に水不足になり、更に掘り下げたが水中に転がりナメがあって、そのために水足は良くなかったです。ナメ層は水を遮り、その層を掘り抜かないと水は出てこないで大変だ。清水が出ている所は、その下にナメ層があり、水が下に浸透できずにそこから湧き出ている所も多くある。遠藤茂治さんの周辺は、水層になって細かい砂層となり、赤砂（ぼう砂ともいう）が出て、これまた水足は悪く、井戸の場合一定量の水を汲み上げ、またもとの所まで水が溜まるのに時間がかかる。水足としては、砂利層よりは十分遅い。（Ⅲ-15）

## IV 湧き水

### 1. 矢川

矢川は水の量が多くてとてもきれいだった。4・5月頃湧き水が増えてくると川淵にすれすれほど水があつて、子どもなど魚掬いをしたり泳いだりした。蛍もたくさんいた。冬場になって水が少なくなるとき、川淵の人たちは、水の溜まっている深みに土手を作り、その中の水をかい出し、その中にどうを置いて魚を追い込んだ。これをかい干し、またはかいつけといった。よくこうやって魚をたくさん捕った。ヤモメ、フナ、ハヤがとれた。どの家でも矢川沿いに洗い場があつて、洗濯物をゆすいだ。矢川の源は立川高校の下。昔大きな石を積んだ枡のような中にちょろちょろ流れ出していて、桑畑のようなところに流れ込んでいた。ちょうど城山の2番息子さんが住んでいた所だ。沢蟹が水の湧いている所にいた。

### 2. 地下水

地下水が下がった。井戸水なんか一番よくわかる。家の井戸裏にあるのは両方のつるべを回して洗濯なんかしていた。それがもう水がない。大雨が降ると今のヤクルトに行く道、坂の両側が雨が沢山降った折、右の道より少し高くなっているが、あそこなんか水がどっと湧いて、たらいを持って行って洗濯していた。湧き水できれいだった。木が沢山あつたから。下の田なんかきれいな水が両方の山から湧き出て、下から魚が上がってきた。下がハケみたいになっていて、ここは高いからずっと天神様まで谷保のハケという。

### 3. ハケ下の川

ハケの下の川はとてもきれいで冷たかった。石や泳ぐ魚も良く見えた田

圃から上がってくるとあの冷たい水で一息ついた。湧き水だから美味しかった。それで生えている草を鎌で刈っていつもきれいにしたものだ。(I-3)

#### 4. 清水

この辺もわたしが嫁に来たときは淋しかった。この辺りは清水が流れて板を並べなければ歩けなかった。道路のふちに堀があってその堀に両方とも清水が流れていた。家に入るときは清水の橋を渡って出入りした。よっぽどよい清水の出口があった。家の下の堀で洗濯できた。今は家が上に建ってしまって何か流すので、もし水が流れても汚くてしょうがない。(I-11)

#### 5. 池のこと

震災の後、表の今の出入り口の所に大きな池があった。道路に水が流れ出て、西府の方まで流れていた。道路の脇に簡単な堀があってそこを本宿の方まで流れていた。掘り抜き井戸があって大体30メートル位の深さがあったが、それを掘るのに3人来て2ヶ月以上もかかった。掘り抜き井戸で穴だけだが石を掘るのが大変で、ポンプも無いが水が自然に噴いていた。バケツに一分で二杯位出ていた。家の西を曲がって表へ出て池に流れ込むので、堀を作って池まで持っていった。池よりあふれて道路の堀にその水がいつも流れていた。昔は冬でも水が温かく、野菜から鍋釜何でも洗っていた。池の周囲だってコンクリでなく板を並べて崩れないようにしただけのものだった。それでも溜まった水の量が多いからずいぶん道路に流れていた。ほかの家でも掘ったようだが駄目だった。ここは深く掘らないと水が出ないので、井戸にはずいぶんお金がかかったようだ。(III-14)

#### 6. 洗い場

昔はこの下へ行って、清水の出るところでお釜や野菜を洗っていました。洗濯もしました。天満宮のところでは最近までお米をといでいました。昔はこの下にでこぼこしたケヤキの一本橋があってその上で五人も六人も一緒に並んで洗っていました。その頃は各家毎に井戸がありませんでしたから。裏のタカちゃん(杉本高助)のところなどはうどんを食べるときには、釜や切りだめを入れた鍋を持って来て清水にひたしておいて、田んぼへ行った帰りに洗って帰っていました。清水は下からぼこぼここととても豊富に湧いていました。(III-5)

#### 7. 野水

この谷保は、水が豊富でいい水が出た。雨季になって雨が降り、夏になると第三団地の南側にちょっとした雑木林みたいなものがある。あそこから流れ出したんだ。南武線の下には今でも川の跡があるが、そこをくぐっておたか森の前

(南側)を流れて、市役所通りの西端を南へ流れて甲州街道へ出た。その時分甲州街道は砂利道で、両端にずーっと堀のようなものがあって、その水が石神から千丑を通過して、坂下の所で南側に渡って天神下の川へ落ちていった。この清水は夏の間だけで、冬は空堀になる。今は甲州街道の下が下水道になっていて、坂下橋の下から田んぼの方へは昔のままの川が流れている。

(奥さん)私なんか子どもだったから、ああ野水が湧いた位しか考えられなかったが、何しろ多い時は膝くらいまであった。私の里の畑がその堀の北側にあったが、道が川になっているからその川を越して、帰りには野菜もみんな洗ってきた。

(範三郎さん)戦後は地下水が下がってしまった感じで、あまり出ないようだ。

(Ⅲ-9)

## 8. 天満宮の清水

天神様の周りだって清水がすごく出た。天神坂のほとりに清水の茶屋があって、水晶のような水が出ていた。庭のあちこちから水が湧き出したり、囲炉裏の中にまで出てしまう家があった。それも夏に。天満宮の常盤の泉は、年中コンコンと湧き出していて、弁天池に注ぎ池には鯉や金魚や亀が沢山いた。だのにこの何年か水が少なくなって、鯉が可哀想だというので水道の水を入れたりしている。天神様の拝殿の石垣に沿って小さい堀があって、南の神楽殿の裏側へどっとと流れていて、高い所からお滝になって落ちていた。下には滝つぼがあった。今でも昔の形がいくらか残っている。子どもの頃はそのお滝にかかったり、サワガニを捕って遊んだりしていた。大正14、5年頃は水が豊富だった。(Ⅲ-9)

## 9. 清水の茶屋

私の親父は天神様の坂下の長島と言う家のもので、昔は「清水の茶屋」といって茶店をやっていた。いつごろからやっていたのかはっきりしないが、何でも新撰組の侍たちが京都から江戸へ下るときにはもうこの茶屋はあったそうで、茶店ではそばなども売っていたし、わらじなども売っていたそう。新撰組の侍がわらじを買ってお金を払うとき、お釣りを渡そうとすると「釣りはいらぬから次に来る人にわらじをやってくれ」といって行ったとか、昔話に聞いた。

(Ⅲ-10)

## 10. 水の道

市役所より南へ80メートルの所(峰下)では甲州街道よりだらだらと上り坂のため、水位がぐんと下がり、水底まで23尺位。すぐ上(北)が峰上でいちだんと高く、その下なので何百年もの流土の関係か、黒土が深くその下が赤土で

5尺位で砂層となる。この井戸の水際は井戸掘り職人の使う言葉で「転がりナメ」が1尺位あって、砂利層に変わり水層となる。水質(水足)は非常によく、秩父方面から品川方面へと流れ、井戸の中でもその流れがよく分かる程の速さだ。  
(Ⅲ-15)

### 1.1. 地層

ここらは仮屋上というが黒土が深くて農家にはもってこいの土地だ。甲州街道のほうへ行くとすぐ赤土が出てしまうが、ここら辺はまあ黒土が1メートル位、赤土が3メートルから4メートルあって、その下が砂利だ。その砂利を掘っていくわけだが、それこそいい地盤だ。深くなるとでっかい石なんか無くて、大きくても片手で握れるくらいのと、あとは小砂利、赤砂利と言って赤っぽい。水は35尺位のところで出たが、砂利や砂の一杯詰まった間を流れてくるからとてもきれいだ。うちの地下水は西から東に向かって流れるような感じだ。昔は消毒もしないで生水を使ったけれど、いい水だからうまかった。夏は冷たくて冬は温かい。冬の朝は水蒸気が上がる。天神様の沸き水が流れているのを見ると、煙のように水蒸気が上がっていた。手を入れてもあつたかく思えた。  
(Ⅲ-9)

### 1.2. 千丑の地層

千丑の土地(甲州街道筋)は平均して黒土が少なく、赤土も少なくすぐ砂利層だ。地面から約1尺が黒土で、その下の赤土が1、2尺ある位ですぐ砂利層。所によると黒土が1尺ですぐ下が砂利層という所もあり、そうした所は4、50年前頃は「野水」といって庭から清水が湧き出していた家も数戸あった。おそらく「はげ下」または天満宮の清水と水層が一致すると思う。私の家でも昭和10年頃まで庭の片隅に堀を作っておき、6月から9月頃まで庭一面の湧き水を集めて、甲州街道端にあった川に流していた。(Ⅲ-15)

## V 仕事→水車・豆腐・わさび田・用水・農業・漁業

### 1. 水車

当時は矢川と湧水の水と、多摩川の水を府中用水から入れて、両方の水を使っていた。水の取り入れ口が2段になっていて、下はめがね橋にして矢川と湧水の水を使っていた。上側はコンクリートを一段高くして、多摩川の水がかかるようにしていた。だから強い水力だった。水の量が多いときは一段を堰きとめて堀のほうへ捨て水として流していた。一年中水には困らなかった。このやり方は祖父である先代が始めた。水のいり口から一間くらいのところに水車があって、その前に自宅があってそのふちの下を水が流れていた。そして府中用水の下にその水をくぐらすようにして流していた。今でも水車のあとが残って



いる。

水路を作るのにその両側の地主さんの了解を取らなければいけない。  
この両側の田畑で出来た米や麦はみんな無料で搗いてやった。(I-10)

## 2. 水車

粉はうちでとった麦を水車で挽いてもらう。今、立川の至誠老人ホームになっている所に内藤さんという精米なんかしている人がいてそこで頼んだ。根川の水を利用してガッタン、ガッタンやっていた。一回に一俵位ずつ粉にひいてもらって、粉を入れる専用の樽、油樽といったが、とてもしっかりしたいい樽なのでずっと昔から使っていた。(I-21)

## 3. 水車

昔は小麦を粉にひいたり、大麦をついて丸麦にするのに、水車が方々にあった。府中の矢崎と是政の間の田んぼの中にあつたヤッコ車が有名だったが、私の子どもの頃跡が残っていた。立川にも日野橋の所から田んぼへ下りるすごい急坂の下の水車には、車の後押しをして私も何度も行った。谷保でも天満宮の池の向こう側に「もや車」があつて、その奥で遠藤さんが大きく堀を掘ってでっかい水車を幾年かやったのを、小さくて物覚えに覚えている。日野橋の下の水車はやめた後、立川高校のほうへ引っ越して蕎麦屋をやっている。(III-7)

## 4. 豆腐屋

部落の東寄りに豆腐屋があつた。代々続いたお店で、最近まで4代目の兼吉さんという人が、引き続いて商売していたが、昨今休業した。先代の豊次さんという人が大変商売上手で、豆腐製造販売の傍、米から石炭なども売り、おおぜい使用人を使って手広く商売していた。屋号は山田屋さんといった。当時豆腐一丁5銭、油揚げ4枚10銭だった。(I-22)

## 5. わさび田

山の下にかなり高い石垣があつて、その下は清水が出てわさびっぱだった。わさび田に小さな沢蟹がたくさんいて、天ぷらにして食べた。カニ取りに行つては石垣崩すとよく怒られた。大ひき蛙がわさび田にたくさんいて取りに行つた。捕らえたら足からクルリと皮をむき囲炉裏の足付の金網で焼いてしょうゆつけて食べたが美味しくスタミナがついた。戦争中までよく食べた。(I-7)

## 6. わさび田

谷保では湧水があちこちで出ていたのでワサビ田を持っている家がけっこうありました。「笹山」(遠藤邦教宅)では屋根続きの段丘のすぐ下の用水の所の

エラみたいになっている所で作っていた。うちではカメじいさん（祖父）の時代にお寺さん（南養寺）から二場所借りて作っていた。今住宅になっているが以前は沼になって清水が流れていてちょうど田口さん（せんべい屋）の下の方と段丘の南下あたりにケヤキが一本ありました。私が兵隊に行ったのが昭和十七年ですからその前です。久保の堀江信さんも向山（現中央高速道あたり）の椿の木の下でやっていた。滝乃川（滝乃川学園）の方でも四軒在家の人がやっていました。（Ⅲ－３）

## 7. わさび田

うちから坂を下りて「井口」の家の所に来ると清水が流れている。今は広い道が出来たが、道より1丈(約3メートル)ばかり低いところにワサビがつくってあった。その石垣の一段と高くなっている所に、お弁天様が祀ってあった。（Ⅲ－８）

## 8. 風呂

近所の人には風呂が買えなかった。買うと焚き物がないから。私の実家は山があったから、それで毎晩風呂を立てると、近所の人々が4、5人位「おあとでおふるまいになすって下さいまし」と言ってくる。子どもでも何でもそういう風に言ってくる。そうすると今度は入って帰る時に「お先に有難うございました」と言ってくる。私の母などはお茶を入れたりぬるくなると燃やしたりしている。木の風呂で上に煙突があって、前に釜があってそこに薪を入れて燃す。その接待だけでも家のものは大変だがそういう生活をしてきた。（Ⅰ－15）

# Ⅵ 府中用水とその周辺

## 1. 府中用水

府中用水は名の通り下流の是政まで水が使われていた。谷保田圃百町歩の耕作者が500人くらいだとその耕作者が全員、さらに府中の耕作者が全員出て工事をした。用水組合で4月から5月にかけて日割りを決め、今日は谷保、明日は西府・四谷村の人がやるなど人足の計画を立て、多摩川の堰や本流から用水取り入れ口までの掘割の仕事を、冬の間を用意して会った蛇籠を使ってやる。（Ⅰ－1）

## 2. 水路掃除

毎年府中用水では、4月29日に用水の本流の掃除を全員でした。各々の小堀の掃除は自分たちでやり、5月上旬頃水門から上の掃除を業者にやらせる。（Ⅰ－1）

### 3. 番水

田植え時期に水が少ないときは、普通6月20日過ぎから7月半ばにやる田植えを、谷保村中に言って早目にまとめて済ませる。それから3～4日続けて府中に水を送って、あちらの田植えを済ませて、それでも雨が降らないと一日おきに番水になる。府中用水で組合がひとつだから、役員が話し合って取り決め、夕方の6時から24時間、南養寺に朝鐘を鳴らしてもらい、一日交代で水を分け合う。取り入れ口のところに持ち主がいて、鐘の音と同時に堰を開けて水を入れる。次の日の6時に府中の人に来て取り入れ口をふさぐ。各々の田に時間決めて水を通すが、大正時分には鎌やまんがなど喧嘩の道具を持ってくることもあったという。

昔は堀の水がきれいで、茶碗洗ったり、お茶沸かして飲んだりした。(I-1)

### 4. 用水のサラエ (掃除)

種ふりの前の準備として、用水のサラエがあります。一年もたつと、ゴミがつまったり、草が生え、流れが悪くなるので、通水前に、一せいに掃除をします。府中用水本線のサラエは、青柳からこちらまで、谷保中の田圃を作っている人全員、地主まで出てやりました。今年(昭和五十六年)も、四月二十九日にやって、長男がいきました。矢川下の所で、雨成から下ってきた青柳の人と会いました。長男は近くの湧水の所へ、はじめていき、湧き出る水の美しいのに驚いていました。欠席者は、三百円だすので、終わってから一杯飲んで皆で話し合い、田圃を持っている隣どうしの人の親睦になりました。また、四月二十六日に下谷保の人達で、各々の田圃の前の小堀をサラエしました。夏には、夏掃除といって、一回用水を止めて、水草を掃除します。水苗を作っていた時は、苗間を作るとすぐ通水しましたが、今は陸苗なので、六月半ばに通水すればよくなりました。青柳から下谷保まで、段差がひどいので(三メートルぐらい)用水が直線だと、全部の田に水がいかないの、用水は高い所をうねってきています。高速道路と、それに続く新道で、田圃が切られて、小さい区画になったりしました。関吉男さんの田圃は、うちの田圃の近くですが、府中分なので、府中の用水組合に入っていて、府中のサラエの方にだけ参加しています。佐藤彦一

### 5. 水番

府中用水は谷保・西府・多磨・府中の四ヶ町村の用水なので、水が少ないときに、田圃をやっている人だけの話し合いで、水番を行いました。昼間は主に府中で水をかけて、夜は谷保で使うという具合に水を分けるため、水路に錠をしたり、はらったりしました。南養寺の鐘を合図に、錠を開閉しましたが、水番の人は、時間前に場所に行っています。昭和三十五年頃、佐藤一夫さんは「木

刀持って、水番に立っている」といわれたとっていました。渇水時には水争いがおきやすく、植えたばかりの田に、夜、人目を盗んで、水を入れたのがみつかりと大変でした。佐藤彦一

## 6. 番水

稲は6月に田植えをするがまごまごしているとじきに7月になってしまう。7月に水が無いときがある。雨が降らないと多摩川の水が少ないので、マチ(堰)をしても、用水へ入る水が少ないときには番水をやった。府中用水は是政の方からも水引きに来ているので、マチをせき止めて、南養寺の鐘を合図に時間で谷保の方を先に掛けて、後半日は向こうへ水を渡して、尻の是政や府中の者に掛けてもらったわけだ。番水は当番で行った。青柳の下の谷保堰をいくらかせきとめて、府中との分かれる堰を止めて、谷保へ水を入れた。その頃はみんな田んぼを作っていて、どの家も水がなければしょうがないから。水が少ない時は、田を干したりして、水が持たなくて水が掛からないと大騒ぎだ。お互い時間で水掛け合うから。水時間だと夜も寝ないで掛けにいった。田んぼの場所で水の掛かる時間が違って、上と尻では尻のほうが遅く掛かる。上の田の取り入れ口をふさいで、尻の田へ水を持ってきて最後には用水の取り入れ口の元がしまってしまう。水が府中の方へ行き、堀の水が空っぽになるので、下の田は大変だったが、番水をやる時は稲がよく出来た。田んぼ作る人が減って何年も水は間に合っているようだが。(Ⅲ-7)

## 7. 田植え

一番辛かったのは畑仕事でした。おじいちゃん(夫)は水かけが大変だった。一番どんじり(水回りがもっとも下)の田んぼなので上の田んぼの人が堰を止めてしまえば水が来ないから、掛かりづらいのです。田植えは六月半ばころから七月の三、四日ころまでですが、たいがい山の神と言われたくらい田植えが出来ませんでした。山の神というのは一番最後のどんじりになることを言います。下谷保の鈴木茂七さんの家が一番遅かった。何しろ上から順番に水を引いてくるから、ここが一番水が掛からなかったから、一番田植えが遅くなる。(Ⅲ-5)

## 8. 田植え

5月にハケ下の出井崎の田から植え始めて、今は掘りも空で水の気が無いけれど、昔は田んぼから水が湧き出し、多摩川の用水からも水が流れて使いきれないほど水が掛かる。うちの田は冷たい水が掛かるから4、5俵で3俵の時もある。それで田んぼの水の湧き出るところを掘り割って、冷たい水がそこから外へ出るようにすると、田の水が温まって大変よくなる。天神下の田も同じよ

うにして手をかけて冷たい水を溜池みたいにして外に出した。夕立降りなんて雨が沢山降った後なんかもう水が一杯で、稲を植えたのが分からない位に水が堀からあふれて入ってきた。雨がやむと、すぐ行って用水の水を仕切って、田へ水が入らないようにしないと稲がだめになってしまうので、ずいぶん大変だった。それで天神下の田は埋め立てて、川のふちに道を作って売ってしまい、今家が建っている。(Ⅲ-7)

#### 9. 魚とり

魚とりが好きで、父親の竹のすき箕を持ってひとりで行った。府中用水の手前にたくさん魚のいるところがあった。はだしで砂利場を赤いフンドシ(腰巻)で、手ぬぐいをかぶってカンカラ持って行く。堀へすき箕をかけ向こうから足でガサガサ追ってくると、魚が怖いから箕に入る。あるときえらいいるねと思って足で追い、うなぎかなとすき箕をあげるとシマヘビが入っていてニューと出てきて驚いた、それから行かなくなった。(I-2)

#### 10. 魚とり

夏は川で魚掬いをして面白かった。フナ、ドジョウ、ハヤとか。すくい箕というので捕る。男の子は釣りをするが女の子はやらない。(I-3)

#### 11. 魚とり

戦争前のママネの堀は水がきれいで魚がえらあいた。半日遊べばドジョウが2升くらい捕れた。多摩川で四谷のひとが鮎取りの鵜を使っているのを見たこともあった。普段食べる魚は西府の駅のそばの稲毛屋から1週間に1回くらい売りに来た。(I-4)

#### 12. 魚とり

家は暇なときに麦が作れない田を馬や牛で耕しておく。そうすると春になってそこへ水がたくさん入ると、魚がそこへ寄ってくる。ナマズなんか寄ってきて、そうすると水が引いてしまうと、その田が深く耕してあるから水のたまりになる。そこへ行って村中の人が頬かむりして捕ったりした。手で押さえたりザッコミでこうして掬う。昔はとっても悠長だから、何でも。私の実家は用水が前と後ろにある。こんな所に家があって、時々夜中に用水をせいでしまう。そうするとこち側が空になるから、魚を捕るような人もいる。用水を止めて。海から遠いからあまり魚を農家では買えない。お祭りとかお盆でなければそんなにお魚を普通の農家では食べなかった。(I-15)

### 13. 登りどう

一番はじめが、レンゲの花の咲く4月ごろから田んぼに水が入る。苗間用の。そうすると田んぼへ30センチくらいの杭を打って、厚い板で水をきれいに止めると水が真ん中にどうどうと落ちる。それで魚の登るところへ登りどう(筈)をかけると、オババドジョウ、オギノネ、フナムグレが捕れ始めてだんだんドジョウに代わってくる。田植えが始まる直前までオババドジョウはきれいな水のところにしかいなかった。下の川なんかによくいた。石の下の周りに、水の温まっているところにごちゃごちゃいて、あれは大きくなれないカジカみたいな魚だった。ドジョウは売った。7月15日位になると田んぼへいっぱい水を張っておく、どこのうちでも。そうすると水の入り口を止めて一晚中水がひかない程度にして登りどうをうつ。水の水口に。そうすると田んぼ中のドジョウがみな入るわけだ。この辺じゃ井上ウシさんの田んぼなんか特に良く捕れた。うちは竹があるからおじいさんは毎日毎日どう作りだ。6月ごろになるとだから朝が早い。(Ⅲ-5)

### 14. ばかどう

どうわらのばかどうといって、細いどうがある。川で捕るどうと違って田んぼのは細い。それをえらい時には50本位よその田んぼでも何でもかけた。だから昼間はゆっくり昼寝をしておく。夜、飯を食って9時か10時頃どんな遅い家でも夜回りを終えて家に帰った頃を見計らってどうをぶちに行った。おやじは目が悪かったからどこの田んぼに行けばどんな魚がいるというのを良く知っていた。それが7月20日ごろからだ。昔はこんな四斗樽で買っていくほど捕れた。9月一杯位まで。一貫目3円50銭ぐらい売れた。その当時、男が一日働いて70銭か80銭位の時だった。立川市や府中市の魚屋が買いに来た。(Ⅲ-5)

### 15. しじみ採り

実家の近くに川幅3間位の用水があり、ジョレンでかいて水が澄むと3センチ位の蜆がいっぱいいた。拾ってはまたジョレンでかいて採り、じきに差し渡し1尺位のザルいっぱいになり、面白いのでよく採りに行った。その夜はしじみ汁にした。(I-16)

## Ⅶ 暮らし

### 1. 雨乞い

雨乞いときは、口が箕で、胴が蛇籠で、舌が古うちわ、耳を菅笠で作って、天神様の弁天池から、丸山さんの立川境の雨成に沈めてお祭りした。家々の入り口に、桶やバケツに水を入れて待っていて、蛇が来たら水をかけるのでビシ

ヤビシヤになった。ご利益があるもので少ないときでもいく粒か雨が降った。  
(I-1)

## 2. 雨乞い

一番おしまいには50年位前。暑い時分に旱魃で、作物がだめになっていよいよ困ったときに、天神様で蛇籠を5つつなげてじゃを作って、弁天池からお囃子、ドンドコ叩きながら道をねって歩く。くね(垣根)の所でみんな見物していると、面白がって桶で水をかけられた。うかうか見てられない隠れて見ていた。蛇を雨成に持って行って水に漬ける。ヤッショイヤッショイヤった。雨はすぐに凄く降った。3回くらいあった。(I-7)

## 3. 雨乞い

最後にしたのが60年位前か、私が13、4歳位の頃だったと思う。日照りが続いてどうしようもない時にした。谷保の雨乞いは遅いと言われたが、ぎりぎりまで待ってした。天神様に集まってみんなで竜を作るのだが、口の上下が箕で下が渋うちわで、牙が竹の地もぐりといって下の方で金色で尖がっているのを掘って、良いのを牙にして頭は籠だと思ったが、そいつに箕を掛けてあのささらになっているのを掛けて、胴が蛇籠。胴に麦からを巻いて杉の葉を差して、裏のほうは針金で芯をこしらえ、そいつに麦からを巻きつけて細くして蛇籠は寸胴だからふくらみを入れて感じを出した。お神輿みたい胴棒でかついで甲州街道をねって来るが、途中でバケツで水を掛けられて大騒ぎしながら青柳のアマナレまでねって来て、そこでねり壊してしまう。雷さんは胴が麦わらで、顔はざるだ。こいつが頭になって赤い布を張って金紙か、銀紙か、そういうので目や鼻をつけて、胴は赤い布を張って太鼓バチつけてセメン樽に(今言うビヤ樽)乗せて、雷さまの周へ藤づるを巻いて、それにワラをきれいにすぐったやつを15センチ位の丸にして、三箇所まるいて押切りデキリッと切る。そうすると切り口がピシッとしてのが出来る。それを周囲につけて色を付けて太鼓だ。それをお神輿のようにかついでねって行く。それが通る前にひと樽を抜いて通るひとにでも誰にでも好きなほど飲ませた。四軒在家の佐伯さんのおじいさんがかついで、満作の唄なんか唄って、一杯機嫌でよかよか飴の唄なんか唄って騒いで、ひよろひよろしながらついて行く。各戸でバケツに一杯ずつ水を汲んで待っている。通る人も見物する人もうっかりしていると水を掛けられてしまう。通行人だけはかけないように青竹を持って警戒している者もいる。担ぐ者は子どもでも青年でも誰でもいい。その前に支度が出来ると天神様で神主さんが祈祷してそれからねり出す。神主さんは水のかからぬうちに行くのだが、三本幣束を持って水際に立てる。暑い盛りに担ぎ出し、下谷保の府中境まで担いで、それから甲州街道を青柳までねる。終わる頃には帰るのが忙しいほど、て



きめんにも雨が降る。昔は八大竜王という掛け軸があつて拝殿の所へ掛けて祈祷したものだ。また反対にお天気祭りもあつたが、それは雨ばかり降って困って天神様の神楽殿へ鬼の面をかぶった人形を作つて、八つ手の葉のような形の大きなうちわを作つて風を起こし、青柳稲荷の所へ月を作つて丸くして、黄色く塗つて(月はボール紙)、ススキを飾つて秋の情緒を出してみんなでお祈りした。(I-14)

#### 4. 雨乞い

あまりお天気が続いて雨が降らないと、雨乞いのためのお祭りだ。各家から一人ずつ全部のムラから集まって、天神様の庭で竜と雷神様を作る。雷神様も竜も大きなものだ。雷神様の身の丈は10尺はあつた。竹で骨組みを作り布を巻いて作った。目玉なんかは金紙を貼つてキラキラさせた。竜は箕を二つ合わせて口にして、体は五間もある蛇籠を使った。午前中に竜と雷神様を作つてお昼からその竜と雷神様を大勢で担いで、下谷保から青柳まで甲州街道を練つて歩く。街道筋の家の錠口の所の桶に汲んである水をバケツで竜と雷神様にかける。きっと雨を持ってきてくれるようにと祈りながらかけるのだらう。たいてい夏休みの頃だから子どもたちもついて歩いて、ビショビショになりながら賑やかだつた。(III-10)

### VIII 自然→生き物・遊び

#### 1. 水遊び

夏の遊びは水泳、多摩川の用水の取り入れ口の上流の水溜り。男も女も素裸で、女は6年生くらいから腰巻、男は15歳くらいの若衆になってから褌を締めた。水門のところはトンネルになっていて、こうもりがいて人が行くと飛び出してきて面白がったり怖がったりした。(I-1)

#### 2. 水遊び

ハケの下の川で泳いだ。川を下るのは良いが泳いで上るのは大変。そのころはブローズなんて無くピンクの腰巻をはいて泳いだ。(I-3)

#### 3. 雨成縁

夏は南下の雨成縁でよく泳いだ。水がきれいですごく深く1丈くらいあつた。私はおてんばでかなり大きくなるまで崖から深んどへ飛び降りたりした。小さいうちはパンツなんかありゃしない、真裸のほうが多かつた。少し恥ずかしくなると手拭巻いたりした。雨成と渡船場の所(清化園の前の川で、昔水を計る杭が立っていたので水量杭といった)で1丈くらい深くて、府立二中(都立立川高校)の生徒が泳ぎに来ていたので、一緒に泳いだ、2人くらい犠牲者がいた。(I

- 7)

#### 4. コメケ (米池)

水遊びはやった。当時は海水着なんて着ないで、パンツもはかずに泳いだ。天神様の下の川のコメケ、坂を下りたところのあの川は浅くて、近くのコメケで遊んだ。(I-9)

#### 5. おんだし

よくおんだしで泳いだし、矢川でもよく泳いだ。また魚とりもよくやった。多摩川には大きくなってからでないと危ないから行かなかった。子ども時分、家の前の府中用水では水が多くて流れが速いから釣りはできなかった。だからワキドウというのをやった。この辺は神奈川県峯の下といった。(I-10)

#### 6. 多摩川

学校から帰ると妹を背負ったりして多摩川に行って遊んだ。小砂利があって砂遊びが楽しかった。川には蛇籠があって、水がきれいだから魚がいっぱいでスイスイ、スイスイ泳いでいた。(I-13)

#### 7. 清水の水浴び

その山根のすぐ下に川があって、きれいな清水がぼこぼこ出ていたのでみんな裸でよく水浴びをしました。今のアパートのある所にうちがあって、その前を歩いて川へ行けるようになっていました。(III-5)

#### 8. 河原

近所の友達と遊んでいたけれど、夏のうちは遠くても河原までだった。夏休みになれば農家だから、うちで草むしりに畑へ行けなんていわれても、手伝いをしないで多摩川へ行って魚捕ったり水浴びしたりで怒られた。(III-10)

#### 9. 魚とり

多摩川で魚が一番釣れた場所は、柳屋さん(沢井左源太さん)の通りをまっすぐ川に下りたところから百米位下の深いところ。水のぶつかるところで一丈位深かった。松の丸太を四角に組んで、金で止めたチンショというのを三段に置き、この中に重石を入れ沈ませていた。その上側に竹の蛇籠があった。

柳谷さん通りを堤防に突き当たった右側の角には、多摩川を管理している河川事務所があって、うるさくて砂利や石など持って帰ることが出来なかった。魚とりに行ったときには監視しないが川を止めたりしてね。魚をとることは相当うるさかった。

この一番深いところで子どもの時分釣りをしたこともあった。チンシヨの上  
に蛇籠があり、その上で釣る。竿が長いから平気だった。よそから来た人は釣  
竿を皆もっていたが、私はマダケで曲がっているところをあぶってまっすぐに  
して、釣り糸は木綿糸で重りには石の格好のいいのを見つけて付けた。浮は何  
の木でもかまわず使って、自分で長さ5センチ位で太さ2～3センチ位のもの  
を作った。餌はミミズで肥えまなどにいる大きいのでなく、ママの下の土の中  
にいる5センチ位のが良い。子ども同士で裸足で、パンツもはかず着物を着て  
釣竿を担いで行った。6月1日前にはそれが出来なかった。アユを6月1日前  
に釣っていると、おまわりさんに捕まった。釣れる魚はほとんどがアユだけ。  
学校に上がる前から釣りに行った。針はアユの場合は毛の付いたカザリという  
ものを使った。

多摩川ではよく泳いだもんだ。泳いだり、川に入ったりして遊びながらの釣  
りだから一日中釣ってもいくらか釣れなかった。捕った魚は草に3匹から5匹  
位突通して、ぶら下げて持ってきた。草の茎をひげから通して口に出した。魚  
とりは夏の遊び。

その頃の多摩川は砂利畑で石ころがごろごろしていた川原だった。アシやオ  
ギなどは全然生えてない。だから浮も重りも使わないで釣った。砂場のような  
ところでミミズをくっつけて沈めておけば良い。いい加減で上げるとかかっ  
ている。この魚はトコブシとか砂むぐりともいった。ハヤがかかることもあった。  
カジカ突きはあまりやらなかった。(I-10)

## 10. 魚とり

多摩川のそばだったから、魚とりをした。父は投げ網が好きで向こうにオオ  
クリ川という大きな川があるがそこで魚を捕った。

投げ網、その後は朝鮮網と言って、両方で木の枝を楕円形に曲げ、真ん中に  
網を張って捕る。それだと一回に5升位捕れる。だから親戚が喜んで「仲間に入  
れてもらいたい」とよく来た。女学校時分はよく多摩川に遊びに行つて、魚が石  
の中へもぐると大きな石を持ってポーンと投げると、魚が浮き上がる。石と石  
の間にいたのが死ぬわけだ。それをみんなで集めて遊んだ。名前は知らない。  
1月から2月位の寒いときに、ボラという魚が水のきれいな所で捕れる。プチ  
プチした数の子のような卵が石の下にいるが、それがとても美味しい。石にか  
じりついて生んでおくのをみんなが行つて取ってしまう。かわいそうに。数の  
子と同じでまっ黄色で美味しい。(I-15)

## 11. 魚とり

夏には多摩川で石ブツケといって、川の浅瀬で、一つの石を持ち上げて、  
魚の潜っていそうな石をめがけて投げて、トンテンと音がすると、魚がパツと

浮く。そんなことをして、魚もけっこう捕りました。水中眼鏡なんかはちょっと深瀬でないと使えなかったし、魚はよく見えても、引っ掛けるに技術がいて、なかなか引っ掛けられなかった。川へは、一人で行くことはなく、皆まとまって、五人なり十人なりで行くので、疲れたと思ったことはなかった。自分が小さいときは、大きい人に連れて行ってもらい、大きくなったら小さいのを連れて行き、「もう帰るドー」といって集めたりした。リーダーになったら、いくらか責任観念があって、一応みている気持ちでした。南のハケ下を流れる川を下ノ川とあって、魚がエライいて、子どもたちが魚を捕るのに川に堰して、持主に怒られたりした。清い水で水泳ができ、正月の餅用の米をといだり、時期にはとれた大根を洗ったりした。上へいくと清水がでて山葵っ場があり、うちの下ノ川の清水をオタキとあって、きれいな水が出た。夏はとても涼しく、つかると倒れるくらい冷たくて、よく水飲みに行った。大震災で水は止まったが十五年ぐらい前までは沢ガニがいた。もっと前にはエビ、シジメ（シジミ）、カラス貝が沢山いて、よく煮て食べた。二十五年ぐらい前には、清水のでる所に、一寸（約三センチ）ぐらいの長さのエビで、頭に黒い筋があり、身がすき通ったのがいました。夜行くと目が光り、ザルですくって捕ったり、当時清水が出る所には粘土があったので取ってきて、孫が遊んでいました。戦後、上新田の田圃の東側の、砂利を取った田圃の穴に、きれいな清水が湧いて魚もいたので子どもはよく遊びに行った。大人に見つかり、土手を荒らすからと叱られ、たたかれそうになったのを、危うく首を引っ込めて逃げて、用水が胸まであるのを歩いて必死になって逃げた子もいました。また、夏は野水がでたので、よく女たちは洗濯にいき、天神下のバクロ（昔、馬喰やった人の家の所）でも洗濯しました。ザリガニは、昭和五年に、食用として横浜の方で輸入されたらしいが、昭和十年前後、天神様の縁日に亀といっしょに、一匹五銭で出ていた。帰りに、売れ残りを捨てていったのが、谷保では増えたものだろうと言われていました。その頃、南武線の終点の川崎にはザリガニがいっぱいいました。

佐藤彦一

## 12. 魚掬い

谷保の南部は田んぼ地帯で、川がずいぶんあった。こめいけ、松原堀、田中堀、府中堰、松山堀、青柳堀、本宿堀などに、ハヤ、フナ、イタブナ（タナゴ）などの魚がうんといたから、学校から帰るとかばんを放り出してスクイミ（砂利箕。農事用のものより小さい）を被り、バケツを持って魚掬いに行った。川の中に入り、その時分は水が透き通っていて、川底はきれいな小砂利で、魚の動きが手に取るようによく見えた。イタブナはひれが赤くて目の周りが青く光った雄ばかり追いかけて掬ったりした。雌よりきれいだったから。一度ドードー（川のしりから水の落ちるところ）で7センチ位の鯉が捕れて取っても嬉しかった。

それからは一番先にそこに駆けていったけれど駄目で、柳の下にいつもドジョウはいなかった。

また竿釣りも好きで、近くの川の方々に溜りがあったので、そこにメメズ(ミミズ)をつけて投げ入れ、浮きの動きを待つ。魚によって針の引きが違う。ハヤやイタブナは餌に食いつくと共に浮きを引き込むが、フナはくい、くいと小刻みに糸を引く。くーい、くーいと静かに引く時は怖いエモリ(イモリ)で、エモリは針を飲み込んでしまう。エモリは背が黒くて腹が赤くて2本の足があって、体に比べて大きめの尾っぽを曲げてまったく気持ちが悪くて、「ヤァー、田舎の金魚がかかっちゃった、駄目だ」と放り投げたものだ。(Ⅲ-12)

### 13. ドジョウ捕り

竿や糸を使わないで筈(どう)を使うのはドジョウ捕りだ。6月に田植えをして稲が育ち、何回か田の草取りが済むと3日位水を切って田を干す。それをトッポシというが、その時の楽しみはドジョウ捕りで、そのころは食べ頃の大きさになる。干した田んぼへ朝早く水を一杯入れると土の中に潜っていたドジョウが喜んで出てくる。10時頃に水入れを止めて今度はしりみのくちを切って排水すると、水が少なくなるとこれは大変といっせいにドジョウが登り始めるから、そこを狙って田の一枚一枚のみのくちに登りどうを打って置く。ドジョウはみのくちから更に上に行こうとしてどうに吸い込まれるようにスイスイと入っていくんだ。筈は竹で出来ていてアゲがあり、一度入ると外に出られないようになっている。けれど筈を下手に置くと魚は筈の前まで来て中に入らないこともある。筈が一杯になると揚げて魚籠に移してまたかけ直すのだが、魚の動くのは正午ごろまでで、時間の過ぎるほどに動かなくなるものだ。2時間位で魚籠に一杯になることもあって、それが何よりの楽しみだった。

### 14. ホタル

5月末あたりいっぱいいた。南養寺南東のハケ下の周りの川のふちからや、天神様から下組の下までずっと青く、すごくきれいにいっぱいいた。

それはヤマブキっていったか大きなホタルだった。7月末には小さなキツネツポタル。ほうきを持ってよく捕りに行った。トンボも沢山いた。川の水にお尻をつけてチョンチョン、卵を産んでいた。

### 15. 蛍捕り

蛍も沢山いて、用水の川っぶちを棒で左右にはじくと、光り出すので捕れた。男のいじめっ子に教えると捕ってしまうので、来たらやり過ごしてから捕った。夜、子どもがいなくなると沢山出てきて飛び交い、光りの柱ができ、きれいだった。(I-16)

## 16. 蛍とタニシ

6月末頃になるとホタルがさかりに出る季節だ。ホタルこい、ホタルこい、向こうの水はにがいぞ、こっちの水は甘いぞ、とってたかボウキを持って捕ったものだ。この下にはたくさんいた。みな清水でホタルの幼虫が良く食べるカワニナがいた。だからホタルはカワニナがいる所でなければいけない。タニシもたくさん出た。よく捕ってゆでて中身をむいて酢味噌にして食べた。(Ⅲ-5)

### I 国立の生活誌—古老の語る谷保の暮らし—国立市文化財調査報告第14集

1. 中村良作さん	石田	1917年5月生
2. 小沢ミチさん	千丑	1897(明治31)年9月生
3. 佐伯ナツさん	久保	1907(明治40)年6月生
4. 北島春治さん	下谷保	1903(明治36)年6月生
5. 三田トミさん	石神在 多磨村生	1905(明治38)年9月生
6. 原田末吉さん	四軒在家在 由木村生	1907(明治40)年8月生
7. 沢井チヨさん	青柳	1894(明治27)年1月生
8. 西野トリさん	石神在 千丑生	1909(明治42)年8月生
9. 佐伯ゼンさん	四軒在家在 下谷保生	1915(大正4)年4月生
10. 佐伯吉郎さん	四軒在家在 久保生	1905(明治38)年9月生
11. 杉田くにさん	千丑在 日高町生	1888(明治21)年7月生
12. 小沢タキさん	千丑	1905(明治38)年3月生
13. 佐伯イヨさん	久保在 石神生	1901(明治34)年9月生
14. 佐伯徳次郎さん	四軒在家	1903(明治36)年12月生
15. 三田ナカさん	中平在 多摩村生	1911(明治44)年7月生
16. 加藤ユキさん	石田在 日野市豊田生	1904(明治36)年10月生
17. 沢井ノブさん	青柳在 立川市番馬生	1895(明治28)年9月生
18. 原田マサさん	四軒在家在 坂下生	1905(明治38)年5月生
19. 柳沢そでさん	四軒在家在 中平生	1902(明治35)年6月生
20. 中村栄蔵さん	久保	1902(明治35)年6月生
21. 岩沢ともさん	青柳在 日野市堀之内生	1905(明治38)年12月生
22. 佐伯又兵衛さん	四軒在家	1899(明治32)年7月生
23. 松本 清さん	千丑	1915年(大正4)年2月生

### II 国立の生活誌II 佐藤彦一家の暮らし 国立市文化財調査報告第16集 佐藤 彦一さん 下谷保 1900(明治33)年

Ⅲ 国立の生活誌Ⅳ古老の語る谷保の暮らし(三)国立市文化財調査報告第25集

- |             |          |                      |
|-------------|----------|----------------------|
| 1. 遠藤 万平さん  | 谷保 石神    | 1891 (明治 24) 年 5 月生  |
| 2. 北島 芳雄さん  | 東 下谷保生   | 1912 (大正元) 年 12 月生   |
| 3. 佐伯 辰丈さん  | 谷保 久保    | 1917 (大正 6) 年 1 月生   |
| 4. 佐藤リキ子さん  | 坂下 西恋ヶ窪生 | 1915 (大正 4) 年 8 月生   |
| 5. 杉本 ノヨさん  | 下組       | 1918 (大正 7) 年 9 月生   |
| 6. 鈴木 大助さん  | 坂下       | 1904 (明治 37) 年 8 月生  |
| 7. 鈴木 茂七さん  | 下谷保      | 1911 (明治 44) 年 10 月生 |
| 8. 瀬戸 登代さん  | 石神       | 1923 (大正 12) 年 1 月生  |
| 9. 長島範三郎さん  | 坂下       | 1916 (大正 5) 年 5 月生   |
| 10. 長島巳之吉さん | 中平       | 1905 (明治 38) 年 2 月生  |
| 11. 早川 ムメさん | 千丑 大森生   | 1901 (明治 34) 年 2 月生  |
| 12. 馬場吉太郎さん | 千丑       | 1904 (明治 37) 年 8 月生  |
| 13. 土方 クマさん | 石田 小宮村生  | 1919 (大正 8) 年 1 月生   |
| 14. 本田 定弘さん | 下谷保      | 1905 (明治 38) 年 3 月生  |
| 15. 高柳 利孝さん | 千丑       | 1925 (大正 14) 年 5 月生  |



西暦	元号	市の主な出来事	多摩川のできごと	府中用水とその周辺のできごと	水(井戸・湧き水)	仕事	自然(生き物・遊び)	西暦	元号	
1181	平安時代	谷保天満宮が出来る						1181	平安時代	
1347	室町時代	南養寺が出来る						1347	室町時代	
1596	慶長元年		8月 多摩川大洪水、流路変更、本宿(府中市)に接続していた青柳村が青柳島となる					1596	慶長元年	
1604	慶長9年	甲州街道が出来る						1604	慶長9年	
1617	元和3年	谷保村が上・下二村に分かれる						1617	元和3年	
1627	寛永4年				1596年の多摩川大洪水で被害を受けた府中用水再興〔守屋左太夫〕柴間開発許可発行			1627	寛永4年	
1653	承応2年				大水により、青柳村一村流失 府中用水、大規模な掘削工事開始。青柳雨成下から引水			1653	承応2年	
1654	承応3年		6月 玉川上水、羽村から四谷大木戸まで通水					1654	承応3年	
1655	明暦元年		3月 野火止用水開設					1655	明暦元年	
1659	万治2年				7月 関東一円大水害。多摩川洪水で、青柳島全村流失			1659	万治2年	
1671	寛文11年		8月 大風雨、浅川増水し、多摩川氾濫		多摩川氾濫により、青柳・石田が南岸より北岸に移転			1671	寛文11年	
1822	文政5年				5月 大嵐で多摩川大水になり、雨成下崩れる 谷保地区水害のため普請を行う			1822	文政5年	
1868	明治元年	国立の村々が葦山県になる						1868	明治元年	
1871	明治4年	全部の村が神奈川県になる						1871	明治4年	
1873	明治6年	濁沢学舎(今の国立一小)が出来る						1873	明治6年	
1875	明治8年	上谷保村と下谷保村がひとつになって谷保村となる	8月 暴風雨、六郷橋破損、多摩川洪水、周辺地域浸水					1875	明治8年	
1876	明治9年	濁沢学舎が谷保小学校になる						1876	明治9年	
1888	明治21年	谷保小学校が谷保尋常小学校となる						1888	明治21年	
1889	明治22年	甲武鉄道(今の中央線)が通る 青柳村と石田村が谷保村に入る	9月 多摩川洪水、調布村・矢口村・今泉・古市場4ヶ村の堤防決壊、各地で浸水	4月 市町村制施行により、谷保村に青柳村・石田村合併。府中駅、西府村、多磨村とあわせて府中町外3ヶ村用水と呼ばれる				1889	明治22年	
1893	明治26年	谷保村が東京府に入る						1893	明治26年	
1896	明治29年		4月 河川法公布					1896	明治29年	
1900	明治33年				5月 府中用水取水樋門設置	一小の井戸崩れ(明治38年位の1月9日、1-13)、(明治41年、1-14) 佐藤一家自宅の井戸完成、関東大震災でも壊れず(明治41年)	馬場吉太郎さん、沼崎静雄さんとの共同井戸から木の手桶を提げて風呂汲みを手伝った(大正4年前後、3-12)	多摩川では、石ぶっつけや手づかみでも魚が捕れた。馬場吉太郎さん、5センチ位のアユが魚籠に入りきれないほど捕れた(大正5-6年前後)	1900	明治33年
1923	大正12年	関東大震災が起こる				震災後井戸水は一週間くらい真っ白	佐伯徳次郎さん、最後の雨乞い(1916、7年頃、1-14)	1923	大正12年	
1926	大正15年	国立駅が出来る	8月 日野橋が開通し、万願寺の渡しが日野の渡しとともに廃止 多摩川の砂利採取が、震災後の復興事業により需要増加、盛んになる			・佐伯ゼンさん、自宅に井戸完成(1-9) ・長島範三郎さん、谷保へ引越当時隣家に自然に湧く湧水を貰っていた(3-9) ・国立駅ガード付近の雑木林に湧水有り、北島芳雄さん屋敷まで導水(3-2) ・天満宮のお滝の水豊富(3-9)	4月の大水時に太くて長い木が流れてきてみんなで止めに行った。物置をつくった家も、持ち主が調べに来たことも(1-16)		1926	大正15年
1929	昭和4年	南武線が通り、谷保駅が出来る				瀬戸登夜さん、庭先の井戸付近に風呂を移転したが野天風呂だった(3-8)		1929	昭和4年	
1930	昭和5年						アメリカザリガニ、横浜に輸入(2)	1930	昭和5年	
1932	昭和7年	矢川駅が出来る						1932	昭和7年	
1934	昭和9年		日野橋から下流の多摩川での砂、砂利採取規制			甲州街道の掘抜きに豊富な湧水。洗い場として活用していた(3-3)	戦争中まで沢蟹や蛙を食べた(1-7)	1934	昭和9年	
1947	昭和22年	谷保中学校(今の国立一中)が出来る	9月 キヤスリーン台風により多摩川で出水					1947	昭和22年	
1948	昭和23年		9月 アイオン台風により多摩川で出水	5月 府中町外三ヶ村普通水利組合、農林省・東京都の協力を得て府中用水改良工事に着手する 7月 府中用水取入口が不完全であったため谷保村青柳地区の水田300町歩に砂利が入る				1948	昭和23年	
1949	昭和24年		6月 土地改良法施行 6月 デラ台風により多摩川調布で出水 9月 キティ台風の豪雨により多摩川調布で出水					1949	昭和24年	
1951	昭和26年	谷保村が国立町になる 谷保小学校が国立第一小学校、国立小学校が国立第二小学校、谷保中学校が国立中学校となる			5月 揚水機場工事終了			1951	昭和26年	
1952	昭和27年	文教地区の指定を受ける	9月 多摩川出水		5月 府中用水で導水開導およびヒューム管工事完成 8月 府中町外三ヶ村普通水利組合から府中町外一町二ヶ村揚水土地改良区へと組織変更			1952	昭和27年	
1954	昭和29年		9月 台風14号により多摩川出水				・多摩川の堤防は土手だった(1-1)まだ蛇籠を生産していた。手間賃120円(1-1) ・11月鳩の湯開業、最初薪を焚く	1954	昭和29年	
1957	昭和32年		3~4月 多摩川の異常湧水により給水制限					1957	昭和32年	
1958	昭和33年	国立中浄水場ができる					小山商店(豆腐)開業(①)	1958	昭和33年	
1959	昭和34年	町営水道がひかれ始める						1959	昭和34年	
1960	昭和35年	町営清化園プールが出来る					湯水時に水争い。佐藤一夫さん「木刀持って、水蓄に立ってろ」と言われる(2)。渡辺豆腐店開業(②)。	1960	昭和35年	
1961	昭和36年	清化園し尿処理場が出来る						1961	昭和36年	
1962	昭和37年				7月 府中用水組合発足		多摩川の砂利採取中止(昭和46年頃、2)	1962	昭和37年	
1965	昭和40年	富士見台団地が出来る	5月 多摩川堤防損壊	1月 土地改良区、湖南処理場問題で都に調停を依頼 4月 土地改良区内で国立市と府中市が分離				1965	昭和40年	
1967	昭和42年	国立町が国立市になる 中央自動車道が通る					茂木豆腐店開業	1967	昭和42年	
1970	昭和45年	谷保浄水場が出来る						1970	昭和45年	
1974	昭和49年	清化園清掃工場が出来る						1974	昭和49年	
1975	昭和50年	国立市の水道が東京都営になる						1975	昭和50年	
1985	昭和60年				9月 大瀬干しが復活する			1985	昭和60年	
1986	昭和61年	城山公園が出来る						1986	昭和61年	
1989	平成元年	北多摩二号下水道終末処理場ができる					四軒在家東部の豆腐店。4代目の兼吉さんが営業していた。(1-22)	1989	平成元年	
1991	平成3年	古民家が復元され、公開される						1991	平成3年	
1998	平成10年				9月 この年を最後に大瀬干しは行われていない			1998	平成10年	



## ワーキンググループ3



環境フェスタで使ったワーキンググループ3の活動紹介パネル



聞き取り調査の様子



## 雨水利用



## 1. 雨水利用と水循環～概要

人間の身体の6～7割は水分であり、また、毎日の暮らしのなかで何らかの形で常に水とふれ合っていることを考えると、水と暮らしの関わりは大変深いものがある。また、陸上の水分は、もとをたどればすべて雨水といえること、上水道の水はるか上流から持ってきているのに身近な雨はそのまま下水道に捨てている矛盾を考えるならば、水循環についての基本計画を策定するにあたって、雨水についての認識・理解を深めるテーマは必要不可欠であると考えられ、また、それはできるだけ具体的な形で、かつ生活の中で常に意識されるものとするのが望ましい。そこで、雨を邪魔物扱いせず、生活の中で常にふれあえるものとしたらどうかと考え、雨水利用をとりあげることとした。

## 2. 現状

### (1) 国立市における降雨量について

国立市泉一丁目にある北多摩2号水再生センターにおける平成14年度～平成18年度の年間降水量の平均は1,578.5mmである。これは年間で1平方メートル当たり約1,600Lの降雨量があり、一坪あたり年間ドラム缶(200L)約26本分の雨を貯めることができることを意味する。仮に10坪の屋根で集水すると実に年間約52立方メートル(52,000L)になり、トイレの水を約5,000回流せることになる。

### (2) 水循環現状と課題から

降った雨は、大気中の湿度との関係もあるがつねに蒸発し大気中に戻っていく。また、いろいろな形で川に流出し、さらに海に注ぐ。降ってから川に流出したり、海に注ぐ過程において十分に時間をかけられない場合には、下水道の処理能力を超えたり河川の計画流量を上回ることとなり、道路が冠水したり地下室に浸水したり洪水が起きたりすることもあるため、一時的に貯留し地下に浸透させることで下水道の負担軽減や河川流量の平均化を図ることができる(但し、雨水を地中に浸透させることで斜面の安全性が損なわれるおそれがあるなどの区域では注意が必要である)。雨水をいろいろな形で一時的に貯留し、それをゆっくりと流出させることは、上流域での行われているダムでの洪水調整と原理的には同じである。

これを具体化する方法の一つが雨水利用である。墨田区をはじめとしてすでに全国各地でさまざまな取り組みがなされているが、国立市では現在のところ雨水利用については積極的に取り組んでいるとは言えない状況にある。そこでまず、市民レベルで「雨水を貯めて使ってみる」ことをはじめてみるのは意義深いことであると考えられる。

なお、国立市においても雨水浸透マス設置に対する補助制度が設けられている。これは敷地面積1,000平方メートル未満の個人が所有する既設住宅または併用住宅に設置する家屋の所有者を対象に一基あたり16,000～28,000円が助成されるも



のであり(助成対象になるのは8基までである)、水の懇談会聞き取り調査の中で、昔はハケのあちこちで多くの湧水が見られたこと、住宅団地の建設に伴って谷保天満宮の湧水量が減少してしまったことなどから国立市は現在よりもはるかに豊かな地下水に恵まれていたことが明らかになっているが、いろいろな形で雨水を地中に戻すことが必要であろう。また、これによって地上の緑がよりいきいきとし、ヒートアイランド現象の軽減にも寄与するものと考えられる。

### 3. くにたち雨水タンク(雨タン)について

#### (1)「雨タン」実現の経緯

上水道がほぼ100%普及した現在の生活であるが、必ずしも上水道の水質が必要ではない場面も少なからず残されている。その代表的なものが水洗トイレの洗浄水である。これは生活用水の約1/4を占めると言われるが、これ以外にもガーデニングや家庭菜園などの草木にやる水、洗車や窓掃除に使う水、防火用水などがあげられる。たとえば国立市内の町内会に配備されている小型消防ポンプを使った場合、雨タン1本で3～5分程度の放水が可能との報告がある(資料編:北2丁目みどり会写真参照)。また、災害時に生活用水を一時的に貯留しておくという意味でも雨水貯留装置の存在価値は大きい。

しかし、雨水貯留装置を製品として新たに購入しようとする、数万円からの出費が必要となりなかなか最初の一步を踏み出すことができないケースが多い。本来の雨水利用はそのような製品を購入しなくても、雨だれが落ちる場所にバケツをおいたり、雨樋にちょっとした加工を行いポリバケツやカメなどに水を貯めたりという形ではじめることは可能であるが、洗車やガーデニング程度の利用においても必要なときに手軽に雨水を利用できる程度の貯水容量がないと、結局雨水を利用するのが面倒になり、生活の中に雨水利用が根付いていかないのも現実である。

そこで、国立市水の懇談会の活動の中で、一定の容量を持つタンクを安く入手する方法がないかと検討したところ、市内にある食品会社から使用済の食品輸送用タンクを提供していただけることとなった。このタンクは、直径約60cm、高さ約90cm、容量約200Lのプラスチック(ポリプロピレン)製ドラム缶であり、工場レベルでのリユースの頻度に達しないため使用后廃棄されていたものである。なお、食品の輸送に使われていたものであるため安全性についても全く問題がない。また、「雨タン」の愛称は、水の懇談会のなかで検討され命名されたものである。

#### (2)「雨タン」配布の仕組み

提供されたプラスチック製ドラム缶は国立市役所が引き取り、希望する市民に無料で配布している。配布された状態では、蛇口やオーバーフロー管の取付けなど一切の加工がなされていないため、配布を受けたあと各自のアイデアや工夫を盛り込んで雨水タンクとして利用してもらおう。このあたりは、製品として販売されている雨水貯留装

置とは大きく異なるが、導入コストをできるだけ抑え雨水利用の敷居を低くすること、利用の方法に応じて適切な加工を施せること、また、D.I.Y.を積極的に楽しんでもらうというのも利用する側が受け身にならないという意味では重要なポイントと考えた。配布にあたっては、雨水タンク以外への転用や、他者への転売をしないこと、不要となった際には適切に処分することなど、一定の条件に同意してもらうことが前提となっている(資料編:「くにたち雨水タンク申込書」参照)。

### (3)配布状況

配布状況は表1の通りである。2006年度1年間でおおよそ30個が配布された。市役所東側の自転車置き場にサンプルとして1つ、くにたち福祉会館北側に位置する「自主学校遊」に1つ、その他は個人宅での設置となっている。また、2006年10月に開催された「環境フェスタ」においてもPRを兼ねたワークショップを開催し、ワークショップに参加された方(個人)のお宅にも設置されている(資料編:「環境フェスタでの雨タンクPR」参照)。

なお、配布当初、一般紙の多摩版のページで紹介されたこともあり(資料編:「朝日新聞多摩版記事～節水訴え庁舎に雨水タンク」参照)、一部タンクは国立市外に配布されているが、現在は市内の方が市役所のサンプルを見て申し込むという流れに落ち着いている。また、このタンクが廃物利用であり定期的にまとまった数が入手できるものではないため、希望してもすぐに雨タンクを入手できないケースもあるが、これは仕組みを考えるとやむを得ないものである。

## 4. まとめと提言

- 市民にむけて、雨水利用を呼びかけていくこと。
- くにたち雨水タンク(雨タンク)の配布を今後も継続していくこと。
- 雨水利用の先進自治体での実施事例を調査し、雨水タンク等雨水貯留装置設置のための補助金の創設に向けて検討を進めること。
- 市役所や図書館、公民館、公園、公立学校等公共施設敷地内における雨水タンク等雨水貯留装置、地下浸透施設の設置を積極的に進めること。

表1 くになち雨水タンク（雨タン）配布状況

2007年3月20日現在

通し番号	在庫	設置先	住所	申し込み日	引き渡し日	設置日	写真	備考
1	済	市役所	国立市富士見台2-47-1	-	-	2006/6	有	東側自転車置き場・水懇試行設置
2	済	自主学校遊	国立市中3-11-2	2006/4/3	2006/4/10	2006/4	有	手押しポンプ付・水懇試行設置
3	済	個人宅	国立市	2006/6/20	2006/6/23	2006/6	有	水懇試行設置
4	済	個人宅	三鷹市	2006/6/29	2006/7/4			新聞記事を見て申し込み
5	済	個人宅	国立市西	2006/6/29	2006/7/4			新聞記事を見て申し込み
6	済	個人宅	日野市	2006/6/29	2006/7/5			新聞記事を見て申し込み
7	済	個人宅	国立市谷保	2006/6/29	2006/7/6			新聞記事を見て申し込み
8	済	個人宅	国立市北	2006/6/29	2006/7/6	2006/9	有	灯油ポンプでくみ出し
9	済	個人宅	日野市	2006/6/29	2006/7/6			新聞記事を見て申し込み
10	済	個人宅	国立市青柳	2006/6/29	2006/7/12			新聞記事を見て申し込み
11	済	個人宅	青梅市	2006/6/29	2006/7/14			新聞記事を見て申し込み
12	済	個人宅	国立市谷保	2006/6/30	2006/7/14			新聞記事を見て申し込み
13	○	(配布せず)	-	-	-	-	-	蓋破損のため市役所で保管
14	済	個人宅	国立市西	2006/6/30	2006/7/14	2006/12	有	新聞記事を見て申し込み
15	済	個人宅	国立市谷保	2006/6/30	2006/7/19			新聞記事を見て申し込み
16	済	個人宅	国立市北	2006/6/30	2006/7/21	2006/12	有	新聞記事を見て申し込み
17	済	個人宅	国立市泉4	2006/10/14	2006/10/14	2006/10	有	環境フェスタ実演・設置
18	済	個人宅	国立市谷保	2006/8/29	2007/1/17	2007/2	有	市役所サンプルを見て申し込み
19	済	個人宅	羽村市	2006/9/28	2007/1/17			新聞記事を見て申し込み
20	済	個人宅	国立市富士見台	2006/12/12	2007/1/18			市役所サンプルを見て申し込み
21	済	個人宅	立川市	2006/1/18	2007/1/18			新聞記事を見て申し込み
22	済	個人宅	国立市東	2006/1/18	2007/1/19			市役所サンプルを見て申し込み
23	済	個人宅	国立市北	2007/2/6	2007/2/9	2007/2	有	市役所サンプルを見て申し込み
24	済	個人宅	国立市東	2006/11/20	2007/1/19			市役所サンプルを見て申し込み
25	済	個人宅	国立市北	2007/2/6	2007/2/9	2007/2	有	市役所サンプルを見て申し込み
26	済	個人宅	国立市北	2007/2/6	2007/2/9	2007/2	有	市役所サンプルを見て申し込み
27	済	個人宅	国立市北	2007/2/6	2007/2/9	2007/2	有	市役所サンプルを見て申し込み
28	○							
29	○							
30								
31								
32								
33								
34								
35								

雨 水 利 用

資 料 編



# 小金井の「劇団ふるさときゃらばん

した一環回ることを「ふるさと」(小金井市)か「ふるさと」(廿身)に  
るい」を巡回公演している。再演を求める声を受けての全国巡業で、最終  
日の21日には小平市で公演する。劇団のメンバーは「総勢45人の壮大な歌  
と踊りを、ぜひ地元の人にも楽しんでもらいたい」と話している。

ふるさときゃらばん  
は、日本の暮らしに根  
付いたミュージカルを自  
指し、83年に結成され  
た。18〜65歳の100  
人以上の劇団員がいて、  
バンド演奏から営業活  
動までを自ら手がけてい  
る。結成当初から全国  
公演を続けており、訪れ  
た自治体は千を超すと  
いう。92年には、パルセ  
ロナ五輪の芸術祭にも招  
かれた。

愛知万博では期間中、  
地球をテーマに様々な  
トリーを織りこんだ  
「われら地球族！」を約  
30回公演。1時間半ほど  
の舞台で、日本の古代神

ミュージカル「世界はまる  
い」の舞台(劇団ふるさと  
きゃらばん提供)

立川支局  
〒190-0012  
立川市曙町2-38-5  
☎ 042-524-5104  
fax 042-524-5106  
mail tachikawa@  
asahi.com  
町田 ☎ 042-723-3251  
八王子 ☎ 042-646-8511  
青梅 ☎ 0428-24-3824

東京総局  
〒100-0011  
千代田区内幸町2-2-1  
日本プレスセンタービル3階  
☎ 03-3508-0390

購読・配達のご用は  
0120-12-0843  
平日 7:00~21:00  
休日 7:00~17:00  
広告のご用は  
☎ 042-523-3291  
折込みのご用は  
☎ 042-540-1971

## きょうの天気

6~12時 降水確率 12~18時

0	東京	0
0	立川	0
0	吉祥寺	0
0	錦糸町	0

東京	北	北	吉祥寺	北
立川	東	北	錦糸町	北
湿度	40%	波	1.0m	

最高	最低	最高	最低
東京 19度	8度	立川 18度	6度
吉祥寺 19度	7度	錦糸町 17度	8度

東京	南	南	吉祥寺	南
立川	南	南	錦糸町	南
湿度	40%	波	0.5m	

4月18日 (旧3月21日)

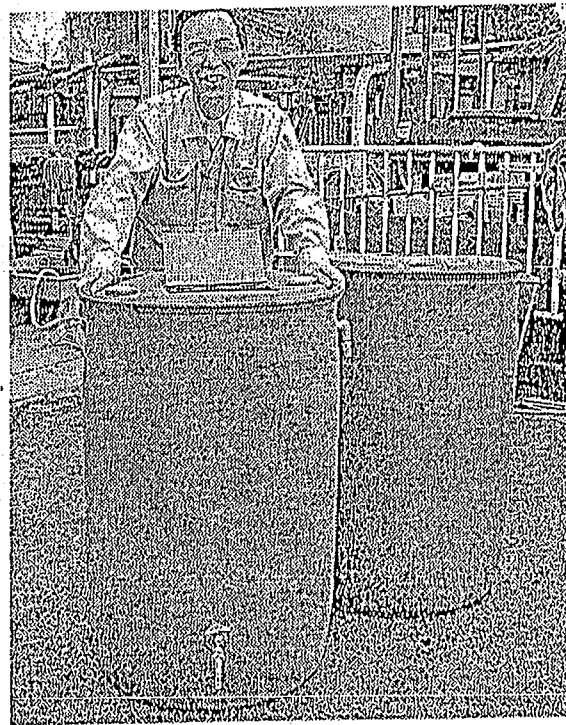
日出	5.05
日入	18.11
月出	23.11
月入	7.29

月齢19.7

## 節水訴え庁舎に雨水タンク

4/17 朝日

### 国立市計画



国立市が市庁舎に設置する雨水タンク(同市で)

## 飲料工場が希望する市民にも無料で提供

水環境への意識を高め、  
ようと、国立市は近くオ  
リジナルの雨水タンクを  
市庁舎に設置する。工場  
成させた。たまった雨水  
置くという。

無料で提供  
希望する市民にも

飲料工場が希望する市民にも無料で提供

水環境への意識を高め、  
ようと、国立市は近くオ  
リジナルの雨水タンクを  
市庁舎に設置する。工場  
成させた。たまった雨水  
置くという。

は敷地内の水やりなどに  
使う予定で、市は雨水タ  
ンクの利用を市民にも呼  
びかけたいという。

タンクは直径約50センチ、  
高さ約80センチの円柱状の2  
00リットル容器。市内に研究  
所がある飲料メーカーの  
工場が、原材料の果物を  
保管するために使ってい  
た。一度使用すると、リ  
サイクルに回していたの  
を、市が引き取り、約3  
千円をかけて蛇口やあふ  
り出し口を別に流す口を  
取り付けた。雨水タンク  
は市庁舎の雨どいの下に  
置くという。

市内には、「ママ下湧  
水群」(谷保)などのわ  
き水のほか50以上の井戸  
があるが、井戸水の水位  
が低下するなど水資源が  
枯渇しつつあるという。  
雨水タンクの設置は、こ  
うした実情を広く市民に  
知ってもらうとともに、  
水の大切さを改めて認識  
してもらおうという狙い  
がある。

市は工場からプラスチ  
ックのタンクをもらい受  
け、希望する市民に無料  
で配りたいという。市環  
境保全課は「庭の水やり  
やトイレの水のほか、大  
災害時の生活用水にもな  
る。水の節約にもつな  
がる」と話している。

客からも、入場できな  
った人からも再公演を  
求める声が出たという。  
劇団は「コミとして出され  
た鍋やタイヤホイール  
などを打楽器にした生演  
出」を打楽器にした生演  
出している。

劇団の祖父江真奈プロ  
デューサーは「マゼラン  
のロマンや、人間と生物  
が共存している地球の素  
晴らしさを感じてほし  
い」。

人4千円、子供2千円、  
親子ペア5千円。問い合  
わせは、ふるさときゃら  
ばんチケットセンター  
(0120・057・7  
61)へ。

# はじめてみよう!

## 雨水利用

水不足になってはじめて「めくみの雨」なんて言ったりしますが、私たちの生活をささえる水は、もとをたどればすべて雨水。

上水道が普及して、蛇口から出る水だけが生活に利用されるようになって久しいですが、草花や植木への水やりや洗車に使う水、トイレに流す水……など、雨水をそのまま利用できる場面も少なくありません。降った雨をそのまま下水に流してしまうなんてもったいない!

さあ、あなたも、雨水タンクをおいて、雨水利用をはじめてみませんか?

- ・降り始めの雨は屋根のホコリなどが含まれているため、貯めずに流してしまうとタンクの掃除が楽です。
- ・雨水を毎日使っていれば、ボウフラが発生することはまずありません。なお、タンクを設置するときにはできるだけ密閉されるよう工夫してください。
- ・とにかくまずはじめてみましょう。雨の日も「いい天気!」といえるようになれば、どんどんアイデアもわいてきますよ…。

詳しくは：国立市水の懇談会  
(国立市の市民調査会)  
国立市環境保全課まで

なおこの雨水タンクは(株)ヤクルト本社さんから食品原料の輸送用タンクを提供していただき、リユース活用しています。



# 雨タンク 001号

- ・「雨タン」は、国立市内にある食品会社から、食品輸送に使われていたプラスチック製のタンクを提供いただくことで実現した雨水タンクです。
- ・提供いただいたタンクそのものは「素材」ですが、様々なアイデアを注がれて雨水タンクに活用されています。
- ・これまでに国立市内に8個、日野市に2個、三鷹市と青梅市にそれぞれ1個設置されました。
- ・リユース品なので、いつも手にはいるというものではありませんが「雨タン」の愛称で少しずつ増えていけばいいと考えています。

詳しくは：国立市水の懇談会（国立水の市民調査会）  
国立市環境保全課 まで





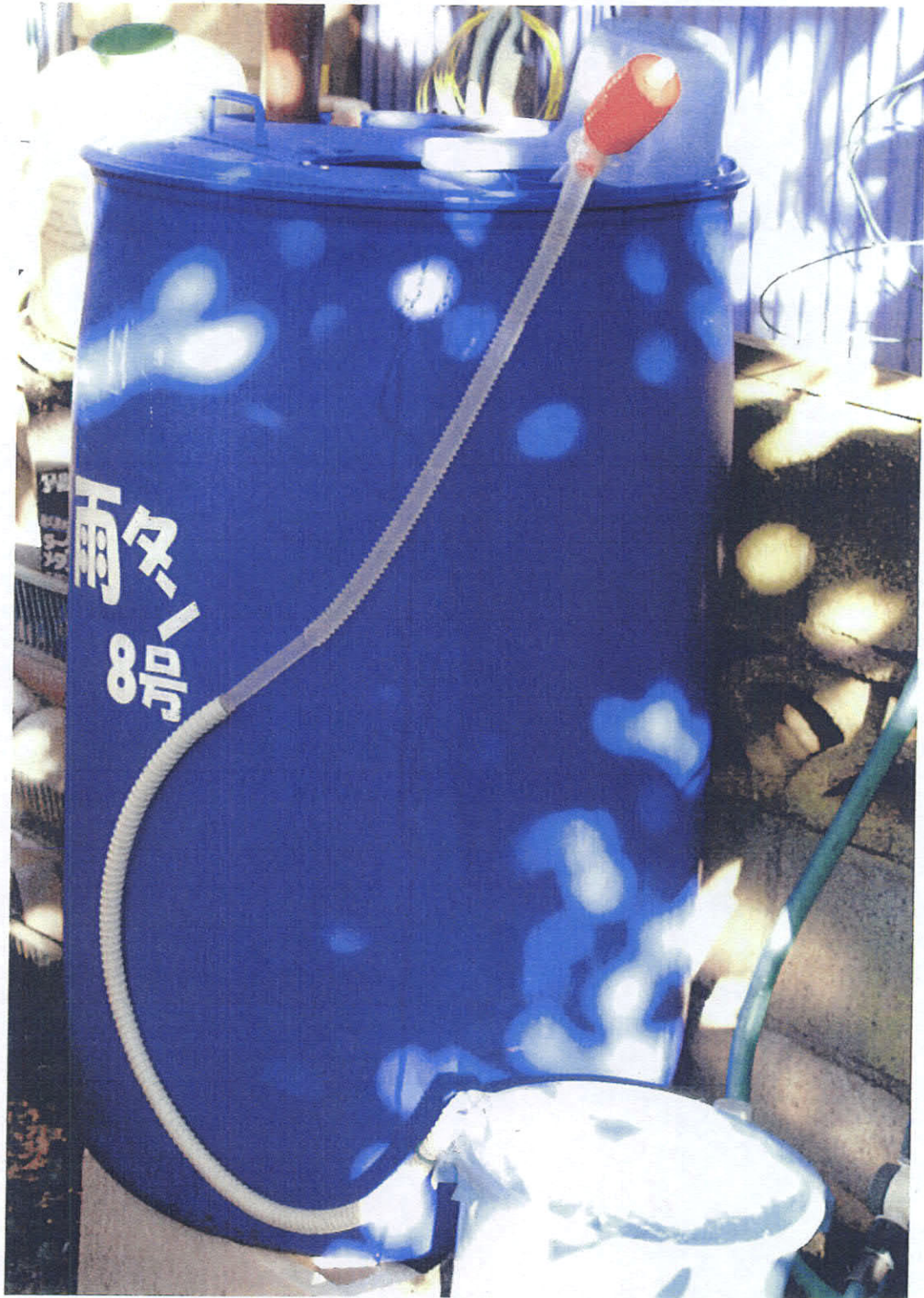
# 自主学校 遊 雨水タンク 2006年4月28日完成













# 雨タン17号 国立市内個人宅 2006.10設置









# 雨水タンク設置例 北二丁目みどり会





# 自主学校 遊 におけるそのほかの雨水利用

## 1. 雨水利用の方法

自主学校遊は、国立市中3丁目の住宅地内にある私設無認可の学校であり、小学校1年生から高校3年生まで23名の子どもたちが毎日通学している。この学校の校舎は木造2階建て部屋数6（建坪約160m<sup>2</sup>）の木造アパートであるが、屋根に降る雨を雨樋に加工してポリバケツ（容量約50L）やカメ（容量約20L）、ブリキのバケツに貯水している（写真1～3参照）。2階通路においたポリバケツは散水用ホースで階段下にある小屋の中の蛇口につながっており（写真4）、蛇口からの水は高度差による水圧でかなりの水勢となる。カメには竹を利用して雨水をひいている（写真5）。またバケツが満水の時にはL字部分の樋を外すことで直接下水道に排水することもできる（写真6）。



写真1



写真2



写真3



写真4



写真5



写真6

## 2. 導入コスト

ポリバケツやカメなどは自主学校遊の備品を流用したため費用はかかっていない。雨樋の向きを変えるジョイント等をホームセンターで購入している程度である。まず、雨水を貯めてみようという「気持ち」が大切。

## 3. 雨水の用途

泥遊びのあとの手洗い、プランターなどの植物への水やり、子どもたちが飼っているザリガニなどの水、雑巾を洗うなど掃除の際の水、子どもたちの水遊び等に利用しているが、天からの恵みである雨をそのまま下水道に流してしまうのではなく、目に見える形で貯めて利用することを子どもたちは雨水そのものに対して意識が向くようになってきた。また向かいの児童館に遊びに来ている子どもたちなども興味を持っているようだ。



## 国立市内の個人住宅における雨水利用事例



2001年12月着工

### ■施工の概要

庭に穴を掘りべた基礎を作り、  
その上に既成品のタンクを設置し  
基礎にワイヤーで固定します。  
一度満水にしてから土をかぶせます。

タンク上部の円筒の上にマンホールが載ります。

タンクはこのほかにコンクリートで現場製作する  
ものもあります。

敷地の小さな場合は建物の直下にコンクリートで  
貯水槽を作ることにも可能です。



雨を集める家の屋根面積はおよそ150㎡

今回の雨水タンクは最大8トンの水が入ります。

雨水は樋の途中に作られたフィルターによって  
大きなゴミ（鳥の糞や枯葉）を取り除かれ、  
タンクに集められます。  
フィルターは台所用の浅い排水ゴミ受けを利用。

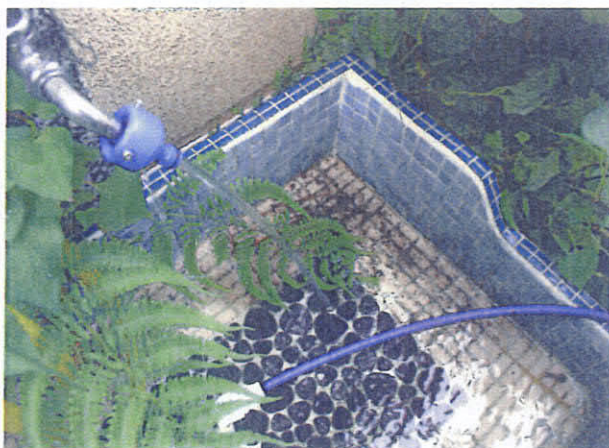
今年7月20日の雨水タンクは  
マンホールの下付近までほぼ満水の状態でした。  
満水になると横にあるオーバーフロー管から  
排水路に流れます。



4年半経った現在のタンク周辺。  
すっかり草に覆われ、タンクの場所が分からないほどになりました。

黒い棒はタンクに挿入されていて、  
一番下に浮きが付いています。

タンクの中の雨水が溜まってくるにしたがって  
浮きに持ち上げられ、黒い棒が伸びてくるしかけです。



この家では雨水を庭の散水とトイレに利用しています。  
タンクの雨水をくみ上げるときのポンプをはじめ、  
家の電力は太陽光発電でまかっています。（3kw）

雨水を使うようになって、住んでいる人は雨が降ると  
うれしく感じるようになったそうです。



# 環境フェスタでの雨タンPR 2006年10月14日



# 雨タンクワークショップの ご案内

市内にある食品会社から提供いただいた食品原料の輸送用タンクを雨水タンクに加工するお手伝いをいたします。

ご希望の方は、申込書をよくお読みいただいた上でお申込ください。

なお、材料等の理由で本日の参加は1名のみ。希望者多数の場合は、11時半にジャンケンにて決定します。

日時：2006年10月14日（土） 11時半～  
場所：環境フェスタ 水の懇談会ブース付近

詳しくは： 国立市水の懇談会(国立水の市民調査会)  
国立市環境保全課

## くにたち雨水タンク 申込書

くにたち雨水タンクをご希望の方は、以下の(1)～(7)をよくお読みいただいたうえ、承諾された方のみ、お名前、ご住所、ご連絡先を記入・捺印のうえ、同封の封筒で市役所環境保全課あて返送してください。

- (1) まずはじめに、この容器の提供は、国立市水循環基本計画に市民の意見を盛り込むため生まれた「国立市水の懇談会(国立水の市民調査会)」の活動の中で実現したものです。この活動へのご理解とご協力をお願いいたします。
- (2) 提供する容器は食品輸送に使われていた青色プラスチック製のタンク(直径約56cm、高さ93cm、容量約200L)になります。なお、蛇口やオーバーフロー管の取り付けなど、一切の加工はなされておられませんのでご注意ください(新聞に載った写真は、加工例です。)
- (3) 配達や設置はいたしませんので、国立市役所までご自分で取りにおいでください。なお設置にあたっては、子どもが落ちたり、地震などの際に倒れたりしないよう十分な配慮をお願いいたします。
- (4) 提供した容器は雨水タンクとしてご利用下さい。なお、このタンクは「お手製雨水タンク」のモニターとなるため、通し番号とともに雨水利用のPRの掲示を出していただきます。また設置後、市民が見学に伺うこともありますので、その際はご協力をよろしくをお願いいたします。
- (5) 雨水タンク以外への転用、他者への転売などは決してなさらぬようお願いいたします。
- (6) 不要になった際には、粗大ゴミとして適正に処分していただきますようお願いいたします。
- (7) なお、この容器はリユース品であるため定期的に決まった数量が手に入るものではありません。申込みされた方には抽選等により順次おわけできる予定ですが、すぐにはご希望にそいかなる場合もあります。気長にお待ちいただけますようお願いいたします。また、数量は一世帯に1つとさせていただきます。

----- き り と り せ ん -----

平成 18 年 月 日

国立市環境保全課/国立市水の懇談会(国立水の市民調査会)

上記(1)～(7)について承諾のうえ、くにたち雨水タンクを申込みます。

お名前：

印

ご住所：〒

ご連絡先：

( )





## 特別調査



## 特別調査 1 学校プールの生き物調査 ―ヤゴ救出作戦―

### 1. 目的

小学校のプール開きのための清掃前に、小学校の協力を得て授業の中で児童と共にプール内に生息しているヤゴ（トンボの幼虫）やその他の水生生物の調査と、清掃にともなって下水に流されトンボに羽化できないヤゴの救出を行う。

身近なプールに多様な生物の生息を知ること、児童、先生が市内の水環境に関心をもつことができると考える。児童にとっては、捕獲や救出の喜びを得ること、飼育を通しての情操面での育みなど、教室の授業では学べないことを体験でき教育的効果が大きいと思われる。

### 2. 調査方法

- (1)事前に、この調査の目的、方法、教育的効果などを学校に説明。
- (2)実施日の前日に水深 10 cm程度までプールの水を抜く。
- (3)調査は、タモ網などでプールの底をすくいヤゴやその他の水生生物を捕獲し、容器に入れ観察する。
- (4)調査終了時に、ヤゴについては種名ごとに数を児童が集計。
- (5)飼育方法について、プリントを作成配布し、説明。
- (6)まとめとして、児童と調査の考察を行う。
- (7)捕獲した生物の一部をサンプルとして持ち帰り、同定を行う。

### 3. 調査報告

平成 17 年度

#### (1)国立市立第一小学校

調査日時：6月2日（木）午後1時～2時15分      天気：雨  
調査者      水の懇談会：笠間・佐藤・矢野      環境保全課：河野

プールの水が汚い。全体に黄緑色で濁っている。ヘドロ臭もきつい。1小は城山のそばで、市内で多分一番 自然環境に恵まれ、水鳥も飛んでくる。鳥の羽が結構沈んでいたが、沢山の排泄物によって富栄養化が進み、ヤゴなどには住みづらい条件になっていた。

#### 【結果】

アカトンボ型のヤゴ（幼齢幼虫）	68匹
コミズムシ	多数
アメンボ	多数
フタバカゲロウの幼虫	少数

ユスリカの幼虫 (アカムシ) 大きいのがきわめて多数  
 謎の甲虫 (体長2ミリくらい) 1匹  
 ゲンゴロウ 1匹

謎の甲虫、これは素早く泳ぎ、小さいので捕まえるのに苦労した。同定したが、判明できなかった。

(2)国立市立第二小学校

調査日時：6月6日(月)午前10時40分～12時15分 天気：晴れ

調査者 3年生3クラスと先生

水の懇談会：笠間 城山ボランティア：花房、大船

環境保全課：三澤

【結果】

アキアカネのヤゴ (幼齢幼虫) 1579匹  
 コミズムシ 少数  
 アメンボの成虫 少数  
 ユスリカの幼虫 多数

(3)国立市立第三小学校

調査日時：6月6日(月)午前10時40分～12時 天気：晴れ

調査者 2年生2クラスと先生

水の懇談会：矢野 植物標本の会：坂口、野上

環境保全課：河野

プールの水全体が緑色、藻が多かった。手違いより実施時間が短く補足調査を含めての結果を報告します。

【結果】

アキアカネのヤゴ (幼齢幼虫) 1307匹  
 アメンボの成虫 多数  
 ユスリカの幼虫 多数  
 コミズムシ 多数  
 フタバカゲロウの幼虫 少数

(4)国立市立第四小学校

調査日時：6月1日(水)午前10時40分～12時 天気：晴れ

調査者 2年生2クラスと先生

水の懇談会：笠間・矢野・佐藤 環境保全課：河野、三澤

【結果】

ギンヤンマのヤゴ	4 1 匹
アカトンボ型のヤゴ (幼齢幼虫)	5 0 5 匹
アメンボ	少数
ユスリカの幼虫 (アカムシ)	きわめて多数
コミズムシ	少数
フタバカゲロウの幼虫	普通
ミズカマキリ	1 匹

大きなヤンマのヤゴが捕獲できた。大人の指くらいの長さで太さのヤゴが、体長1センチほどのヤゴに混じっている。同定の結果ギンヤンマと確認できた。子どもたちが終わったあとに、補足調査でミズカマキリを捕らえた。途中で学校訪問を行っていた教育委員の見学を受けた。

(5)国立市立第五小学校

調査日時：5月31日(火) 午後1時20分～3時15分 天気：晴れ

調査者 3年生3クラスと先生

水の懇談会：笠間・矢野 環境保全課：堀江

3年生の児童たちは、2年生だった去年に引き続き、2年連続のヤゴ調査となりました。ヤゴは、まだ幼齢 幼虫ばかりで、同定がむずかしい。

【結果】

アカトンボ型のヤゴ (幼齢幼虫)	4 5 4 匹
ユスリカの幼虫 (アカムシ)	多数
コミズムシ	多数
アメンボの成虫	多数
カゲロウ類の幼虫	多数

(6)国立市立第六小学校

調査日時：6月3日(金) 午後1時30分～3時 天気：曇り

調査者 水の懇談会：笠間、矢野 環境保全課：堀江

【結果】

アキアカネのヤゴ (終齢幼虫)	
コノシメトンボのヤゴ (終齢幼虫)	計 2 6 0 匹

ミジンコ	多数
トビゲラ型幼虫	多数
マツモムシ	多数
コミズムシ	多数
ユスリカの幼虫 (アカムシ)	多数
貝の卵塊	多数

児童の参加がないのが残念なくらい立派なヤゴがたくさんいた。

#### (7) 国立市立第七小学校

調査日時：5月31日(火) 午後12時50分～3時30分 天気：晴れ

調査者 3年生2クラスと先生

水の懇談会：皆川・佐藤 環境保全課：三澤

#### 【結果】

ヤンマ型のヤゴ	6匹
シオカラトンボのヤゴ	30匹
アカトンボ型(幼齢幼虫、多分アキアカネ)のヤゴ	579匹
ユスリカの幼虫(アカムシ)	多数
コミズムシ	少数
アメンボの成虫	普通
フタバカゲロウの幼虫	多数
ミジンコ	多数

めずらしいヤンマ型のヤゴが捕獲できた。その他、多分小型ゲンゴロウの幼虫と思われるものも捕獲。

#### (8) 国立市立第八小学校

調査日時：5月30日(月) 午後2時～3時30分 天気：雨

調査者 水の懇談会：笠間・矢野・佐藤 環境保全課：三澤

プールの水は透明。ヘドロは粘りけがある感じで水と混じり合わない。他の学校とは違うヘドロだった。

#### 【結果】

アカトンボ型のヤゴ(幼齢幼虫)	79匹
コミズムシ	多数
ユスリカの幼虫(白)	多数
アメンボ(成虫は少なく幼生がほとんど)	200～300匹



(9)国立音楽大学付属小学校

調査日時：5月28日(土)午前9時～11時30分 天気：晴れ  
調査者 水の懇談会：皆川・笠間・佐藤・矢野 動物調査会：太田  
環境保全課：堀江・河野  
調査対象 ①屋上プール ②中庭の池 ③理科室前の水槽(戸外)

①屋上プール

水抜きがうまくいかず、流してしまったヤゴが多数いたが、下記のように捕獲できた。

【結果】

アキアカネのヤゴ	746匹
コミズムシ	多数
アメンボ	幼生、多数
カゲロウSP	幼生、多数

(マツモムシ 同定できないうちに紛れてしまった)

残った数から推測すると、ヤゴが2,000匹はいたと思われる。ヤゴは同定用を除き、次に報告する中庭の池に入れた。

②中庭の浅い池

昨年私たちの調査を見ていた先生が、1年生に授業で捕らせるということで、今回は種の確認をするために、少しだけ網を入れた。校舎建て替えに伴い今年でこの池は取り壊されるそうだ。

【結果】

シオカラトンボのヤゴ(終齢幼虫から2～3齢まで)	多数
アカトンボ型のヤゴ(幼齢幼虫)	

③理科室前の水槽

理科室前の白い花を咲かせたオオカナダモが繁茂した水槽も条件がよさそうなので調査した。

【結果】

シオカラトンボのヤゴ	26匹(もっといると思われる)
------------	-----------------

調査途中で先生がオオカナダモの花を観察のため飼育していると聞き、途中で中止した。捕ったヤゴは理科の先生に差し上げた。

平成 18 年度

(1)国立市立第一小学校

調査日時：5月19日（金）午後3時～5時 天気：曇り時々雨、時々晴

気温 22℃ 水温 21℃

調査者 水の懇談会：笠間・佐藤 環境保全課：長野

プールの水は濃緑色。昨年のような悪臭のある黄緑色ではなかった。昨年の悪臭の原因となったカルガモ対策として今年は水面に色とりどりのテープを張ったことが功を奏したようだ。

【結果】

アカトンボ型のヤゴ（幼齢幼虫）	242匹
コミズムシ	多数
アメンボの成虫	10匹
アメンボの幼虫	30匹
ヒメアメンボ	1匹
ユスリカの幼虫（アカムシ）	多数
ゲンゴロウの幼虫	16匹

(2)国立市立第二小学校

調査日時：5月22日（月）午後3時～5時 天候：晴時々曇り

気温 24℃ 水温 24℃

調査者 3年生3クラスと先生  
水の懇談会：笠間 佐藤 環境保全課：堀江

プールの水は濃緑色で透明。

【結果】

アキアカネのヤゴ（幼齢幼虫）	763匹
コミズムシ	多数
アメンボの成虫	少数
ユスリカの幼虫（アカムシ）	極多数
フタバカゲロウの幼虫	多数

(3)国立市立第三小学校

調査日時：5月24日（水）午前9時30分～10時20分 天気：曇りのち晴

気温 26℃ 水温 23.5℃

調査者 2年生3クラスと先生

水の懇談会：笠間、佐藤、矢野

環境保全課：河野

プールの水全体が濃緑色、ヘドロ臭があった。

【結果】

アキアカネのヤゴ（幼齢幼虫）	1149匹
イトトンボのヤゴ	少数
アメンボの成虫	少数
ユスリカの幼虫（アカムシ）	少数
コミズムシ	少数
フタバカゲロウの幼虫	少数
アブの幼虫	1匹
アズマヒキガエルの成体	1匹

(4)国立市立第四小学校

調査日時：5月17日（水）午前7時30分～9時

天気：曇り

気温 18℃ 水温 18.5℃

調査者 水の懇談会：笠間・矢野・佐藤

プールの水は緑色で、底には泥がない。

【結果】

アカトンボ型のヤゴ（幼齢幼虫）	42匹
イトトンボのヤゴ	80匹
ミズカマキリ	1匹
アメンボの成虫	少数
アメンボの幼虫	多数
ユスリカの幼虫（アカムシ）	多数
コミズムシ	多数
フタバカゲロウの幼虫	少数

調査人数と時間（次の八小の調査がせまっていた）の都合から全体の5分の1程度の調査結果と考えられる。

(5)国立市立第五小学校

調査日時：5月25日（木）午前8時50分～10時

天気 晴れ

気温 24℃ 水温 22.2℃

調査者 2年生3クラスと先生

水の懇談会：笠間・佐藤・丸本・矢野 環境保全課：堀江

プールの水は、緑色でかすかにヘドロ臭あり。マイテレビの取材を受けた。

【結果】

アカトンボ型のヤゴ（幼齢幼虫）	340匹
ユスリカの幼虫（アカムシ）	少数
コミズムシ	少数
アメンボの成虫	少数
フタバカゲロウの幼虫	少数

(6)国立市立第六小学校

調査日時：5月23日（火）午前8時30分～10時 天気：晴れ時々曇り

気温 24℃ 水温 24℃

調査者 3年生2クラスと先生

水の懇談会：笠間、佐藤 環境保全課：堀江

プールの水は茶色と緑の混ざった色。少し匂いもあり。秋から春の間に、プールの水が茶色になったのを見て先生が薬を入れたそうで、その影響と思われる。ヤゴが少なかった代わりにゲンゴロウの成虫と幼虫が見つかった。ニンギョウトビケラの幼虫が多かったことが目立った。

【結果】

アカトンボのヤゴ（幼齢）	31匹
ゲンゴロウの成虫	1匹
ゲンゴロウの幼虫	少数
ニンギョウトビケラの幼虫	多数
コミズムシ	多数
アメンボの成虫	20匹
アメンボの幼生	多数
モノアラガイ	少数

(7)国立市立第七小学校

調査日時：5月31日（水）午前9時10分～10時10分 天気：晴れ

気温 20℃ 水温 24℃

調査者 3年生2クラスと先生

プールの水は緑色。わずかに臭う。今年唯一大型のヤゴがたくさん獲れた。ハクセキレイが子ども連れでやってきて、餌(ヤゴ)を口移しでやっていた。

## 【結果】

アカトンボのヤゴ (終齢か終齢近くの幼虫)	2047匹
ゲンゴロウの幼虫	1匹
ユスリカの幼虫 (アカムシ)	多数
コミズムシ	少数
アメンボの成虫	少数
ミジンコ	多数

## (8)国立市立第八小学校

調査日時：5月17日(水)

①午前10時20分～11時20分 天気：薄曇り 気温21.5℃ 水温23℃

調査者 2年生2クラスと先生

水の懇談会：笠間・黒瀬・佐藤・矢野

②午後1時25分～2時25分 天気：雨

調査者 5年生2クラスと先生

水の懇談会：笠間・黒瀬・佐藤

午前と午後に2年生と5年生が実施した。2年生は生きものの命を考えるとという目的で、5年生は環境学習として自分たちの身近な学校プールにどんな生きものがいるのかを知り、環境を考えるとという目的の授業だった。プールの水は淡緑色。

## 【結果】(2年生と5年生の合計数)

アカトンボ型のヤゴ (幼齢幼虫)	9匹
イトトンボのヤゴ	多数
コミズムシ	少数
ユスリカの幼虫 (アカムシ)	極多数
アメンボの成虫	少数
アメンボの幼生	多数
マツモムシ	2匹
フタバカゲロウ幼虫	多数

### (9)小平市立第12小学校

調査日時：6月3日(土)午前10時45分～12時 天気：曇り

調査者 けやき学級の児童11人 先生3名 保護者10名

水の懇談会：笠間・佐藤・矢野

プールの周りに自然度のある学校だった。事前学習などが非常に細やかに進められていた。プールの水は緑色。底にたまったヘドロの色が黄緑で、匂いはない。プールをのぞくと、おたまじゃくしがあちこちを泳いでいた。おたまじゃくしは2種類で、黒くて小さなのと、大きくて金茶色のものがいた。これでは食べられてヤゴはいるのかとの思いは杞憂に終わり、大きめのヤゴがたくさんいた。ヤゴは、隣の中学のビオトープ班にも少し分けるそうだ。当日が公開授業の日に当たり、校長先生や教頭先生その他いろいろな方が見にこられた。

#### 【結果】

アカトンボ型のヤゴ	1056匹
コミズムシ	極少数
アメンボの成虫	極少数
ニンギョウトビゲラの幼虫	多数
ユスリカの幼虫(アカムシ)	少数
カゲロウの幼虫SP	多数
アズマヒキガエルのオタマジャクシ	極多数
アマガエルのオタマジャクシ	多数

#### 4. 調査のまとめ

平成17年度

プールにすむ生物として一番多く見られたのがヤゴで、アキアカネやコノシメトンボなどのアカトンボ系が多数確認されました。音大付属小学校では、シオカラトンボが見られました。特筆すべきは、七小と四小で、ヤンマ型のヤゴが見られたことです。本来プールのように何も無い広い水面に卵を産むのはアカトンボの仲間やシオカラトンボなどで、「打水産卵」といって空中を飛びながら、尾を水面に打ち付けて産卵します。それに対して全てのイトトンボとほとんどのヤンマの仲間は、「植物組織内産卵」といって水草など植物の茎の中などに産卵します。たぶんプールの中に舞い落ちた枯れ葉などに乗って、産卵したギンヤンマがいたのですが、これは珍しいことです。

また、環境の良さが市内随一である第一小学校で、カモのふんによる汚染のためヤゴが少なかったことは、皮肉な結果です。



平成 18 年度

ヤゴ救出作戦の意図（下水に流され死んでしまうヤゴを救いトンボに羽化させる）がようやく学校に理解されるようになり、今年の授業では、終わった後全部の学校がヤゴの飼育を申し出てくれました。教室で飼ったり飼育に自信のある児童は自宅で飼うことになりました。

18年度は、例年と比べ、ヤゴの大きさが7小以外はすべて小さく若齢でした。また、その他の生物であるアメンボやコミズムシなども数が少なく、これは、春遅くまで気温が低かったこと、プール清掃の日程がいつもより早かったために生育が遅れたと考えられます。

学校のプール、こんな身近なところにヤゴやその他の生物が育っているのを体験を通して知った児童にとって、生物とヒトとの共存を多少とも感じ取れた時間になったと思う。ヤゴを見つけた児童のうれしそうな表情を見ると、大人として、身近に存在する自然に興味を持つ機会をつくることの大切さを感じました。

飼育に関しては、飼育についてていねいに説明をした成果が徐々に現れていますが、今後、学級で飼育したヤゴが何匹羽化したかも聞き取り調査を行うことも考えています。また、学校や児童の家庭で飼えないヤゴについては、谷保緑地や市役所庭等の水場に放しましたが、生態系の観点から救出したヤゴをどう扱うか考えていきたいと思えます。

## 平成18年度学校プールの生き物調査風景

### 1小

水は、深い緑色をしていましたが、昨年のような黄緑色+悪臭ではありませんでした。カルガモ対策で今年は水面に色とりどりのテープを張ったようです。ヤゴのためかと感激いたしました。後で聞いた警備員さんの言によれば、「夜間に警報が鳴って、警察が来る騒ぎが頻繁だったため、鴨よけにテープを張った」と、いうことでした。

いずれにしても鳥の糞で汚れすぎた昨年に比べ、大幅に改善された1小プールです。

プールにはトンボのヤゴがたくさんいました。しかもそれがみんな小さい、ほんの3歳くらいの赤ちゃんばかりです。見つけるのは至難の業で、おまけに水の中には石ころがゴロゴロ入っていて、網で掬うと必ず石が同時に入ってきて、ヤゴを押しつぶします。多分見つけたのは全体の20分の1もないと思われま。

ここでの収穫は、元気のよい、動きも素早いゲンゴロウの幼虫が結構見つかったことでした。



水の懇談会メンバーによる調査



ゲンゴロウの幼虫

### 2小

今まで調査をした4小、8小は、どれも同じ大きさの極小タイプでしたが、ここのはちょっと大きい。ちゃんと「ヤゴだ!」と判る大きさのものがいます。4小、8小は、泥からはい出る力もない状況でしたが、今回は動いて出てきます。エライ。

最後に2小の副校長先生と話し、学校の子どもたち用にと、捕ったやごの大半を置いてきました。残りの一部は同定のために笠間さんが持ち帰り、一部のヤゴは明日の授業で「ヤゴ救出作戦」を行う予定の6小に預けてきました。これがヤゴだよという説明のためです。

いつまでも捕りたい気持ちでしたが、5時近くなり中止しました。

私たちだけとするのではなく、子どもたちと一緒に捕りたかったね。先生に来年はご一緒にと話してきました。学校も残念そうでした。



2小のヤゴたち



アメンボの成虫

### 3小

授業が始まり、「今年のプール清掃が早いので、ヤゴの成長が遅れています。きっとすごく小さいでしょうから、優しくそっと掴まえてね。動くものは全部掬って、このバケツに入れて下さい」などと話をするうちに、皆が早くプールに入りたいという顔をします。

プールに入ると子どもたちは次々網を入れます。

「先生これな〜に?」「すげえたくさんヤゴが捕れたよ!」

「ここにもいるよ」「早く捕ってよ。さわれないから」



3小の3年生の授業風景



この言葉で判るように、小さいですがヤゴは沢山いました。よかった！さわれなかった子どもたちも、平気になり、泥や葉っぱをかき分けて、見つけるのも上手になりました。

網もちょうと片づけて、みな「楽しかった」ととびきりの笑顔で教室に戻っていきました。

少し補足調査をしてから、数を数えると、今年最高の数でした。よく頑張ったね、3小の2年生たち。



#### 4小



水の懇談会メンバーの調査

少し水が深いので、少しずつ流しながら網を入れてみました。

おやおや？ヤゴが見当たりません。

昨年は大収穫で、ギンヤンマのヤゴの大きいのが一杯取れた場所です。いないね～。

ヤゴだけでなく、アメンボやコミズムシのような常連まで少ないようです。

それでも「あっ、小さいけどヤゴめっけ！」「ホント小さいのが捕れたよ」



4小のコミズムシ翅の下に空気をためて呼吸するのでフウセンムシと呼ばれる。

皆で網を入れながら話し合いました。たぶん、今年は遅くまで寒く、ヤゴの生育が遅れているところに、例年より1週間以上早い掃除という、悪条件が重なったためなのかもしれません。

#### 5小

この授業ではマイテレビさんの取材を受けました。カメラが回る中、救出作戦が始まりました。

最初に「ヤゴが少ないようなので、見つけた人はエライ！」と、がっかりしないようにあらかじめいっておいたのですが、あちこちで、

「ヤゴいたっ！」

「アメンボを手で捕まえた」

「俺なんか3匹も獲ったよ」

などと、大騒ぎです。



5小2年生の授業風景



マイテレビスタッフの木下さんと荒川さんもノッてヤゴを獲ってくださいました。調査に協力いただきまして、本当にありがとうございます。

今年はヤゴの成育が遅れているので、成虫になるまで育てるのはすごく難しそうなのですが、子どもたちが獲ったヤゴは、教室で飼ってくれることになりました。



## 6小

心配したようにあまりヤゴが見えません。  
秋から春の間に、プールの水が茶色になったのを見て先生が薬を入れたそう  
で、た・ぶ・ん、これも影響しているのかも？

その代わりに、ゲンゴロウの成虫が捕れました。  
網を入れると、入れ食い状態だったのはニンギョウトビゲラです。  
目をこらすと泥の中を元気に動き回っているのは、ヤゴでなく其奴でした。



ゲンゴロウの成虫



6小3年生の授業風景



## 7小

3年生の授業でしたが、手違いで履き物を用意できなかったためはだしでの調査になりました。  
でも、はだしもなんのその、子どもたちはどんどん入っていきます。

「いたっ、ヤゴだっ！」

この言葉を皮切りに、あちこちで「いるよいるよ」と大騒ぎ。  
一番最後の調査日だったせいか、日当たりがいいので早く卵から孵  
ったのか、終齢に近いような大きなのがいっぱいいます。

上がってから、みなに感想をいってもらいました。

「うまく捕まえる方法を発見したよ。ぐにゃぐにゃ曲がって歩くと、  
ヤゴは逃げられないんだよ」

「はじめ見ただけではないと思ったけど、入ったら一杯いた」

「ヤゴは怖いと思っていたけど、意外と可愛くて触れたよ」

「(プールは) 周りから見ると汚いけど、入ると気持ちよくて楽しかった」

「最初はヤゴって怖そうな感じがしたけれど、網ですくって見ると可愛かった」

「泳ぐのを見ていると、蛙みたいで面白かった」

「ヤゴだけでなくいろんな虫がいた」

「眼が可愛かった」

「家で飼いたいな～」などなど。

大型のヤゴが、それもたくさん獲れたのは今年初めてで、ハクセキレイが子ども連れでやってきて、餌(ヤゴ)を口移してやっていました。

獲ったものは同定のため一部を持ち帰り、残りは7小の子どもたちが分けて持ち帰ることになりました。



7小3年生の授業風景





## 8小

午前は2年生の授業でした。はじめは、汚いなんて言っていた子どもたちですが、アカムシ（ユスリカの幼虫）が沢山いて、網を掬うたびにウヨウヨという感じで手に付いても、子どもたちは「これな〜に」と言いながら、気持ち悪いと言わないのがエライ。少ないながらヤゴ（かなり幼生）とマツモムシが捕れました。



午後は5年生です。2年生は生きものの命を考えるという目的でしたが、5年生は環境学習で、自



8小2年生の授業風景

分たちの身近な学校プールにどんな生きものがあるのか、環境を考えるのがテーマです。

プールに入ると、2年生に負けずに捕りたいと、みんな大騒ぎ。捕れたものは教室で飼って、観察することになりました。それにしても今年はヤゴの生育には早すぎて、厳しい条件のようですね。

## 小平12小

昨年の多摩川探検隊に参加した大貫さんからの依頼で、小平12小学校のけやき学級公開授業に参加しました。事前学習などが非常に細やかに進められていて、子どもたちもヤゴがいるのかな？と興味を持って来ていました。



小平12小けやき学級の児童達の授業風景

さて、いよいよプールを見てみると、おや？国立の学校と少し様子が違います。のぞくと、あっ！大きなおたまじゃくしがあちこちを泳いでいます。これでヤゴはいるのかなと心配です。

水に入り、はじめ少し嫌がった子どもも慣れると上手に網を動かします。網で掬うと、ヤゴとおたまじゃくしがたくさん入ってきます。

おたまじゃくしは2種類、小さくて黒いのと、大きくて金茶色のとがいます。足が出掛かっているのや、すでに尻尾が取れたのも見つかりました。ヤゴは7小ほど大きくはないけれど、大きめです。やはり日数なのでしょうね。

最後に講評をした後、子どもたちに楽しかった？と先生が聞くと、みな元気に「楽しかった、また来年もしたい」と言ってくれました。先生や参観の保護者のお父さんの中にはすっかりヤゴ救出にはまってしまった人もいて、あるお父さんは、「これは楽しいねえ 今度息子と一緒に出かけよう」と、最後まで泥の中を探していました。

獲れたヤゴたちは、隣の中学のビオトープ班に少しおすそ分けをすることに話がついていて、一部学校で飼ったり、子どもが持ち帰ったり、学校の池に放したりしました。

国立では見かけなかったおたまじゃくしなどが見られ、有意義な調査でした。



最後に講評と感想を出し合う

学校プールの生き物調査

あなたも参加できるヤゴ救出作戦

1. 目的

秋から春の学校プールには、ヤゴをはじめさまざまな水生生物が生息します。近年めっきり減った生物と触れ合える「水辺空間」である学校プールの生き物調査を通して、子ども達が都市化された住環境の中で生物との共存を学ぶ貴重な環境体験学習を行う。

2. 方法

- ・プールに住み着いた生物（主にヤゴ）を救出する。
- ・どれだけのヤゴがプールにいたのか、数える。（できればタイプ別に数える）
- ・ヤゴを飼育・羽化させてトンボにする。

3. 事前の進め方

①日程については、学校のプール開き前のプール清掃日に合わせ、清掃日の前日か前々日に行います。

- ・事前にプールの水を抜き水位を15cm程度にまで下げておく。

②事前打ち合わせを行います。

- ・手順、準備などの確認をする。

③学級での事前準備について

- ・児童に目的や意義のお話を行ってください。
- ・家庭に持ち物、服装などについてのお手紙を出されるとよいでしょう。

服装……体操着など汚れてもよいもの。長靴や古い運動靴や古い上履き。着替え。

持ち物……魚を掬う網。持ち帰り用の容器（ふた付きペットボトルなど水がこぼれないようふたができるものならなんでも結構です）。

※生き物を掬う大きな網は、動物調査会で20本程度用意します。ただ各自が掬えるように児童にも持たせてください。

④授業時間は、2時間分の授業時間があるとよいでしょう。

⑤ハンドマイクの用意をお願いします。

4. その他、実施に当たって

調査の性質上、一校で一回しかできません。どの学年でも大丈夫ですが、一度に参加する人数が多すぎると、まとまりが難しく目が行き届きませんし、プールにも入りきれません。学年単位の参加が一番良いと思います。

当日は、当方で図鑑などを用意しますので、その場で子ども達と救出した生き物の観察をし、種の同定を行います。

また、生き物たちは学校の池や教室の水槽、あるいは、家庭で飼育してほしいと思います。飼育方法についてもくわしく説明いたします。楽しく授業を行い、救出したヤゴを学校や家庭で育てることで、継続的な環境教育ができることを期待いたします。



平成 19 年 4 月 6 日

国立市立小学校 校長様

国立市水の懇談会  
くにたち水の市民調査会  
NPO 国立市動物調査会

学校プールの生き物調査「ヤゴ救出作戦」実施についてお願い

日頃より、国立市の子どもたちのためにご尽力頂きまして誠にありがとうございます。

近年、「世界水フォーラム」の開催など水についての関心が世界的に深まっている中で、国立市は水循環基本計画の策定を予定しており、その準備のために国立市役所環境部は、市民に呼びかけて水の懇談会を立ち上げました。以来、水の懇談会では3年間にわたりさまざまな水に関する調査活動を行ってまいりました。未来を担う子どもたちの参加も重要と考え、「多摩川探検隊」や「湧き水探検隊」も企画し実行して参りました。特に学校プールの生き物調査「ヤゴ救出作戦」においては各学校のご協力をいただき、水環境の調査において大きな成果を挙げております。

また、このヤゴ救出作戦は、子ども達にとっては、身近な学校のプールで生き物観察を体験できるとともに、学校におかれましても校内で生きた環境教育を実践できるまたとない機会となります。使われない時期のプールは、汚い水のたまり場のようになりますが、いろいろな生き物が生息しています。一番多く見られるのは、トンボの幼虫ヤゴです。ヤゴの数は、学校によって異なりますし、生息しているヤゴの種類もアカトンボ系のヤゴが多い中、時には、ギンヤンマのヤゴが見つかったり、学校の周りの環境と大きな関係があることがわかります。生物や環境等の学びの場となることでしょう。

つきましては、今年もぜひとも多くの子どもたちの参加が可能になりますようみなさまのご協力をいただけると幸いです。ぜひ、授業の一環として取り入れてくださるようお願いいたします。

なお、プール清掃の日程が決まった折に、直接学校の方へお願いに伺いたいと思います。ご勘案のほどよろしくお願いいたします。

## 特別調査2 子ども達の湧き水調査「湧き水探検隊」

### 1. 目的

- (1) 国立市には東京都名湧水57選に指定された豊かな湧き水がある。湧き水とその周辺の自然環境は、多様な生物の生息する場であり、人々が生物や自然とふれあえる貴重な場である。しかし、ふれあう機会の少ない現代の子ども達にとって、湧き水や川の水は生活から遠い存在になっている。この調査を通して自然への関心や理解を高めていく。
- (2) 地下水が湧き出る様子を直接見ることで、水が循環することの一端を知り大きな水循環を考えるきっかけとする。
- (3) 自然への関心や理解を高まりを、水環境のみならず、自然環境の保全につなげる。

### 2. 調査方法

- (1) 湧き出し地点を探す。  
湧き出すところを見つけ、地図に落とし込む。地図に書くことで周辺の地形や環境を湧水と一体的に捉える。
  - (2) 生物調査  
水の中や周辺にすむ動物や植物を調査。生息する生物によって水の汚れ具合を知る。
  - (3) 化学的水質調査  
COD（化学的酸素要求量）とアンモニア性窒素のパックテストを行った。
  - (4) 流量調査  
測定しやすいママ下湧水にて、大きなビニール袋に30秒間水を受けて計測した。
  - (5) 学習会  
調査前に東京農工大学の小倉紀雄先生より、湧き水の仕組みを学習した。水質検査も子ども達全員で練習した。
- ※(2)(3)については谷保用水も調査を行い湧き水と用水を比較した。

### 3. 調査日、場所

- 平成16年 7月3日 事前説明会・学習会「湧き水のしくみ」  
7月24日 滝野川学園内矢川とママ下湧水  
8月7日 城山～南養寺～郷土文化館ハケ下～古民家前の用水  
8月21日 谷保天満宮～周辺民家  
12月26日 滝野川学園内矢川とママ下湧水

※調査時期を夏と冬に設定し、季節による比較を行った。

### 4. 調査者

市報の呼びかけに応じた市内小学生（18名）、保護者、水の懇談会、NPO国立市動物調査会

### 5. 調査結果

#### 第1回湧き水探検隊

実施日 7月24日（土） 天気：晴 気温：30.2℃

コース 滝乃川学園→下のママ下湧水→上のママ下湧水→滝乃川学園

参加者 小学生14名、保護者8名、水の懇談会他12名、事務局4名 計38名

## (1) ママ下湧水調査と結果

### ① 湧き出し地点調査

- ・滝乃川学園内の矢川に入り湧き出し地点の調査を行った。
- ・はっきり湧き出している場所は確認できなかったが、しみ出していることがわかる地点が数カ所確認できた。
- ・ママ下のハケ沿いでは、湧き出し地点を多数確認できた。

### ② 周囲の環境

崖線：雑木林、南側：水田と畑

### ③ 水質調査

水温：17.4℃ 水の色：無色  
川底の様子：小石 と泥  
COD：0～1mg/l  
アンモニア性窒素：0.16mg/l以下

### ④ 生物調査

植物 ナガエミクリ、ミクリ、セキショウ

動物 アブラハヤ、フナ、タモロコ、オイカワ、ドジョウ、アメリカザリガニ、シマアメンボ、アメンボ

ハグロトンボ

### ⑤ 湧水量調査

30秒で48ℓ (3班の内極端に違う1班の数値をカットした)



湧き出し地点調査



湧水にすむ生物の話



調査のまとめ

## 第2回湧き水探検隊

実施日 8月7日(土) 天気：晴 気温：31.9℃

コース 古民家→城山公園→ヤクルト北散策路→南養寺→郷土文化館下湧水→古民家南用水→古民家

参加者 小学生13名、保護者9名、水の懇談会他14名、事務局4名 計40名

### (1) 郷土文化館下湧き水調査と結果

#### ① 湧き出し地点調査

ヤクルト北側ハケ下、南養寺南、郷土文化館ハケ下付近に数箇所確認した。

#### ② 周囲の環境

雑木林、畑・水田



### ③水質調査

水温：19.5℃ 水の色：無色

川底の様子：小石が多い、水草が多い

COD：測定値がバラつき平均値が出せない

アンモニア性窒素：0.16mg/l以下

### ④生物調査

植物 ミクリ コウガイモ ホザキノフサモ(キノコ) オランダガラシ

(周辺) セキショウ キツネノカミソリ

動物 タモロコ オイカワ ドジョウ アメリカザリガニ シマアメンボ アメンボ マシジミ ニシキゴイ

(周辺) アオスジアゲハ イチモンジセセリ シオカラトンボ オオシオカラ ハグロトンボ ミヤマアカネ オニヤンマ オンブバッタ



郷土文化館下で湧水と用水の水質調査



郷土文化館下で生物のお話

## (2) 古民家南の谷保用水調査と結果

### ①周囲の環境

畑・水田

### ②水質調査

水温：27℃ 水の色：無色 川底の様子：小石が多い

COD：7.5mg/l

アンモニア性窒素：0.346mg/l

### ③生物調査

動物 アブラハヤ フナ タモロコ モノアラガイ オイカワ ドジョウ アメリカザリガニ ヨコエビ アメンボ シオカラトンボのヤゴ トビゲラ幼虫 カワニナケラ



谷保用水にすむ生物の話



谷保用水の生物調査

## 第3回湧き水探検隊

実施日 8月24日(土) 天気：くもり 気温：27.4℃



コース 谷保天満宮集合→長島邸→谷保天満宮（常盤の清水他）→泰楽邸→坂下集会所

講師 小倉紀雄東京農工大学名誉教授

参加者 小学生16名、保護者13名、水の懇談会他12名、事務局4名 計45名

### (1) 谷保天満宮北民家(長島さん)の湧水、調査と結果

#### ① 湧き出し地点の観察

甲州街道をはさんで谷保天満宮向かいの長島さん宅の裏手のハケと湧水を観察した。裏手が立川崖線で地層がはっきり見えた。水が湧き出している様子がわずかに見られた。

#### ② 聞き取り調査

長島さんの話

湧き水などの話を伺った。昔はこの辺りの甲州街道が今より低く、豊富な湧き水が出ていた。この水を利用した清水の茶屋と呼ばれた茶店があり、行き交う人の休憩場所だったそうだ。



長島さんからお話を伺う

### (2) 谷保天満宮常盤の清水、調査と結果

#### ① 聞き取り調査

谷保天満宮宮司 津戸さんの話

- ・常盤の清水は 昔ある僧がこの泉をみて「とこととはに湧ける泉のいやさやに 神の宮居の 瑞垣となせり」と詠んだことから『常盤の清水』とよばれるようになったという。
- ・昔は蛍がたくさん飛び交っていた。
- ・菅公千年式年大祭（明治35年）のときに湧き水地点(境内の石段下)をボーリングをしたところ、今の岩の高さ（高さ2mほど）まで水が吹き上がったそうだ。現在は、地下水をくみ上げて、滝として利用されている。
- ・境内にある弁天池の水は湧き水と地下水だそうだ。



宮司の津戸さんからお話を伺う

#### ② 水質調査

周囲の環境：雑木林

COD：0～8mg/l

アンモニア性窒素：0.16～0.4mg/l以下

#### ③ 生物調査

湧水地点：なし

※参考として弁天池と境内のハケ下にある水路の調査を行った。

弁天池 コイ、キンギョ、メダカ、ミシシッピーアカミミガメ、イシガメ、メカクサガメ

ハケ下水路 アメンボ、アメリカザリガニ

種類が少なかったのは、境内という立地から地面に砂利が限無く敷かれ草のない環境のためと考えられる。



常盤の清水で水質検査



### (3)天満宮付近の民家（泰楽さん）の水路と湧水の湧き出し口の観察と結果

#### ①観察と結果

庭を横切る1m幅の水路には水が無かった。案内されたハケにある湧き出し口も湿り気がなく湧いていなかった。

#### ②聞き取り調査

##### 泰楽さんの話

昨年まで冬は枯れても夏は湧き出し、今年のように夏に水がないのは初めてのことだそうだ。昔は、水路の幅が2mはあり蕩々と流れていた。湧水を利用して釣り堀を営んでいたこともあったが、富士見台団地ができたころ昭和30年代から湧き出す水が少なくなってきたそうだ。

#### (4)坂下集会所にてまとめと小倉先生のお話し

「人々の暮らしと湧き水」について、小倉先生から話を伺った。「湧き水はなぜ枯れるのか」という子どもの質問に、地下水自体も少なくなっているかもしれないし、大きな建物を作るときに地下の水脈を切ってしまうたりが考えられるとのことだった。



民家の庭を横切る水路（初めての水の無い夏だそうだ） 小倉先生のお話し

### 第4回湧き水探検隊

実施日：12月26日（日）、天気：晴、気温：12℃

コース：滝乃川学園→下のママ下湧水→上のママ下湧水

参加者：小学生11名、保護者8名、水の懇談会・動物調査会13名、事務局4名 計36名

#### (1)ママ下湧水調査と結果

##### ①湧水量調査（3.3.15道路の下の湧水点）

毎分144ℓ

##### ②水質調査

COD：0～2mg/l

アンモニア性窒素：0.16mg/l以下

##### ③生物調査

植物 ミクリ、セキショウ、クレソン

動物 アブラハヤ、フナ、ドジョウ、アメリカザリガニ、ヨコエビ、シマアメンボ、アメンボ、カワニナ  
ハラビロカマキリ（卵）



生物調査



#### ④ママ下湧水最西端地点の観察

くにたち苑の真北にあるが、湧水量は少なかった。

(2) 生物調査のまとめ

(3) 湧き水の仕組みの話

(4) 利き水（水の試飲）



利き水に挑戦！

用意した国立の水道水、錦糸町の水道水、市販天然水を飲み、どれが何かを当てる利き水を行った。

結果は、全問正解がたった3名だった。天然水よりも水道水の方が口になじんでいるせいかわかると感じる人が多く、結果として国立の水道水を天然水と答えた人が多かった。

#### ※参考pH調査

国立の水道水 8.3、錦糸町の水道水 7.0、天然水 6.7

#### 6. 調査のまとめ

市報の呼びかけに応じた市内に住む小学校1年生から4年生までの18名による湧き水探検隊は、猛暑の夏と厳寒の冬の活動だったが、出席率が高く子ども達の関心の高さがうかがえた。

水質調査と生物調査では、用水と比較して湧き水がとてもきれいなことがわかった。水質調査では数値にバラツキがあり正確な結果とはいえないが、おおよその結果を見てもきれいなことがわかった。

湧水量調査では30秒間に48%、水道水でお風呂に水を入れる早さと比較して水道水より多い湧水量に驚かされた。

古民家前の用水では子ども達が網を手に生き物を捕獲し名前を確認した。このときの子ども達は一番生き生きとして楽しい調査となった。用水に放たれたコイを材料に、外来種の生物が与える本来生息している種への影響についても考えた。

地図に湧き水地点を落とし込む作業は、年齢的に難しい子どもも多くいたが、地図に書くことで周辺の地形や環境を湧水と一体的に捉えた子どももいた。湧き出しかたをたくさん見つけたことで、子ども達は国立市の豊かな水環境を実感できたと思う。

## 特別調査 3 親子で川の調査と遊びの体験「多摩川探検隊」

### 1. 目的

国立の歴史をたどるときに多摩川の存在は大きい。地形的には古多摩川の名残の河岸段丘が3つ、武蔵野段丘面、立川段丘面、青柳段丘面と現在の多摩川沖積地まで続き、国立市の南、日野市との境に多摩川は位置する。

河口からは約40キロメートルの距離にあり、昔は交通の要であった。漁業も盛んで、鮎漁や鵜飼なども行われていた。多摩川は日常の暮らし、仕事、子どもたちの遊びの場であった。子どもは学校から帰ると魚釣りや水遊びに夢中で、自然との付き合い方もその中で身につけることが出来た。それが近年は川の水も少なく汚染され漁業が成り立たなくなり、いつしか生活の中で川に親しむ機会を失ってきた。

水の懇談会の調査活動が進むにつれ、多摩川をもっと身近なものにするために、特別調査として取り上げることを決めた。親子で参加としたのは、今の子どもたちの親の世代もすでに自然との付き合い方の未経験者が多いことから、単なるイベントで終わらせないために親子で体験することにより、「探検隊」終了後も引き続き川との付き合いを継続できるように考えた。

### 2. 調査体験の方法

- (1) 川に入って昔の方法で魚とりの体験をする。投網、あんま釣り、「ど」の仕掛けなど→多摩川漁業組合国立支部の協力
- (2) 川の仕組み、水質、生き物調べなどを体験  
NPO多摩川環境研究会の協力

### 3. 調査日

2005 (平成17) 年度	7月16日 (土)	第1回多摩川探検隊
	8月21日 (日)	第2回多摩川探検隊
2006 (平成18) 年度	8月6日 (日)	第1回多摩川探検隊
	8月20日 (日)	第2回多摩川探検隊

### 4. 調査者

市報の呼びかけに応じた小学3年生以上の親子、初年度11組、次年度13組、保護者も兄弟等も複数の参加、水の懇談会、多摩川漁業組合国立支部、NPO多摩川環境研究会、NPO国立市動物調査会

### 5. 調査結果

以下の報告を参照のこと

2005（平成17）年度 多摩川探検隊実施報告  
探検隊の説明会 7月16日（土）

先週の土曜日16日、参加者への説明会を開きました。  
子ども隊員11名に、保護者や兄弟なども一緒に、部屋は一杯です。  
水こんメンバーは9名参加でした。  
全体説明のあと、ペットボトルで「ど」を作り始めました。指導は三澤先生。  
その後作った「箱めがね」は河野先生です。  
指導が良いのか、子どもたちが上手なのか、ひとりも失敗せず、  
良い感じに全員出来上がりました。  
付き添いのお父さんなども一生懸命にサポートしていました。  
子どもたちは2班に分け、1班の班長は矢野さん、副班長は笠間さん、  
2班の班長は皆川さん、副は澤田さんです。

また、本日19日には多摩川の下見をしました。  
講師の島村漁業組合長さんを先頭に、多摩川に入りました。  
魚影が見えないという不安な情報を聞いていたのですが、  
おやおや？小さな魚たちが群れをなして泳ぐ様子がよく見えます。  
浅瀬を登ってくる魚の動きもあちこちに見えます。  
下水処理水の投入口などには、もっと大きい魚たちも。  
これで当日の心配がひとつ消えました。嬉しいことです。

次の日曜日、7月24日が本番です。  
人手はいくらでもほしいところです。  
深みにはまらないように監視をする人、テントの救護班、  
子どもの手伝いをする人などです。  
当日は暑くなると思うので、まめに子どもの様子を見る必要もあります。  
時間の都合の付く方は、ぜひご参加下さい。  
投網の体験をしたい方はぜひこの機会にどうぞ。  
なお、2回目の探検隊は8月21日（日）の予定です。

第1回多摩川探検隊「多摩川で遊ぶ」－投網に挑戦しよう－  
2005（平成17）年 7月24日  
多摩川で初めての投網体験

朝、9時前から子どもたちが続々集合。  
今日の講師は多摩川漁業組合国立支部長の島村さん+組合員のみなさんです。  
最初に「ど」を掛けました。自分たちで作った作品です。  
餌を練り団子に丸めて「ど」に入れ、重しにする石を入れて沈めます。  
においの強い（何とニンニク入り！）餌をこねるのも、  
みな嫌がらず自分の団子を作りました。

次にあんま釣りのために、針にアカムシを付けました。  
餌を付けたことのない子どもたちが多く、  
ゲエッ 血が付いた！（赤い体液が入りに刺すと出ます）などと大騒ぎ。  
その後、2班に分かれて川の中流へ。  
ちょっと深くなると大人でも足を取られそうです。  
はじめ怖がって大人の人に掴まっていた子どもが、  
魚を1匹釣り上げたあとは、さあ夢中です。  
時間が過ぎるまで、竿を動かしています。子どもたちは全部で3匹ゲット。  
このあたりから活躍始めたのは、お父さんです。  
写真を撮っていたはずが、いつの間にか子どもの竿を取って動かしています。

何度も合図の笛を吹き、やっと川から上げて、次に投網体験です。  
その後、川に入って実際に投網を打ちました。  
小さな魚が群れてそこら中に泳いでいますが、  
網の目が大きいのか、なかなか捕れません。  
でも子どもたちはどんどん上手になっていきました。  
あ！

子どもの投げた網に、結構良い形の魚が2匹捕れました。  
大人たち、特にお父さんを中心に深いところで投網をしています。  
手で魚を捕まえたお母さんもいました。すごいね。  
締めくくりには水こんの皆川さんが網を打ち、  
ごっそりとオイカワやモツゴ、タモロコなどを捉えました。  
「ど」を川からあげて見ると、魚が入っていました。やったね！  
島村さん、皆川さんの解説で魚の種類などをみんなで聞きました。  
組合の佐伯さんが捕った鮎をお土産に今日の探検は終わりです。  
島村さんをはじめみなさん、本当にお世話になりました。

第2回多摩川探検隊「多摩川を学ぶ」ー川の歴史と生き物調べー  
2005（平成17）年 8月21日（日）  
笑顔が何よりの収穫

朝、南市民プラザにはぞくぞく探検隊の子どもが集まります。  
今日の講師はNPO多摩川環境研究会の島村代表をはじめみなさんです。  
さあ、いよいよ出発。多摩川まではほんの4～5分ですよ。  
今日は朝からカンカン照りです。  
それでも川を渡って中州に着いた頃には、親切な雲が太陽を隠してくれました。  
石の話に続いて石投げをしました。  
どなたでも1度はやったことのある石の水切りです。  
できるだけ平らな面の石を捜し、川に投げてみます。  
子どもたちはずいぶん健闘して、いくつか水面をはねていく子もいます。  
多摩川環境研究会の高橋さんは、川の話を図に書いて説明してくれました。  
そのうち辛抱のキレた太陽が顔をだし、じりじり焼け始めたので川に入ります。  
さあお待ちかねのあんま釣りです。  
餌は白さし。これってな～に？  
親切な吉田さんが「ハエの子どもで、いわゆるウジ虫だよ」と教えますが、  
早く釣りたい子どもたちはムクムクした虫をつかんで針に刺します。  
えらいぞ！  
前回、流れの急なところに行くのにおびえていた子も、  
どんどん入っていきます。もちろん大人が周りを固めて注意をしています。  
4匹釣った子がチャンピオン。初めて釣った子もいて喜んでいました。  
今回は魚も育っていて、形が大きかったようです。  
水こんメンバーの山本さんが、川の生き物観察をやりました。  
これは面白くて、全員石を拾ってはひっくり返して裏を見えています。  
水質検査はアンモニア性窒素と、CODです。指導は桑原さん。  
ママ下湧水と、国立市の水道と、多摩川の水を調べました。  
CODははっきり目に見える形で差が出ました。やはり湧き水はきれいだね。

川に入って箱メガネを使ったりしたあと、南プラザに引き上げました。  
参加した子どもも親も、すっかり多摩川に慣れて遊びが板に付いた様子でした。  
おかげでだれも川でころばなくなりました。  
それぞれ2回の講師を務めてくれたのは、釣具店の島村さんご兄弟です。  
島村漁業組合長さんは今回も子どもと遊んでくれました。  
多くの方の力で、楽しい企画を無事終えることが出来ました。  
本当にありがとうございました。

2006（平成18）年度 多摩川探検隊実施報告

2006（平成18）年7月29日

探検隊の説明会

本日9時より、多摩川探検隊の説明会＋工作の時間を開催しました。  
今年の申込者は13組で、数人のお休みがありましたが、  
参加した方は熱心に説明や工作に取り組みました。  
水の懇談会からは6名の出席で、事務局は堀江係長、河野、長野で準備作業。

最初に全体説明をしたあと、「ど」と釣竿をつくりましたが、  
このあたりは長野さんと丸本さんが大活躍。  
小泉さんも予備の「ど」と、釣竿を作ってくれました。  
説明の中で子どもや保護者が興味を示したのは、マスを焼いて食べる部分です。  
幾人かの子どもたちは、  
ぜひ自分で魚のわたをだすのもやりたいと、興味しんしんです。  
やったことがあるという”つわもの”もいました。

300円出せば魚とスイカにありつける、と説明したら、  
出席の人は全員、自分や兄弟の分も申し込みました。この後説明会不参加の方々  
から申込みがあるでしょうから、今後増える予定です。

次回は8月6日（日）午前8時45分～南市民プラザ集合です。



第1回多摩川探検隊「多摩川を体験」一川のしくみや生き物調べ

2006年8月6日(日)

暑い中をみんな頑張った

いや～暑い暑い!

日陰で43度(河原の照り返しのため)という、かなり過激な体験でした。

それでもけなげに10組の親子が参加してくれました。

本日の講師であるNPO多摩川環境研究会からは、島村代表、高橋さん、高貝さん、芦田さんが講師として参加です。

水こんの山本さんも専門の水生生物調査を受け持ってくれました。

水が多くて「ど」を仕掛ける場所が難しく、

右往左往した挙句に、島村幸夫さん(次回の講師)が子どもたちを連れて、ちょうどよさそうな深みを探して遠出しました。石で押さえてやっと出来上がり。

でも浅瀬のごろた石を滑りながら延々歩き、

その時点で大人たちを中心として最早バテ気味です。

その後、河原の石の話や水質検査(ママ下湧水と水道水、それに多摩川の水)

をし、気を取り直して、やっと川に入り、あんま釣りの始まり始まり。

ここでも島村幸夫さんが昔のガキ大将ぶりを発揮し、

先頭に立って子どもたちを引き連れてくれます。

さすが探検隊に参加する子どもたちです。

餌はしろさし(ハエの子ども=うじ)ですが、嫌がらずににちゃんと持てます。

えらいぞ! 隊員たち! でも水の流れは無常です。

そこに見えている魚がかかってくれません。

もうだめかな、と言うときに、小川君がオイカワを見事ゲット。

しかもこれが大きくて形がいいのです。すごいね。

時間切れで中州に上がり、山本さんから川に住む生き物の話をしてもらいました。川虫を良く知っている子もいて、熱心に石の裏を見ています。

高橋さんから多摩川クイズなど、多摩川全体の話をお聞きました。

疲れているはずなのに、良く集中して聞いています。

最後に魚の種類を調べました。

「ど」には残念ながら魚が入っていませんでしたが、

助っ人の太田さんと頼もしい皆川さんが、網で少し魚を掬ってくれましたので、みなで名前を調べました。

オイカワ、タモロコ、モツゴ、コイ、ジュズカケハゼ、ナマズ、スジエビなど、全部で15匹の収穫でした。

第2回多摩川探検隊「多摩川で遊ぶ」一投網を体験してみようー  
2006（平成18）年8月20日（日）

投網と虹鱒とスイカ割り

参加者11組の子どもと保護者

水こん8名+助っ人3名 事務局4名

講師 島村幸夫・多摩川漁協国立支部のみなさん

朝8時に島村釣具店の裏庭に着き、子どもたちが来る前に魚の準備が必要なので、マスの掴み取り用の大きな池を、ブロックとビニールシートで作ります。島村幸夫さんがシャベルで穴を掘ってくれたところに、炭を入れ火起こしです。臨時のプールに魚を放し、いよいよ掴み取りです。

虹鱒はぬるぬるして掴みにくいので、時間がかかるよといった事前予想に反し、あっという間に捕まえる子もいて、次々にバケツに魚が入りました。

ハラワタを出すのは難しいかな？とも予想していたのですが、これが驚き。どの子も嫌がらず、バタバタする魚を押さえ頭をこつとやっておとなしくさせ、えらを取り指を突っ込んでワタを出します。

魚屋さん志望？という上田君は次々に10匹くらいを捌いてくれます。

すごい！

小さい子もほとんど全員がくしに刺すところまでやって、焼き上がりを楽しみに川に向かいます。かんかに熾った炭の周りに魚の串を刺しました。

しかし魚が串からずり落ちて、砂まみれが続出するハプニング。

一方、川に向かった子どもたちは早速投網の練習です。

3つの班に分かれてそれぞれ先生が指導します。浅瀬から少し水の深い堰の傍まで移動し、そこでも投網をやりました。

草地が水に水没したあたりには、結構魚がたくさんいて、

探検隊初日の8月6日に比べ、形が大きく数も多くなっているのがわかります。

あれっ？大貫君が「なにかくすぐったい」といって靴を脱いで見ると、そこに小さな魚が入っています。可愛いね。

お父さんが手で魚を掬って見せました。これはすごい。

組合のおじさんが投網を打ったら、おやおや大きな魚がかかりました。

40センチは超えているような大きなニゴイです。

さすが！

その前に皆川さんが子どもたちに獲れた魚の説明をしたとき、

コイに似た魚で少しスマートなのよ、とニゴイの説明をしましたが、

この大きいのを見ると違いがよくわかります。

子どもたちが川の中に生簀を作り、そこから本流まで水路を掘ったのですが、

この大物は最後にここに入れて、水路を通過して泳いで行きました。

全員で拍手でお見送りです。

そのあと少しだけあんま釣りをしました。

結局獲れたのは、

オイカワ、コイ、ニゴイ、ギンブナ、ジュズカケハゼ、モツゴの6種12個体  
でした。

腰まで水に入って投網を打つひと、

川に全身浸かって泳ぐ？ひと、

生簀作りや川虫取りに熱心なひと、

それぞれのやり方で、多摩川を満喫しました。

12時に川から戻り、焼きあがった魚をたべました。

みなのお食べ方の早いこと！美味しい美味しいと、頭から丸かじりの子もいます。

大人にも大好評で、苦勞の甲斐がありました。

おまけの西瓜割りも楽しく、子どもたちがみんなで声を掛け合っています。

お腹一杯になるまで西瓜も食べました。

緑の景色や、多摩川を渡る川風の中で、子どもも大人も楽しい一日でした。

島村幸夫さんには最後まで本当にお世話になりました。

漁業組合の皆さん、ありがとうございます。またこれからもよろしくお願  
いします。

「また来年もあるの？」と、何人もの人に聞かれました。

子どもの目の輝きが何よりの収穫で、無事終了したことをここに報告いたしま  
す。

# 今年もやるぞ！ 多摩川探検隊

小学校3年生～  
6年生のみなさん  
20名募集！



## 多摩川で 投網(とめみ)を 体験しよう！

水の懇談会では、今年も「多摩川探検隊」に参加する小学生の皆さんを募集します。多摩川漁協の皆さんやNPOなどの協力によって、昨年子ども達にも、保護者にも大好評だった投網やあんま釣りはじめ、河原の石調べ、生き物調査など楽しさ盛りだくさんの多摩川探検隊を行います。皆さんも参加して「多摩川」と友だちになりましょう。

7月29日(土) 説明会、魚を捕る道具作り

8月6日(日) 第1回多摩川探検隊「多摩川を体験」川のしくみや生き物調べ 魚釣りにも挑戦！

8月20日(日) 第2回多摩川探検隊「多摩川で遊ぶ」投網を体験しよう！

※詳しくは、裏面のスケジュール表で確認してください。

募集 小学3年生～6年生 先着20名(保護者同伴) ※原則として、説明会を含め全日程参加できる方

費用 500円(保険料を含む)

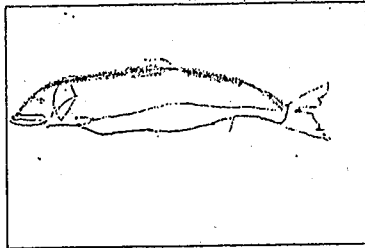
申込 7月20(木)～26日(水)(土・日曜日を除く)の午前8時30分～午後5時に、電話で申し込みください。

申込・問い合わせ先 国立市水の懇談会事務局：国立市役所環境保全課環境管理係 576-2111内線135

主催：国立市環境保全課 国立市水の懇談会 くにたち水の市民調査会

協力：多摩川漁業協同組合国立支部 NPO多摩川環境研究会

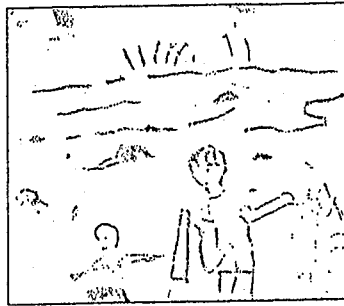
# 多摩川探検隊は おもしろい!



国立第7小学校3年 Y.A.  
とあみを投げるのがおもしろ

ろかったです。  
多摩川の魚がいっぱいたのに1ぴきもとれなかったのがざんねんです。

**昨年参加した皆さんの絵日記の一部を紹介します。楽しさが伝わってきます。**



国立第7小学校6年 H.K.  
第1回の今日は、まず魚のエサをねり、「ど」の中に入れ水の中にしかけました。そしてイトミミズをエサにして、あんまづりをしたり、投あみの体験をしました。魚はとれなかったけれど、川の中は楽しかったです。



国立第2小学校3年 K.O.  
2日目に水きりをやりました。ぼくは、2回しかとばなかったけれど、石をえらぶのが楽しかったです。石は丸くてひらたく自分の手にあった物がよかったです。その後何度もれんしゅうして、3回はねさせることができました。  
もっともっと多摩川であそびたいなあ!

国立学園小学校4年 K.F.  
ぼくは、1回しか参加できなかったけれど、あんま釣りと投あみができてとても楽しかったです。あんま釣りで魚がつれそうになったけれど、釣りざおを早く引っぱったので、魚がにげてしまいました。とてもくやしいのでこつをつかみたいです。

国立市の湧き水、井戸、用水などさまざまな水についての調査を行っている国立市水の懇談会では、身近に流れる多摩川にもっと親しんでもらおうと「多摩川探検隊」を昨年に引き続き企画しました。昨年参加された皆さんのキラキラした笑顔も、今年はぜひ自分のものにしてみませんか。

手作りの「ど」を仕掛けたり、多摩川漁協の皆さんに手取り足取り教えていただいて投網に挑戦したり、あんま釣りをしたり、大きな川ならではの楽しい遊びを体験します。NPOの皆さんからは、川のお話を聞いたり、生き物調べもします。この夏休みに、多摩川と友達になってくださいな。

## 多摩川探検隊スケジュール

	日時	集合場所	内容
説明会	7月29日(土) 午前9時~11時	国立市役所 3階第1, 2会議室	多摩川探検隊の説明。 ペットボトルで「ど」作り。 釣りの道具作り。
第1回	8月6日(日) 午前9時~正午 雨天時は8月27日(日)に順延	南市民プラザ	<b>多摩川を体験</b> —魚釣りと川のしくみや生き物調べ— 講師 NPO多摩川環境研究会の皆さん
第2回	8月20日(日) 午前9時~正午 雨天時は8月27日(日)に順延	清化園跡地入口	<b>多摩川で遊ぶ</b> —投網を体験しよう— 講師 多摩川漁業協同組合国立支部の皆さん





鮎ってこんな匂いをするんだね

多摩川探検隊  
—多摩川で投網を体験しよう—

2005年7月24日(日)



いよいよ川に入ります



あんま釣りに挑戦!



漁業組合のおじさんに投網を教わる



う〜んなかなか釣れない



島村さんのお手本にみんな真剣



あれ?開かないよ



やった!大成功!



魚って手でも獲れるよ



## 今年もやるぞ 多摩川探検隊

平成 18 年 8 月 6 日 (日)  
多摩川を体験—川の仕組みや生き物調べ—



種類と数を調べよう

平成 18 年 8 月 20 日 (日)  
多摩川で遊ぶ—投網を体験しよう—



いよいよ川に入ってあんま釣りのスタート



炭焼きにしたマスはすごく美味しい!



大好評! お代わりが欲しいな



この魚の名前は? いっぱい覚えたね



どんな魚が獲れたかな?



マスのつかみ取りはみんな上手



開いたよ! 投網も上手



スイカ割り、さて結果は?



## その他の活動





## その他の活動「環境フェスタくにたち」に参加

国立市で毎年行われている環境イベント「環境フェスタくにたち」に、平成 16 年より市民の皆さんに水の懇談会の活動を紹介し、水への関心を深めてもらおうと参加しました。

平成 18 年の参加の様子を報告します。

**展 示** 水懇 3 つのワーキンググループ活動である湧き水や用水、井戸、水と生活との関わりについての調査レポート報告のほか、水の実験、雨水利用装置の展示、水クイズ、小学生が参加した多摩川探検隊と市内全小学校で行った学校プールの生き物調査「ヤゴ救出作戦」レポートなど「水」をテーマにした展示を行いました。

活動報告の前では立ち止まって読む人も思いの外多く、井戸や湧き水、多摩川などの質問もされました。水の懇談会の説明もしましたが、水に関心のある人はたくさんいるようです。



雨タン1号  
(市役所東側自転車駐輪場)

### ■雨水利用装置の展示

水資源を大切にするために、雨水が利用できないかな…。

雨水を利用したら、水道代が節約できるのに…。

雨水貯留装置は値段がちよっと高すぎる…。

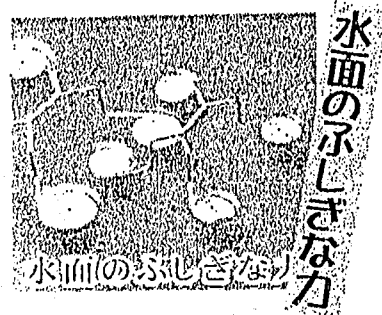
と、思いなかなか実現できないでいる人に紹介しようと、水の懇談会発案の雨水利用装置「雨タン」を展示し、説明しました。設置の申し込みも受けました。





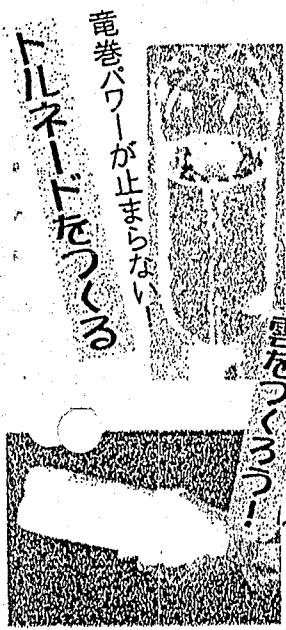






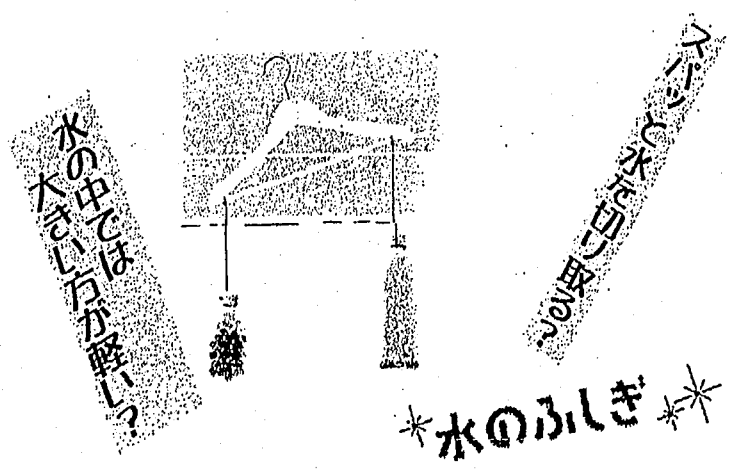
水面のふしぎな力

水面のふしぎな力



竜巻パワーが止まらない  
「ルネット」をつくる

雲をつくる



水中では「水」が動く？

「水」が動く？

\*水のふしぎ\*



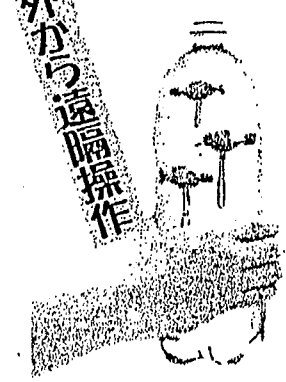
「水」の中の噴水

# 水！

## おもしろ実験室

第7回環境フェスタくにたち 国立市水の懇談会

水の外から「水」を操作



水のマジック！  
「水」が動く！

### \*水のしるし\*

水の不思議な性質を使った実験をします。  
家にあるものを使ってできる簡単な実験ばかり。  
あなたの手で実際に実験することもできます。  
水の実際にはチャレンジしてみま

雨水を集める  
「水」の展示

雨水利用が  
あなたにもできる！

### 水の汚れはどこで消えるの？

東京農工大の  
小倉博士が登場！

簡易ろか装置で水がきれいになる仕組みを種明かしします。  
利き酒ならぬ利き水もやります。どこの水か、はたしてわかるでしょうか。硬水・軟水調べも…。お楽しみに！  
(12:30と13:30の2回)

水クイズもあります。正解すると賞品がもらえるよ。挑戦してね！

とっても身近な水のこと、みなさんはどのくらい知っているでしょうか？  
水のふしぎな性質はもちろん、湧き水や用水、井戸、水と人の生活との関わりなど「水」をテーマにした展示や実験を行います。紙でできた魚釣りもできます。

水のことを知りたいという方は、ぜひ「水の懇談会」のブースにきてね！

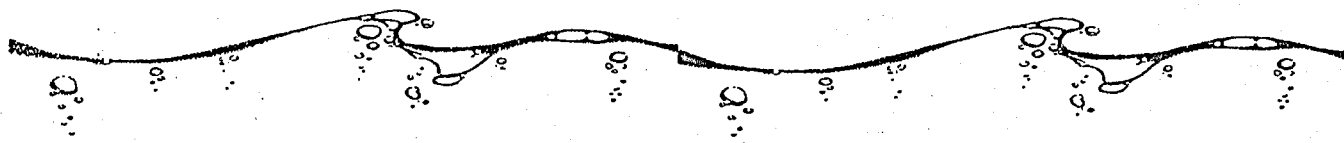
休憩コーナー  
富士山の水で入れたお茶と和菓子を  
用意します。  
セットで100円

と き:10月1日(土)午前10時~3時  
ばしょ:国立市谷保第4公園(環境フェスタくにたち会場)

国立市水の懇談会

国立市 環境フェスタくにたち実行委員会  
問い合わせ:国立市役所ごみ減量課 576-2111 内線141-123

# 水の懇談会の活動を紹介します



ここ数年異常気象が目につき、その気象に伴う洪水や渇水が世界各地でニュースになります。先日の豪雨では東京都でも床上浸水の被害が出て、改めて水の存在を認識させられました。

日本はかつては瑞穂の国といわれるほど、稲作を中心とした豊かな農耕の国であり、水と稲作がおりなす文化は日本人の心のよりどころでした。水と人とのかかわりが蛇口を通してだけとなった今、私たちは、水が持つ優れた価値も怖さも知りません。

そんな社会を背景に、今、国立市は貴重な水資源に配慮し良好な水循環を形成するための「水循環基本計画」の策定にむけて、市民による、「水の懇談会」をつくりました。井戸や湧水、昔の暮らし聞き取りといったテーマごとにワーキンググループを設け、様々な調査を行っています。特に、子どもたちには水環境の大切さを体験してもらおうと、市内の小学校の「プールの生き物調査」、「湧き水探検隊」「多摩川探検隊」も行っています。

## 湧水・用水の環境調べのグループ

くにたちには3本の崖線（ハケ）があり、崖下から湧き出す湧水をいまでも見ることが出来ます。また多摩川に近いハケ下には、田んぼに水を引く農業用水の水路が数多く残っています。そこで、動植物にとって貴重な水辺空間の環境調べをしてみました。水質、動植物の生息などの調査です。

## 井戸調査のグループ

くにたちの水道には今でも半分以上地下水が入り、都内に比べても美味しい水です。現在市内には111本の井戸が確認されていますが、これらはみな個人の家に残るものです。災害時の役にも立てるようにその一部を調べてみました。水質、水深、掘られた経緯や使われ方など、どの井戸にも歴史があります。

## 水にかかわる暮らしのグループ

水道がなかったころ、人々はどんな暮らしをしていたのでしょうか。井戸や湧き水、矢川や多摩川といった水の恵みを受けて、人々は自然とともに生きる暮らしをしていました。地域の方々に、子どもの頃に体験したお話を聞き取りして見えてくるのは、不便だけれど心豊かな日常です。



環境フェスタでは「水！おもしろ実験」とともに水の懇談会の活動の成果を市民の皆さんに見ていただきます。これを見ればくにたち通になる？興味のある方は、水の懇談会に参加してみましょう。申し込みは簡単、市役所環境保全課にご連絡を。

# 提 案



## 今後の取り組みについての提案

国立市水循環基本計画策定にあたり、環境に関心のある市民や各団体等に幅広く呼びかけて平成15年に「国立市水の懇談会」が結成されました。水に関する湧水等の調査を行った経験を基にして基本計画に反映していただくよう下記のとおり提案するものです。

### 1. 湧水の保全と活用

ハケ下の小川や矢川は、国立市の地形と自然環境の中でもっとも特徴的な崖線から湧き出る湧水を水源としている。ここでは、特徴的な生物、植物相が残り、種類と数も多い。現在残る自然環境を維持するため、これらの湧水とその周辺地域の保全を進める。

(1) 水源確保するために多面的に検討する。

- ・ 雨水浸透を促進するための施策等を進める。
- ・ 水脈調査を行い、開発事業などで水脈を断つことがないよう指導し、必要な対策を検討していく。
- ・ 湧水涵養のため近隣自治体との連携を図る。

(2) 水量・水質の定点調査・景観記録を長期間・継続的に行い、次世代へと引き継ぐことによって環境に対する意識を啓発するとともに、蓄積されたデータをもとに対策を策定する。

(3) 生態系維持と環境を重視し、崖線や周辺地域の保全を図る。

(4) 城山公園の池の水源として矢川を活用する。

- ・ 城山公園の池は、南養寺周辺の湧水が利用されるが、湧水量が減少しているため水源として矢川を活用する。

### 2. 用水の保全と活用

用水は現在、耕地面積の減少・南部地域の開発に伴い部分暗渠化されている。今後は、用水を用水の持つ主な機能である「食糧生産への利用」だけでなく、「生態系の維持」、「自然環境の形成」、「景観形成」、「体験学習の場」、「親水利用」、「防災利用」、「生活利用」等の観点も包括して総合的に活用することが必要である。そのために、用水の保全を進める。

(1) 通年通水を確保する。

(2) 暗渠化はできるだけ行わない。

(3) 生物多様性に配慮した用水路づくりを進める。

(4) 用水路と歩道、農地、緑地などの一体的な保全を図る。

(5) 水量・水質の定点調査・景観記録を長期間・継続的に行う。

### 3. 災害時に対応できる井戸の有効活用

#### (1) 地域ごとに対応できる井戸の確保

災害時に使用できる「災害時使用協力井戸」は市内に21箇所ある。しかし、設置場所や数に地域格差があるため、地域ごとの世帯数に対応できる数の井戸が必要である。そのために地域ごとの面積や世帯数に対応できる井戸数や隣接市との協力体制の検討が必要である。

#### (2) 井戸所有者への支援と新たな井戸の確保

個人所有の井戸は、市内に約60箇所あるが、災害時に使用できる条件は「自家発電施設がある」あるいは「常時生活用水として使用している」となっている。災害時にも使用できるように手押しポンプや発電機設置の補助制度等の検討が必要である。また、新たな井戸の確保のため井戸の掘削に対する支援についても検討が必要である。

#### (3) 市内各小学校・公園等に井戸の設置を行う。

### 4. 環境学習の推進

#### (1) 水と環境との仕組みを学習する機会をつくる。

- ・小学校・中学校等の公教育の中で地域の水環境の学習を行う。
- ・体験学習として学校のプール生き物調査や湧き水の仕組みを現地で学ぶ機会を設ける。
- ・多摩川の知識を深めるために、地元漁業組合やNPO等の協力を得て体験学習を行う。

#### (2) 地域の文化の継続

- ・自然を生かし工夫して暮らしていた昔の話を聞く機会を設け、それを取り入れた体験活動等を広げる。

### 5. 雨水利用の推進

- ・市民にむけて、雨水利用を呼びかけていく。
- ・国立雨水タンク（雨タン）の配布を今後も継続していく。
- ・先進自治体での実施事例を調査し、雨水タンク等雨水貯留装置設置のための補助金の創設に向けた検討をすすめる。
- ・市役所や図書館、公民館、公園、公立学校等公共施設敷地内における雨水タンク等雨水貯留装置、地下浸透施設の設置を積極的にすすめる。

### 6. 水循環マップの作成

市内の湧水等が一目でわかる水循環マップを作成し、市民や学校教育での活用を図る。



資 料



平成17年 2月16日

## 提 案 書

国立市長

上原 公子 様

国立市 水の懇談会

私たち水の懇談会は水循環計画策定の一助とするべく、国立市役所環境部の方々と共に湧水や井戸の調査および先達からのお話を伺うなど、水に関わる調査活動を実施しており、訪れる先々で温故知新の感動を体感しております。

しかし、これらの活動中に、国立市が指定した災害時使用協力井戸（以下災害用井戸と言う）や現存する多くの井戸が災害時に活用できない恐れがあることに気づきました。

それは、災害用井戸や他の使用中井戸の殆どが手動ポンプやつるべ等ではなく、電動ポンプを使用しているため大規模停電時に取水できないと思われるからです。

また、災害用井戸の指定数が少ないと思われます。

国立市は市長をはじめ議会や市役所職員のご尽力で、立川市と「災害時の避難場所相互利用に関する協定」、12市間で「大規模災害発生時等における相互応援に関する協定（略）」および1都23市2町間で「多摩地区都営水道の災害時等の相互応援協定」を締結し、さらに市独自で応急飲料水を約1ヶ月分も確保するなど、都下の市町村の中でも優位なライフラインを市民のために確保しておられることを承知しております。

そこで、今一度ご尽力を賜りたく、下記についてご提案させていただきますので、ご検討のほど宜しくお願い申し上げます。

### 記

1. 市内で発電器を所有している企業等（個人含む）と協定し、災害用井戸の電動ポンプ用電源を確保する。
2. 災害用井戸の所有者が発電器や手動ポンプ等を購入し、設置する場合に助成する。  
あるいは、国立市が災害用井戸用の発電器やつるべ等を井戸に合わせた台数購入し非常時に備える。
3. 災害用井戸の指定を増やす。（未使用井戸の復活等も含む）  
※これらについて実施が容易なものから順次実施する。

以上

2005年8月18日

国立市長 上原 公子様

国立市水の懇談会

### 城山下の区画整理事業に関する提案書

日頃の国立市政へのご尽力に感謝申し上げます。

私たち水の懇談会は水循環計画策定の一助とするべく、水に関わる環境の調査活動を実施しております。

このたび、城山下の区画整理事業が開始されると伺いました。東京都の歴史環境保全地域に指定されている城山には、青柳段丘上に形成された照葉樹や落葉樹の樹林地があります。上部には畑や果樹園が広がり、下部の城山公園や古民家周辺には、湧水や用水路が網目の様に広がり水田に流れています。城山とその周辺の自然環境は、農作業や樹林管理等自然と人がかかわりを持つ中で、長年にわたり維持されてきた里山環境です。この豊かな自然環境は、地域生態系を維持する上で不可欠です。

つきましては、この区画整理事業における水路の変更等に関しまして、環境保全の見地から下記について提案させていただきますので、ご検討の程よろしく御願い申し上げます。

#### 記

1. 市内で最も豊かな自然を残した城山には、周辺一帯の環境とのかかわりの中で、多くの動植物が生息している。こういった事に配慮して事業を行う。
2. 水棲動植物の生息に考慮し、用水の流れは直線的にせず、「曲がり」や「溜り」を作る。護岸はコンクリート三面張りにせず、できる限り土のままの自然状態を維持する。
3. 水環境の改変は、その後の自然回復に膨大な時間を要する。よって改変にあたっては環境調査を行った上で、必要最小限の改変で済むような策を考える。

以上

水の懇談会 開催経過

No.	月 日	時間	内 容	参加	備 考
第1回	平成15年 9月29日(月)	19~21	水循環基本計画の策定に向けた 意見・情報等の懇談	21	市役所3階 第3.4会議室
第2回	10月16日(木)	19:00 21:00	講演「水環境の保全について」 東京農工大名誉教授 小倉 紀雄 氏	22	市役所3階 第1.2会議室
第3回	11月8日(土)	13:00 16:00	ワークショップ「矢川の水質、水 量、生き物調査などの現状観察」	23	矢川緑地保全地 域～滝乃川学園
第4回	平成16年 1月28日(水)	19:00 21:00	勉強会「国立市の水循環に関する 現状等について」	23	市役所3階 第1.2会議室
第5回	2月25日(水)	19:00 21:00	水循環の関わりについて	16	市役所3階 第1.2会議室
第6回	4月27日(火)	19:00 21:00	平成16年度水の懇談会調査活動 について	13	市役所3階 第1.2会議室
WG	5月6日(木)	19:00 21:00	WGの調査活動について	22	市役所3階 第3.4会議室
第7回	5月18日(火)	19:00 21:00	ヤゴ救出作戦、各WGの調査活動 について	23	市役所3階 第1.2会議室
第8回	6月15日(火)	19:00 21:00	下水道合流改善、ヤゴ調査、湧き 水探検隊、各WGの調査活動につ いて	24	市役所3階 第1.2会議室
第9回	7月20日(火)	19:00 21:00	下水道合流改善、湧き水探検隊、 各WGの調査活動について	20	市役所3階 第1.2会議室
第10回	8月17日(火)	19:00 21:00	下水道合流改善、湧き水探検隊、 各WGの調査活動について	17	市役所3階 第1.2会議室
第11回	9月21日(火)	19:00 21:00	湧き水探検隊、各WGの調査活 動、今後の活動について	20	市役所3階 第1.2会議室
第12回	10月19日(火)	19:00 21:00	今後の活動方針(全体討議)湧き 水探検隊、各WGの調査活動につ いて	10	市役所3階 第1.2会議室

第13回	11月16日(火)	19:00 21:00	ビデオ上映会、今後の活動方針、各WGの調査活動について	15	市役所3階 第1.2会議室
第14回	12月21日(火)	19:00 21:00	ビデオ上映会、今後の活動方針、報告書、各WGの調査活動について	12	市役所3階 第1.2会議室
第15回	平成17年 1月18日(火)	19:00 21:00	WG調査結果集約、井戸の災害時等の活用について	14	市役所3階 第1.2会議室
第16回	2月15日(火)	19:00 21:30	WG調査結果集約、井戸の災害時等の活用について	12	市役所3階 第3.4会議室
第17回	3月1日(火)	19:00 21:30	WG調査結果集約について	10	市役所3階 第1.2会議室
第18回	3月15日(火)	19:00 21:30	WG調査結果集約について	19	市役所3階 第3.4会議室
第19回	4月19日(火)	19:00 21:30	WG調査結果集約・平成17年度の活動予定について	14	市役所3階 第3.4会議室
第20回	5月17日(火)	19:00 21:30	身近な水環境の全国一斉調査、特別調査、各WG活動について	11	市役所3階 第1.2会議室
第21回	6月21日(火)	19:00 21:30	多摩川探検隊打合せ、環境フェスタ打合せ、WG活動報告	12	市役所3階 第1.2会議室
第22回	7月19日(火)	19:00 21:00	多摩川探検隊打合せ、ヤゴ救出作戦、環境フェスタ打合せ、WG活動報告	7	市役所3階 第1.2会議室
第23回	8月9日(火)	19:00 21:30	多摩川探検隊打合せ、環境フェスタ打合せ	12	市役所3階 第1.2会議室
第24回	9月20日(火)	19:00 22:00	環境フェスタ打合せ・準備	11	市役所3階 第1.2会議室
第25回	10月18日(火)	19:00 21:00	環境フェスタ反省、今後の水の懇談会活動内容	9	市民総合体育館 2階会議室
第26回	11月18日(火)	19:00 21:00	川の日ワークショップ報告、今後の水の懇談会活動内容	14	市役所3階 第1.2会議室
第27回	12月20日(火)	19:00 21:20	湧水用水調査打合わせ、天水桶打ち合わせ、今後の水の懇談会活動内容	8	市役所3階 第1.2会議室



第28回	平成18年 1月24日(火)	19:00 21:30	湧水用水調査打合わせ、天水桶打ち合わせ、今後の水の懇談会活動内容	11	市役所3階 第4会議室
第29回	2月21日(火)	19:00 21:30	湧水用水調査報告、今後のワーキンググループ活動	10	市役所3階 第1会議室
第30回	3月22日(水)	19:00 21:30	とうきゅう浄化財産助成、今後のワーキンググループ活動	12	市役所3階 第2会議室
第31回	4月18日(火)	19:00 21:30	天水桶庁舎設置等、疎水百選記念イベント	11	市役所3階 第2会議室
第32回	5月16日(火)	19:00 21:00	雨水タンク庁舎設置と今後の利用、府中用水散策、水環境全国一斉調査、ヤゴ救出作戦日程等	17	市役所3階 第3・4会議室
第33回	6月20日(火)	19:00 21:00	ヤゴ救出作戦、水環境全国一斉調査等報告、雨水タンク、府中用水散策、多摩川探検隊実施確認	13	市役所3階 第1・2会議室
第34回	7月18日(火)	19:00 21:30	雨水タンクの設置、府中用水散策、多摩川探検隊	14	市役所3階 第5会議室
第35回	8月15日(火)	19:00 21:00	雨水タンク、多摩川探検隊、環境フェスタ	14	市役所3階 第1会議室
第36回	9月19日(火)	19:00 21:00	環境フェスタへの参加	12	市役所3階 第1会議室
第37回	10月3日(火)	19:00 21:00	環境フェスタの内容、とうきゅうからの視察	13	市役所3階 第4会議室
第38回	10月17日(火)	19:00 21:30	環境フェスタの実施結果、今後の活動計画、会議等の連絡方法	10	市役所北庁舎 第6会議室
第39回	11月21日(火)	19:00 21:15	水の懇談会資料集作成	13	市役所3階 第1会議室
第40回	12月19日(火)	19:00 21:00	各グループ別の意見発表、全体としての資料のまとめ	11	市役所3階 第1会議室
第41回	1月16日(火)	19:00 21:00	水の懇談会の資料集のまとめ方、雨水タンク、各グループのまとめ	15	市役所3階 第1会議室
第42回	2月20日(火)	19:00 21:00	水の懇談会の各グループなどまとめの進捗状況	16	市役所3階 第1会議室

第 43 回	3 月 20 日(火)	19 : 20 21 : 00	各グループ・特別調査などのまとめ、全体のまとめ	14	市役所 3 階 第 1 会議室
第 44 回	4 月 10 日(火)	19 : 00 21 : 00	全体のまとめ	12	市役所 3 階 第 2 会議室
第 45 回	4 月 17 日(火)	19 : 00 21 : 40	全体のまとめ、今後の活動方針	14	市役所 3 階 第 4 会議室

## 水の懇談会特別調査開催経過

### 1. ヤゴ救出作戦（プールの生き物調査）

No.	年月日	時間	場所	参加者
1	平成 16 年 5 月 13 日(木)	9:30~	第七小学校	3 年生 2 クラス 54 名 水の懇談会 5 名、市職員 2 名
2	5 月 28 日(金)	10:40~	第四小学校	2 年生 3 クラス 79 名 水の懇談会 5 名、市職員 2 名
3	5 月 28 日(金)	15:00~	第一小学校	水の懇談会 5 名、市職員 2 名
4	6 月 1 日(火)	13:30~	国立音大附属小	水の懇談会 4 名、市職員 2 名
5	6 月 2 日(水)	10:40~	第五小学校	2 年生 2 クラス他 94 名 水の懇談会 5 名、市職員 2 名
6	6 月 3 日(木)	15:00~	第三小学校	水の懇談会 3 名、市職員 1 名
7	6 月 7 日(月)	10:30~	第八小学校	水の懇談会 4 名、市職員 1 名
8	6 月 9 日(水)	10:40~	第二小学校	3 年生 3 クラス 100 名 水の懇談会 6 名、市職員 2 名

No.	年月日	時間	場所	参加者
1	平成 17 年 5 月 28 日(土)	9:00~	国立音大付属小学校	水の懇談会 5 名、市職員 2 名
2	5 月 30 日(月)	14:00~	第八小学校	水の懇談会 3 名、市職員 1 名
3	5 月 31 日(火)	12:50~	第七小学校	3 年生 2 クラス 47 名 水の懇談会 2 名、市職員 1 名
4	5 月 31 日(火)	13:20~	第五小学校	3 年生 3 クラス 84 名 水の懇談会 2 名、市職員 1 名
5	6 月 1 日(水)	10:20~	第四小学校	2 年生 2 クラス 54 名 水の懇談会 2 名、市職員 1 名
6	6 月 2 日(木)	13:00~	第一小学校	水の懇談会 3 名、市職員 1 名

7	6月 3日(金)	13:30~	第六小学校	水の懇談会 2名、市職員 1名
8	6月 6日(月)	10:20~	第二小学校	3年生 3クラス 101名 水の懇談会名、市職員 1名
9	6月 6日(月)	10:20~	第三小学校	2年生 2クラス 77名 水の懇談会名、市職員 1名

No.	年月日	時間	場所	参加者
1	平成 18 年 5月 17日(水)	7:30~	第四小学校	水の懇談会 3名
2	5月 17日(水)	10:20~	第八小学校	2年生 2クラス 水の懇談会 4名
3	5月 17日(水)	13:25~	第八小学校	5年生 2クラス 水の懇談会 3名
4	5月 19日(金)	15:00~	第一小学校	水の懇談会 2名、市職員 1名
5	5月 22日(月)	15:00~	第二小学校	水の懇談会 2名、市職員 1名
6	5月 23日(火)	8:30~	第六小学校	3年生 2クラス 54名 水の懇談会 2名、市職員 1名
7	5月 24日(水)	13:00~	第三小学校	2年生 3クラス 水の懇談会 3名
8	5月 25日(木)	8:30~	第五小学校	2年生 3クラス 105名 水の懇談会 4名、市職員 1名
9	5月 31日(水)	9:00~	第七小学校	3年生 2クラス 水の懇談会 4名、市職員 1名

## 2. 湧き水探検隊

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成 16 年 7月 3日(日)	13:00~	事前説明会・講義「湧き水のしくみ」講師小倉紀雄名誉教授	子供 13名、保護者 11名 水の懇談会 5名、市職員 5名
2	7月 24日(土)	9:00~	滝乃川学園～ママ下湧水	子供 14名、保護者 6名 水の懇談会 11名、市職員 5人
3	8月 7日(土)	9:00~	城山公園～郷土文化館下・南養寺	子供 13名、保護者 9名 水の懇談会 9名、市職員 4名

4	8月21日(土)	9:00~	谷保天満宮周辺	子供16名、保護者13名 水の懇談会12名、市職員5名
5	9月18日(土)	13:00~	環境フェスタ湧き水探検隊発表会準備	子供9名、保護者3名 水の懇談会3名、市職員4名
6	10月16日(土)	12:30~	環境フェスタ湧き水探検隊発表会講師小倉紀雄名誉教授	子供8名、保護者6名 水の懇談会3名、市職員5名
7	12月26日(日)	9:00~	滝乃川学園~ママ下湧水	子供11名、保護者8名 水の懇談会15名、市職員4名

### 3. 多摩川探検隊

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成17年 7月16日(土)	9:00~	事前説明会、工作	子供11名、保護者12名 水の懇談会9名、市職員4名
2	7月24日(土)	8:45~	第1回多摩川で遊ぶ 投網体験 講師 多摩川漁業協同組合国立支部	子供10名、保護者10名 多摩川漁協組合国立支部4名 水の懇談会11名、市職員5名
3	8月21日(土)	8:45~	第2回多摩川を体験しよう 川の歴史と生き物調べ 講師 NPO多摩川環境研究会	子供8名、保護者8名 水の懇談会13名、市職員5名

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成18年 7月29日(土)	9:00~	事前説明会、工作	子供11名、保護者12名 水の懇談会9名、市職員4名
2	8月6日(日)	8:45~	第1回多摩川で遊ぶ 投網体験 講師 多摩川漁業協同組合国立支部	子供10名、保護者10名 多摩川漁協組合国立支部 水の懇談会8名、市職員5名
3	8月20日(日)	8:45~	第2回多摩川を体験 川のしくみや生き物調べ 講師 NPO多摩川環境研究会	子供11名、保護者11名 NPO多摩川環境研究会4名 水の懇談会11名、市職員4名

### 4. 環境フェスタ

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成17年 4月13日~ 9月20日	10:00~	実行委員会 第1回~第6回	水の懇談会3名

2	9月2日(金)	19:00~	環境フェスタの打ち合わせ	水の懇談会9名、市職員3名
3	10月1日(土)	9:00	ワーキンググループの展示 多摩川探検隊・プール調査展示 水実験・水クイズ・魚釣り ポリバケツ利用の雨水を集める 装置の展示	水の懇談会12名、市職員4名
4	平成18年 4月12日~ 9月26日	10:00~	実行委員会 第1回~第5回	水の懇談会3名
5	10月2日(月)	9:30~	環境フェスタの打ち合わせ	水の懇談会3名、市職員1名
6	10月14日(土)	9:00~	W1~W3の活動報告パネル展示 多摩川探検隊パネル 雨タンパネル・見本タンク 雨タン加工ワークショップ 水クイズ・魚釣り	水の懇談会9名、市職員4名

### 5. 水環境の全国一斉調査

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成16年 6月6日(日)	9:00~	身近な水環境全国一斉調査 湧水・用水の4箇所の水質調査	水の懇談会4名、市職員4名
2	平成17年 6月5日(日)	9:00~	身近な水環境全国一斉調査 湧水・用水の4箇所の水質調査	水の懇談会5名、市職員3名
3	平成18年 6月4日(日)	9:00~	身近な水環境の全国一斉調査 湧水・用水の4箇所の水質調査	水の懇談会5名、市職員2名

### 6. 川の日ワークショップ関東ユース大会

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成17年 11月12日(土)	9:00~	川や水辺の環境の保全や改善に ついての取り組み 多摩川探検隊レポート	水の懇談会3名、市職員1名

### 7. 全国疏水百選入選記念イベント(府中用水散策)

No.	年月日	時間	内容	参加者
1	平成18年 7月30日(日)	9:00~	府中用水の歴史、用水の管理や 利用、水質調査・生き物調査	市民等7名 水の懇談会6名、市職員4名



## 国立市水の懇談会 名簿

氏名	グループ
赤川 健一	2
石野 麗	-
笠間 信也	1
神成力ネ	1
北島 清三	3
金田一 優子	2
倉科 明子	-
黒瀬 総一郎	1,3
佐伯 安子	3
佐藤 節子	3
佐藤 富美	1
澤田 紘子	1,3
島村 幸夫	-
高山 俊昭	1
谷口 淳一	3
野村 正福	2
濱里 一明	1
丸本 大	2
三田 快也	1,2,3
皆川 明子	3
矢野 きく子	1
山本 修太	1

※その他60名

みんなみずじゆんかんでつくる水循環市民プラン

—市民しみんによる市民参加型調査しみんさんがたちようさ—

研究助成・一般研究 VOL. 30-NO. 175)

著者 さとう 佐藤 せつこ 節子

発行日 2009年3月31日

発行者 財団法人 とうきゅう環境浄化財団

〒150-0002

東京都渋谷区渋谷1-16-14 (渋谷地下鉄ビル内)

TEL (03) 3400-9142

FAX (03) 3400-9141